

白耳義ノ代表者、

アルブ、フハーロン氏、

ブラチル合衆國ノ代表者、

グラカ、アランハ氏、

支那國ノ代表者、

エン氏、

ウー、レン、テー氏、

智利ノ代表者、

ゼラーゼ、フウニウス氏、

古倫比亞ノ代表者、

チャー、ヒスチエモルラー氏、

コス、タリカノ代表者、

マニウル、エム、デ、ペレタ氏、

丁抹ノ代表者、

グレヴェンコップ、カステンスクジョルド氏、

ドミニカス共和國ノ代表者、

ゼー、ラマルチュ氏、

エコウドルノ代表者、

ゼラーゼ、フウニウス氏、

西班牙ノ代表者、

マニウル、デー、デ、アシリウ氏、

佛蘭西ノ代表者、

マーセリン、ベレット氏、

大不列顛ノ代表者、

マッキス、ミウラー氏、

ウリアム、ジョツブ、コーリンス氏、

ハキチノ代表者、

ステニオ、ヴンセント氏、

伊太利ノ代表者、

ブリチャントオウ氏、

日本ノ代表者、

信夫淳平氏(日本政府ノ結局承認ノ旨ヲ含ミタル)

ルクチャンブグノ代表者、

アルブ、フーロン氏、

墨士哥合衆國ノ代表者、

エフ、カムボア氏、

ネゼルランドノ代表者、

ゼー、チー、クレマー氏、

シー、ス、ヴハン、デヴンター氏、

エー、エー、デ、ジョンフ氏、

ゼー、デー、スケウラー氏

葡萄牙ノ代表者、

アントニオ、マリア、バーヴロミウ氏、

露西亞ノ代表、

エー、スウエツチーネ氏、

暹羅ノ代表者、

フヒア、サツドハム、マキトリイ氏、

ダブリユウエム、ゼー、アーチエアー氏、

右謄本ノ正確ナルヲ證ス

第四號

ネゼルランド外務省 書記官長

在海牙アラン、ジョンストン氏ヨリ一千九百十四年一月三十日付ヲ以テサー、エドワードグレー氏へ上申シタル書面、

拜啓ネゼルランド外務大臣ヨリ收受シタル一表御送付申上候間御一覽被下度候、此表ハ一千九百十二年一月廿三日ニ於ル阿片會議ノ決議事項ニ對シテ、既ニ調印済トナリタルモノ及尙ホ未ダ調印セサル列國政府ノ一覽表ニ御座候 敬具、

第四號ノ内容

一千九百十二年一月廿三日海牙ニ於テ、開催サレタル萬國阿片會議ノ決議事項ニ調印シタル列國ハ左ノ如シ、曰ク日耳曼、亞米利加合衆國、支那、佛蘭西、大不列顛、日本、ネゼルランド、波斯西、葡萄牙、露西亞、暹羅是レナリ、
而シテ一千九百十二年十二月十七日ニ至リテ大不列顛國ハ左記ノ領地、殖民地、屬國等ノ爲メニ調印シタル旨通知シタリ、

加奈太。新西蘭。ニウハウンドランド。ブルネー。シブリユス。東部阿非利加ノ附庸地。フハルクランド諸島。マレー島附庸地。ガムビア。チブラルタル。ゴルドコースト。ジャメーカ。ジョホール。ゲダ。

ケレンタン。ベルリス。テレンガアーン。マルタ。北部ニゼリア。南部ボルネヲ。ニアサランダ。セント、ヘレナ。サラウツク。セーチェレス。ソマリランド。南部ニゼリア。トリニダット及ウガンダ。一千九百十三年二月廿七日フ。シ殖民地ノ爲メニ、

一千九百十三年四月廿二日セーラ、レランノ殖民地。ノ爲メニ調印シタル旨通知シタリ、

ギルベルト。イリス諸島ノ附庸地。ソロモン諸島ノ附庸地、

一千九百十三年六月廿五日埃太利共和國ハ其ノ政府ノ爲メ、

一千九百十三年十一月十四日バハマ島。ウキンダヤードノ三殖民地即チグレナダ。セント、ルシア及セント、ゲキンセントノ爲メ、

同年一月三十日リーウワード諸島ノ爲メニ調印シタル旨通知シタリ、

萬國阿片會議規則第廿二條第二項ノ規定スル所ニ從ツテ、會議ニ參列セザリシ列國ニ對シテ調印センコトヲ要求シタリシガ、之ニ應シテ調印シタル國ト其年月日トヲ舉レハ左ノ如シ、

- コスタリカ、 一千九百十二年四月廿五日
- 墨士哥、 同 五月十五日
- ガウテマラ、 同 六月十七日
- 白耳義、(白耳義領コンゴールハ賛否何レトモ決セス) 同 六月十八日

- ルクセンブルク、 同 六月十八日
- 巴太馬、 同 六月十九日
- エコードル、 同 七月二日
- ホンジュラス、 同 七月五日
- サルヴァードル、 同 七月三十日
- ハキチ、 同 八月廿一日
- ヴネジュラ、 同 九月十日
- ブラヂル、 同 十月十六日
- 亞爾然丁、 同 十月十七日
- 西班牙、 同 十月廿三日
- ドミニカン共和國、 同 十一月十二日
- バラガ井、 同 十二月十四日
- 丁抹、 同 十二月十七日
- 古倫比亞、(古倫比亞立法局ノ是認ヲ經テ) 一千九百十三年一月十五日
- 玫瑰共和國、 同 五月八日
- ボリヴキア、 同 六月四日

智利

ニカラガア

ペーリウ

瑞典

七九八

七月二日

七月十八日

七月廿四日

瑞典、(同國カ調印スルニ就キテハ左記ノ如キ宣言ヲ爲シタリ、曰ク阿片ハ瑞典國ニ産出セサルカ故ニ、我政府ハ目下差シ當リノ所精製阿片ノ輸入ヲ禁止スルノミノ政策ニ止メント欲ス、又タ之ト同時ニ左ノ如キ宣言ヲ爲セリ、曰ク實驗上其便利ナルコト明カナラン場合ニハ、阿片會議規則第八條ニ規定サレタル處置ヲ取ラント欲スル意見ナリ)

諾威

八月廿七日
九月二日

モンテネグロ、(同國カ調印スルニ就テハ左記ノ如キ宣言ヲ爲シタリ、曰ク阿片ハモンテネグロ國ニ産出セサルカ故ニモンテネグロ王國政府ハ目下差シ當リノ所精製阿片ノ輸入ヲ禁止スルノ政策ニ止メント欲ス、又タ之ト同時ニ左ノ如キ宣言ヲ爲セリ、曰ク實驗上其便利ナルコト明カナラン場合ニハ、阿片會議規則第八條ニ規定セラレタル處置ヲ取ラント欲スル意見ナリ)

ロウマニア、
同
十二月廿二日
十二月廿七日

瑞 西、(彼ノ決議事項ヲ承認シ且ツ宣言シテ曰ク、瑞西政府ハ阿片會議ノ議決ニ基キテ必要ナル

法律ヲ制定シテ之ヲ發布スルコト能ハス) 同 十二月廿九日

斯クテ一千九百十三年十二月卅一日マテハ調印セサリシ列國ヲ舉レハ左ノ如シ、

奧太利匈牙利。ウルガ井。セルビア。ブルガリア。希臘及土耳其。

彼ノ決議事項ヲ承認シタル列國ハ丁抹。暹羅。ガウテマラ。ハンジュラス。ヴェネヂエラ。亞米利加合衆國及葡萄牙是レナリ、

但シ右調印セサリシ列國中*印ヲ附シタルウルガ井。ブルガリア及希臘ノ三ヶ國ハ幾干モナク調印スヘキ旨申シ來リタリ、

○牛乳問題

序文

本書ヲ世ニ公ニスルニ至リタルハ一ノ要求ニ基ケルモノナリ、予ハ過去七ケ年ニ亘リテ數多ノ市邑ニ於テ牛乳問題ニ關シテ演說シタルコトアリシカ、此等ノ演說ヲ一纏メニシテ之ヲ公ニシタランニハ世ヲ益スル所アルヘシトテ頻リニ公ニセンコトヲ勸ムルモノアルニ基ケルモノナリ、且ツ予ノ演說中ノ措辭造語ハ通俗人ニハ或ハ解シ兼ヌル所少ナカラサルヘシ、故ニ本書ノ行文ハ成ルヘク簡明平易ニシテ何人ニモ解シ易カラシメンコトヲ勉メタリ、

此書ノ紀事行文ハ萬止ムヲ得サルノ外、註解ヲ要セスシテ一讀判然解シ易カラシムコトヲ主トシタルモノナリ、サレハトテ餘リニ鄙俗ニ流レテ趣味ヲ沒スルカ如キコトハ、出來得ヘキ丈ケ之ヲ避ケンコトヲ勉メタリ、予カ此ノ牛乳問題ヲ論述セント欲スルニ當リテ、之ニ關係セル書籍ヲ參考トシテ用ヒタルモノ八千三百七十五種ノ多キニ及ヘリ、故ニ或ハ冗長ニ亘ルノ嫌ヒナキ能ハス、然レトモ尙ホ且ツ讀者ニ不充分ノ觀念ヲ抱カシムルノ虞ナクンハアラス、故ニ或ハ冗長ニ亘ル所アルモ成ルヘク讀者ヲシテ倦怠ノ念ヲ生セシメサル様注意ヲ拂ヒタリ、

今マ吾人ハ此牛乳問題ヲ以テ國家ノ政事問題中ノ一トシテ論述スルヲ適當ナリトセンカ、普ネク國民ヲシテ牛乳問題ノ真相如何ヲ容易ク了解セシムルノ必要ナクンハアルヘカラス、本書ヲ世ニ公ニスルノ目的ハ此ニアリテ存ス、

而シテ今マ吾人カ廣ク公衆ニ向ツテ告ケント欲スルノ事柄ハ、予カ曾テ牛乳問題ニ關シテ各所ニ於テ演說シタル主意ヲ再ヒ繰リ返サントスルニ過キサレナリ、今マ其概要ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク公衆ニ供給スル牛乳ト公衆衛生トノ關係ニ於ル大問題ニ就テハ毫モ秘密ナルモノアラサルナリ、若シ秘密アリトセンカ其秘密ハ生理學者、病理學者及細菌學者達共ニ是レ説明スルコト能ハサルモノナリ、此ニ於テカ此牛乳問題ニ關シテハ學術上特ニ研究調査スルノ必要起ラスンハアラス、既ニシテ其研究調査ヲ遂ケタランニハ其結果トシテ尋常普通ノ智識ヲ有スル讀者ハ、彼ノ所謂ル秘密ナルモノモ自カラ了解スルニ至ルヘキナリ、而シテ此牛乳問題ニ關スル社會的及經濟的見解ハ市邑政事ニ屬スルモノニシテ、醫學的範圍内ノモノニアラス、

牛乳防腐法ノ事ニ關シテハ議論紛々タルカ、今マ此防腐法ノ事ニ關聯シテ予ハ左ノ如キ事ヲ述ルヲ必要ナリト信ス、曰ク予ハ多年前一書ヲ著ハシ名ケテ『幼童ノ叫號』ト云フ、彼ノ牛乳防腐法ノコトヲ論述スルニ就テハ此書中ニ記載シタル事柄ヲ聊カ變作シテ述ルノ必要アリト信ス、予ハ此書中ニ於テ左ノ如ク述ヘタルコトアリキ、曰ク牛乳防腐法ノ事ハ元ト是レ誤解ニ出テタルモノナリ、決シテ其効力アルモノニアラス、其實證ヲ舉レハ爾々ナリト、予ハ今マ尙ホ斯ル說ヲ抱ケルモノナリ、防腐法ヲ施コシタリトテ牛乳中ノ細菌ヲ撲滅スルヲ得ヘシト信スルハ誤解ナリ、之カ爲メニ決シテ無菌ノ清良ナル牛乳ヲ得ラル、ヘキモノニアラス、予ノ元來目的トスル所ハ何ハ又手措キ兎ニ角精良ナル牛乳ノ製造所ヲ設ケントスルニアリ、予ハ飽クマテ之ヲ主張スルモノナリ、然レトモ今日ノ現況ニテハ牛乳ノ防腐法ハ止ムヲ得サルモノト謂フヘキ

ナリ、是レ固ヨリ一時ノ姑息策タルニ過キサレトモ、目下差シ當リノ所之ニ依ラサルヘカラス、牛乳問題ヲ解決スヘキモノニアラスト雖モ、サリトテ此防腐法ヲ全ク蔑視スヘキモノニアラス、完全ナル牛乳製造所ノ設ケラレサル以上ハ、之カ防腐法ヲ取ルハ亦タ止ムヲ得サル次第ト謂フヘシ、然レトモ予カ先キニ出版シタル書籍ノ中ニ於テ、安全純良ナル牛乳ヲ我カ市邑ニ供給スルニ就テノ大希望ト之ヲ供給スル事ノ出來得ヘキ事ニ關シテ、最モ筆力ヲ盡シテ述ヘタリシナリ、而シテ予ノ此著書カ世ニ公ニサレタル影響トシテ、一般ノ公衆カ完全ナル牛乳製造所ノ設立ノ必要ナルコトヲ感スルニ至リタル由、予ノ許ヘ通知シ來レルモノ少ナカラス、是レ予ノ深く感謝スル所ナリ、开ハ兎ニ角彼ノ牛乳防腐法ハ我カ家庭ニ於テモ亦實行シタリシナリ、是レ他ナシ我カ子供等ニ生牛乳ヲ飲マシムルノ危険ナルヲ知レハナリ、

予カ此書ヲ編纂スルニ就テハ他ノ記者諸君ノ援助ヲ受ルコト少ナカラス、尙ホ此等ノ記者ノ外此書ニ載シタル材料ノ集輯ニ就テ爲メニ力ヲ盡サレタル通信者、醫師及獸醫等千百ヲ以テ數フヘク、殊ニ此等ノ材料ハ概シテ實驗ニ基キタルモノナレハ、之カ爲メニ予カ利益ヲ得タルコト少ナカラサルナリ、此外農家及製乳家ニシテ予ヲ評シテ牛乳業ノ實況ヲ視察セシメ、且ツ其他ノ方法手段ヲ以テ予ヲ助ケタルモノ三百名以上ニ及ヘリ、又タ世ノ母タル人ニシテ其信スル所ノ事柄ヲ齎ラシ來リテ、助力ヲ與ヘラレタルコト其幾人ナルヤヲ知ラス、予ハ此等ノ人々ニ對シテ深く感謝スル所ナクンハアルヘカラス、

右ノ外予カ此編纂ニ就テ特別ニ幫助ヲ與ヘラレタル予ノ知己朋友少ナカラス、予ハ今マ左ニ其氏名ヲ掲ケテ以テ感謝ノ意ヲ表示セント欲ス、曰ク紐育ノ郵便病院ノ小兒科博士ドクトル、ヘンリー、ドウキート、

AC 區
チャビン氏、コーネル大學ノ博士アール、エー、ピアソン氏、紐育洲ローチエスターノ衛生事務官ドクトル、ゼオーチ、ダブリユウ、ゴラー氏、紐育市ノ衛生委員ドクトル、トウマス、ダーリントン氏、紐育市ノ衛生局員ドクトル、ダブリユウ、エツチ、バーク、ウヰリアム、イー、バルトン氏、紐育州モント、ウーノンノドクトル、イー、エフ、ブラッス氏、紐育市ノドクトル、ジョン、ビー、ハツパー氏、紐育市ノストラス製藥所ノドクトル、アーサー、グリーン、コベンハーゲンノ博士ガスタヴ、バング氏、紐育州ヨンカースノレウキス、ダフリユウ、ヒン氏及價値アル書類及通信等ノ事ヲ予カ爲メニ十分集收サレタル紐育夕刊新聞ノ記者ウキリアム、ウキルト、ミルス等はレナリ、

紐育洲ヨンカーニ於テ

ジョン、スバルゴウ誌

總目錄

- 第一章 嬰兒ヲ重ンスルノ風一層増進セシ事
- 第二章 母ノ死シタル場合其嬰兒ヲ如何スヘキ
- 第三章 牛乳ヲ飲用シ來リシ徑路如何

第四章

牛乳ハ汚穢ニシテ幼兒ノ餌食ト爲スニ足ラサル事

第五章

牛乳中ニ含有セル疾病ノ事

第六章

牛乳問題ニ關スル略説

第七章

救濟ノ學説及實驗ノ事

第八章

純良ナル牛乳對清化シタル牛乳ノ事

第九章

改正政策ニ關スル略説

附録

○牛乳問題

第一節

嬰兒幼童ノ健康ヲ保護スルコトニ就テ今日程最モ智力ヲ盡シ最モ熱心ニ注意ヲ拂ヘルコト萬國史中恐ラクハ未タ曾テアラサリシナリ、試ミニ見ヨ今マ文明ヲ以テ稱セラル、國々ハ其國ニ於ル幼兒ノ智育、德育、體育ノ三者ニ就テ焦心苦慮セスンハアラサルナリ、即チ此等ノ國々ノ政治家有志者タル者ハ此等ノ事柄ニ關シテ益々切ニ其志ヲ勞セスンハアラサルナリ、然レトモ尙ホ是レ間然スル所ナシト云フヲ得サルナリ、否ナ嬰兒幼童ノ保護養育法尙ホ不完全ナリト云ハサルヘカラス、試ミニ見ヨ父母及後見人ノ無知不注意ヨリ社會ノ怠慢無知ヨリ悲境ニ沈淪スルノ嬰兒幼童果シテ幾許アルカヲ、斯ク非境ニ沈淪セル嬰兒幼童ノ叫號スル聲ヲ聞イテ誰レカ痛心斷腸ノ思ヒアラザランヤ、今マ人、生存競争喧嘩雜遝ノ世務中ニ混在シテハ斯ル不幸ナル嬰兒幼童ノ悲鳴叫聲ヲ聞キ得サルヘシ、然レトモ天ハ之ヲ聞知シ之ヲ照覽セスンハアラス、『回穴ノ一面暗黒ナルモ復タ他ノ一方ニハ消盡セサル火光ナクンハアラス』即チ回穴ノ上邊尙ホ是レ輝々煌々タル日光ノアルアリ、何ンゾ歎クヲ要セン、今ノ世之ヲ往時ニ比スレハ、嬰兒幼童ヲ遇スルノ途一層善ク進歩發達シタルナリ、今日ノ如キハ古來未タ曾テアラサリシナリ、今マ事實ニ就テ之ヲ云ハンカ近世ニ至リテハ到ル所ノ國民カ其幼兒ヲ保護養育スルノ有様、之ヲ往時ニ比スレハ一層其宜シキヲ得タルモノト云ハサルヘカラス、往時ハ子ノ生レ來ルヲ見テ厄介者ノ増シタルカ如

ニ思ヒ居タリシカ、近代ニ至リテハ然ラス、之ヲ重ニスヘキ遺產ト見做シ、幼兒ノ死亡スルハ社會ノ一損耗ナリト認ムルニ至レリ、然ルニ尙ホ是レ寒心戰慄スヘキ事實ノアルヲ如何セン、即チ中部濠洲人、メラシアン種族、「エスキモウ」種族、「フエジアン」種族其他ノ野蠻種族中ニ其幼兒ヲ殺スノ習慣アルコト是レナリ、斯ル蠻族ニアリテハ其子ノ生レ來ルヲ見テ、其家族、團體若クハ其社會ノ富ヲ増シタルモノト見做サス、却ツテ其負擔ヲ一層重カラシムル厄介者ノ増加シタルモノト思ヘルノミ、故ニ之ヲ殺シテ獨リ怪マサルノミナラス、却ツテ厄介者ヲ除去シタリト思ヘルモノ、如シ、何ゾ其レ不仁ノ甚タシキヤ、然ルニ近代ノ文明ヲ以テ稱セラル、國民ニ至リテハ、前者ト全ク相反スルノ顯象アルハ眞ニ幸福ナリト云ハサルヘカラス、試ミニ文明國ノ人民ヲ見ヨ、人口ノ自然ニ繁殖スルヲ見テ以テ幸福喜フヘキコト、ナシテ之ヲ歡迎シ、増減ナクシテ若干數ニ定止スルカ、或ハ減退スル有様ヲ見テ以テ不幸悲シムヘキコト、ナシテ之ヲ忌避スルニアラスヤ、方今社會ノ顯象ニシテ人ノ耳目ヲ聳動スヘキモノ一ニシテ足ラスト雖モ、中ニ就テ最モ其著大ナルモノハ最モ文明ノ高度ニ達シタル國民ノ出生比例數カ却ツテ低減シツ、アルコト是レナリ、

佛蘭西國ハ歐洲中文明ノ中心ヲ以テ自カラ任スルモノニアラスヤ、然ルニ其出生比例數如何ト云フニ甚タシク低減セリト云ハサルヘカラス、今マ佛國ノ統計表ヲ見ルニ人口ニ對スル出生比例數ハ著シク低減シ居ルヲ見ルヘキナリ、即チ是レ人口次第ニ減少セルモノト謂ツヘキナリ、是ニ於テカ之カ救護策ヲ講スルコト益々急ナラサルヲ得ス、佛蘭西國民ノ嬰兒幼童ヲ重ンスコト他國人ヨリ一層多キヲ加フルモ亦タ是レ謂

レナキニアラサルナリ、埃太利共和國モ亦是レ近年出生比例低減シ來レルヨリ其國ノ政事家及學士達カ嬰
兒幼童ノ死亡スルヲ防止センカ爲メニ百方術ヲ盡シ居レルナリ、

翻ツテ英國ノ有様如何ヲ願ミルニ國民ノ兵士トナルモノ缺乏ヲ告タルヨリ、コハ棄テ置キ難キ一大事ナリ
ト思惟スルニ際シ、出生比例數ノ減少セルヲ見出シテ是レ亦タ緊要ナル大問題トナレリ、此ニ於テカ政事
家及學者達此問題ニ深ク注意スルコト、ナリ、從ツテ前述シタル他ノ國々ト均シク嬰兒幼童ヲ適當ニ保護
養育スルノ必要急務ナルコトヲ知得スルニ至レリ、『人種自滅』ト云ヘル警報英國ヘモ亦タ是レ反響シ來リ
從ツテ幼童保護ノ事ヲ研究調査スルノ一動機トナリ、殊ニ嬰兒ノ死亡ヲ未然ニ豫防スルノ一影響ヲ生シタ
リシナリ、蓋シ從來嬰兒養育法ニ就テ無智ナルヨリ、空シク死亡セシメタルコト其幾千萬ナルヲ知ラサレ
ハナリ、

第二節

マルチウス氏ハ人口充溢ヲ恐レテ絶叫シ、ルーズヴェルト氏ハ人種自滅ヲ憂ヘテ絶叫ス、二者ノ唱道スル
所全ク正反對ニ出ツ、實ニ奇觀ト謂フヘシ、マルチウス氏ノ説ニ曰ク凡ソ人類ノ衣食住ニハ自カラ定限ノ
アルアリ、此定限ヲ超ヘテ人口増加シタランニハ、到底其生ヲ保ツコト能ハサルモノ出テ來ランハ數ノ免
カレサル所ナリ、人口ノ充溢スルコト豈ニ其レ恐レサルヘケンヤト、マルチウスノ此説第十九世紀ノ大半
ヲ通シテ世界中ニテ英語ヲ使用セル方面ノ國家經濟ヲ支配シ、且ツ其他文明國ノ列ニ加ヘラレタル國々ハ
概シテ此説ノ支配ヲ受ケサルハナシ、但シ佛蘭西國ノミハ此限ニアラス、此説ハ獨リ經濟界ニノミ勢力ヲ

有スルニアラス、一般ノ人心ニ影響スルコトモ亦タ是レ著シカリシナリ、然レトモ人種自滅ノ説モ亦タ是
レ決シテ忽カセニスヘキモノニアラサルナリ、今マ其レ衆團ヲ成セル人生ノ周邊ヲ圍繞スル事々物々ノ中、
何等カノ事物ヲ改良セント欲スルニ際シ、毎ニ其前路ニ横ハレル一大問題ノアルアリ、曰ク『嬰兒死亡ノ
急流』ヲ防遏スルノ方法果シテ何處ニアルヤ、此方法ニシテ解決セラレサル以上ハ何事ヲモ爲スコト能ハ
サルナリト、既ニ嬰兒死亡數ノ甚タシキモノアリ、尙ホ此儘ニ打テ棄テ置キタランニハ、終ニ人種ノ自滅
スルハ數ノ免カレサル所ナリ、人種自滅ノ説豈ニ忽カセニスヘケンヤ。

出生比例數減少スルノ結果終ニ人種ノ自滅スルニ至ラント云ヘル叫聲ヲ聞イテハ、何レノ國民モ恐怖ノ念
ヲ起シ心膽ヲ寒カラシメサルハナカルヘシ、出生比例數ノ減少セルハ全ク事實ニシテ毫モ疑フヘキ所アラ
サルナリ、既ニ文明ノ高度ニ達シタル國々ニ於テ、人類増殖ノ度合著シク減退セルハ事實ニシテ、社會學
者ノ最モ注意シテ研究スヘキ顯象中ノ一ニ算入セサルヘカラス、而シテ出生比例ノ減少シ行ク度合如何ト
云フニ、新開國ハ舊國ニ比較シテ其減少スルノ度合一層速カナルハ驚クヘキ事實ト謂フヘキナリ、加奈太
ハ境域甚タ廣クシテ財源ノ豊富ナルコト實ニ測ルヘカラサル程ナルニ、其人口ハ却ツテ密ナラザルナリ、
是レ研究調査スルノ價アルヘキモノナリ、此如奈太中ニシテ人口減少ノ度合最モ甚タシキハ「アングロ、
サクソン」人ノ子孫ニ屬スルモノ是レナリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ示セハ左ノ如シ、曰クキニエベツク地
方ノ加奈太人ハ主トシテ佛蘭西出ナルガ、一千九百一年ニ於ル出生比例數ハ人口每一千人ニ就テ三十五人
ニ當レリ、然ルニオンタリヲ地方ノ加奈太人ハ重モニ英國人ノ苗裔ニシテ、同年ニ於ル其出生比例數ハ人

口毎一千人ニ就テ僅カニ二十一人、一ニ過キササルナリ、且ツモントリールニ在リテ一千九百二年ニ於ル出生比例數ヲ舉クレハ左ノ如シ、

佛人ノ子孫タル加奈太人 四十三人・五

其他カトリック宗ヲ奉スルモノ 二十二人・四

新教ヲ奉スルモノ 二十三人・七

右ノ表中第二及第三ノ大多數ハ英國人ノ子孫タルコト亦タ疑フヘキ所ナシ、前述セル所ト此表トヲ併セテ考フレハ、其出生比例數英國人ノ子孫ハ少ナク佛國人ノ苗裔ハ多キコト知ルヘキノミ、均シク是レ佛蘭西人ニシテ其本國ニアリテハ其出生比例數減少シ、植民地ノ子孫ニアリテハ其出生比例數他國人ニ比較シテ一層多キハ果シテ何ニ原因スルカ、加奈太ニ於ル英國人ト佛國人トノ間ニ於テ、右ニ述ヘタルカ如ク其出生比例數ニ差異アル所以ノモノハ、社交上ノ有様異ナレルニ因ルカ、或ハ智力發達ノ度合異ナレルニ因ルカ、此等ハ決シテ其原因ト云フヲ得サルナリ、然ラハ眞個ノ原因ハ果シテ何ノ邊ニアルカ、佛國人ノ苗裔タル加奈太人ハ英國人ノ子孫タル加奈太人ニ比スレハ、一層貧困ナリ一層無學ナリ、是レ甲ノ乙ヨリ出生比例高キ所以ナリ、出生比例ノ差異アル所以果シテ此ニアリトセンカ、一種奇異ニシテ且ツ恐ルヘキ結論ニ到着セサルヲ得ス、何ソヤ曰ク出生比例ノ減退スルハ國民ノ智力發達シ物質上ノ進歩ニ伴フハ疑フヘカラサルモノ、如シ、嗚呼亦タ奇異ニシテ又タ恐ルヘキコトナラスヤ、

英國ニ於テ出生比例數ノ減少スルハ果シテ何ニ基因スルヤト云フニ、重モニ富貴ノ側ニ於ル出生數ノ少ナキニ歸セスンハアラス、貧賤ノ側ニ於ル出生數ハ更ニ關係スル所ナキナリ、其他米國ニ於テモ亦タ然リ、即チ出生比例數ノ減少スルハ主トシテ社會ノ上流ニ立テルモノ、出生數少ナキニ基ツカسنハアラス、又タ南部亞弗利加ニ就テ之ヲ云ハンカ、此地方ニ於テ教育アリ智識アリテ諸事進歩發達セルモノハ英國人ナリ、而シテ其出生比例數如何ト云フニ甚ハタ少ナシト云ハサルヲ得ス、尙ホ此外大洋洲ニ於ル英國人ノ子孫ノ有様ヲ見ルニ、敏捷活潑ニシテ進歩發達ノ氣象ニ富ミ、土地廣大ニシテ財源豐富ナル箇所ヲ發展スルニハ最モ適シタルモノナリ、且ツ強制的兵役ニ服スルノ患ヒナク其行動儘マ自由ニシテ勇往邁進以テ事ニ當ルヲ得ヘキモノナリ、然ルニ其出生比例數ハ却ツテ少ナキナリ、今マ近代ニ於ル最モ確實ナル統計表ヲ通覽スルニ、社會學者ノ最モ深ク趣味ヲ感スルモノ、大洋洲ニ於ル出生比例數ノ著シク減退シタル事實ノ右ニ出ルモノナカルヘシ、今マ左ニ其表ヲ掲クヘシ、

第一表

大洋洲中ノ諸洲人口毎千人ニ就テノ出生比例數

期 間	ニウヅース、 ウエルス、 グ#クトリ クインスラ 南オースト ラリア	西オースト ラリア	タスマニア タスマニア ニウヅーラ
一八七一年ヨリ	三九〇・五	四〇〇・一	三三〇・三
一八七五年ニ至ル	三五〇・九	三七一・四	二九七・一
一八八一年ヨリ	三七〇・五	三六三・七	三三〇・七
一八八五年ニ至ル	三〇〇・六	三六三・七	三五〇・一

一八九一年ヨリ 三〇・五
 一八九五年ニ至ル 三〇・九
 一九〇〇年ニ至ル 二七・六

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ近代ニ至ルニ從ツテ出生比例數ノ減少スル度合益々甚タシキヲ加フルコトヲ知ルニ足ルヘキノミ、殊ニ文明ノ度高ク發達進歩セル國民中ニアリテ、出生比例數ノ減少スルコト最モ甚タシキハ、尙ホ左ニ掲クル所ノ表ニ依リテ知ルヘキナリ、且ツ太平洋中ノ諸州ノ出生比例數ハ甚ハタシク減少セリト雖モ、之ヲ佛蘭西國ニ比スレハ其減少スルノ度合遠ク及ハサルナリ、即チ甲ノ減少數最モ多キモノト乙ノ減少數最モ少ナキモノトヲ對照スルモ、尙ホ且ツ乙ノ減少數甚タシキヲ見ルヘキナリ、然レトモ佛蘭西國ノ出生比例數ノ減少セルコトハ、決シテ今日ニ始マリタルモノニアラス、其由來スル所既ニ久シ、大洋洲ハ尙ホ是レ新ニ始マリタルモノト謂ツヘキナリ、今ヤ則チ人種自滅ノ顯象ハ獨リ佛蘭西國ノミニ止マラス、一般ニ普及スルコト、ナレリ、

第二表

今マ茲ニ掲クル所ノ表ハ各國ニ於テ十ケ年間ニ人口每一千人ニ就テ出生比例數ノ減少シタル度合如何ヲ示スモノナリ、

國名	一八九一年	一九〇〇年
南大洋洲	三三・九	二五・八
グロクトリア	三三・六	二六・八

國名	一八九一年	一九〇〇年
ニウジラランド	二九・〇	二五・六
タスマニア	三一・九	二八・二
伊太利	三七・二	三三・〇
英吉利	三七・四	二八・七
匈牙利	四二・六	三九・六
葡牙	三一・七	三〇・〇
蘇格蘭	三一・二	二九・六
瑞典	二八・三	二七・一
日耳曼帝國	三七・〇	三五・六
白耳義	三〇・〇	二八・九
佛蘭西	二二・六	二一・九
奧太利	三八・一	三七・四
愛爾蘭	二三・一	二二・七

ルーズヴェルト氏ハ出生比例數ノ減少スルヲ見テ憂フヘク悲シムヘキコト、ナシウエルス氏ハ之ヲ以テ天地自然ノ顯象ナリトシテ、樂天主義ヲ以テ之ヲ迎ヘリ、是レ由々シキ大問題ナルカ故ニ、今マ茲ニ其可否如何ヲ解決スルコト能ハス、又タチャーレス、ルードルッフ及其他ノ學者ノ爭論スル所ヲ聞クニ曰ク、出生比例數ノ減少スルハ決シテ憂フヘク悲シムヘキコトニアラス、天理自然ノ然ルヘキ作用ニ外ナラス、寧ロ自然ノ恩澤ト謂フヘキナリ、今マ其レ人口數ヲシテ衣食住ノ支ヘラレ得ヘキ範圍内ニ在ラシメント欲セハ、出生比例數ノ減少スルハ亦タ止ヲ得サルノ顯象ト云ハサルヘカラス、是レ獨リ人類ノミ然ルニアラス、凡ソ天地間ニ生キトシ生ケル諸動物モ亦タ然ラサルヲ得ス、出生比例數減少スレハ死亡比例數モ亦減少ス、是レ天地自然ノ大法ナリ、今マ若シ出生比例數ハ從前ヨリ増加スルカ、若クハ從前ト同數ニ止マリ居リテ、死亡比例數ノミ減少シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ到底人口充溢ヲ免カレサルナリト、此等ノ論者ノ說ヲ括言スレハ左ノ如クナルニ過キス、曰ク出生比例數ノ減少スルハ天地自然ノ行動其宜シキヲ得タル徵候ニ過キサルナリト、

右ノ如キ說ハ匆々之ヲ見レハ一理アルカ如クニシテ一時人ヲ誘惑スヘキモノナリ、然レトモ復タ之ヲ打ち消スヘキ說ナクンハアラス、今マ其大要ヲ擧レハ左ノ如シ、曰ク出生比例數カ減少スル丈ク死亡比例數カ毎ニ減少スルト云ヘルハ、事實ニ適セサルノ說ナリ、試ミニ見ヨ、最近五十年間ニ於テ死亡比例數ノ減少シタルハ最モ確カナル事實ナリ、且ツ此期間ニ於テ出生比例數モ亦タ是レ減少シタルニモ拘ラス、實際出生比例數ハ從前ト均シク死亡比例數ニ超過シタリシナリ、是レ二者ノ減少數相伴ハサルコトヲ證スルニ足

ルヘキナリ、又タ之ト關聯シテ左ノ如キ事實アルヲ見ルハ一種ノ趣味アリト云フヘキナリ、曰ク一千九百年ニ於テコンチンチカット、メイ、ニウハムブシャイアー、ロッド、アイランド及ヴァーモンツニ於ル米國土着人ノ子孫タル白人ノ死亡比例數ハ出生比例數ニ超過シタルナリ、其超過シタル實數ハ人口每一千人ニ就テ一人五ニ當レリ、然ルニ均シク是レ白人ナルモ外國人ノ子孫ニ屬スル分ハ、右ト同一ノ期間ニ於テ出生比例ノ死亡比例ニ超過スルコト、每一千人ニ就テ四十四人五ニ當レリ、若シ米國全州ヲ通シテ皆ナスル有様ナリトセンカ、米國土着人ノ後裔ハ幾時ナラスシテ全ク根絶セラル、ヲ免カレサルヘシ、

第二節

人口増殖ノ度合ハ上流富貴ノ人ヨリ下層貧賤ノ中ニ一層熾ナルコトハ最モ明ラカナル事實ニシテ復タ疑フヘカラサルナリ、彼ノ有名ニシテ更ニ一ノ新紀元ヲモ作り得ヘキマルチラス氏ノ著作世ニ出ル前二十餘年ニ於テ、アダム、スミツス氏ハ其著書『富國論』中ニ云ヘルアリ、曰ク貧困者ハ子ヲ生ムコト他ヨリ一層多キモノト思ハル、ナリト、其他世界萬國ヲ通シテ富貴ニシテ社會ノ上流ニ立ツモノハ子ヲ生ムコト最モ少ナシトハ、アラユル記者ノ皆ナ一致シテ曾テ異論ナキ所ナリ、ポリヒラス氏ハ希臘國ノ衰頹シタル原因ヲ此邊ニ歸シルルーズヴェルト氏ト均シク出生數ノ減退スルハ人道ノ一缺點ナリト論定スルニ至レリ、今マ左ニ同氏ノ說ヲ掲ケテ之ヲ證サントス、

『嗚呼我カ希臘全國ハ現代ニ於テ甚シキ大打撃ヲ蒙フリタリ、人ノ出生數ノ大ニ減退シタルコト是レナリ、一言以テ之ヲ盡セハ人口ノ稀疎トナレルコト是レナリ、到ル所ノ都邑ハ荒涼寂寞トシテ見ルニ忍ヒス、

土壤ハ以テ耕耘セス、只タ荒蕪ニ任センノミ、戰爭ノ悲惨アリテ然ルニアラス、疫病ノ慘毒アリテ然ルニアラス、何ソ其レ不幸ナル我カ人口ヲ増殖スル方法ナキカ、我カ都邑ヲ盛ンナラシムルノ手段ナキカ、之ヲ救護スルノ策ナキカ、神ニ哀願シテ神託ヲ仰カンカ、天ニ號泣シテ天佑ヲ受ケンカ、吾人ハ殆ンド其爲ス所ヲ知ラス、而シテ斯ル悲境ニ陥リシ所以果シテ何クニアルヤ、富貴ニシテ社會ノ上流ニ立ツモノ、罪ニ歸セサルヘカラス、其レ富貴ナルモノハ驕奢ニシテ愉樂安佚ノミ是レ事トシ、其子ノ教養杯ノ事ニ就テハ左マテ重キヲ置カス、故ニ其子モ自カラ少ナク概シテ僅カニ一二兒ヲ有スルニ過キス、且ツ此等少數ノ子ヲ榮華贅澤ニ養育スルノ結果、惡弊百出殆ント收拾スヘカラザルニ至ル、斯クテ一家内ニ殘留セル幼童ハ僅々一二名アルノミ、是レトテモ亦タ戰爭若クハ疾病ニ斃ル、ヤモ亦タ知ルヘカラス、此ニ至リテ到ル所ノ家々荒涼寂寞トシテ一隻ノ人影ヲ見ス、各都邑モ亦是レ群蜂去ツテ蜂巢空シク存スルカ如ク聞トシテ復タ人語ヲ聞カス、凄愴慘憺事此ニ至リテハ神助ヲ仰カント欲スルモ亦タ得ヘカラサルナリ、然ルニ或ル人説ヲナシテ曰ク吾人カ今日ニ際シテ先ツ第一着ニ爲スヘキコトハ、我カ國民ヲシテ舊來ノ習慣ヲ一變セシムルノ一法アルノミ、即チ兎ニ角強制的手段ヲ用ヒテ國民ヲシテ最モ注意ヲ密ニシテ其子ヲ養育セシムヘキ國法ヲ制定スルノ一法アルノミト、』

羅馬國ノ衰頹ヲ來セシ原因モ亦タ是レ以上述ヘ來リタル原因ト全ク同一ナリト斷定シタルハ單ニ一ノ歴史家ノミニアラサルナリ、シーレー氏ハ人ヲシテ最モ深く感動セシムヘキ筆ヲ揮ツテ述ヘタルコトアリ、曰ク羅馬大帝國ハ一ノ疾病ニ罹リテ苦シミ居レリ、蓋シコノ疾病タルヤ一朝一夕ニ來リタルモノニアラス、徐

徐トシテ其來ルヤ久シク其病勢ノ強大ナルコト到底帝國ノ能ク抵抗シ得ヘキ所ニアラス、此疾病ヲ何トカ爲ス、人口ノ減少セルコト是レナリ、人口減少ノ結果羅馬帝國ハ終ニ亡滅ヲ免カル、コト能ハスト、モンセン氏モ亦タ羅馬帝國ノ事ヲ記述ス、其文最モ有名ニシテ能ク人ノ知ル所ナリ、今マ其文ノ一部分ヲ左ニ掲ケン、曰ク羅馬帝國ニ於テハ獨身生活ヲ營ムモノ益々多クシテ最早ヤ珍ラシカラス、普通一般ノ事トナリ、從ツテ子ナキモノモ尋常普通ノ事トナリテ更ニ怪シムモノナキニ至レリ、殊ニ上流社會ニアリテ此風最モ甚ハタシトナス、羅馬ノ國民ハ成ルヘク多クノ子ヲ生セス、成ルヘク多クノ富ヲ集得スルヲ以テ其本務ナリト思惟スルモノ、如シ、嗚呼亦タ奇ナラスヤト、

近代ルーズヴェルト氏ノ主義ニ從ツテ人種自滅論ニ反抗シテ奮闘スルモノハ明カニ左ノ如キコトヲ恐ル、モノナリ、曰ク今代ノ人モ亦タ是レ往古羅馬帝國ノ衰頹シタル覆轍ヲ踏マンコトヲ恐ル、ナリト、又タ今日ノ政事家及學者達ノ大多數ハ出生比例數ノ減少スルヲ以テ人道ノ一大缺點ナリト見做サル、ハナシ、此等ノ政事家學者ノ意見ニ曰ク出生比例數ノ減少スルハ畢竟スルニ上流社會ノ罪ニ歸セサルヘカラス、夫レ上流社會ノ人ハ教育アリ閑暇アリ、愉樂ヲ事トシ得ヘキモノニシテ、却ツテ父母トナリテ其子ヲ養育スルノ責務ヲ果スヲ好マサルノ弊風アリ、即チ出生數ノ減少スルハ此弊風ニ基カサルヘカラスト、然レトモ予ハ斯ル説ニ對シテ全然同意ヲ表スルモノニアラス、古往今來何レノ時代ヲ問ハス、上流社會ニハ多少右ノ如キ弊風ナクンハアラス、然レトモ出生比例數ノ減少セルヲ以テ全ク此弊風ニ歸スルコト能ハサルヘシ、蓋シ子ヲ生ムコトヲ好マサル婦人ノ數ハ子ヲ生ムコト能ハサル婦人ノ數ニ比シテ一層多キモノニアラス、

子ナキコトヲ憂ヒ悲シム婦人ハ萬ヲ以テ數フヘキナリ、ソフオクレス氏ノ詩ニ曰ク、

『母ハ其子ヲ見テ欣然タル喜色アリ、

然レトモ友ナク子ナキモノハ恰モ

生キナカラ恐ルヘキ地獄ニ陥ルカ如シ、』

是レ子アルヲ喜ヒ子ナキヲ悲シムモノニアラスヤ、サレハ子ヲ生ムコトヲ好マサルモノアルヨリ、出生比
例數減少スト云ヘル説ハ自カラ打破セラルヘキナリ、

出生比例數ノ減少スルハ人道問題ノ如何ニ原因スルモノニアラス、恐ラクハ社會的生活狀態ニ基因スルモ
ノナリ、是レ久シキ以前ニアリテアダム、スミッス氏カ唱道セシ所ナラスヤ、試ミニ見ヨ何レノ國ヲ問ハ
ス文明ノ高度ニ達シタル場合ニハ、人ノ智識發達進歩シ社會ノ生活狀態甚タ複雑トナルノ結果、生理學上
人身ニ反動力ヲ起スハ亦タ已ヲ得サルノ次第ナリ、而シテ其反動力ハ世ノ母タルモノ、身體ノ官能ニ著シ
キ影響ヲ及ホスモノナリ、即チ其母タルモノ、獨リ生殖官能ノミナラス、乳育官能ヲモ併セテ衰弱ナラシ
ムルモノナリ、人其智識ニ於テ進歩發達シタランニハ、其繼嗣相續ノ點ニ於テ損スル所ナクンハアラス、
其出生數ニ於テ減セスンハアラス、然レトモ出生數ノ少ナクナル度合ハ下層貧賤ノモノヨリ上流富貴ノ中
ニ一層甚タシク、墮胎モ亦タ下層ヨリ上流ニ多シトノ説ヲ立ルモノアレトモ、是レ淺薄ナル説ニシテ予ハ之
ヲ信セサルナリ、兎ニ角出生比例ノ減少スルハ智識ノ進歩發達ニ伴ヘル體力ノ衰弱ニ歸セスンハアラス、
出生比例數ノ減少スル原因ハ如何ナル邊ニアリトスルモ、其事實タルハ亦タ疑フヘキ所ニアラス、人種自

滅ノ叫聲ハ近代進歩發達セル國民中到ル所聞カサルハナク、從ツテ之カ救護策トシテ國家ハ嬰兒幼童ノ健

康保持ニ就テ最モ多ク力ヲ竭スニ至レリ、今日社會ノ立法方針ハ幼兒保護ニ重キヲ置クニ至レリ、

第二章

母ノ死シタル場合其嬰兒ヲ如何ニスヘキ、

第一節

嬰兒ノ空シク死亡スル源流ノ動力トナルヘキモノ一ニシテ足ラス、蓋シ其動力中ノ最モ強大ナルモノハ貧
困、無智ノ二者ト云ハサルヘカラス、世ノ母タルモノ多クハ是レ無智ニシテ其子ノ養育法如何ヲ知ラサル
モノナリ、其無智ノ甚タシキ實ニ驚異スルノ外ナキナリ、媒母及醫師等カ自カラ訪問者トナリテ、殖民所
ノ勞働者ノ群團ヲ成セルモノ、中ニ入り込ミツ、嬰兒養育法等ニ就テ心得トナルヘキコトヲ説キ聞カセ
ントセシニ、其實地ノ有様實ニ一見以テ寒心斷腸スルノ外ナキナリ、生後僅カニ一二週間ヲ經過セルノミ
ノ嬰兒ニ給與スル食料如何ト云フニ、茶、「ビール」、野菜、麵包、魚類、菓子、「アイスクリーム」等ノ如
キモノ是レナリ、斯クノ如キ異觀ハ到ル所ノ勞働者中殆ント珍ラシカラサルナリ、嬰兒養育法ノ無智ニシ
テ不適當ナルコト斯クノ如シ、幼兒死亡數ノ多大ナル原因ノ重モノナルモノ、此邊ニアルハ亦タ疑フヘカラ
サルナリ、

均シク是レ嬰兒養育法ニ就テ無智ナリト云フモ、其無智ナルノ度合ニ至リテハ其間自カラ差等ナクンハア
ラス、右ニ述ヘタルカ如キ生後僅カニ一二週間ヲ經過シタル嬰兒ニ對シテ、茶、ビール、麵包杯ヲ與フル

カ如キハ、其無智ノ極メテ甚タシキモノト云ハサルヘカラス、又タ嬰兒ニ對シテ母乳ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テ、之ニ代フルニ學理上適當ナル食餌ヲ給スルコト能ハストセンカ、斯ル嬰兒ハ到底餓死スルヲ免カレサルナリ、是レ普通開業醫ノ皆ナ善ク知ル所ナリ、又タ經驗ニ富ミ且ツ伎倆ニ卓越シタル醫師ニシテ、其子ノ大ニ衰弱シタルヲ助ケンカ爲メニ卓拔ナル治療ヲ施コスモ、終ニ其死ヲ免カレシムルコト能ハサル場合往々ニシテ之レアリ、此等モ亦タ是レ其子養育ノ方法其宜シキヲ得サルノ結果ニ外ナラサルモ、前者ノ無智トハ決シテ同日ニ論スヘカラサルナリ、

今マ尙ホ世界其各所ニ存在セル野蠻種族ノ中ニハ、悲惨云フニ忍ヒサル惡習慣ノ存スルモノアリ、即チ嬰兒ノ母死スル時ハ之ヲ殺シ、或ハ生キナカラ其母ト共ニ埋没スルカ如キ是レナリ、但シ他ニ我兒ヲ失フテ幾時ナラサル婦人アリテ、其孤兒ヲ自カラ乳育セント言ヒ出ル者アル場合ハ此限ニアラス、然レトモ斯ル場合ハ極メテ稀レナリト知ルヘシ、復タ他ノ一方ヨリ之ヲ見レハ野蠻種族ノ婦人中其生兒ヲ乳育シ得サルモノハ極メテ稀レナリ、否ナ實際之レアルヲ知ラサル程ナリキ、若シ之レアリトセンカ、其嬰兒ハ到底餓死ヲ免カレサルナリ、

試ミニ新約全書中希伯來第五章二節、哥林多前書第三章二節及彼得前書第二章二節ヲ見ヨ、往古猶太人中ニハ人爲的嬰兒養育法ノ行ハレ居タリシコト珍ラシカラサルヲ知ルニ足ルヘキナリ、即チ猶太人中ニハ通常山羊ノ如キ動物ノ乳汁ヲ以テ嬰兒ヲ養育シタルコト珍ラシカラサルヲ知ルニ足ルヘキナリ、然レトモ人ノ母乳ニ代フルニ山羊等ノ乳汁ヲ以テ、所謂人爲的嬰兒養育法ヲ如何ナル程度マテ實行シタリシヤハ、

聖書中ニモ見當ラサレハ之ヲ知ルニ由ナキナリ、

按スルニ往古猶太人カ動物ノ乳汁ヲ以テ人乳ノ代用トナシ嬰兒ヲ養育シタルハ事實ニ相違ナキモ、今日吾人カ牛乳ヲ用フルカ如キモノトハ全ク同日ノ論ニアラサリシナラン、蓋シ猶太ノ婦人ニシテ其生兒ヲ乳育シ得サリシモノハ殆ント之レナケレハナリ、而シテ吾人カ今日牛乳ヲ用フルノ有様ハ果シテ如何ソヤ、今日母トシテ其子ヲ乳育セサルモノハ決シテ珍ラシカラサルナリ、見ヨ諸事進歩發達シタル國々ニ於ル中流若シクハヨリ以上ノ人民ニアリテハ、母ノ其生兒ヲ乳育セサルコト普通一般トナリ、母ノ其生兒ヲ乳育スルコトハ全ク例外ニ過キササルコト、ナレリ、是レ往古ト全ク正反對ノ觀ヲ呈シタルモノニシテ、母乳ニ代ルヘキ牛乳ノ需用ノ廣ク且ツ大ナルコト得テ想像スヘキノミ、今日ノ現狀既ニ斯クノ如シ、近代人ノ母タルモノ自カラ其胸乳ヲ以テ其子ヲ養育スルコト益々不可能トナランハ、亦タ疑フヘキニアラサルナリ、之ヲ復言スレハ左記ノ如キノミ、曰ク國家カ文明ニ進ム程世ノ母タルモノ益々其生兒ヲ乳育スルコト能ハサルニ至ラン、嗚呼亦タ奇觀ナラヌヤ、

第二節

世ノ論者概シテ說ヲ爲シテ曰ク近代人ノ母タルモノハ其子ヲ乳育スルヲ好マス、是レ他ナシ母タルノ責務以外ニ社交上ノ愉樂ヲ取ラント欲スレハナリト、然レトモ予ノ意見ニテハ之ニ同意ヲ表スルコト能ハス、又タ伎倆ニ拔シテタル醫師ノ多數及精密ナル觀察家ノ說ニ曰ク、母乳ヲ以テ其子ヲ養育スルモノ、數減少シタルハ全ク社會經濟ノ原則ニ歸スヘク、富貴ニシテ閑暇アリ社會ノ上流ニ立テルモノ、社交上ノ愉樂ヲ

貪ラント欲スルニ之カ妨碍トナルヘキ其子養育ノ責務ヲ免カレント欲スルニ歸スヘク、下層貧困ノ婦人ニアリテハ賃錢ヲ得ンカ爲メニ、或ハ工場ニ雇ハレ或ハ他人ノ庖厨ヲ司トリテ、其子ノ乳育如何ヲ顧ミルノ餘地ナキニ歸セサルヘカラスト、此等ノ說々々看過スレハ一理アルカ如シト雖モ、予ノ意見ヲ以テスレハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ、母トシテ其子ヲ乳育スルモノ、數大ニ減少シタルハ、其原因尙ホ其他ニアルヘシト予ハ深ク信スルモノナリ、

母乳ヲ以テ其子ヲ養育スルモノ、數減少シタルハ、恰カモ出生比例數ノ減少シタル場合ト同一ノ徑路ヲ踐ミ來レルモノナリ、即チ富貴ニシテ閑暇アリ社會ノ上流ニ立テル階級中ニ於テ、其減少數ノ最モ著シキヲ見ルコト是レナリ、既ニ此事實アリ、以テ左ノ如キ說ノ廣ク流布セラル、ニ至ル、曰ク母乳養育ノ數減少ヲ來スハ畢竟スルニ社會一般ニ虛榮ヲ貴フノ心増長セルニ基ツカスンハアルヘカラスト、然レトモ今予ノ意見ヲ以テスレハ卒然トシテ然カク論定ヲ下スヘキモノニアラス、勿論社會ノ上流ニ立チテ閑暇アルモノ、内ニハ下劣ナルコトヲ爲スモノ多ク、無益ノ飲酒ニ耽リ耳目ノ慾ヲ恣マニシ、放縱度ナク以テ其智識ノ程度如何ヲモト知スルニ足ルヘキモノアリ、サレハトテ母乳ヲ以テ其子ヲ養育セサルモノ、數此上流社會ニ最モ多シト斷定スルハ、決シテ其當ヲ得タル說ト云フヘカラサルナリ、又タ社交上ノ虛榮心ニ制セラレテ婦人カ其子ヲ乳育セスト斷定スルハ、婦人ヲ不人情者トナシ殘忍極マル妖怪ト見做シタルモノト謂ツヘキナリ、何レノ時代ト雖モ斯ル不人情ナル殘忍ナル婦人或ハ之レアラン、然レトモ斯ル婦人ハ極メテ少數ニシテ我子ヲ乳育セサル婦人皆ナ然リト云フヲ得サルナリ、

下層勞働社會ノ婦人ニ就テ云フモ亦タ是レ右ニ述ヘタル所ト同一ナラスンハアラス、曰ク勞働社會ノ婦人ニシテ何レカノ工場ニ雇ハレ行クモノハ、無論其子ヲ乳育セサルモノナリ、サレハトテ斯ク工場ニ雇ハレ行ク婦人ノ數ハ、我子ヲ乳育セサル婦人ノ總數ト一致符合スヘキモノニアラサルナリ、即チ我子ヲ乳育セサル婦人ニシテ何レノ工場ヘモ出入セサルモノ決シテ少ナカラサルナリ、此ニ由リテ之ヲ見レハ下層勞働社會ノ婦人ノ工場ニ雇ハレテ行クノ一事カ母乳ヲ以テ子ヲ養育スル數ノ減少スル一原因ト云フヲ得サルナリ、

婦人トシテ其所生ノ子ヲ乳育スルハ婦人タルモノ、最モ重要ナル責務ト云ツヘキナリ、然ルニ此責務ヲ盡サ、ルモノ甚ハタ多キナリ、而シテ其内ノ大半ハ社交上ヨリ若シクハ經濟上ヨリ然ルニアラス、全ク其身體ノ生理上其子ヲ乳育スルコト能ハサルモノ是レナリ、即チ乳育ノ原泉タル官能ノ枯渴シタルニ外ナラサルナリ、然レトモ今予ノ知り得ル範圍内ニ於テハ統計表ニ掲ケテ以テ其實證ヲ示スコト能ハサルナリ、前ニモ述ヘタルカ如ク或ル卓拔ナル醫師ハ云ヘリ、婦人ノ其子ヲ乳育セサルハ社交上及經濟上ニ原因セルモノニシテ、生理上不可能ナル爲メニアラスト、然レトモ重モナル醫師ノ多數ノ說ハ然ラス、即チ其原因ハ生理上不可能ナルニアリテ、社交上及經濟上ニアラスト爲セルコト是レナリ、且ツ醫師トシテ得意先貴賤貧富ノ別ナク手廣ク持テ囃サル、者ノ多數子ニ證言シテ左ノ如ク云ヘリ、曰ク婦人ニシテ其子ヲ乳育シ得ヘキ身體ヲ有シナカラ自カラ之ヲ嫌忌シテ爲サ、ルモノハ極メテ稀レナリ、之ヲ乳育セサルモノハ生理上之ヲ乳育シ能ハサルモノ極メテ多シ、是レ吾人カ實地經驗上知得シタル所ナリト、又タ我子ヲ乳育スル

コト能ハサル母ノ懊惱苦悶スル哀レナル物語ハ善ク予ノ聞ク所ナリ、時ニ或ハスル婦人ノ口ツカラスル話ヲ聞クコトサヘアリ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ、母乳ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルノ數減少シタルハ、畢竟スルニ婦人ノ體質カ生理上乳育スルノ官能不可能トナリタル結果ニ外ナラサルナリ、蓋シ此一大原因ハ之ニ關スル他ノ數原因ヲ一括シタルモノヨリ、尙ホ一層有力ナルモノト謂ツヘキナリ、

醫學社會中有名ナル立證家醫學博士ブレンヂ氏ハ嬰兒ノ母乳養育數ノ減少シタル事實ニ關シテ最モ精密ナル研究調査ヲ遂ケタリ、博士ハ之ヲ研究調査スルニ左ノ如キ方法ヲ以テシタリ、曾テ博士ノ薰陶教育ヲ受ケタル門下生ニシテ、醫師トナリテ日耳曼、瑞西及埃太利等ノ各所ニ散在フルモノ尠ナカラス、博士ハ其内ニ調査ヲ依頼スルニ足レリト信スルモノ都合百餘名ヲ選抜シテ、一々調査要目ヲ指示シテ其調査方ヲ依頼シタリ、斯クテ此依頼ヲ受ケタル舊門下生ヨリ其調査ノ結果ヲ報告シ來リシモノ件數都合二千ノ多キニ達シタリ、此ニ於テ博士ハ此等ノ諸報告ヲ綜合シテ以テ之カ統計表ニ現ハル、結果如何ニ注目セシニ左記ノ如キ事實ヲ得タリ、曰ク母トシテ其子ヲ乳育シ得ヘキモノナルニ自カラ之ヲ嫌忌シテ乳育セサルモノハ極メテ稀レナリ、母トシテ其胸乳ヲ以テ其子ヲ養育セサルモノ、最大多數ハ其體質ノ生理上不可能ナルニ因ラスンハアラス、此ニ至リテ博士ハ斯ク信スルニ至レリ、曰ク中央歐羅巴ニ於ル人ノ母タルモノ、過半數ハ體質ノ生理上之ヲ乳育スルコトノ不可能ナルモノナリ、之ヲ換言スレハ婦人ノ乳泌官能ノ消耗セルニ外ナラサルナリ、

婦人ノ體質生理上乳泌ノ不可能ナルモノアルコトハ亦タ爭フヘカラサル事實ナリ、エンゼル氏ハ婦人ノ若

千數ニ就テ其乳部ノ事ニ關シ最モ注意ヲ密ニシテ調査シタル人ナルカ、今マ同氏ノ調査シタル結果ニ據レハ、乳泌時期中ニ死亡シタル婦人ノ最大多數ハ勞動中ニ死亡スルカ若シクハ勞動後幾ナラスシテ死亡シタルモノナリト云フ、又タ同氏ノ說ニ曰ク或ル階級ノ婦人ノ乳泌腺ノ發達甚ハタ不完全ノモノアリ、即チ其腺ノ纖維質カ粒狀ヲ成セル部分ヨリ過重セルカ如キ是レナリ、然レトモ其原因ヲ見出スコト能ハサルナリ、

兎ニ角同氏ノ研究調査ニ依リテ乳泌官能消耗ノ學理ヲ確カメ得タリシナリ、又タ米國ノドクトル、エムメット、ホルト氏ノ說ニ曰ク、母乳ヲ以テ其子ヲ養育スルノ不可能ナルコトハ、今ヤ貴賤上下ヲ通シテ其數ヲ増加シ居レルコトナルカ、中ニ就テ其増加ノ度合一層甚タシキハ、生計豊カニシテ閑暇アル上流社會是レナリ、斯ル上流社會中ノ婦人ニシテ熱心ニ且ツ注意ヲ加ヘツ、其子ヲ乳育スルモノ百人ノ中、三箇月間之ヲ繼續シタルモノ二十五人以上ニ達セサリシナリ、且ツ智識ノ善ク發達シタル市邑ニアリテ其子ヲ乳育シ得ヘキ母親ニシテ、其子ノ生後滿一ケ年間其乳育ヲ繼續シタルモノハ殆ント稀有ノ一顯象タランノミ、又タ我カ米國ノ市邑中ニ於ル下層貧民ノ中ニモ亦タ是レ母乳養育ノ數著シク減少スルヲ見ルヘキナリ、上流社會ニ比シテ其減少數幾分カ少ナキノミ、

第三節

予ハ前段ニ於テ生理上ヨリ母乳養育ノ不可能ナルコトヲ論述シ、社交上及經濟上ノ原因ハ之ヲ次位ニアルモノトシテ久シク打チ棄テ置キシカ、今ヤ社交上若シクハ經濟上ノ原因ニ就テ聊カ述フル所アラントス、先ツ其社交上ノ原因ニ就テ之ヲ云ハンカ、第一ニ吾人ノ心頭ニ浮ミ出ルモノハ不適當ナル衣服是レナリ、彼

ノ腹部ヲ密ニ緊縮スヘキ緊身裕^{ニイット}ノ如キハ其最モ甚タシキモノナリ 其他不適當ナル食物、概シテ生活法ノ健康ニ害ヲ與フルコト、殊ニ放蕩ニシテ身ヲ持チ崩スカ如キコト是レナリ、然レトモ此等ノ諸原因ノ全部若クハ、其中ノ一二カ母ノ乳育減少問題ニ對シテ 如何ナル影響ヲ及ホスヤハ、尙ホ未タ學理上ノ定説アラサルナリ、故ニ其多クハ推測ニ歸セサルヲ得ス、母乳養育ノ減少ハ婦人ノ衣服ノ影響ヲ蒙フルコト多キニ居レリト云ヘル説アレトモ、予ノ意見ヲ以テスレハ然カ思ハサルナリ、今マ其ノ衣服ノ影響ヲ蒙フルコト左マテニアラスト云フ所以ハ概ネ左ノ如シ、曰ク少女及婦人ノ中ニ競走等ノ如キ體力ノ優劣ヲ競争スルノ増シタルコト、女子ノ教育ノ範圍擴張セラレテ大學ニ入ルヤウニナリタルコト、商工業ニ關スル女子的職業ノ途啓ケタルコト、此等ノ數者ハ以テ女子ノ衣服ヲ改良セシムルニ就テ與カリテ力アルモノト云ツヘキナリ、即チ生理上及衛生上ノ見地ヨリスルモ、過去二三世紀間ニ比シテ一層善ク發達進歩シタリト云ハサルヘカラス、時ニ或ハ怪異ニシテ人身ニ害アル婦人ノ服裝一時流行スルコトアリト雖モ、此ハ只タ一時ノ流行ニ止マリテ決シテ永續スヘキモノニアラス、是レ他ナシ起舉動作ニ不便ナル所アレハナリ、殊ニ活潑ナル遊戯ヲ爲スニ際シテ不便ヲ感スルコト尠ナカラサレハナリ、

凡ソ人ノ身體ノ構造上ニ著シキ變化ヲ生スルハ決シテ人ノ一代ニシテ然ルモノニアラス、數代ヲ經ルノ間ニ於テ知ラス識ラス變化ヲ來スモノ多キニ居レリ、然レトモ母乳分泌ノ不可能トナレル現象ニ至リテハ然ラサルモノアルカ如シ、即チ僅カニ一代ニシテ其分泌ノ不可能トナレルモノ往々ニシテ之レアルヲ見ルコト是レナリ、而シテ一旦斯ク不可能ニナリタランニハ其不可能ナルコトハ永ク繼續スルコト、ナレリ、

予カ友ニドクトル、モルガント云ヘルアリ、黒奴ノ醫師ニシテ其營業モ手廣ク爲シ居レルモノナルカ、曾テ予ニ證言シテ曰ク黒奴中年尙ホ若キ母タルノミニシテ、全ク其子ヲ乳育シ能ハサルモノ、好シ之ヲ乳育シ得ルモノアリトスルモ、其子ノ生後二三週間以上之ヲ乳育スルコト能ハサルモノアルヲ見ルハ、決シテ珍ラシカラサル事實ナリ、而シテ其母タルモノ之ニ就テ毫モ痛苦ヲ感セサルモノ、如シ、米國へ移住シ來レル人民中ニモ亦タ之レト同一ナル現象アルヲ見ルヘシ、米國ノ大都市中ニ在リテ借家住居ヲ爲セルモノ、有様ヲ善ク知レルモノハ、左ノ如キ事實ヲ見ルコト決シテ珍ラシカラサルヘシ、曰ク他ヨリ移住シ來レル人民中人ノ母タルモノカ、街頭ニ立チナカラ其子ヲ乳育シ居ルハ決シテ珍ラシキコトニアラス、而シテ其母子ノ體タラク如何ニ見スホラシク如何ニ憫レムヘキモノアルニ拘ラス、兎ニ角母トシテ其子ヲ乳育シ居ルハ亦タ喜ハシキ觀ナラスヤ、然ルニ斯ル母ノ養育ヲ受ケテ成長シタル其娘ハ如何、嫁期熟シテ人ニ婦キ子ヲ生ミテ之ヲ乳育シ得ヘキヤ、然カスルコト能ハサルモノ決シテ珍ラシカラサルナリ、其服裝其母ノト全ク相異ナリタル爲メニ然ルカ、或ハ其他ニ原因アリテ然ルカ、何レニシテモ母子相繼クノ短期間ニ於テ其子ノ生理上斯ル變動ヲ生スルヲ見ルハ研究ニ價スヘキモノナリ、予ハ今ヨリ數年前七十五名ノ婦人ニ就テ格段ナル事實ヲ調査シタルコトアリ、此等ノ婦人ハ皆ナ外國人ノ子ニシテ、其大半ハ伊太利人及「スラヅ」人等ナルカ、其所生ノ嬰兒ハ母乳ノ養育ヲ受ケス、人爲的食餌ヲ以テ養育サル、モノナリ、而シテ其七十五名ノ内二十名ハ母乳ニ依リテ其子ヲ養育スルコト能ハス、十四名ハ其子ヲ乳育スルコト一ヶ月以内ナリ、二十七名ハ其子ヲ乳育スルコト一ヶ月乃至三ヶ月ナリ、而シテ其他ノモノハ皆ナ六ヶ月以内ニシ

テ、其子ノ乳育ヲ廢スルノ止ムヲ得サルニ至リシナリ、内母乳ヲ以テ終始養育サレタルモノハ僅カニ一人アリシノミ、

食物カ母乳養育ノ減少ニ如何ナル影響ヲ及ホスカノ實證ハ、前者ト同様尙ホ未タ之ヲ知ルコト能ハサルナリ、事物全體ノ上ヨリ打算シ來レハ今日ノ食物ハ之ヲ往時ニ比スルニ、一層善良トナレルコトハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、試ミニ米國ニ移住シ來リシモノヲ見ヨ、其大半ハ生活ノ程度一層善キモノナリ、而シテ移住民ノ婦人ハ概シテ其子ヲ乳育スルコトヲ廢セサルナリ、其婦人ニシテ移住シ來ル以前ニ於テ其子ヲ乳育シ得タリトセンカ、移住後ニ生レタル其子ヲモ均シク其子ヲ乳育センハ亦タ疑フヘカラサルナリ、既ニ移住シ來リテ生存競争場裏ノ奮闘益々劇烈ヲ加ヘ、子生レテ家族多キヲ加ヘタランニハ、母乳ノ分泌自カラ減少シ來リテ嬰兒ノ榮養不給ヲ告クルハ亦タ止ヲ得サルノ事實ナリ、サレハトテ其母タルモノ其子ヲ乳育スルコトハ概シテ從前ト變ラサルナリ、夫レ斯ル母タルモノカ移住後平生取ル所ノ食物ハ從前ニ比シテ一層善クナレ、ルカ少ナクトモ多少異ナル所アルハ疑フヘキニアラサルナリ、然レトモ斯ル食物ノ變更アリシカ爲メ其子ヲ乳育スルノ官能曾テ消耗セサリシナリ、然レトモ其所生ノ娘ニ至リテ然ラス、其母親ト全ク同一ノ食事ヲ爲セシニモ拘ラス、其子ヲ乳育スルノ官能消耗シテ如何トモスルコト能ハサルナリ、又タ社會ノ上流富貴ノ人ノ食物ト下層貧賤ノ者ノ食物トノ差異ノ甚ハタシキハ、今更言フヲ要セサルナリ、然レトモ此差異アル爲メニ母乳ノ分泌上ニ毫モ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、即チ二者共ニ是レ母タル者ノ乳分泌官能消耗セル事實アル是レナリ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ食物ノ乳分泌官能ニ影響ヲ及ホサルコト

ハ明カナリト謂フヘシ、

食物ト乳分泌ノ關係如何ニ就テハ尙ホ未タ何等ノ解釋ヲ與ヘタルモノナキハ實ニ驚カサルヲ得ス、人類及下等動物ノ平生取ル所ノ食物ノ成分カ、如何ナル生理作用ニ從ツテ其子ヲ養フヘキ乳ノ成分ニ變化スルヤハ、尙ホ未タ吾人ノ知り得サル所ナリ、ジョルダン博士ハ紐育州立試験所ニ於テ爲シタル試験ノ結果驚クヘキ事實ヲ見出シタリ、曰ク牝牛ニ給スル食物ノ成分如何ハ毫モ之ヨリ生スル牛乳ノ成分ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラサルコトヲ見出シタルコト是レナリ、例之ヘハ今マ牝牛ニ與フルニ脂肪成分ヲ有セサル粗末ナル食物ヲ以テセンカ、斯ル場合ニ於テ其牝牛ヨリ生スル牛乳汁中ニ脂肪成分ヲ減少スヘキモノニアラス、又タ斯ク粗末ナル食物ヲ與ヘタル牝牛ニ對シテ更ニ脂肪成分ニ富ミタル食物ヲ給シタル場合ニ於テ其結果如何ト云フニ其牝牛ヨリ得タル牛乳汁中ニ脂肪成分ヲ増加スヘキモノニアラサルガ如キ是レナリ、今マ脂肪成分ノ極メテ少ナキ食物ヲ與ヘラレタル牝牛ヨリ脂肪分ニ富メル牛乳汁ヲ得タル場合アランカ、斯ル場合ニ於テハ其牝牛ノ體中ニ存在セル脂肪分減少スルヲ免カレサルヘシトノ説アリ、然レトモ斯ル場合ニ於テモ尙ホ且ツ其體重ノ毫モ減少セサルヲ見レハ、此説ノ非ナルコトヲ知ルニ足ルヘキナリ、牝牛ニ與フル所ノ食物如何ハ之レヨリ生スル牛乳ノ品質ニ影響ヲ及ホスコト、其他ノモノヨリ一層大ナリトハ世間普通ニ傳フル所ノ説ナリ、然レトモ其實決シテ然ラサルコトハ既ニ前ニモ述ヘタルカ如ク實驗上亦タ疑フヘカラサルナリ、其食物ノ良否如何ハ牛乳ノ品質ニ影響ヲ及ホサンヨリ寧ロ其分量ニ影響ヲ及ホスヘキモノナリ、今マ茲ニ善良ナル牛乳ニアリト言ハンカ、但シ其意義分量ノ多キニアラスシテ品質ノ善キ

ヲ云フニアリトセンカ、斯ル場合ニ於テ好シ其乳牛ニ與フルニ粗悪ナル食物ヲ以テシ、其衛生状態宜シキヲ得スト雖モ、其牛ヨリ得ル所ノ乳汁ノ品質ハ尙ホ依然トシテ元ノ儘ナルヘシ、但シ其乳牛ニシテ疾病ニ罹ルカ若クハ老年ニ達スル場合ハ此限ニアラス、

乳母ノ事ニ關シテモ亦タ是レ前同様ノ事實アルコトヲ見出スハ珍ラシカラサルナリ、即チ其乳ヲシテ一層良質タラシメント欲シテ、如何ニ美食ヲ與フルモ更ニ其効ヲ奏セザリシコト是レナリ、是レ乳牛ト人ノ母タルモノ、間ニ全ク同一ノ事實アルテ見ルニ足ルヘキナリ、食物ノ分量如何ハ分泌スル乳ノ分量ニ影響ヲ及ホスコトハ世間大概ノ醫師ノ唱道スル所ナリ、然レトモ食物ト乳ノ品質トノ關係如何ニ就テ尙ホ未タ何タル説ヲ立テシモノアラサルナリ、蓋シ醫師ノ大半ハ其關係ハ實際確カムルコト能ハサルモノト信スレハナリ、然レトモドクトル、トウマス、モルガン氏ハ其著書ニ於テ左ノ如キ説ヲ立テタリ、曰ク乳泌官能ニ關スル學理ハ尙ホ未タ幼稚タルヲ免カレス、從ツテ尙ホ之ニ關シテ種々實驗ヲ爲スヘク注意ヲ密ニシテ研究スル所ナクンハアルヘカラス、而シテ又タ一面ニ於テ人ノ母タルモノニ與フル食物ニ就テ最モ注意ヲ深クシテ、亂雜ナラサル様規定正シク爲シタランニハ、其分泌スル乳汁ノ品質ニ影響ヲ及ホスハ、實際ニ於テ有リ得ヘキコトナリト、又タジョルダン氏ノ實驗ニ於テハ牝牛ノ食物ト其乳汁トノ關係ニ關シテ最後ノ結論ヲ爲サ、リシナリ、然レトモ予ノ考フル所ヲ以テスレハ、尙ホ進ンテ此上ノ研究調査ヲ遂ケタランニハ、乳牛ニ與フル滋養分如何ハ其分泌スル乳汁ノ本質上ニ影響ヲ及ホスヘキ事實ヲ見出スニ至ラン、即チ是レトウマスモルガン氏ノ人乳ニ關スル意見ト同一ナルモノナリ、

吾人ハ親シキ現象ニ據リテ以テ乳牛ニ與フル食物ト其分泌スル乳汁トノ間ニ於テ、最モ直接ナル關係アルヲ知ルニ足ルヘキナリ、即チ乳牛ニ與フルニ蕪菁其他臭氣甚タシキ葱ノ如キ野菜類ヲ以テセンカ、其乳汁及牛酪ニハ鼻ヲ衝クヘキ臭氣ノ含ミ居ランハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、是レ其食物カ直接ニ其牛乳ニ影響ヲ及ホセル實證ニアラスヤ、斯ル事實ハ單ニ乳牛ノミニ止マラス、人ノ乳母タルモノモ亦タ然リ、今マ乳母タルモノカ不熟ノ果物、野菜、「アスバラカス」ノ如キモノヲ、餘リニ多量ナラス適度ニ食スルカ、若シクハ治病ノ目的トシテ緩下劑ヲ服用シタリトセンカ、斯ル場合ニ於テ其婦人ノ乳ヲ飲メル嬰兒ハ、直チニ其影響ヲ蒙フリテ其内臓ニ變動ヲ生スヘク、時ニ或ハ由々シキ重症ニ陥ルコトアリ、又タ幼兒ノ胸部消化機能ノ所在地ニ一ノ疾病アルヲ見出スコトアリ、而シテ其病原ヲ研究調査スルノ結果、其母乳ヨリ來レルコトヲ見出スコト往々ニシテ之レアリ、斯ル幼兒ハ既ニ其消化機能ニ害ヲ生シタレハ發達成育スヘキモノニアラス、其他下痢ヲ起スコトアレハ嘔吐ヲ催フスコトアリ、又タ便秘ヲ生スルコトアリ、此場合ニ於テハ發熱之ニ伴フコトアリ、若シクハ拘攣ヲ起スコトアリ、而シテ其母乳ヲ分析スルノ結果、其成分中脂肪ノ非常ニ過多ナルヲ見ルヘク、是レ其乳ノ不消化ナル原因ナリ、或ハ其乳ノ成分中ニ脂肪分缺乏セル爲メ便秘ヲ起スコトナキニシモアラス、

母乳ノ成分中ニ脂肪ヲ含メル分量ノ差異アルコトヲ研究スルハ趣味アルモノト謂ツヘキナリ、米國費府ノドクトル、ロース、テラー、ジョン氏ハ左ノ如キ事實ヲ報告シタリ、曰ク或ル所ニ一ノ幼兒アリテ其母ノ乳育ヲ受ケ居リシカ、次第ニ衰弱シテ其體重日々減少シ行ケルヲ見ルノミ、因リテ其母乳ヲ取リテ之ヲ

分析セシニ、其結果トシテ脂肪分過多ニシテ「プロテイン」過少ナルコトヲ見出シタリ、而シテ其母ハ如何ナルモノト云フニ、勞働社會ニ屬スル婦人ニシテ其子ヲ養フヘキ乳量ノ豐富ナランヲ欲スルノ餘リ、大ニ肉食ヲ爲シ大ニ酒ヲ飲メリ、是レ其志ハ嘉ミスヘキモ其方法ヲ誤レルモノト云ハナルヘカラス、此ニ於テ「プロテインド」ヲ増サシメンカ爲メニ其勞働ヲ中止セシメ、他方ニ於テハ其脂肪分ヲ減少セシメンカ爲メニ、肉食飲酒ノ量ヲ減センメタリ、斯クノ如クシテ十日間ヲ經過セシメタルニ、其結果ハ左表ノ如クナレリ、

第一次分析ノ結果

脂肪分	糖	蛋白質	百分比例
六〇・四	七〇・〇	一〇・〇	
三・四〇	七〇・〇	一・三五	
三・四〇	七〇・〇	一・三五	

十日後第二次分析ノ結果

脂肪分	糖	蛋白質	百分比例
六〇・四	七〇・〇	一〇・〇	
三・四〇	七〇・〇	一・三五	
三・四〇	七〇・〇	一・三五	

尙ホ食物ト乳泌ト最モ密接ナル關係アルコトヲ證明セント欲セハ、右ニ掲ケタル事實ト同一ナル事實ヲ記述スルノ必要アルヘキナリ、今マ其レ食物中ノ滋養成分ト此食物ヨリ得ラレタル乳汁中ノ滋養成分ト密接ナル關係アルハ亦タ疑フヘカラサルナリ、此理ハ獨リ人類ノミニ適スルニアラス、恐ラクハ下等動物ニモ亦タ適スヘキモノナリ、然レトモ茲ニ除外例トモ見ラルヘキモノナキニアラス、例之ヘハ左ノ如キ事實アルヲ見ルコト是レナリ、曰ク茲ニ人ノ母タルモノアリ、其取ル所ノ食物ハ甚ハタ粗惡ニシテ其滋養分極メテ少ナク、其身體ヲ支フルニ足ラサル程ナルモ、其分泌スル乳汁ニ至リテハ滋養分ノ決シテ缺乏セサルモノアリ、又タ之ニ反シテ他方ノ母タルモノハ平生美味美食ニ飽ケルニモ拘ラス、其分泌スル所ノ乳汁ノ滋養分甚タシク缺乏セルモノアリ、斯ル二者ノ實例ハ蓋シ世ニ珍ラシカラサルナリ、其他非常ニ強壯ナル婦人ノ乳汁ノ素質甚タ善カラスシテ、瘦瘠セル婦人ノ乳汁却ツテ良質ナルコトアリ、既ニ此等ノ事實アリ、何カ故ニ然ルヤ、吾人ハ其然ル所以ヲ知ラス、生理的化學作用ニシテ學理上尙ホ未タ研究セラレサルモノ甚タ多シ、右等ノ事實モ尙ホ是レ此類ナラン、

以上述ヘ來リタル所ヲ約言スレハ左ノ如キニ過キササルノミ、曰ク人類中母乳ヲ以テ其子ヲ養育スル數ノ減少シ來リシ原因ハ一ニ是レ食物ノ滋養分如何ニアリ、好シ左ナクトモ食物ノ滋養分如何ハ其原因中ノ重モナルモノナリトノ説ヲ信セシムルニ足ルヘキ確證之レナキナリ、サレハトテ食物ノ滋養分如何ハ毫モ乳泌上ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ラスト斷定スルハ、早計ニシテ思慮ナキモノト云ハサルヘカラス、

本問題ニ就テハ尙ホ其他ニ説明スヘキコトアリ、但シ其説明セントスル事柄ハ記者ノ見ル所ヲ以テスレハ

一ノ妄想カト思ハル、所ナキニアラス、然レトモ本問題ニ關シテハ隨分價值アル説ニシテ一讀ヲ要スヘキモノナリ、开ハ他ニアラス博士ブンジ氏ノ所説是レナリ、其所説ニ就テハ既ニ前段ニ於テ其一端ヲ示シ置キタルカ、今復タ之ヲ述ヘント欲ス、同氏ノ所説ニ曰ク母乳ヲ以テ其子ヲ養育スルコト能ハサルニ至リシ所以ノモノハ、親子ノ間遺傳的體質ノ下劣シタルニ基ツカスンハアラス、即チ其母ヨリ其娘ニ至リテ乳泌官能ノ其用ヲ爲サ、ルカ如キコト是レナリ、而シテ其原因ハ亞爾格保兒中毒ニ歸セサルヘカラス、通常其父タルモノ、亞爾格保兒中毒ニ基因セサルヘカラスト、是レ一種ノ趣味アル學說ト云フヘキナリ、勿論其中ニ何等カノ眞理ナクンハアルヘカラス、ブンジ氏ノ如キハ學識深クシテ且ツ事物ノ理ヲ研究調査スルニ就テ最モ熱心ナル學者ナルカ故ニ、其所説ニ至リテ敬服スヘキモノ少ナカラスト雖モ、本問題ノ如キニ對シテハ聊カ異論ナキ能ハス、亞爾格保兒中毒カ遺傳トナリテ人體中諸種ノ官能ヲシテ下劣ナラシムルコトハ、ヒボクラテスノ時代ヨリ今日ニ至ルマテ疑フヘカラサル眞理ナリ、然レトモ人類ノ乳泌官能ノ消耗スルヲ遺傳ニ歸スルカ如キハ謂レナキモノト云ハサルヘカラス、

人類ノ乳泌官能ノ消耗セル原因ニ就テハ右ノ如キ説アルト共ニ尙ホ其他左ノ如キ説アリ、曰ク乳泌官能ノ消耗スルハ社會ノ或ル階級中ニ於ル繁殖力ノ減退ト一致併行スルモノナリ、蓋シ其子ヲ乳育スルコトハ出產スルコト、均シク動物ノ純然タル本能ト云フヘキモノナリ、而シテ人類ノ其子ヲ乳育スル力ノ減退セルハ其繁殖力ノ減退セルト均シク、間暇アリ教育アリ生計豊カナル上流社會ニ於テ最モ著シキモノナリ、然レトモ野蠻種族ノ中ニハ既ニ前段ニモ述ヘタルカ如ク、母トシテ其子ヲ乳育シ能ハサルモノハ實際ニ於テ

之レアルヲ知ラサルナリ、原人時代ニ在リテハ母ノ其子ヲ乳育シ得サルモノヲ見ルハ極メテ稀レナリシナリ、然レトモ文明ノ度高キヲ加フルニ從ツテ乳泌官能消耗ノ度漸時甚タシキヲ加フルモノナリ、例之ヘハ生計ノ豊カナル婦人及智力ノ發達シタル婦人ニシテ、其子ヲ乳育シ能ハサルモノアルハ決シテ珍ラシカラサルナリ、人體ノ構造中或ル一方面ノ官能カ善ク發達シタランニハ、其反動作用トシテ他方面ノ官能ノ衰弱シ來ランハ、蓋シ數ノ免カル、コト能ハサル所ナルヘシ、

又タ右ニ述ヘタル實例ト相反スルモノナキニアラス、例之ヘハ猶太人種ハ永キ期間其智識著シク進歩シタルニモ拘ハラズ、ゼンチール族ヨリモ其子ヲ乳育シ得ル所ノ母一層多キコト是レナリ、然レトモ此等ノ事實ト相關聯シテ讀者諸君ノ心ニ忘レシムヘカラサルコトノアルアリ、曰ク過去僅々數年間ニ一層長足ノ進歩ヲ爲シタル國民中ニアルモノハ之ヲ例外トシテ、猶太人ハ概シテ他ヨリ排斥セラレ教育ナキモノ多キニ至レリ、又タ數世紀間ハ希伯來人ノ家族中ノ娘ニシテ智識ノ發達シタルモノハ、殊ニ之ヲ尊敬スルノ風習アリタリシ、猶太人ノ婦人ニシテ高等教育ヲ受ケタルモノ甚ハタ少數ナルカ、此少數ノ婦人中ニ其子ヲ乳育シ得サルモノアルヤ否ヤヲ調査センハ一種ノ趣味アルモノト謂ツヘシ、予ハ猶太人ノ醫師數人ニ就テ其實否ヲ問ヒ糺セシニ、高キ教育ヲ受ケタル婦人ニシテ乳泌官能ノ消耗セシモノアルハ全ク事實ニ相違ナシト云ヘリ、然レトモ斯ル婦人ハ割合ニ少數ニシテ、猶太人ノ醫師達ハ斯ル事ニ關シテ餘リニ重キヲ置カサルカ故ニ、從ツテ之ニ注意ヲ拂フコト少ナク、爲メニ此等ノ醫師ヨリ其他詳細ナル事實ヲ得ルコト能ハサルシナリ、

本論中讀者諸君ニ於テ左ノ如キコトヲ其心中ニ記憶シ置カレンハ最モ重要ナルコト、思ハル、曰ク乳泌官能ノ衰弱ハ教育ニ歸スヘキモノニアラス、文明ノ進歩發達ニ歸スヘキモノナリ、文明ノ度進メハ進ム程婦人ノ教育概シテ益々高度ニ進ムヘシト無造作ニ論定スヘキモノニアラス、然レトモ其智慮才覺ハ著シク進歩發達スヘキナリ、所謂ル教育ナルモノハ之カ動力タルニ過キササルナリ、ランカシヤイアー、若クハマツサチウセツツトノ諸工場ニ使用サル、婦人ヲ見ヨ、左マテノ教育ヲ受ケ得サルモノナリ、好シ多少ノ教育アリトスルモ其教育ノ程度ハ、諾威若クハ瑞典ノ農家ノ婦人ノ教育程度ニ踰ユルコト能ハサルナリ、然ルニ此等ノ工女中ニハ所謂自家ノ胸乳ヲ以テ其子ヲ養育スルコト一般ニ善ク行ハレ、其結果トシテ幼兒ノ死亡比例數世界中ニテ最少ナリト云フヲ得ヘキ程ナリ、即チ其死亡數ノ百分比例ハ一〇乃至一三ニ過キサリシナリ、然レトモ斯ル工女ノ智慮才力ノ發達ハ見ルヘキナク、工場ニ使用サレテ従前ノ教育カ利用サル、カ如キコトハ殆ント之レナキナリ、市邑生活ノ途ハ急劇過勞ニシテ身心ヲ惱マスコト自カラ多カラサルヲ得ス、今マ其レ工業ノ中心トモ云フヘキ箇所ニ使用サル、婦人ノ常ニ耳目ニ觸ル、所ノモノ果シテ如何ンヤ、秀麗美妙榮華濃艶ノ盛飾タラスンハアラス、殊ニ婦人社會ハ善ヲ盡シ美ヲ盡サ、ルハナシ、人生ノ大活劇常ニ其眼前ニ横ハル、工事ニ役々タル婦人之ニ對シテ果シテ如何ノ情念ヲカ生ス、美望疾視自カラ制セント欲スルモ得ヘカラサルナリ、其他小新聞ノ記事ヲ讀ミ、美術品販賣店ノ陳列品ヲ視、面白キ芝居ヲ見物シ、耳目ニ觸ル、千種萬類ノ事々物々皆ナレ其感想ヲ複雜糾紛セシムル材料タラサルハナシ、歐洲中平穩ニ田園生活ヲ營ム婦人ニ比シテ其差異果シテ如何ンヤ、市邑ノ工場ニ使用サル、婦人ノ周邊ノ有様

既ニ斯クノ如クナルカ故ニ、知ラス識ラスノ間其身心ニ一大變動ヲ生スルハ亦タ數ノ免カレサル所ナリ、此ニ於テカスル婦人ノ乳泌官能ニ一變動ヲ生シ來ルハ、止ヲ得サルノ現象ニシテ毫モ怪シムニ足ラサルヲ知ルヘキナリ、

右ノ如キ顯象ニ就テハ勿論左ノ如キ疑問起ラサルヲ得ス、曰ク周邊ノ有様ハ獨リ婦人ノミニ限リテ變動ヲ起サシメ、男子ニ對シテハ毫モ其影響ヲ及ホサ、ルヤト、此疑問ニ答ヘンハ實ニ容易ナルノミ、曰ク男子トテモ亦タ是レ女子ト均シク其周邊ノ事情ニ依リテ變動ヲ起サ、ルヲ得ス、牡牛ノ痴鈍ナル性質モ外界ノ有様如何ニ依リテ時ニ或ハ其平靜ヲ破ラサルヲ得ス、當初其感情ノ刺激サル、ハ時ニ或ハ之レアルニ過キサリシモ、漸時頻繁トナリ終ニハ常ニ刺激ヲ受ルコト、ナラメンハアラス、此ニ於テカ平和單純ノ世途一變シテ喧嘩複雑ナル世途ヲ歩ムコト、ナレリ、而シテ又タ茲ニ一ノ疑問アリ、曰ク斯ル男子ノ姉妹及妻タル女子ハ其身心ニ一變動ヲ來シタルニ、自分達ハ斯ル變動ヲ生セサリシカト、此疑問ニ對シテハ左ノ如キ反問ヲ爲サント欲ス、曰ク此等ノ男子ハ斯ル變動ヲ免カレ得ヘキカ、人ノ繁殖力ノ減退セルハ男女兩性ニ關スル人類ノ一顯象ニアラスシテ、專ラ女性ノミニ限レル顯象ト云フヲ得ヘキカト、蓋シ婦人ノ受ケタル變動ノ男子ヨリ一層甚バタシカリシハ、是レ自然ノ結果ニ過キササルノミ、是レ他ナシ婦人ノ舊風ヲ脱スルヤ最モ劇烈ニシテ全ク其根底ヨリ之ヲ拔除シ、而シテ其新ニ就クヤ極メテ深クシテ復タ拔クヘカラサレハナリ、又タ茲ニ讀者ノ忘ル、ヲ許スヘカラサル事アリ、曰ク婦人タルモノハ從來教育及經濟上ノ事ニ關シテハ甚ハタ疎クシテ如何ナル注意モ拂ハサリシカ、今日ニ至リテハ此等ノ二者ハ全ク婦人ノ負擔スヘキ責

務トナリ、深ク自カラ特ミテ之ニ從事セサルヘカラサルコト、ナレリ、事既ニ此ニ至リテハ人類ノ乳泌官能及繁殖力ノ減退セシハ、亦タ止ヲ得サル自然ノ結果ト云ハンノミ、詩ニ曰ク、

虎狼猿猴上山嶺、可憫軀命不得全、

八三八

今マ茲ニ一顯象アリ其由來スル所ノ原因一ニシテ足ラス、而シテ其夥多ノ原因互ニ糾紛錯雜シテ容易ニ其真相ヲ見定ムルコト能ハス、然ルニ僅カニ一部分ノ見解ヲ以テ俄カニ其顯象ヲ解決セント欲ス、是レ誤解ナリト云ハサルヘカラス、宜シク戒慎スヘキナリ、今マ予カ人類ノ乳泌官能ノ減退セルコト、繁殖力ノ減退セルコトトハ其名異ナレルモ其實全ク同一物ナリト云ヒ、若クハ二者ノ間相異ナレル所アリトスルモ、其間極メテ近密ナル關係ヲ有スルモノナリト云フハ、全ク架空ノ論ニアラス、夥多ノ證左トスヘキモノナクンハアラス、英國體質衰弱研究委員會ハ本問題研究ニ關シテ從前ニ比シテ將來尙ホ一層深キ注意ヲ拂ハサルヘカラサルコトヲ忠告セリ、予モ亦タ然カ思フコト益々切ナラスンハアラス、蓋シ本問題ハ緊急棄テ置キ難キ問題中ノ最モ緊急ナルモノナレハナリ、

第四節

母乳ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルコトノ衰退セル原因ハ、好シ將來ノ研究調査ニ據リテ啓發セラレ得ルトスルモ、又此衰退ハ人ノ體質ノ下劣トナレル徵候ナリトスルモ、或ハ文明ノ進歩セル標準ナリトスルモ、此等ノ事ノ如何ニハ更ニ頓着スルコトナク、最モ重要ナル事件トシテ茲ニ論述スヘキ一事ノアルアリ、母乳ニ代リテ嬰兒ヲ養育シ得ヘキ人爲的餌食ノ發達ニ關スルコト是レナリ、是レ最モ必要ナル問題ト云ハサルヘカラ

ス、今マ茲ニ一有名ナル生理學者アリテ左ノ如キ説ヲ立テタリトセンカ、人ハ之ニ對シテ一種異様ノ感ニ打タル、ニ相違ナカルヘシ、其説ニ曰ク今マ茲ニ一ノ婦人アリ、其體質ノ生理上或ル變動ヲ生シタルカ爲メ、其子宮内ヨリ尙ホ發達ノ初期ニ屬スル胚子ヲ取り去ルノ必要アリテ、之ヲ取り去リ人爲的餌食ヲ與ヘテ之カ成育ヲ圖リ終ニ一個ノ人タラシメント欲スト、尙ホ斯道立證家ノ大家中ノ一人タルドクトル、ヘンリー、チアピン氏ノ主張説ニ曰ク、嬰兒ノ尙ホ乳育中ニ屬スル期間ハ、尙ホ未タ完全ニ成形セル人體ト云フヘキモノニアラス、胚子ト見做シテ然ルヘキモノナリ、又タ同氏ノ説ニ曰ク下等動物中ニハ胎盤上母ト子ヲ連絡セシムルノ構造ナク、胚子カ母體ノ乳頭ニ附着シタル儘乳育ヲ受ケ、漸時成長シテ終ニ其乳頭ヲ離レ隨意ニ母乳ヲ飲ミ得ルニ至リテ初メテ母子各々其體ヲ異ニスルモノアリト、今マ其レ嬰兒カ生後久シク乳育ヲ受ンカ爲メニ其母ニ附キ從フハ、生理上天地自然ノ妙用ト謂ツヘキナリ、尙ホ再ヒドクトル、チアピン氏ノ語ヲ舉ケテ之ヲ云ハン、曰ク生理學上ノ見地ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ、人爲的餌食ヲ以テ養育ヲ受クル嬰兒ハ早熟兒ト謂ツヘキモノナリ、母乳以外ノ餌食ハ嬰兒ノ消化機能ニ能ク適シ得ヘキモノニアラサレハナリト、抑モ人類ノ母タルモノハ他ノ諸動物ノ牝類ト均シク其嬰兒ニ適スル乳ヲ以テ之ヲ養育スルモノナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ、其嬰兒ノ消化機ハ其成育スルニ從ツテ自カラ變化セサルヲ得ス、之ヲ養フ母ノ乳質モ亦タ是レ嬰兒ノ消化機ノ變化ト併行一致シテ變化シ行クモノナリ、即チ母乳ハ嬰兒發達ノ時期中ヲ通シテ之ニ適セシムルモノ是レナリ、此一事ハ讀者諸君ノ念頭ニ深ク銘刻シ置レンコトヲ要ス、此事理ニ由リテ之ヲ考フレハ此動物ノ乳汁ニシテ自然ノ儘ナランニハ、他ノ動物ニ與ヘテ有毒ナルコトア

八三九

ルヘキナリ、今マ嬰兒ニ與フルニ母乳以外ノ餌食ヲ以テセンカ、是レ其嬰兒ノ消化機ニ能ク適シ得ヘキモノニアラス、由々シキ變動違和ヲ生シ易キモノナリ、然レトモ母乳ヲ與フルコト能ハサル場合アリ、其儘ニ打テ棄テ置カハ到底餓ヲ免カレス、斯ル場合ニ於テハ其嬰兒ノ餓死スルヲ救ハンカ爲メニ相當ノ餌食ヲ與ヘサルヘカラス、而シテ其餌食ハ出來得ヘキ丈ケ無害ナルモノヲ擇ンテ給センコトヲ要ス、此際生理的化學士ハ須ラク此餌食選擇ノ任ニ當ラサルヘカラス、即チ母乳ト最モ能ク相似タル餌食ヲ得ンコトヲ勉メサルヘカラス、母乳ナルモノハ嬰兒ノ各發達期ヲ通シテ之ニ適スヘキ餌食トナルモノニシテ、其血液、組織、骨部及神經系ヲ構成スルニ最モ能ク適スルモノナリ、故ニ人爲的餌食モ亦タ是レ斯ル効力アルモノヲ擇ハサルヘカラス、

斯クテ今マ僅カニ二三代ヲ經過シタランニハ、文明ノ域ニ進ミタル國々ニ於テハ、嬰兒ノ人爲的養育法一般ニ能ク行ハレ、母乳養育法ハ遂ニ其跡ヲ斷ツニ至ルヘキナリ、是レ全ク空想ニアラス、事實出來得ヘカラサルコトニアラサルナリ、今マ其レ人事進化作用ノ原則ヨリ之ヲ見レハ、人爲的作用モ亦タ是レ天地自然ノ理ニ合スルコトアルハ、疑フヘカラサル事實ニシテ實ニ驚異スヘキ程ナリ、而シテ人事ノ斯ク變化シ來ルハ人類ヲシテ不幸ニ陥キラシムルナカラシヤトノ疑懼ノ念ヲ生スヘキモノニアラサルナリ、斯ク變化ヲ生スルカ爲メニ困難痛苦ヲ感スルハ僅カニ過渡ノ時代ニ過キサルノミ、即チ舊ヲ去リテ新ニ就カントスルノ時代ニ過キサルノミ、此時代ハ所謂ル試驗時代ナルカ故ニ、自カラ之ニ伴フ所ノ困難痛苦ナクンハアラス、然レトモ耐忍持久徐々トシテ學理上研究ニ研究ヲ重ネテ以テ、天地自然ノ妙用神祕ヲ啓發スルノ時

期ニ到達スヘキナリ、事既ニ此ニ至レハ所謂ル過渡ノ時代ニ於ル困難痛苦ハ雲消霧散遂ニ開豁喜フヘキ新天地ヲ見ルヘキナリ、試ミニ太古ヨリ今日ニ至ルマテノ食物ノ變遷ヲ見ヨ、太古原人ノ時代ニアリテハ人生百般ノ事皆ナ幼稚ニシテ、其食物ノ如キモ人爲ヲ加ヘタルモノ極メ少ナク、概シテ天然ノ果物草根等ナリシカ、年代ヲ經ルニ從ツテ次第ノニ變化シ來リ、穀食及調理シタル肉食ヲ爲スニ至レリ、斯ク食物ノ種々ニ變化スルニ就テハ其間幾多ノ人命ヲ損シタルカ測リ知ルヘカラス、サレハトテ人種ノ力爲メニ曾テ盡キタルコトナカリシナリ、今日人爲的餌食ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルニ方リテ、其死亡數ノ夥多ナルコト人ヲシテ恐怖ノ念ヲ懷カシムルモ、毫モ驚異スヘキ現象ト爲スニ足ラサルナリ、是レ他ナシ嬰兒人爲的養育問題ノ研究ハ尙ホ是レ初期ニ屬スルモノニシテ、所謂ル過渡ノ時代ナレハナリ、過渡ノ時代ニ於テ困難痛苦ヲ感スルハ亦タ止ヲ得サレハナリ、學理上耐忍持久研究ニ研究ヲ重ネタランニハ、遂ニ開豁喜フヘキ新天地ニ入ルコトヲ得ヘケレハナリ、

然レトモ人爲的餌食ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルコト、ナリシヨリ、嬰兒死亡數ニ關スル統計表ヲ見ル毎ニ未タ曾テ怵惕惻隱ノ心ヲ起サスンハアラサルナリ、ドクトル、ユブリック氏ノ說ニ曰ク我カ米國ノ大市邑ニ於ル一年未滿ノ嬰兒死亡數ノ大半ハ夏期ノ下痢症ニ基ケルモノナリ、而シテ此下痢症ハ殆ント總テ榮養不給ニ歸スヘキナリト、又タチ、ターリンク氏ノ實見說ニ曰ク佛國ニ於テ内臟違和ノ爲メ死亡スル嬰兒二萬人アリ、内全數五分ノ四ハ人爲的餌食ノ養育ヲ受ケタルモノナリシト、吾人ハ既ニ前段ニ於テ述ヘタル如ク諾威及瑞典ニ於テハ母乳ノ養育ヲ受ケル嬰兒甚タ多ク、此養育法殆ント一般ニ行ハル、カ故ニ人爲的餌食

ヲ給セラレタルカ爲メ死亡スル嬰兒ノ死亡比例甚ハタ低キモノナリ、今マ吾人ハ牛乳養育ヲ受ケタル嬰兒ニ關スル或ル統計表ヲ示サント欲ス、ドクトル、ホーブ、メーナート及バルラード諸氏ノ收集シタル事實ヲ見ルニ左ノ如キコトアリ、曰ク一歳未満ノ嬰兒ノ死亡數一千九百四十三人ノ内、母乳ノ養育ヲ受ケタリシモノハ僅カニ六十一人ニ過キササルナリ、即チ僅カニ百分ノ三ニ過キササルヲ知ルヘキナリ、實ニ驚クヘキ結果ト云ハサルヘカラス、又タ英國バーミンハムノ衛生醫官カ一千九百五年ニ於テ出版シタル報告書中ニ曰ク、生後六箇月末滿ニシテ死亡シタル嬰兒百七十八人アリ、内十六人ハ母乳ノ養育ヲ受ケタルモノ、二十八人ハ幾分カ母乳ノ養育ヲ受ケタルモノ、而シテ人爲的餌食ノ養育ヲ受ケタルモノハ百三十五人ニ下ラサリシナリ、且ツ同醫官ハ嬰兒死亡數ニ就テ久シキニ亘リ緻密ナル觀察ヲ以テ調査シタル結果ヲ報告シテ曰ク人爲的餌食ヲ以テ養育サレタル嬰兒ノ死亡數ハ之ヲ少ナク見積ルモ、母乳ヲ以テ養育サレタル嬰兒ノ死亡數ニ比スレハ尙ホ且ツ三十倍ノ多キニ居レリ、實ニ恐ルヘキ大數ナラスヤ、加之日耳曼國ノ官報中ノ統計表ニ曰ク、人爲的餌食ノ養育ヲ受ケタル一歳未満ノ嬰兒ノ死亡數ハ百分ノ五一ナルモ、專ラ母乳ノ養育ヲ受ケタル一歳未満ノ嬰兒ノ死亡數ハ僅カニ百分ノ八ニ過キササルナリ、人爲的餌食ノ嬰兒ノ死亡數ニ及ホス影響得テ知ルヘキノミ最早其他ヲ云フヲ要サス、『酒德利ハ死ノ容器ナリ』トハ昔時ノ諺ナルカ、今ヤ變シテ『牛乳罐ハ嬰兒死亡ノ容器ナリ』ト謂ツヘシ、

人爲的餌食ト母乳トノ結果ニ於テ差異アルコト既ニ右ニ述ヘタルカ如シ、此ニ於テカ世ノ慈善家及政府ノ當局者ハ母乳養育ヲ獎勵センカ爲メニ、種々ノ方法手段ヲ取ルニ至レリ、中ニ就テ最モ著名ナルハ私設ニ

係レリト雖モ、佛國エルビウフニ於ル一大製造所ノ計畫ニ係レルモノ是レナリ、同製造所ハメッサース、ピアール等諸氏ノ所有ニ屬スルモノニシテ、其計畫ノ大要ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク此製造所ニテハ既ニ婚嫁シタル婦人ノ多數ヲ工女トシテ雇ヒ入レ、其内嬰兒ヲ持テ爾婦人ハ之ヲ獎勵シテ之ヲ乳育セシムルコト、セリ、但シ其子ハ工場ヘ携ヘ行クヲ許スニアラス、其工場ノ近傍ニ市立ニテ「晝間幼兒保育所」ナルモノアリ、子ヲ持テ爾工女ハ晝間工事中其子ヲ此保育所ニ預ケ置クコト、セリ、而シテ一日間ニ幾回ト其乳育スル度數ト其時間トヲ定メテ、斯ル工女ヲシテ其子ヲ乳育セシムルコト是レナリ、斯クテ此會社ニ斯ル方法ニ從ツテ乳離レスルマテ乳育セラル、幼兒一名ニ就テ、一百「フラン」宛ノ金圓ヲ或ル銀行ヘ預ケ置キテ、其幼兒ノ所有タラシムルコト、セリ、母乳養育法ニ關スル此獎勵法ノ結果甚ハタ良好ナルヨリ、政府事業ニ係ル工場ノ大多數及隣寸、煙草專賣局ト關聯セル工場其他郵便電信局、電話局等皆ナ是レ此獎勵法ヲ實行スルニ至レリ、

日耳曼國ノコロニ於テハ一種ノ母乳養育獎勵法ヲ實行セリ、下層社會ノ婦人ニシテ子ヲ擧ケタランニハ、其家ニ在リテ其子ヲ乳育セシメ、或ハ其他適當ナル方法ニ從ツテ其生兒ヲ養育スル場合ニハ、其乳育養育スル期間内ハ市ヨリ保護料ヲ與フルコト是レナリ、此獎勵法ニ倣フテ實行セル佛蘭西ノ市府モ少ナカラサリシナリ、然レトモ斯ル獎勵法實行セラレタルカ爲メ、生理上乳泌官能消耗シテ以テ其子ヲ乳育シ得サル婦人ノ數、從前ニ比シテ減少セシヤト云フニ其實決シテ然ラサルナリ、此獎勵法ノ爲メ益ヲ得タルモノハ左ノ如キモノニ過キササルナリ、曰ク婦人ニシテ其子ヲ乳育シ得ヘキ體質ヲ有スルモ、生計上賃銀ヲ得ルノ

必要ニ迫ラレテ他ニ雇ハル、ヨリ、其子ヲ乳育スルコト能ハサルモノアリ、斯ル婦人ニ對シテハ此獎勵法大ニ効用アルモノト謂ツヘシ、人口減少モル佛國ニアリテハ嬰兒ヲ貴重スルコト甚タシキハ亦タ止ヲ得サルナリ、

第五節

商人トシテ人爲の食料ヲ販賣セント欲スル者ハ、人ノ耳目ヲ惹クヘキ美名ヲ付シテ、胸乳ヲ其嬰兒ニ與フルコト能ハサル婦人ヲ誘ハンコトヲ計ルモノナリ、即チ概シテ狡猾ニモ新聞廣告杯ヲ利用シテ其販賣高ノ成ルヘク多カラシコトヲ望ムモノナリ、而シテ此等ノ食料ノ大半ヲ嬰兒ニ取リテ危險ナリト云フモ決シテ妨ケナキナリ、否ナ殆ント有毒ナリト云ツヘキナリ、又タ廣告等ニテ餘リニ仰々シク吹聴セサル少數ノ食料モ、亦タ是レ幼兒ニ與ヘテ安全ナリト云フヲ得サルナリ、好結果アリト云フヘカラサルナリ、然レトモ食料ノ主成分カ焙炙シタル小麥カ若クハ大麥ニ粉ヨリ成レリトセンカ、之ヲ稀釋液トシテ用ヒタランニハ往々ニシテ好結果ヲ奏スヘキナリ、所謂ル之ヲ稀釋液トナストハ多量ノ牛乳杯ヲ混和スルコト是レナリ、但シ斯ル食料ハ其價自カラ高カラサルヲ得ス、

最モ伎倆ニ拔ンテタル醫師ノ立證家中ニハ右ニ述ヘタル事柄ニ就テ復タ異論ナキモノ、如シ、ドクトル、チャピン氏ノ説ニ曰ク此等ノ食料ハ滋養分ノ見地ヨリ之ヲ評スレハ、「コンデンスマルク」ノ最上等ナルモノニ比スレハ劣ル所アリト雖モ、其本質ニ至リテハ殆ント間然スル所ナシ、而シテ此等ノ食物中最良ニシテ最高價ナルモノヲ取リテ之ヲ分析シタルニ、「コンデンスマルク」ニ比シテ稍々多量ノ脂肪分

ヲ含ミ居ルコトヲ見出シタリ、今日市場ニ於テ賣買セル特許幼兒食料ハ實際皆ナ是レ脂肪分ニ乏シキモノナリ、其大半ハ敗血症ヲ起シ易キモノナリ、砂糖ノ成分多キニ過キルモノナリ、尙ホ此外此等ノ食料ノ大半、好シ大半ナラストスルモ、其内ノ最良ナルモノ、數者中ニハ澱粉、糖分等ノ如キ不必要ナルモノヲ含ムモノ之レアリ、

嬰兒養育ニ缺クヘカラサル餌食ノ事ハ當ニ公衆ノ知リ置クヘキ事柄ナルモ、善ク其真相ヲ知リ居ルモノハ甚ハタ少ナキナリ、然レトモ尙ホ善ク之ヲ知リ居ルモノハ醫師ナリ、醫師トシテ其面目ヲ保タント欲セハ之ヲ知ラサルヘカラス、醫師中ニアリテ牛耳ヲ取レルモノ殊ニ嬰兒ノ餌食問題ノ研究ニ其身ヲ委ヌルモノハ、其餌食ノ利害得失ニ關シテ痛論以テ他ヲ憚カルヘキモノニアラサルナリ、否ラスンハ醫師タルモノ、面目ヲ汚スモノト謂ツヘキナリ、試ミニ醫事ニ關スル雜誌類ヲ見ヨ、嬰兒ノ餌食ニ關スル廣告滿チタルニアラスヤ、而シテ其廣告ノ文面ニハ如何ニモ著シキ効用アルカ如クニ書キ立テアレトモ、其實決シテ然ラス、無益有害ナルモノ多キニ居レリ、是レ事實ノ證明スル所ニアラスヤ、斯ル廣告ヲ爲セルモノハ多クハ醫師ナリ、醫師タルモノ斯クテモ尙ホ其面目ヲ保チ得ヘキヤ、予ハ曾テ嬰兒ノ餌食ノ事ニ關シテ或ル雜誌ニ一論說ヲ掲ケタルコトアリシカ、一ノ有名ナル醫師此論說ヲ評論シテ予ノ許ニ一書ヲ寄せ來リタリ、其大意ニ曰ク願ハクハ貴君醫事ニ關スル諸雜誌ヲ閲讀セラレヨ、其雜誌ノ多クハ廣ク世ニ名ヲ知ラレタルモノナリ、此等ノ雜誌中ニハ嬰兒ノ餌食ニ關スル記事ノ光輝ヲ放テルヲ見ラル、ナラン、斯ル記事ヲ見ラレタランニハ、米國ノ婦人ニシテ嬰兒ノ母タルモノカ、其子ノ養育法ニ就テ如何ニ其心ヲ勞シ居ルカヲ窺ヒ

知ルニ足ルヘキナリ、此ニ於テカ貴君ノ説ノ當否ハ自カラ判然スヘキモノナリト、是レ畢竟スルニ適當ニシテ善良ナル嬰兒ノ餌食アルコトヲ誇揚スルモノナレトモ、實際果シテ然ルヤ否ナヤハ保證シ得ヘカラサルナリ、

而シテ此等ノ餌食製造家ト衛生局トノ間ニハ不正不徳ナル關係聯絡ノアルアリテ、衛生局ノ認許シタル餌食トテ一概ニ善良ナルモノト云フヲ得サルナリ、嗚呼亦タ危險ナル次第ナラスヤ、今マ茲ニ分娩シタル一ノ婦人アリトセンカ、其筋ノ特許ヲ得タル嬰兒餌食ノ効能ヲ述ヘ立テタル廣告文ノ紙片、恰カモ雨下スルカ如ク見ス、其婦人ノ手許ニ飛ヒ來ルハ珍ラシカラサルナリ、時ニ或ハ我國ノ大市邑中ニアリテハ、四六時中夜トナク日トナク此種ノ廣告紙片家々ニ舞ヒ込ムコトアルハ是レ亦タ常事ニシテ決シテ怪シムニ足ラス、而シテ此等ノ廣告ニハ主トシテ如何ナルコトカ記載シアルヤト云フニ、母乳ヲ以テ其子ヲ養育スルノ困難ナルコトカ如何ニモ巧ミニ如何ニモ見事ニ書キ立テラレ、或ハ此種ノ餌食ヲ以テ嬰兒ヲ養育シタラシニハ、其成育發達ノ著シキコト人ノ耳目ヲ驚カサスンハアラスト譽メ立テ、或ハ立派ニ生ヒ立チテ見事ニ肥滿セル幼兒ノ肖像ヲ極彩色ニシテ寫シ出シ、以テ其餌食ノ効能ノ最モ著シキヲ説明スル杯、人ノ耳目ヲ惹カント欲シテ其用意ノ周到緻密ナルコト亦タ云フヘカラス、而シテ其幼兒ノ立派ナル肖像ノ如キハ農家ノ臺所ニ貼リ付ケテ一ノ粧飾トナスモノサヘアルニ至ル、又タ彼ノ分娩セル婦人ハ嬰兒ノ餌食製造人及其販賣者ハ如何シテ我名ヲ知リテ斯ル廣告ヲ寄セ來リシカ、我カ分娩セシヲ如何シテ知リ得タルカ、衛生局カ醫師ニアラスンハ斯ク速カニ我カ分娩セシヲ知ルモノアルヘキ謂ハレナシ、實ニ自カラ不思議ナリト

思ハサルハナシ、是レ亦タ此等ノ餌食製造人ト衛生局トノ間ニ秘密ナル聯絡關係アルニ基カスンハアラ

ス、
富貴上流社會ニ在リテ子生レ其母ノ乳出テサルカ、或ハ出テサルニアラサルモ自カラ之ヲ乳育スルコトヲ欲セサル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ他ヨリ乳母ヲ雇ヒ入レテ之ヲ養育センハ普通ノ習慣ニシテ決シテ怪シムヘキモノニアラサルナリ、而シテ其乳母雇入ノコトハ得意醫師ノ勸誘ニ基ツケルモノ多キニ居レリ、然レトモ此乳母雇入ノ事ハ富貴上流ノ人ニシテ初メテ能クシ得ヘキモノナリ、貧賤下層ノモノ、望ミ得ヘカラサルハ勿論ナリト知ルヘシ、今マ嬰兒ヲ乳母ニ托シテ養育セシムルコトハ一面ニ於テハ利スル所少ナカラスト雖モ、又タ他ノ一面ヨリ之ヲ見レハ不利ナルコト之ニ伴ハスンハアラス、又タ茲ニ輕々ニ付スヘカラサル一ノ疑問アリ、曰ク人爲的餌食ハ如何ニ注意ヲ密ニシテ精製スルモ結局人乳ヨリ一層安全ニ一層良好ナリト云フヲ得サルヘシト、既ニ前段ニモ述ヘ置キタルカ如ク、母ノ乳ナルモノハ終始同質ノモノニアラス、嬰兒成育發達上ノ必要ニ應ジテ自カラ變化セサルヲ得ズ、即チ嬰兒發達ノ度合ト母乳變化ノ度合ト併行一致スルモノ是レナリ、然ルニ今マ新タニ雇ヒ入レタル乳母ノ乳如何ト云フニ、自家乳質ノ變化セル度合ト嬰兒發達ノ度合トヲ併行一致セシメンハ、實際ニ於テ出來得ヘカラサルナリ、乳母ノ乳ノ嬰兒ニ適セサルコト往々ニシテ之レアルハ蓋シ之カ爲メナラスンハアラス、今マ其レ乳母ノ乳ヲ試驗シテ恰カモ嬰兒發育ノ度ニ適セシメント欲セハ、幾人ニテモ乳母ヲ取り替ヘテ其乳ヲ試驗セサルヘカラス、斯クノ如クセンニハ種々ノ困難之ニ伴フ、ハ云フマテモナク、又タ試驗ノ結果合格者ヲ見出スマテニハ

動モスレハ數週間ヲ費ヤサ、ルヘカラス、サレハ適當ノ乳母ヲ雇ヒ入レンコトハ決シテ容易ノコトニアラス、且ツ嬰兒ニ取リテ危險ナル場合アルハ珍ラシカラサルナリ、即チ乳母ヨリ微毒傳染ノ恐レアルカ如キ是レナリ、如何ニ注意ヲ密ニシテ乳母タルモノ、乳ヲ試驗スルモ、其婦人ノ微毒ニ侵サレ居ルコトヲ見出スコト能ハサル場合往々ニシテ之レアレハナリ、今日ノ有様ニテハ人爲の餌食ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルノ途尙ホ未タ完全ニ啓發セラレタルモノニアラス、所謂ル半開半成ナルモノ是レナリ、然レトモ乳母ヲ雇ヒ入ル、ノ不便ナルト危險ナルトニ比スレハ尙ホ且ツ優レル所アラン、温順柔和ナル柔牛ハ當分嬰兒ノ媒母若クハ乳母ト云ハンノミ、今マドクトル、マクレール氏ノ言ヲ借リテ之ヲ言ハンカ、人類ノ嬰兒ハ自今以後益益乳牛ノ寄生物タランノミ、

第三章

牛乳ヲ飲用シ來リシ徑路如何

第一節

動物ノ乳汁ヲ人類ノ食料トシテ用フルコトハ決シテ今日ニ始マリタルモノニアラス、遠キ太古ヨリ然カセシモノナリ、恐ラクハ種々ノ動物ヲ家畜トシテ人家ニ飼養スルコト、ナリシ當時ヨリ始マリシモノナラン、而シテ牛乳ヲ人ノ食用トシタルハ人類ノ習慣中最モ太古ニ屬スルモノ、一ナラン、蓋シ其年代如何ハ漠トシテ考フヘカラサルナリ、太古「ヘブリウ」人ノ聖書及ホーマーノ詩集杯ニ牛乳ノ記事散見シアルヨリ之ヲ視レハ、其當時ニアリテ廣ク飲用サレタルコトヲ證スルニ足ルヘキナリ、

凡ソ生物學上ヨリ之ヲ論センニ乳汁ナルモノハ白色不透明ニシテ初生ノ諸動物ニ取リテ最モ必要ナルモノナリ、即チ總テノ動物ノ女性牝類カ其所生ノ兒ヲ養育センカ爲メニ其乳泌腺ヨリ滲出スル所ノ流動物はレナリ、而シテ斯ル諸動物ヲ總稱シテ哺乳動物ト云フ、人類モ亦タ是レ哺乳動物中ノ一タルノミ、此外猿、犬、猫、羊、山羊、牛、馬ノ類及鯨、海豚サヘモ亦タ是レ哺乳動物類ニ屬スルモノナリ、而シテ此等ノ諸動物ハ皆ナ是レ其名ノ如ク其所生ノ兒ヲ乳育スルモノナリ、又タ哺乳動物ハ全體ヲ通シテ女性タリ牝類タルモノ、乳泌腺ヨリ滲出スル乳汁ヲ以テ、其兒ノ獨立ノ生計ヲ營ミ得ルニ至ルマテハ之ヲ乳育スルモノナリ、然レトモ其乳質ハ皆ナ同一ナリト云フヲ得ス、其種屬ノ異ナルニ從ツテ變スル所ナクンハアラス、然レトモ其外見ニ至リテハ皆ナ是レ大差ナキモノ、如シ、或ル種屬ノ乳汁ハ他ノモノニ比シテ稍ヤ黃色ヲ帶フルカ如ク見ユルアリ、或ハ僅カニ濃厚ヲ加フルモノアリ、然レトモ概シテ之ヲ言ヘハ全體ヲ通シテ善ク相類似セリト云ツヘキナリ、均シク是レ哺乳動物ノ名アルモ、其外形ノ上ヨリ之ヲ見レハ其間大ナル差ナクンハアラス、然ルニ其乳汁ニ至リテハ全體ヲ通シテ其乳汁ノ善ク相類似シ居レリト云フニ至リテハ、一種奇異ノ感ナキ能ハス、均シク是レ哺乳動物中ニ屬スト雖モ其外形ノ異ナル點ニ就テ之ヲ云ハンカ、一ノ歸人ト駱駝若クハ象トノ間ニ相似タル所果シテ何コニアルヤ、又タ試ミニ人類ト海豚トヲ比較シ見ヨ、其外形ノ相異ナレルコト極メテ甚ハタシカラスヤ、此ハ單ニ外形ノ上ニ關スルコトナルカ、今マ又乳汁ノコトニ就テ之ヲ云ハンカ、猫ノ乳汁ハ牝牛若クハ馴鹿ノ乳汁ニ比シテ、其外見善ク相類似スル所アリ、其外形ノ彼レカ如ク相異ナレルニモ拘ラス、其食物及習慣等彼レカ如ク大差アルニモ拘ラス、其乳汁ニ至リ

テ類似スル所アルハ亦タ奇ナラスヤ、然レトモ今マ吾人カ假リニ斯ル諸動物中ノ或者ノ乳汁ヲ取リテ、化學上ノ成分ヲ知了センカ爲メニ之ヲ分析シ、以テ其間ノ異動ヲ對照比較スルトセンカ、斯ル場合ニ於テ吾人ハ其異種類ノ乳汁ノ成分ノ相異ナレルコト全ク豫想外ニ出ルヲ知ルナラン、即チ其外形ノミヲ見テ以テ然カクアルナラント判定シタルヨリ一層甚ハタシキ相異アルヲ見ルナラン、是レ天地自然ノ理法ニ外ナラサルナリ、抑モ乳汁ナルモノハ諸動物カ各々自家ノ子ヲ養育スルニ適當ナル食料タラスンハアラス、故ニ全ク同一ノ滋養分アル餌食ヲ糲ト幼象トノ二者ニ與フヘキモノニアラス、又タ幼稚ナル海豚ニ適スヘク天然ニ準備サレタル餌食ハ、人類ノ幼兒ニ適スヘキモノニアラス、天地ノ理法然ラシムレハナリ、

然レトモ吾人ハ今マ進テ諸種ノ動物ノ乳汁ノ成分ヲ試驗スルニ先ンシテ、最モ注意シテ論述セサルヘカラサル事實ノアルアリ、請フ其事實ヨリ先ツ論述スル所アラント欲ス、婦人ノ乳ノ成分ハ常ニ同一ナルモノニアラス、時ニ或ハ變化ヲ生スルノ必要ナクンハアラストハ既ニ前章ニ於テ述ヘタル所ナリ、均シク是レ一婦人ノ乳ナレトモハ其乳質ハ嬰兒ノ發達スル度合ニ準シテ變化スル所ナクンハアラス、單ニ是レノミナラス、其乳質ニ變化ヲ生スルノ期間ハ此婦人ト彼ノ婦人トノ間ニ於テ異ナル所ナクンハアラス、即チ其間ニ遲速長短ノ差ナクンハアラス、斯ル現象ハ獨リ人類ノミニ限ラレタルモノニアラス、乳牛ニ至リテモ亦タ是レ同一ノ現象ナクンハアラス、讀者宜シク推知スヘキノミ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ恐クハ完全ナルモノト見テ可ナラン、但シ此表ヲ以テ完全ナルモノト見做スハ、畢竟スルニ事ノ大體ヲ概括シタル見解

ニ過キササルナリ、故ニ讀者ノ心中ニ於テ固ヨリ左記ノ如キ事實アルコトヲ認識シ置カサルヘカラス、曰ク動物ノ一個々々ニ就テ云ヘハ乳泌ノ初期以來各期ニ於テ乳質ニ變化ヲ生スル事同種屬中ノ動物一個々々ノ乳質ニ著シキ相違アル事、同一ノ親ヨリ出テタル子同志ノ間柄ニ於テスラ尙ホ且ツ其乳質ニ至リテハ著シキ相違アル事。家畜ノ内ニテ其乳泌ノ分量ト本質ニ於テ著シキ差異アル事。右ニ掲ケタル數者ノ外尙ホ且ツ乳ノ本質ニ影響ヲ及ホスヘキ動力アル事、即チ其動物ノ年齢、健康、食物、其他恐ラクハ季候ノ如キ等皆ナ是レ乳ノ本質ニ影響ヲ及ホス事等是レナリ、詳細ニ云ヘハ斯クノ如キ次第ナルカ故ニ、今マ左ニ示ス所ノ表ハ只タ其概要ニ過キササルモノト知ルヘシ、

第三表

各種動物ノ乳汁ノ成分

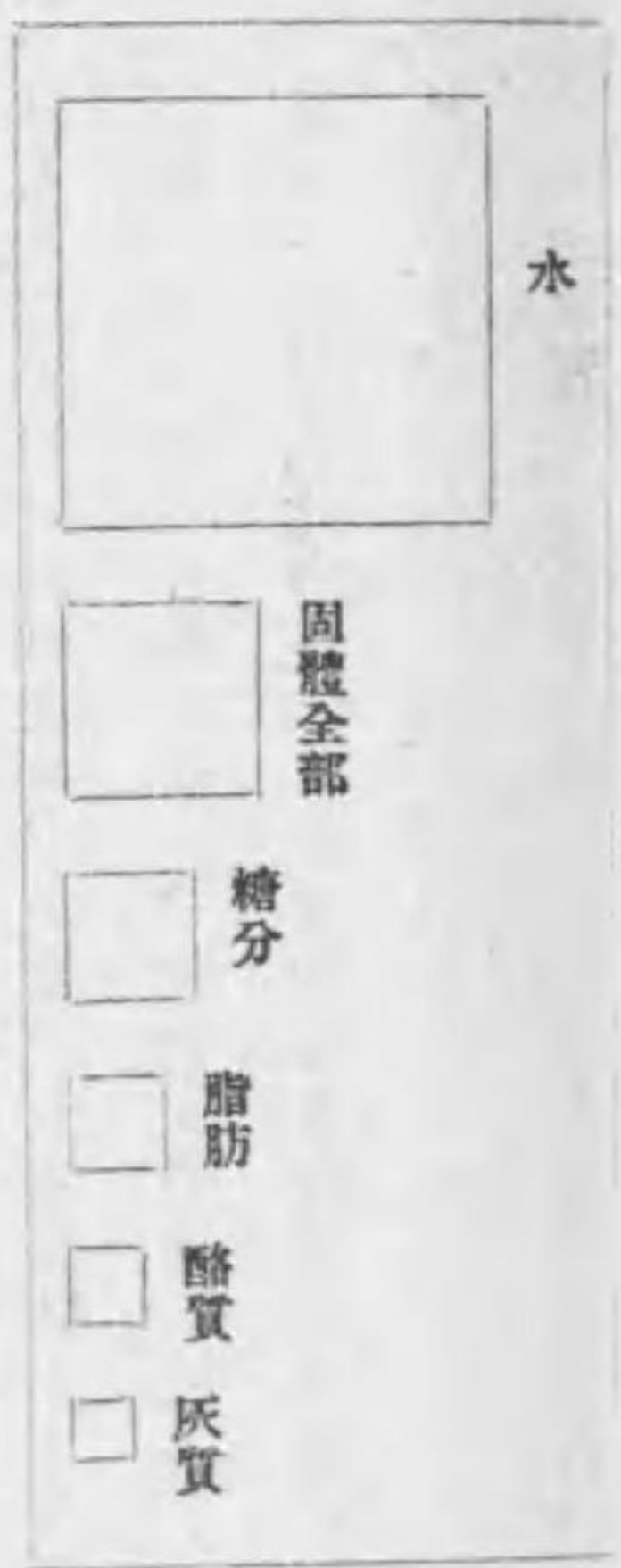
動物ノ名	水	固體	脂肪	酪質	蛋白質	乳糖	灰質
女 人	八七・四	一二・六	三・八	一・〇	一・三	六・二	〇・三
牛	八七・二	一二・八	三・七	三・〇	〇・五	四・九	〇・七
山 羊	八五・七	一四・三	四・八	三・二	一・一	四・四	〇・八
水 牛	八一・四	一八・六	七・五	五・八	〇・三	四・一	〇・九
牛	八〇・八	一九・二	六・九	五・〇	一・五	四・九	〇・九
駱駝(南亞米利加産)	八六・五	一三・五	三・二	三・〇	〇・九	五・六	〇・八

牧 驢 駱 牝 象 海 犬 猫

動物	水分	固體分	糖	脂肪	酪質	灰質
馬	九一・五	八・五	一・二	一・二	一・一	五・七
馬	八九・六	一〇・四	一・六	一・七	一・六	六・〇
駱	八六・六	一三・四	三・一	四・六	四・〇	五・六
牝	八四・〇	一六・〇	四・〇	七・二	七・二	三・一
象	六七・九	三二・一	一九・六	三・一	三・一	八・八
海	四一・一	五八・九	四五・八	一一・二	一一・二	一・三
犬	七五・四	二四・六	九・六	六・一	五・一	三・一
猫	八二・一	一七・九	三・三	三・一	六・〇	四・九

前表ニ對シテ僅カニ説明ノ數語ヲ付ケ加ヘンハ恐ラクハ當然ノ事ナルヘシト信ス、今マ乳汁ヲ分析シテ單ニ水分ト固體分トノ二者ニ分タンカ、脂肪分ハ實ニ半固體ニ屬スヘキモノナリ、中ニ就テ適當ニ固體成分ト謂ツヘキモノハ糖分、酪質、蛋白質及灰質若クハ鹽ノ如キ礦物はレナリ、而シテ尙ホ其中酪質ナルモノハ蛋白質ト共ニ牛乳中ノ窒素の價値ヲ生スルモノニシテ、最モ主要ナル成分ト謂ツヘキナリ、牛乳皮ハ酸ノ作用ニテ酪質ヨリ成形スルモノナリ、即チ乾酪ノ主要成分ノ一是レナリ、之ヲ細言スレハ其百分中ノ二十五ヲ占ムルモノナリ、又タ牛乳中ノ灰質若クハ鹽ハ重モニ燐素、劍篤亞斯、曹達及石灰質ヨリ成レルモノナリ、

今マ圖解ヲ以テ牛乳中ノ各成分ノ多寡ヲ示セハ左ノ如シ



右ノ圖解ニ據リテ之ヲ考フレハ前述シタル各種ノ乳汁中ノ滋養分如何ヲ推知スルコト容易ナルヘシ、例之ヘハ海豚ノ乳汁中ニ於ケル脂肪成分ノ夥多ナルコト、之ヲ女人ノ乳汁ニ比スレハ十八倍以上ニ相當スルコト全ク明瞭ナルニアラスヤ、又タ象ノ乳汁中ノ脂肪分ハ人類ニ五倍セリ、然ルニ之ニ反シテ牝馬及驢馬ノ乳汁中ニハ脂肪分甚タ缺乏シ居ルヲ知ルヘキナリ、斯ク脂肪分缺乏シ居ルニモ拘ラス、世界ノ或ル箇所ニ於テハ此等ノ乳汁ヲ人ノ食料トシテ用フルモノ多少之レアルヲ見ルヘシ、中ニ就テノ驢馬ノ乳汁ハ虛弱ナル嬰兒ニ取リテ効用著シトテ我カ米國ニ於テサヘ折々用ヒラル、ナリ、然レトモ當今人類ノ食料トシテ用ヒラル、乳汁ハ重モニ如何ナル動物ノ乳汁ナルヤト云フニ牝牛、山羊、羊、驢馬、駱駝及馴鹿ノ如キモノ是レナリ、此等ノ動物ノ大半ハ前ニ掲ケタル乳質分析表中ヨリ選擇セラレタルモノナリ、即チ人乳ニ最モ善ク近似シタル乳汁ヲ選擇シタルモノ是レナリ、

而シテ今マ吾人ハ此等ノ諸動物ノ乳汁ヲ取リテ人ノ食料トスルニ足ルヘキ成分ニ關シテ、一層精密ニ其優劣如何ヲ比較セント欲ス、吾人ハ既ニ前章ニ於テ述ヘタルカ如ク學者カ人ノ母乳ニ代ルヘキ適當ナル餌食

ヲ見出サントスルニ就テ最重要ナルコトアリ、出來得ヘキ丈ケ母乳ト同様ナル度合ヲ以テ血液、筋、組織、骨及神經機能ヲ作成シ得ヘキ餌食ヲ確カメルコト是レナリ、今マ此問題ヲ解決センカ爲メニ先ツ第一着ニ取ルヘキ手段ハ是レナリ、曰ク重モナル家畜ノ乳汁ヲ取リテ之ヲ分析シ、以テ人乳ト對照比較シテ人乳ニ最モ近似セルモノヲ取ルコト是レナリ、

吾人ハ此等ノ乳汁ノ成分ヲ大別シテ四部ニ分ツヘシ、即チ左ノ如シ、(一)「プロテイン」時ニ或ハ普魯帝土ト云ヘルモノ即チ蛋白質ヲ含メルモノ。(二)脂肪。(三)炭酸水素。(四)通常灰質若クハ鹽ト唱ヘラレタル礦物は是レナリ、尙ホ此等ノ成分ノ外水ハ乳汁中ノ主要成分ト謂ツヘキナリ、夫レ水ハ人體中何レノ組織中ニモ入り込ミ居ルモノナリ、骨部ニテモ百分ノ十以上ハ水ナリト知ルヘシ、去ルカラニ乳汁ノ總テノ種類中ニ含メル水ノ大部分ハ空シク消費サルヘキモノニアラス、又タ滋養タラスンハアラサルナリ、「プロテイン」ハ筋ヲ造成スル所ノ原素ニシテ、第一ノ要素ト云フヘキナリ、而シテ其中ニハ炭素、水素、酸素及窒素ヲ含ミ居レリ、又タ時ニ或ハ硫黃ヲ含ミ居ルコトアリ、時トシテハ此等ノ外ニ尙ホ磷素及鐵質ヲ含メルコトアリ、脂肪ハ世人ノ善ク知レルカ如ク、炭素、水素及酸素ヨリ成レルモノナリ、又タ炭酸水素ナルモノハ炭素ト水素ト化合シタルモノニ外ナラス、水素ト酸素ト化合スルニ一ト二トノ割合ヲ以テシタランニハ水ヲ造成スルニ足ルヘシ、乳汁中ニ含メル礦物即チ鹽若クハ灰質ハ主トシテ骨ヲ造成シテ之ヲ堅實ナラシムルノ効用アルモノナリ、

右ニ述ヘタル事實ハ如何ナル點ヨリ之ヲ考フルモ乳汁ニ關スル分析ノ完全ナルモノ又タ精密ナルモノト云フヲ得サルナリ、然レト牛乳問題ニ關スル眼目ヲ論定セント欲スル人ノ目的ニ對シテハ足レリト謂フヘシ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ人類ノ食料トシテ用フル所ノ重モナル乳汁ノ成分ノ百分比例ヲ示スモノ是レナリ、即チ「プロテイン」、脂肪、炭酸水素及礦物ノ百分比例ヲ示スモノ是レナリ、

第四表

各種乳汁ノ主成分

動物ノ名	「プロテイン」	脂肪	乳糖	礦物
女 人	一・六	三・四	六・一	〇・二
山 羊	三・七	四・三	三・六	〇・八
牝 牛	三・五	三・七	四・九	〇・七
牝 羊	四・九	九・三	五・〇	〇・八
牝 馬	二・〇	一・二	五・七	〇・四
牝 馬	二・二	一・六	六・〇	〇・五
駱 駝	四・〇	三・一	五・六	〇・八
馴 鹿	一〇・四	一七・一	二・八	一・五

右ノ表中ニ掲ケタル諸動物ハ其乳汁ヲ得ンカ爲メニ飼育サレタル重モナル種屬ナルカ、此等ノ動物ノ分泌スル乳汁ハ其中ニ筋ヲ造成スル要素タル「プロテイン」ヲ含メルコト、人乳ヨリ一層豊富ナリト知ルヘシ、

今マ吾人カ假リニ此「プロテイン」ノ豊富ナル乳汁ヲ選擇シ居レリトセンカ、化學上分析ノ結果トシテ牝馬若ハ驢馬ノ乳汁ノ適當ナルコトヲ見出スニ至ルヘキナリ、蓋シ此二動物ノ乳汁ハ「プロテイン」ノ成分ニ於テ最モ善ク人乳ニ近似スル所アレハナリ、然レトモ其乳汁中ニ含有セル脂肪成分ノ量如何ト云フニ、著シク缺乏シ居ルヲ見ルヘシ、又タ茲ニ奇ト謂ツヘキハ駱駝及牝牛ノ乳汁カ共ニ是人乳ニ近似セルコト是レナリ、但シ前者ハ脂肪成分ニ於テ稍ヤ缺乏セル所アリ、後者ハ其成分稍ヤ過量ナル所アリト知ルヘシ、次ニ論スヘキモノハ山羊ノ乳汁是レナリ、故ニ今マ等級ヲ立レハ(一)牝牛ノ乳汁、(二)駱駝ノ乳汁、(三)山羊ノ乳汁トナルヘシ、而シテ炭酸、水素ノ成分ハ三者共ニ著シク缺乏シ居レリ、然レトモ其成分ノ高ニ從ツテ其優劣ヲ定メンカ、駱駝ヲ第一、牝牛ヲ第二、山羊ヲ第三トナスヘシ、

駝鹿ノ乳汁ハ之ヲ人乳ニ比較スルニ「プロテイン」及脂肪成分共ニ是レ過多ナルモノナリ、然レトモ前表ニ掲ケタル其他ノ乳汁ハ其質人類ノ食料ト爲スニ足ラサルモノナリ、而シテラブランド人及シベリア沿岸ニ棲息セルエスキモウノ諸種族ハ甚ハタ手廣ク駝鹿ノ乳汁ヲ飲用セリ、又アラスカ地方ニ於テエスキウモ種族モ我カ亞米利加政府カ今ヨリ二十年前駝鹿ヲ同地方ニ送り遣リシ以來幾許カ此乳汁ヲ飲用スルコトナレリ、蓋シ亞米利加政府カ同地方ヘ駝鹿ヲ送致セシハ飢饉ヲ豫防スルノ保護政策ニ出テタルモノナリ、然レトモ此等ノ地方ニ於テ此乳汁ヲ嬰兒ノ餌食トナルヤ否ナ果シテ嬰兒ノ餌食トナシタランニハ如何ニ手廣ク飲用セラル、カ如何ニ變製セラル、ヤハ是レ皆ナ吾人ノ確知スルコト能ハサル所ナリ、且ツエスキモウ若クハラブランドノ婦人ノ乳汁ヲ分析シテ以テ駝鹿ノ乳汁ト對照比較スルコト能ハサルナリ、予ノ考フル

所ヲ以テスレハ此等ノ二者ノ乳質ノ差異ハ前表ニ掲ケタルモノヨリ尙ホ一層輕少ナラント思ハル、ナリ、抑モ駝鹿ナルモノハ寒帶地方ニ産スルモノニシテ、其體中ニ熱ヲ有スルノ必要ナルヨリ脂肪分ヲ有スルコト自カラ過多ナラサルヲ得ス、此等ノ寒帶地方ノ住民カ鯨油其他ノ動物ノ脂肪ヲ消費スルコト非常ニ多量ナルモ、亦タ是レ此理ニ外ナラサルナリ、此外此等ノ地方ノ婦人ノ乳汁中ニ脂肪分ヲ含メルコト、温帶地方ノ其レニ比シテ一層多量ナルモ亦タ是レ然リ、

第二節

今マ阿弗利加、亞細亞及印度地方ノ遊牧人種カ前述シタル各乳汁ノ化學的成分如何ヲ知リシタリトセンカ、幾許ナラスシテ駱駝ノ乳汁ヲ飲用スルニ至ランハ亦タ疑フヘカラサルナリ、然レトモ經濟上ヨリ之ヲ考フレハ、此等ノ人種カ此乳汁ヲ用ヒサルヤモ亦タ知ルヘカラス、是レ他ナシ此等ノ土人カ砂漠ノ中ヲ往來スルニ當リテ駱駝ハ必要ナル唯一ノ動物ナルカ故ニ、此動物ヨリ乳汁ヲ搾取センハ不利ナル所アルヘシト思惟スレハナリ、又タ聖書中乳汁ニ關スル記事ヲ見ルコト少ナカラサルカ、是レ山羊ノ乳汁ニアラスンハ羊ノ乳汁タラスンハアラス、其當時ニアリテ何カ故ニ然リシヤト云フニ、當時バレスタインニ於テハ牝牛ハ通常一般ニ乳汁ヲ供給スルモノト認メラレス、且ツ其地方ノ全體ノ有様、大ナル牧牛場ヲ作成スルニ適セス、却ツテ羊及山羊ノ類ヲ飼養スルニ善ク適シタレハナリ、又米國ニ於テ駱駝ヲ飼養センコトニ力ヲ盡シタルコトアレトモ、經濟上利益アラサリシヨリ終ニ失敗スルニ至リタリ、斯ル次第ナルカ故ニ人乳ニ最モ善ク相近似セル此等ノ三動物ノ中駱駝ハ歐米二國ノ人民ニ對シテハ食料ヲ供給スヘキモノト云フヲ得サルナリ、ト

今マ茲ニ二種ノ動物アリ、其分泌スル所ノ乳汁ハ其他ノ動物ノ乳汁ヨリ一層善ク人乳ニ近似シテ、廣ク一般ニ飲用シテ利益アルヘキモノナリ、牝牛及山羊ノ乳汁是レナリ、中ニ就テ山羊ノ乳汁ハ世界ノ或ル部分ニ於テハ廣ク一般ニ飲用セラレ、人乳ニ代ルヘキ飲料トシテ最モ愛重セラル、モノナリ、然レトモ米國ニ於テハ多ク用ヒラレサルナリ、米國ニテハ二者ノ内擇ンテ牝牛ヲ取レリ、是レ他ナシ恐クハ多ク感情ニ制セラレ又タ幾分カ經濟上ノ觀念ニ基ク所アラン、米人ハ一般ニ山羊ヲ不潔ナリトセリ、殊ニ其食事ヲ爲スノ習慣甚ハタ不潔ナリト信シ居レリ、即チ斯ル感情ニ制セラレテ之ヲ嫌忌擯斥スルニ至レリ、然レトモ山羊ヲ保護庇蔭スル人ハ之ヲ反駁シテ曰ク、山羊ハ清潔ナル動物ナリ決シテ不潔ナルモノニアラス、之ヲ不潔ナリト云フモノハ畢竟スルニ譏誣タルニ過キササルナリト、一般ニ山羊ヲ擯斥スルハ其實偏見ニ出テタルニ過キス、實際牡山羊ニハ鼻ヲ衝クカ如キ惡臭アルコト亦タ疑フヘキ所ニアラス、サリトテ牝山羊モ亦タ然リト斷定スヘキモノニアラス、羅馬ノ有名ナル詩人ホレーヌ氏ハ既ニ往時ニアリテ、惡臭アルハ牡山羊ノミニシテ牝山羊ハ然ラズト廣ク世人ニ向ツテ明言シタリ、其詩句ニ曰ク、

夫ハ臭氣鼻ヲ蔽フヘキモ

妻ハ芳香馥郁タリ

又タ曾テ山羊ノ乳汁ヲ自家ノ飲料若クハ食料トシテ用ヒタルコトナキ者ノ説ニ曰ク、此乳汁ハ一種厭フヘク忌ムヘキ味ヲ有スルモノナリト、是レ亦タ正當ナル言ト云フヲ得ス、山羊ハ順良ナル動物ニシテ『貧人ノ牝牛』トモ謂ツヘキモノニシテ、其乳質決シテ嫌忌スヘキモノニアラス、然ルニ反對論中最モ重キヲ置

クニ足レリト見ユル説ニ曰ク、山羊ハ若キ樹木及灌木等ヲ傷害スルノ惡僻アリ、故ニ取ルヘキモノニアラスト、斯ル反對論ニ答ヘンハ極メテ容易ナランノミ、曰ク好シ斯ル惡僻アリトスルモ之ヲ小屋ノ内ニ繋キ置キタランニハ決シテ大害ヲ爲スヘキモノニアラス、

茲ニ經濟上ノ見地ヨリ觀察ヲ下シタル反對論ニ曰ク、商業上大仕掛ニ山羊ノ牧場ヲ造リテ之カ飼育ヲ計ルモ、其乳汁ヲ需用スルモノナキヲ如何セン、需用者ナクハ經濟上損失ヲ來サンハ亦タ疑フヘキニアルサルナリト、是レ極メテ平凡ノ説ニシテ全ク取ルニ足ラサルモノナリ、蓋シ山羊ニ對スル偏見ニ基ツケル似非經濟論ナレハナリ、試ミニ物ノ真相如何ヲ見ヨ、我カ米國中ノ諸村落及小市邑ニ住居スル者ニシテ、山羊ニ就テ偏見ヲ抱カス、山羊ノ乳汁ノ貴フヘキヲ知り、殊ニ嬰兒ノ餌食トスルニ最モ適當ナル乳汁タルコトヲ知レルモノ決シテ少ナカラサルナリ、而シテ斯ル箇所ニ於テ山羊ノ牧場ヲ開キタリトセンカ、相當ノ需用者ナクハアラス、サレハ決シテ經濟上損失ヲ來スコトアラサルヘキナリ、山羊ノ乳汁ノ分泌高ハ之ヲ牝牛ニ比較センニ固ヨリ及ハサルナリ、然レトモ山羊ノ大サ及其體重ニ比例シテ之ヲ云ヘハ通常ノ牝牛ヨリ決シテ少ナカラズト云ハンノミ、良キ山羊ノ乳汁ハ一日二回乃至三回搾取スヘキモノニシテ、一日間ノ搾取量ハ二「コールド」(「コールド」ハ我カ六合一勺餘ニ當ル)若クハ其レ以上ナリ、而シテ其賣買直段高キモノニアラスシテ、且ツ其飼育料ノ如キモ決シテ多キヲ要セス、恐ラクハ斯ル動物ニシテ飼育料ノ少額ナルコト、山羊ノ如キハ復タ他ニアラサルヘシ、山羊ノ乳汁ハ經濟上益アリト云ハ、米國人ハ之ニ對シテ單ニ冷笑スヘケレトモ、如何ナル點ヨリ考フルモ其他ノ家畜ニシテ經濟上山羊以上ノ益アルモノアルヘ

シトハ思ハレサルナリ、今マ夫レ山羊ノ乳汁カ人乳ニ代リテ嬰兒養育ノ餌食ニ適スルコト、牛乳ニ優レリト明言スルニ就テハ其理由一ニシテ足ラサルナリ、請フ其理由ヲ左ニ述ヘント欲ス、先ツ第一ニ最モ注意スヘキコトアリ、牝牛ハ殊ニ恐ルヘキ結核性疾病ニ侵サレ易キモノナリ、人類ヨリ斯ル疾病ヲ受ケテ復タ人類ニ傳播セシムルモノナリ、即チ自家ノ病毒カ其分泌スル乳牛中ニ存在スルカ故ニ、之ヲ飲用スルモノハ自カラ其病毒ニ感染セサルヲ得ス、牛乳ノ危険ナルコト得テ知ルヘキノミ、然ルニ山羊ハ實際決シテ斯ル疾病ニ罹ルノ憂ヒナキモノナリ、博士ノウカド氏ハ曾テ左ノ如キコトヲ觀察シタリ、曰ク巴里ノ屠畜場ヘ携ヘ來リタル山羊及子山羊總計十三萬頭アリ、肉検査掛ハ一々之ヲ検査シタルニ結核性疾病及其他ノ疾患ニ罹リ居ルカ爲メ、之ヲ勿ネタルモノ斯ル大數中僅カニ一頭モアラサリシト云フ、既ニ斯ル事實アリ、山羊ノ結核性疾患ニ罹ルノ憂ヒナキコト亦タ明カナルニアラスヤ、山羊ノ乳汁其他ニ利スル所更ニ之レナシトスルモ、惟タ此免疫ノ一事以テ廣ク人類ノ餌食ト爲スニ足ルヘキナリ、況ンヤ牛乳ト均シク滋養分アリ消化シ易キ質アルニ於テヤ、

今マ茲ニ嬰兒乳育ノ爲メニ乳母ノ選擇中其乳母ノ候補者タルヘキモノ二人アリ、其乳汁ハ共ニ是レ良質ニシテ其分泌量ノ豐富ナルコトモ亦タ互ニ優劣ナシ、其他ノ諸事ニ至リテモ更ニ甲乙ナシ、兩者ノ間只タ其異ナル所ハ一方ノ候補者ニ惡性ノ疾患アルノミトセンカ、斯ル場合ニ於テ其何レヲ擇ヒ採ランカハ、智者ヲ俟テ後ニ知ルヘキモノニアラサルナリ、試ミニ思ヘ嬰兒養育ニ必要ナル乳汁ヲ分泌スル動物ハ一國人民ノ乳母ト謂ツヘキモノニアラスヤ、然ルニ此乳母ヲ選擇スルノ際疾病ニ侵サレ居ルモノヲ擇ヒ採リテ、

常ニ其嬰兒ニ病毒ヲ感染セシメツ、アリ、何ソソ其レ思ハサルノ甚ハタシキヤ、山羊ノ乳汁ハ其豐富ナルト其香氣ニ至リテハ牛乳ニ優レリ、然シトモ其消化ノ點ニ至リテハ果シテ如何ソヤ、酪質ヲ含メル百分比例ハ二者共ニ人乳ニ優レリ、其比例左ノ如シ、

人類

牝牛

山羊

一〇〇

三〇〇

三〇二

右ノ表ニ依リテ之ヲ見レハ此等ノ二動物ノ乳皮ハ人乳ニ比シテ一層堅韌ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ、蓋シ酪質ハ乳汁中ニアリテ乳皮ヲ造成スル元素ナレハナリ、而シテ前表中ニ於ル三者ノ乳汁中ノ乳皮ニ堅韌ノ度ノ差異アルハ果シテ何ニ原因スルヤト云フニ、二動物ハ各々四個ノ胃腑ヲ持テルニ人類ノ胃腑ハ只タ一個ニ過キサレハナリ、今マ其レ人類嬰兒ノ消化裝置ハ柔軟ナル乳皮ヲ有セル乳汁ノ同化作用ニ適スルモノナリ、然ルニ牝牛ノ子及山羊ノ兒ノ消化機能ハ堅韌ニシテ纖維質ヲ有セル乳皮ノ存在セル乳汁ノ同化作用ニ適スルモノナリ、吾人ハ今マ乳汁ト消化機能トノ關係如何ニ就テ論述スヘキ筈ナレトモ、差シ當リノ所左ノ如キ事實ヲ述レハ足ランノミ、曰ク山羊ノ乳汁中ニハ牝牛ノ乳汁中ヨリ一層堅韌ナル乳皮ヲ有シ、復タ此等ノ二者ノ乳皮ハ婦人ノ乳汁中ノ乳皮ト異ナル所ナクンハアラス、故ニ斯ル動物ノ乳汁ヲ嬰兒ニ與ヘタランニハ、其消化機能ノ負擔ヲシテ一層重カラシメサルヲ得ス、

右ニ掲ケタル事實ニ依リテ之ヲ考フレハ山羊ノ乳汁中ニ於ル乳皮ハ牝牛ノ其レニ比シテ稍ヤ堅韌ナルガ故ニ其乳質モ稍ヤ劣リタル所アリト謂ツヘシ、然レトモドクトル、ブハインレー、ベル氏ノ説ニ曰ク山羊ハ

尙ホ其他ニ優レル所アルヲ以テ其缺ケタルヲ補フニ足ルヘキナリ、山羊ハ細菌ノ侵害ヲ受クルコト一層少ナキノミナラス、其乳汁中ニ脂肪成分ヲ含メルコト牝牛ヨリ一層多クシテ、人乳ニ近似スルコト彼レヨリ優ル所アレハナリ、嬰兒ノ消化機面部ニ疾病ノ生シタル際、牛乳ヲ用ヒテ結果好カラス、從ツテ山羊ノ乳汁ヲ用ヒタルニ其結果良好ナルヨリ、ドクトル、ベル氏ハ此等二動物ノ乳汁ノ消化サル、度合ニ於テ如何ナル差異アルカラ試験シタリシカ、其結果トシテ左ノ如キ事實ヲ得タリ、曰ク其乳汁中ノ脂肪成分ハ二動物ノ間ニ差ナクンハアラス、復タ此等ノ成分ハ人乳ノ脂肪成分ニ對シテモ差ナクンハアラス、是レ其溶解スル温度ノ全ク差異アルニ依リテ證スヘキナリ、而シテ山羊ノ乳汁中ノ脂肪成分ノ溶解スル温度ハ人乳ノ其レニ善ク近接セルモ、牛乳ノ脂肪成分ノ溶解スル温度ハ尙ホ一層高カリシナリ、尙ホ委シク其温度ハ百度ヲ限リトスノ差異ヲ示セハ左ノ如シ、人類ハ三十六度・五。山羊ハ三十四度・五乃至三十六度・〇。牝牛ハ三十八度・〇乃至四十度・五是レナリ、試験ノ結果斯クノ如クナルヨリドクトル、ベル氏説ヲ立テ曰ク、山羊ノ乳汁中ニハ稍ヤ堅韌ナル乳皮アルニモ拘ラス、其脂肪分ノ消化シ易キ點ヨリ之ヲ見レハ、牛乳ニ優ル所アルヲ證スルニ足ルヘキナリ、

瑞西及佛國ニテハ嬰兒ヲシテ直接ニ山羊ノ乳房ヲ含マシメテ以テ、之ヲ乳育スルノ習慣アル箇所蓋シ少ナカラサルナリ、嬰兒ノ之ニ吸ヒ着クノ有様ハ恰カモ母乳ヲ含ムニ異ナラス、但シ嬰兒ニ山羊ノ乳ヲ斯ク直接ニ飲マシメント欲スル場合ニハ、必ラス豫シメ其山羊ノ乳房ハ勿論其用邊ヲ全ク清潔ニ洗ヒ去ルヲ常トス、『英國醫學雜誌』ノ報道スル所ニ據レハ、斯ル嬰兒乳育法ハ好成绩ヲ奏セリト云フ、多數群ヲ爲シテ米國へ來住セル伊太利人ノ中ニハ山羊ノ乳汁ヲ嬰兒ノ食料トシテ最モ必要缺クヘカラサルモノトセリ、殊ニ嬰兒ノ疾病ニ罹レル場合ハ之ヲ重シ貴フコト極メテ甚タシキナリ、紐育市中借家人ノ最モ多數ニ群居セル中ニ伊太利人ノ一嬰兒アリ、烈シク吐瀉シタルカ爲メニ衰弱ヲ極メ實ニ見ルニ忍ヒサルノ有様ナルカ、其母ハ斯ク病ミテ苦シミ居レル嬰兒ヲ兩手ニテ抱ヘナカラ、恰カモ狂氣ノ如クナリテ渡船ニ乘リ込ミニウ、ザーセーノ方ヘ赴ケリ、是レ全ク其子ニ飲マシメンカ爲メニ、山羊ノ乳ヲ探索セント欲スルニ外ナラス、ニウ、ザーセー方面ニハ伊太利人ノ殖民所少ナカラスシテ、山羊ヲ飼育シ居ルモノアルヲ知レハナリ、伊太利人中嬰兒ノ病メル際シテ山羊ノ乳汁ヲ切望スルコト概ネ此類ナリ、往古ヘブリウ人ノ中ニモ亦タ山羊ヲ貴重スルノ習慣アリシナリ、ヘブリウ人ハ山羊ヲ以テ病苦ヲ醫スル奇効ヲ奏スルモノト信シタリ、牡山羊ノ血液程人類ノ血液ニ類似セルモノハ、決シテ其他ノ動物ニ求メ得ヘカラサルナリ、故ニ山羊ノ乳房ヨリ更ニ搾取シタル新鮮ナル乳汁ハ吾人ノ心痛ヲ醫スルニ足ルヘキナリ、且白山羊ノ乳汁ハ諸病ヲ治癒スヘキ特質ヲ有スルモノナリ、是レ皆ナヘブリウ人ノ自カラ信スル所ナリキ、

以上述ヘ來リタルコトヲ綜合シテ之ヲ考フレハ、山羊ノ乳汁ハ人類ノ食料トナルヘキモノナリ、殊ニ嬰兒ノ餌食ニ最モ適當シタルモノニアラスヤ、然ルニ之ヲ棄テ、顧リミサルハ嗚呼亦タ歎スヘキノ至リナラスヤ、山羊ハ人類ノ嬰兒ヲ乳育スルニ最モ善ク適シタル乳母ト謂ツヘキモノナリ、此點ニ於テハ牛乳ノ企テ及ハサル所ナリ、山羊ノ習慣性質ヲ善ク知ラサルカ故ニ、從ツテ其乳汁ノ普ネク飲用セラレサルハ、實ニ遺憾千萬ナル次第ニアラスヤ、今マ若シ牛乳ヲ棄テ、此羊乳ヲ一般ニ廣ク飲用スルニ至リタリトセンカ、

其結果トシテ嬰兒ノ死亡數著シク減少スルニ相違ナカルヘキナリ、試ミニ見ヨ今日嬰兒カ諸種ノ結核症ニ罹リテ斃ル、モノ幾干アルカヲ、是レ或ハ他ニ原因ナキニアラスト雖モ、牛乳飲用ノ結果多キニ居レリト云ハサルヘカラス、然ルニ此牛乳ヲ廢シテ彼ノ羊乳ヲ飲用シタランニハ、嬰兒死亡數ノ著シク減少センハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、山羊ノ乳汁ノ利益アルコト其レ斯克ノ如シ、華盛頓ノ農務局及州ノ當局者タランモノハ、普ネク此羊乳ノ利アルコトヲ知ラシメ、須ラク山羊飼畜獎勵法ヲ設ケラレンコト切望ノ至リニ堪ヘス、

第三節

今日米國及其他ノ國ニ於ル嬰兒幼童ノ大多數ハ牛乳ヲ以テ其重モナル餌食トナサル、ハナシ、尙ホ之ヲ飲用スル幼童ノ數ハ絶ヘス増加シ居レリ、吾人カ如何ニ熱心ニ牛乳ニ換フルニ他ノ動物ノ乳汁ヲ以テセンコトヲ勸誘スルモ、其甲斐ナク牛乳ハ依然トシテ舊ノ如ク嬰兒多數ノ重モナル餌食タルヘキナリ、試ミニ今日米國ニ幾干ノ牝牛アルカヲ見ヨ、一千八百萬頭ノ大數ヲ算スルニアラスヤ、其内五百萬頭以上ハ乳牛ニ屬セシムルハアラス、而シテ其牛乳ノ大半ハ精製シタルモノニアラスシテ生乳ノ儘ナリ、牛乳ノ成分如何及其他ノ動物ノ乳汁ト比較シテ化學的分析ノ結果如何ハ既ニ前段ニ於テ述ヘタル所ナルカ、尙ホ牛乳ヲ人ノ食料トシテ用ヒタル事ニ關シテ、其他重要ナルコトノ論述スヘキモノアルアリ、請フ之ヲ左ニ述ヘント欲ス、牛乳カ人ニ取リテ完全ナル食料タルカノ如ク言ヒ唯サル、ハ決シテ珍ラシカラサルナリ、然レトモ是レ理ノ當ニ然ルヘキモノニアラス、或ル動物ノ乳汁カ其所生ノ子ニ對シテ完全無缺ナル食料タルハ、天地自然

ノ理法ニシテ復タ動カスヘカラサルナリ、例之ヘハ牛乳カ其所生ノ犢牛ニ對シテ完全ナル食料タルカ如キコト是レナリ、然ルニ牛乳カ人ノ食料トシテ完全ナリト云フニ至リテハ、更ニ其謂レナクシテ沙汰ノ限リト云ハサルヘカラス、但シ牛乳中ニハ人類ノ生活ニ必要ナル滋養分ノ四要素ヲ含ミ居レルモノナリ、「ブロン」脂肪、炭酸水素及礦物はレナリ、而シテ此四者ノ各分量カ他ノ單純ナル食物ニ比シテ一層善ク適度ニ配分サレタルナリ、今マ其滋養分ニ就テ之ヲ云ハシカ、牛乳ノ「コールト」(「コールト」ハ我カ六合一勾餘ニ當ル)ハ牛肉ノ十二「オンス」ニ相當シ、麩包ノ六「オンス」ニ相當ス、且ツ牛乳ノ滋養分ノ均勢ハ麩包若クハ牛肉ニ優レリ、是レ他ナシ牛肉ニハ滋養分トシテ「ブロン」脂肪アリ、麩包ニハ同シク「ブロン」炭酸水素アリ、然ルニ牛乳ハ其三者ヲ兼ネ有シ且ツ其分量ハ殆ント各々均一ナレハナリ、然レトモ牛乳中ニ含メル「ブロン」ノ量ハ人體ヲ支フルニ必要ナル量以上ニ及ヘルナリ、今マ世間普通ノ體軀ヲ有シ相當ノ活動ヲ爲ス人ハ、一日ニ就キ「ブロン」ヲ要スルノ量一封度ノ〇・二八ニシテ可ナリ、然レトモ牛乳ヲ飲ミテ恰カモ其量丈ケノ「ブロン」ヲ取ラント欲センカ、勢ヒ脂肪及炭酸水素ノ量ヲ減セシメサルヲ得ス、即チ此二者ノ量減少シタルカ爲メ適當ニ體力ヲ支ヘ得サルニ至ラン、是レ牛乳ノ不利ナル所以ノ一ナリ、而シテ又タ茲ニ一ノ疑問アリ、曰ク牛乳ハ何カ故ニ成人ノ食料トシテ不適當ナルカト、此疑問ニ答ヘンハ甚タ易々タルノミ、第一、成人ノ體軀ヲ支フルニ足ルヘキ滋養分ヲ牛乳ヨリ取ラント欲セハ、少ナクモ一日ニ就テ四「コールト」(換算前出)乃至五「コールト」ノ牛乳ヲ飲用セサルヘカラス、而シテ此牛乳中ニ含メル水分ノ多量ナルコト推知スヘキノミ、然ルニ此多量ノ水決シテ身體ニ必要ナルモノニ

アラス、第二、牛乳中ニ固體ヲ含ムノ量少ナケレハナリ、人類ハ固ヨリ其他多數ノ動物ニ至ルマテ、平生其取ル所ノ食物中幾干カ嵩アル固體ノ成分ヲ必要トスルコト、是レ天地自然ノ大法ト謂ツヘキナリ、胃ノ伸張ノ必要ナルハ蓋シ固體ノ食物ヲ受ケンカ爲メナリ、而シテ固體ノ食物ハ内臟螺旋狀ノ運行ヲ自在ナラシメンカ爲メニ必要ナルモノナリ、

牛乳ハ成人ノ食料トシテハ不適當ナルモノナリ、然レトモ微弱者、幼童、嬰兒ニ取リテハ完全ナル食料タラスンハアラス、其利益アルコトハ善ク世人ノ知ル所ナレハ今更贅スルノ要ナシ、牛乳ハ通常消化シ易クシテ榮養管ニ刺激ヲ與フルコトナク、醫師ハ微弱者、幼童等ニ之ヲ與ヘテ其効能多キコトヲ證明セリ、凡ソ動物食料中最モ消化シ易キモノハ牛乳ナリ、今成人ニ就テ牛乳ノ消化力ノ百分比ヲ示サンカ「ブローテン」九七、脂肪九五、炭酸水素九八ノ割合ニ當レリ、又タ我カ米國ノ立證家ノ試験シタル結果ニ據レハ年齢一歳ノ幼兒ノ消化力ハ一層少ナキモノナリ、即「ブローテン」九〇、脂肪九六、炭酸水素八六ノ割合ニ當レリ、蓋シ此等ノ數字ハ健康ナル幼兒ノ消化力ヲ示スモノト知ルヘシ、

今マ茲ニ牛乳ノ養育ヲ受ケタル嬰兒ニシテ死亡比例ノ甚ハタ高キハ、果シテ何ニ原因スルカトノ疑問起ラシカ、之ニ答ヘンハ左マテ難キコトニアラス、曰ク嬰兒ニ適シタル牛乳ナランニハ然ルヘキコトアル筈ナシ、斯ク死亡比例ノ甚ハタ高キハ寧ロ例外ト云ツヘキナリ、今マ其例外ノ因テ起ル所ノ事實ヲ列舉センカ、生後僅カニ一二週間ニシテ斃ル、コト、暑熱ノ季候ニ際シテ嬰兒ノ消化機能ニ違和ヲ生スルコト、牛乳ノ腐敗セサル様取り置クコトノ困難ナルカ如キ是レナリ、又タ嬰兒天然ノ餌食タル母乳ニ比シテ、牛乳中ノ乳皮ノ硬度一層強キモ亦タ是レ其原因ノ一タラスンハアラス、此等ノ事實ハ例外ノ生スル原因ト謂ツヘキモノナリ、

ドクトル、チャピン氏ハ嬰兒ノ餌食ト其消化局部ノ比較的解剖トノ間ニ如何ナル關係アルヤヲ研究調査シタルカ、其結果嬰兒餌食研究學上一生面ヲ啓カシメタリ、即チ同氏ハ其研究調査ノ結果トシテ左ノ如ク證言セリ、曰ク各動物ノ乳汁ハ之ヲ受ルモノ、消化機能ノ構造ニ適スヘキ性質ヲ有スルモノナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ、母乳ハ其所生ノ嬰兒ノ胃ニ適スヘキ性質ヲ有スルモノナリ、而シテ其母乳カ其子ノ胃中ニ入りテ消化スル有様ハ、恰カモ其母カ自カラ食物ヲ取リテ自家ノ胃中ニ於テ消化スルニ異ナラス、即チ母子共ニ消化機能ノ構造同一ナルモノ是レナリ、故ニ幼兒ノ其母ヨリ乳育ヲ受ルハ自分ノ成長ノ後同一ノ事ヲ繰リ返サンコトヲ教ヘラル、モノト謂ツヘシ、

牝牛、山羊及羊ハ各々四個宛ノ胃腑ヲ有セリ、而シテ此四個ノ胃腑ヲ合シテ一團トナシタランニハ、消化部全局ノ百分ノ殆ント七十ヲ占ムルニ足ルヘシ、又馬及驢馬ノ如キハ牝牛及羊ト全ク同一ノ食物ヲ取ルト雖モ、其胃腑ハ共ニ是レ一個宛アルノミ、之ヲ其消化部全局ヨリ打算スレハ僅カニ百分ノ八乃至九ニ過キサルナリ、人類モ亦タ是レ馬及驢馬ト均シク只タ一個ノ胃腑アルノミ、而シテ之ヲ消化部全局ニ對セシムレハ百分ノ二十ニ過キササルナリ、各動物ノ消化機關ノ種類ト大サニ於テ差異アルコト斯クノ如シ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ此等ノ動物ノ取ル所ノ食物ノ消化作用ニモ亦タ異動アルコト推知スヘキノミ、從ツテ又タ消化局部ニ違和ヲ生シタルカ爲メ疾病ヲ醸シ終ニ年々嬰兒ノ斃ル、コト夥シキ原因ヲモ推知スルコトヲ得ヘ

請フ吾人ハ是レヨリ牝牛、馬及人類ノ消化局部ニ關シテ尙ホ一層精密ニ研究ヲ遂ケ、以テ各動物ノ消化作用ニ關スル最重要ナル事柄ヲ簡短ニ叙述スル所アラントス、既ニ前ニモ述ヘタルカ如ク牝牛ニハ四個ノ胃腑アリ、而シテ四個共ニ互ニ相联接シ、之ヲ合シテ一團ト爲サハ消化部全局ノ百分ノ七十ヲ占ムヘキナリ、中ニ就テ第四ノ胃腑ニハ一ノ出口アリテ腸ニ通ス、尙ホ仔細ニ此局部ヲ觀察センカ、其出口ハ極メテ狭小ニシテ僅カニ流動體若クハ半流動體ノ食物ノミ通過スルヲ得ヘキナリ、吾人カ今マ牝牛ノ複雑シタル消化機能ノ作用ニ就テ綿密ニ觀察シタリトセンカ、左ノ如キ消化作用ノ經過アルヲ知ルニ足ルヘキナリ、曰ク母乳カ第一ノ胃腑ニ入り來リタランニハ、先ツ之ヲシテ堅質ナル乳皮狀タラシメ、既ニ凝結シテ乳皮狀ヲ成シタルモノハ此胃腑ヨリ彼ノ胃腑ニ送致スヘシ、而シテ斯ル間ニ乳皮狀ハ徐々ニ消エ去リテ終ニ第四ノ胃腑ニ至リ消化的液體トナリテ彼ノ出口ヨリ腸ノ方ヘ送致セラル、モノトス、

次ニ順序トシテ馬ノ事ニ就テ述ヘント欲ス、馬ノ胃腑ニ於ル彼ノ出口ハ其裝置前者ト甚ハタシク異ナレル所アリ、馬ノ胃腑ハ只タ一個ノミニシテ甚ハタ小形ナリ、消化部全局ヨリ打算スレハ其百分ノ殆ント九ニ過キサルナリ、然レトモ其内ノ出口ニ至リテハ前者ノ如ク狭小ニシテ僅カニ流動體若クハ半流動ヲ經過シ得ルカ如キモノニアラス、甚ハタ廣ク且ツ大ナリ、今マ吾人カ馬ノ食物ヲ取り居ル場合ニ際シテ、其胃腑ノ作用如何ヲ觀察シ得ルトセンカ、左ノ如キ作用アルヲ目撃スルナラン、曰ク馬カ食事ヲ爲シツ、アル間ニ其胃腑ハ決シテ其食物ヲ消化スルモノニアラス、受ケタ儘全ク消化セスシテ之ヲ彼ノ廣キ出口ヨリ腸ノ

方ヘ輸送スルモノナリ、而シテ腸ノ他端ニ大ナル囊狀ヲ爲セルモノアリ、其大サ消化部全局ニ對シテ云ヘハ百分ノ殆ント六十ニ相當セリ、乃チ食物此所ニ來リテ初メテ消化セラル、モノナリ、サレハ馬ノ食物ハ胃腑ニテ消化セラル、モノニアラス、腸ニテ消化セラル、コト明ラカナリ、今マ吾人カ幼駒ヲ養フヘギ牝馬ノ乳質如何ヲ見ルニ、其乳汁中ノ凝塊牝牛ノ其レノ如ク堅韌ナルモノニアラス、甚ハタ柔軟ニシテ液樣ヲ爲セルモノナリ、是レ幼駒ノ胃腑ノ構造ニ善ク適シ得ヘキモノナレハナリ、斯ク液樣ヲ成セル凝塊ヲ有スル乳汁カ幼駒ノ胃腑ヲ通過シテ腸ニ至リ初メテ消化セラル、モノナリ、然ルニ今マ幼駒ヲ養フニ牝馬ノ乳汁ヲ以テセス、彼ノ堅韌ナル凝塊ヲ有スル牛乳若クハ之ニ類似セル其他ノ動物ノ乳汁ヲ以テセンカ、彼ノ柔軟ニシテ液樣ヲ爲セル凝塊ノミヲ消化スヘキ幼駒ノ腸ニ入りテ將タ如何ノ影響カアル、其腸部ニ激動腺衝ヲ起スハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、是レ他ナシ彼ノ堅韌ナル凝塊ハ幼駒ノ腸ニ適スヘキモノニアラス、幼駒ノ腸ニテハ消化シ得ヘカラサルナリ、之ヲ換言スレハ天然ニ牝牛ノ爲メニ備ヘラレタル乳汁ヲ幼駒ニ與ヘタランニハ害毒トナルヘシト云ハンノミ、

又手吾人ハ是レヨリ人類ノ嬰兒ノ事ニ論及セント欲ス、人類ノ嬰兒モ亦タ是レ一小動物タルニ過キス、此一小動物ノ胃腑モ矢張り只タ一個ノミニシテ其大サハ消化部全局ヨリ打算スレハ百分ノ二十ニ過キス、之ヲ犢牛ノ有スル四個ノ胃腑ニ比スレハ三分ノ一弱ニ過キサルナリ、而シテ其胃腑ヨリ腸ニ通スル出口ハ犢牛ト均シク甚ハタ狭小ナルモノト知ルヘシ、今マ吾人カ母ノ胸乳ノ嬰兒ノ胃腑ニ移リ行ク有様ヲ觀察シタランニハ左ノ如キ事實ヲ知ルヲ得ヘキナリ、曰ク母乳ノ嬰兒ノ胃腑ニ入り込ムヤ凝結シテ牛乳ノ如ク堅韌

ナル乳皮ヲ成形スルモノニアラス、牝馬ノ乳汁ノ如ク膠質様トナルモノニアラス、無數ノ小分子ニ分解スヘキ一軟塊トナルニ過キサノミ、尙ホ之ヲ細言スレハ其質堅キ固體ニアラス、又タ柔カナル膠質ニモアラス、無數ノ分子ノ結合セルモノ是レナリ、而シテ此有様ニテ胃ヨリ腸ニ入り腸ニテ消化作用ヲ仕遂ケラル、ナリ、嬰兒ノ胃腸ニテ母乳ノ消化セラル、有様斯クノ如シ、然ルニ嬰兒ヲ養フニ母乳ヲ以テセス、極メテ堅靱ナル乳皮ヲ有スル牛乳ヲ以テシタランニハ、果シテ如何ノ結果カアルヘキ、嬰兒ノ胃腸ハ斯ル乳皮ヲ粉碎シテ腸ニ輸送センカ爲メニ過度ノ力ヲ費ヤサ、ルヘカラス、而シテ其結果トシテ嘔吐若クハ下痢症ニ罹ラサルヲ得ス、胃中ニ於テ既ニ斯ル違和ヲ生シ、復タ腸内ニ入りテモ尙ホ且ツ同様ノ違和ヲ生セスンハアラス、其違和ハ生命ヲ危フスルマテニ至ラサルモ、輕症ト云フヘキモノニアラサルナリ、

第四節

前段ニ於テ論述シタル事ニ依リテ之ヲ考フレハ、從來嬰兒ノ乳育問題ニ關シテ左マテ注意ヲ拂ハサリシモノト雖モ、左ノ如キ事柄ハ自カラ明ラカナルヘシト信ス、曰ク嬰兒ヲ養育スルニ母乳ニ依ラス、母乳ニ代ルヘキ餌食ヲ求メントスルノ際、注意スヘキコト少ナカラス、其餌食中ニ含メル「プロテイン」、脂肪及炭酸水素等ノ百分比例ノ如キハ、重要ナルモノニ相違ナキモ、尙ホ其他ニ注意ヲ拂ハサルヘカラサルコトアル是レナリ、請フ是レヨリ述ル所アラントス、今マ茲ニ一ノ乳汁アリ、其化學上ノ成分ハ全ク人乳ト同一ナリト雖モ、嬰兒ノ胃中ニ入りテ人乳ト同一ナル消化作用ヲ爲スモノニアラスンハ、人乳ニ代ルヘキ完全ナル餌食ト云フヲ得ス、即チ或ル動物ノ乳汁ハ化學的分析ノ結果ハ差シ支ヘナシトスルモ、其動物所生ノ

子以外ノモノ、餌食ニ適スヘシト斷言スヘキモノニアラサルナリ、此ニ於テカ消化機關ノ比較的解剖及其官能ニ關スル精密ナル研究ハ、其乳汁ノ化學的分析ト共ニ併行セサルヘカラス、

其他乳汁ニ就テ化學的分析ヲ爲サンニハ、其乳汁中ニ含メル成分ノ割合如何ヲ見定ムルノミヲ以テ足レリトスヘキモノニアラス、尙ホ一步ヲ進メテ研究スル所ナクンハアルヘカラス、即チ生理的化學ノ端緒ヲ研究スルコト是レナリ、但シ生理的化學ノ意義廣キモノニアラス、嬰兒ノ人爲的養育法ノ問題ノ範圍内ニ限レルモノト知ルヘシ、蓋シ此事ニ關シテ注意ヲ密ニシテ研究スヘキ重要事件少ナカラス、例之ヘハ總テ乳汁中ノ脂肪分ニハ「レシチン」ト唱フル物質ヲ含メリ、燐性ニシテ卵子ノ蛋黃ノ如キモノ是レナリ、人乳中ニ含メル「レシチン」量ハ牝牛及山羊ノ如キ動物ノ其レニ比シテ一層多キモノナリ、是レ天地自然ノ理法ニ基ツケルモノナリ、

而シテ次ニ起ル所ノ疑問ハ左ノ如シ、曰ク「レシチン」ハ何カ爲メニ人乳中ニ存在スルヤ、如何ナル用ヲ爲スモノナルカト、今マ學理ニ從ツテ之ヲ考フルニ腦及神經ノ大部分ヲ構成スルモノハ此「レシチン」ナリト謂ツヘキナリ、其他尙ホ一ノ疑問起レリ、曰ク牝牛、山羊、羊及馬ノ乳汁中ニハ人乳ニ比シテ「レシチン」ヲ含メルノ量何カ故ニ少ナキヤト、此疑問ニ對シテハ左ノ如ク答フレハ足ランノミ、曰ク「此等ノ諸動物ヨリ新タニ生レタル子ノ有様如何ヲ對照比較セハ其疑團ハ自カラ氷解スヘキナリ、試ミニ見ヨ犢、子羊、子山羊、若クハ駒ノ如キハ生後僅カニ三十分内ニ自カラ得テ立ツヘク、一日乃至二日ニシテ己ヲ生ミ與レシ母ト同様ニ其周邊ヲ駈ケ廻ルコトヲ得ヘク、尙ホ其他耳目鼻口ニ各々其用ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ、之ヲ

換言スレハ其神経系統生レナカラニシテ充分善ク發達シ居ルモノ是レナリ、然レトモ人類ノ嬰兒ニ至リテハ決シテ然ラス、其神経系統容易ニ發達シ得ヘキモノニアラス、之ヲ造營センカ爲メニハ多量ノ材料ナクンハアルヘカラス、而シテ其材料ハ母乳中ニ豊富ナルモノナリ、所謂ル「レシチン」ノ多キコト是レナリ、然レトモ是レ人乳ニ限レルモノニシテ他ノ動物ノ乳汁中ニハ會テ見サル所ナリ、「其答案ハドクトル、チャピン氏ノ定説ニ基ケルモノト知ルヘシ、

尙ホ其他乳汁中ニハ實ニ驚異スヘキ原素ヲ含ミ居ルモノナリ、此原素ハ普通一般ノ分析法ニテハ決シテ啓發シ得ヘカラサルモノナリ、乳汁一滴ニ關スル物語ハ學術上一大小説ノ好材料タラスンハアラス、今マ此編ニ於テハ此事ニ關シテ詳論スルコト能ハス、後段ニ至リテ具サニ論述スル所アルヘシ、今マ僅カニ其一端ニ就テ述ル所アラントス、夫レ母乳ハ概シテ傳染病毒ヲ其嬰兒ニ傳播スヘキモノニアラス、是レ世人ノ善ク知ル所ナリ、其母好シ乳泌期中ニ傳染病ニ罹ルコトアルモ、其乳育スル嬰兒ニハ感染スヘキモノニアラス、又タ極メテ傳染シ易キ窒扶斯熱、實布埤里亞、麻疹、猩紅熱其他ノ疾患ニ罹リ居ルモ、之カ乳育ヲ受ケ居ル嬰兒ハ此等ノ疾患ノ輕症ナルモノニスラ罹ラスシテ止ムモノアルハ珍ラシカラサルナリ、彼ノ傳染病離隔病院ニ於テ乳兒ト其母トヲ引キ離サシメサルコトアルハ珍ラシカラス、好シ其母カ實布埤里亞ノ如キ疾患ニ罹リ居ル場合ト雖モ其乳兒ノ健全無病ニ生ヒ立テルハ是レ亦タ珍ラシカラス、佛國ノ有名ナル立證家ローガー博士ハ其傳染病離隔病院ニ乳兒ト其母トヲ共ニ收容シタルコト四十九名ノ多キニ達シ之カ表ヲ世ニ公ニシタリ、其表ニ曰ク内十五名ハ麻疹ニ、十九名ハ猩紅熱ニ、八名ハ扁桃腺炎ニ、一名ハ實布

埤里亞ニ、五名ハ丹毒ニ、一名ハ耳線炎ニ罹レルモノナリ、而シテ此等ノ病婦ハ皆ナ是レ幼兒ヲ抱キテ之ヲ乳育スルニモ拘ラス、其母ノ病ニ感染シタル幼兒ハ殆ント之レナカリシナリ、其内最モ脆弱ナル幼兒ニシテ丹毒ニ感染シタルモノ僅カニ一名アリシノミ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ母乳ノ養育ヲ受ル所ノ嬰兒ハ傳染病ヨリ免疫セラル、コトヲ知ルニ足ルヘク、而シテ斯ク免疫セラル、ハ母乳カ嬰兒ノ體中ニ入りテ消毒劑トナリテ其體軀ヲ保護スルノ成分アルニ歸セスンハアラス、是レ乳汁中ニ驚異スヘキ原素ヲ含メルモノニアラスヤ、

茲ニ一ノ動物アリ、有毒ナル細菌ニ侵サレタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ其血液中ニ中和的作用ヲ有スル物質自カラ成形セラレ、幾干カノ力ヲ以テ其害毒ニ抵抗スルモノナリ、健全ナル動物ニ在リテハ其血液中ニ斯ル抵抗力ヲ生スルコト益々強キモノト知ルヘシ、而シテ今マ母乳中ニ斯ル抵抗力ヲ有スル物質アリテ、之ヲ嬰兒ノ消化部局ニ送致シ以テ普ネク體中ニ布散セシムルコト、全ク事實ニ相違之レナシトセンカ、果シテ然ランニハ人爲の餌食ニ比シテ母乳ノ優レルコト遠キヲ知ルニ足ルヘキナリ、今マ牛乳中ニ斯ル抵抗力ヲ有スル物質之レアリトスルモ、只タ其所生ノ犢ヲ保護スルニ足ランノミ、其寄生物タル人類ノ幼兒ニ對シテハ何等ノ利益ヲモ與フヘキモノニアラサルナリ、單ニ利益ヲ與ヘサルノミナラス、却ツテ害毒ヲ來スコト珍ラシカラサルナリ、即チ飲用スル所ノ牛乳カ媒介トナリテ慘毒ナル傳染病ヲ幼兒ニ移スコト珍ラシカラサルナリ、殊ニ全ク牛乳ノミニテ養育セラル、幼兒ハ此憂ヒ最モ甚タシキモノナリ、右ニ論述シタル重モナル事柄ヲ綜合シテ之ヲ約言スレハ左ノ如クナランノミ、曰ク母乳以外ノ乳汁ニシテ

母乳ト全ク異ナラサル性質ヲ有シ、此點彼ノ點ニ於テ皆ナ善ク幼兒ニ適スルモノヲ得ンハ殆ント不可能ノ事ナルヘシ、然レトモ今日ニ至リテハ幼兒ヲ養育センカ爲メニ母乳ニ代ルヘキ其他ノ乳汁ナクンハアルヘカラス、夫レ人ノ餌食ハ人爲ヲ以テ製セラレ得ヘキモノナリ、其全部若クハ大半植物野菜ヨリ成リテ、「ブローチン」及其他ノ成分モ夫々適當ノ割合ニテ造ラレ得ヘキモノナリ、然レトモ幼兒ノ餌食ト爲スニ足ルヘキ素質ヲ有スル牛乳ニ代ルヘキモノハ曾テアラサルナリ、牛乳ハ山羊ノ乳汁ニ比シテ或ル一二ノ點ニ於テ劣ル所アリト雖モ、米國ニ於テハ普ネク一般ニ飲用セラル、ナリ、然レトモ牛乳ト云ヒ山羊ノ乳汁ト云ヒ何レヲ飲用スルトシテモ、其搾取シタル儘ニテ之ヲ用フキモノニアラス、出來得ヘキ丈ケ人乳ニ近似セシメンカ爲メニ變造セサルヘカラス、即チ其滋養分、消化作用、醱酵ノ模様及同化作用等總テ人乳ニ近似セシメンコト是レナリ、蓋シ斯ル餌食ヲ製造センハ當今ノ生理的化學士及醫師タルモノ、自カラ任シテ爲スヘキコトナリ、吾人カ今マ斯ル餌食ノ製造ニ就テ目的トスル所ハ、天地自然ノ理法ニ從ツテ製造センコトヲ是レナリ、即チ其餌食カ益々人乳ニ近似スレハスル程其結果ハ益々良好ナリト知ルヘシ、

第五節

教科書様ノモノヲ以テ幼兒養育法ヲ人ノ母タル乳母タルモノニ教ヘントスルハ、更ニ予カ目的トスル所ニアラサルナリ、予ハ單ニ社會上及政事上ノ見地ヨリ幼兒養育問題ヲ論述セント欲スルニ過キス、吾人カ今マ進ンテ化學、生理學、病理學及細菌學ニ關シテ論述スル所アラントスルカ、早々之ヲ見レハ本問題ニ關シテ不必要ナルモノ、如シ、然レトモ仔細ニ之カ觀察ヲ下セハ本問題ヲ解決センニハ勢ヒ此等ノ諸學科ニ

論及セサルヲ得ス、今マ本問題解決ニ關スル事柄ヲ擧クレハ概ネ左ノ如シ、曰ク公衆一般ニ供給スヘキ牛乳ノ安全ニシテ且ツ適當ナルモノヲ得ルノ方法如何、殊ニ無數ノ嬰兒ヲ養育スヘキ牛乳ヲ製出シ之ヲ分配スルノ方法如何、嬰兒養育法其當ヲ得スシテ其生命ノ潮流ヲシテ空シク死海ヘ流失セシムルモノ其幾干ナルヤヲ知ラス、此生命ノ流失ヲ防遏スルノ方法如何等是レナリ、嬰兒ヲ養育スルニ當リテ母乳ニ代ルヘキ適當ノ餌食ヲ選擇スルノ必要アルコトハ既ニ前段ニ於テ述ヘ置キタル所ナルカ、今マ茲ニ嬰兒ニ相當スル或ル動物ノ乳汁アリトスルモ、之ヲ其動物ヨリ搾取シタル儘ニテ直チニ嬰兒ニ與フヘキモノニアラス、幾分カ其原質ヲ變更スルノ必要ナクンハアラス、此乳汁變造ノコトハ決シテ今日ニ始マリタルモノニアラス、遠キ往古ヨリ行ハレタルモノナリ、近代ニ至リテ嬰兒ノ餌食研究ヲ專ラトスル一種ノ醫學校ナルモノ設立セラレテ夫々研究調査ヲ遂クルコトナルカ、斯ル學校ノ設立サレシヨリ遠キ以前ニアリテ、人ノ母タルモノハ此變造ノ必要ナルコトヲ知り居タリシナリ、即チ其所生ノ嬰兒ニ牛乳ヲ與フルノ場合、其搾取シタル儘ナル純粹ノモノハ其子ニ適セサルヲ知りテ之ニ水ヲ混和シテ稀薄ナラシムルカ如キコト是レナリ、是レ單純無造作ノ變造法ニシテ其當否ハ暫ラク擱キ、兎ニ角古來變造法ノ行ハレタルヲ證スルニ足ルヘキナリ、今日ニ於テハ學理上ヨリ嬰兒餌食ノ適否ヲ研究シテ以テ其宜シキヲ得ント欲スルハ世間珍ラシカラサルナリ、然レトモ尙ホ且ツ人ノ母タルモノハ、其所生兒ノ年齢及發達ノ度合如何ヲ見テ以テ、之ニ與フル牛乳ヲ變造スルノ必要アルコトヲ知り居タリシナリ、然ルニフジ、ウ、ハリオット及ジウホールノ如キ佛蘭西國ノ醫師中ニハ此變造法ニ就テ反對論ヲ唱フルモノアリテ、此反對論廣ク行ハレ居レリ、其反對論ニ曰ク、

牛乳ヲシテ人乳ニ近ツカシメンカ爲メニ之ヲ變造スルノ必要アラサルナリ、搾取シタル儘直チニ之ヲ飲用シテ可ナリ、之ヲ變造スレハ却ツテ滋養分ヲ減殺スルノ恐レアルモノナリト、然ルニ英米兩國ノ醫師ハ學理上ノ研究ニ依リテ牛乳ヲシテ人乳ニ近カシメンコトニ力ヲ盡シ居レリ、即チ自然ノ人乳ト人爲ノ牛乳トノ差異ヲ減少セシメテ以テ、人爲的餌食ノ爲メ嬰兒ノ死亡スル數ヲ出來得ヘキ丈ケ少カラシメンカ爲メニ苦心シ居レリ、

ロツチ、チャビンノ兩氏及其部下ノ人々ノ如キ立證家ハ皆ナ是レ牛乳變造說ヲ主張セサルハナク、從ツテ牛乳變造ノ事ハ益々善ク發達シ、今日ニ至リテハ其發達最高度ニ達シタルモノト謂ツヘキナリ、斯クテ此牛乳問題ニ關スル米國醫師中牛耳ヲ取レルモノ、說ハ、佛國ヲ除クノ外廣ク世ニ行ハル、ニ至リタリ、我カ米國人ハ牛乳問題ニ關シテ學理ヲ實地ニ應用スルニ至リタルハ他國ニ比シテ後レタリト雖モ、今日ニ至リテ牛乳問題ニ關スル學理ノ充分發達シ居ルコト、恐ラクハ米國ノ右ニ出ル國ハナカルヘシ、蓋シ社會學ノ著シク進歩シタルコト米國ノ如キハ其他ニアラサルヘシ、然レトモ之ヲ應用スルコト能ハサルハ實ニ遺憾ナリト云ハサルヘカラス、

人類ノ嬰兒ヲ養育スルニ母乳程適當ナルモノハアラサルナリ、之ニ優ルモノハ其他ニ求メ得ヘカラサルナリ、故ニ母乳ニ代フルニ牛乳ヲ以テセンカ、牛乳ノ成分ヲシテ母乳ニ近似セシメンカ爲メニ、之ヲ變造スルノ必要ナクンハアラス、蓋シ往古ノ人ハ極メテ單純無造作ナル方法ヲ用ヒタリ、古人ハ以爲ラク搾取シタル儘ノ牛乳ニシテ毫モ稀薄ナラサラシメンカ、斯ル牛乳ハ嬰兒ノ善ク消化シ得ヘキモノニアラスト、此

ニ於テカ之ニ水ヲ混和シテ稀薄ナラシメ以テ嬰兒ニ與フルヲ常トス、是レ極メテ單純無造作ナル變造法ニアラスヤ、而シテ斯ル變造法ニ依レル當時ノ人ハ、左ノ如キ事實アルヲ知ラサリシナリ、曰ク牛乳ハ元ト是レ犢ヲ養フカ爲メニ天然ニ備ヘラレタル餌食ニシテ、其乳汁中ニハ「プロテイン」ノ成分過度ニ存在シテ不消化ヲ來スモノナリ、單ニ水ヲ混和シテ稀薄ナラシムルハ危險之ニ伴フモノナリ、過度ニ稀薄ナラシムレハ實際必要ナル「プロテイン」ノ量ヲ減少セシムルノ恐レアルモノナリ、加之熱ヲ生シ元氣ヲ生スヘキ原素タル糖分及脂肪分ヲ減少シ、以テ其幼兒ノ健康ヲ害シ適當ノ發育ヲ妨ケラル、虞レアルモノナリ、既ニ斯ル牛乳ヲ以テ養ハレタル嬰兒ハ衰弱シテ終ニ起ツナキニ至ラン、此ニ於テカ牛乳ハ嬰兒ノ餌食トシテ不適當ナリトテ一般ニ擯斥セラル、ニ至ラン、是レ牛乳ノ變造法其當ヲ得サルニ歸センノミ、故ニ牛乳ニ就テ適當ナル變造法ノ必要ナルコト知ルヘキノミ、

既ニ牛乳ノカ造法ハ好シ適當ナリトスルモ、之ヲ用フル方ノ側ニ於テ用意周到ナルニアラスンハ其結果好カラスト云ハサルヘカラス、今マ茲ニ嬰兒ヲ養フヘキモノアリテ其餌食トシテ變造シタル牛乳ヲ擇ハントスルニ際シテ往々不注意ノモノアリ、即チ其牛乳ノ性質ハ之ヲ稀薄ナラシメタルモノニアラサルカ、其牛乳ハ其嬰兒ノ年齢及其身體ノ發育ノ度合ニ善ク適スルヤ否ナヤニ就テ注意ヲ拂ハサルコト是レナリ、既ニ斯ル有様ナランニハ好シ其牛乳ハ適當ニ變造セラレタルモ之ヲ飲用セシメテ以テ其幼兒ノ發達ヲ見ルコト能ハサルナリ、縱令ヘ米國ニ於テ私立慈善團體ノ所有ニ屬スル嬰兒牛乳製造所ヨリ廉價ニテ得タル良乳ニテモ、或ハ英國ノ市立ニ係ル牛乳製造所ヨリ得タルモノニテモ、斯クテハ好結果ヲ奏スヘキモノニアラサ

ルナリ、婦人ニシテ斯ル不注意アルハ強イテ咎ムヘキニアラス、醫師ニシテ尙ホ且ツ斯ル不注意ノモノアルハ沙汰ノ限リナリ、曾テ或ル醫師ノ許ヨリウォルカー、ゴルドント云ヘル牛乳製造所ヘ左ノ如キ注文書ヲ差シ越シタルコトアリ、曰ク今日以後日々變造牛乳四「オンス」ツ、某住所ヘ御送附被下度候ト、此注文書ニ依リテ見レハ單ニ變造牛乳ト云ヘルノミニシテ、其牛乳ノ成分如何ニ就テハ更ニ明記スルコトナク、又タ之ヲ飲用スル幼兒ノ年齢等ヲモ記入セサリシナリ、想フニ此醫師ハ單ニ變造牛乳トサヘ云ヘハ適當ノモノカ得ラルヘク、從ツテ之ヲ飲用スル嬰兒ハ好結果ヲ得ルニ相違ナカルヘシト信シタルモノナラン、何ソ其レ思ハサルノ甚ハタシキヤ、醫師スラ尙ホ且ツ然リ況ンヤ其他ヲヤ、

醫師ニシテ既ニ右ノ如クナルカ故ニ人ノ母タルモノカ此等ノ事ニ就テ不注意ナルハ毫モ怪シムニ足ラサルナリ、今マ一例ヲ擧ケテ之ヲ言ハンカ、一ノ變造牛乳ニシテ生後六週間ノ嬰兒ニ適スヘキモノハ、生後六ケ月ヲ經過シタル嬰兒ニ適スルモノニアラス、牛乳ノ成分ヲ變更スルニアラスンハ其用ヲ爲スヘキモノニアラス、單ニ牛乳ノ分量ヲ増シタルノミニテハ、其効能アルモノニアラス、然ルニ人ノ母タルモノニシテ此等ノ真相ヲ知レルモノハ極メテ少ナキモノナリ、此外慈善家及慈善團體ノ設立ニ係ル牛乳製造所ヨリ變造牛乳ヲ配達スルノ方法甚ハタ遲緩ナルモノアリ、今マ牛乳ノ効用ヲ完全ナラシメント欲セハ此等ノ弊害ヲ剪除セサルヘカラス、

第四章

牛乳ハ汚穢ニシテ幼兒ノ餌食トナスニ足ラサル事、

第一節

吾人ハ前段ニ於テ長ク牛乳ノ不利ナルコトノミヲ述ヘタリ、即チ牛乳ヲ人乳ト比較スレハ其性質甚ハタ異ナル所アルヲ以テ、人乳ニ代ヘテ牛乳ヲ用ヒタランニハ、不利ナルコト之ニ伴ハサルヘカラサルコトノミヲ論述シタリシナリ、今マ茲ニ一種ノ牛乳アリ、最モ老練ナル醫師ノ手ヲ借リテ變造シタル最良ノモノナリト雖モ、尙ホ且ツ母乳ニ代ルヘキ完全ナルモノト云フヲ得ス、今マ之ヲ換言スレハ左ノ如クナルニ過キス、曰ク幼兒ヲ養育センニ母乳ニ依ラスシテ他ノ餌食ヲ以テセンカ其餌食中ニハ何等カ危險ノ原素ナクンハアラス、而シテ其餌食全ク人爲ニテ製造セラレタルモノナランニハ其危險ノ度合益々甚ハタシク、牝牛若クハ小羊ノ乳汁ニシテ適當ニ之ヲ變造シタルモノナランニハ、其危險最モ少ナカルヘキナリ、然レトモ其内ノ最良ナル餌食ト雖モ尙ホ且ツ何等カノ危險ナクンハアラス、

吾人カ是レヨリ論述セント欲スル事柄ハ嬰兒ノ餌食中ニ含メル危險ナル原素ニ關スルコト是レナリ、前段ニ於テ述ヘタル危險ハ人乳ト牛乳トノ差異アルニ基因シタルモノナリシカ、今マ述ヘント欲スル危險ハ之レト全ク異ナレルモ決シテ忽諸ニ付スヘカラサルモノナリ、蓋シ此危險タルヤ重モニ吾人ノ無智ナルヨリ來ルモノニシテ、此等ノ餌食ヲ製出シ之ヲ配達スルニ際シテ空シク看過スルモノナリ、嬰兒ヲ養育スルニ母乳ニ代ルヘキ他ノ餌食ヲ以テスル場合ニハ、此危險ハ到底得テ避クヘカラサルモノナリ、蓋シ此危險ハ他ノ危險ニ比シテ一層重大ニシテ且ツ其數一層多クレハナリ、此危險斯クノ如ク強大ニ且ツ其數夥多ナルニモ拘ラス、避ケ得ヘキ望ミヲ抱ケルモノ少ナカラス、然レトモ人ノ親タルモノ單獨ニテ他ノ幫助ナクシ

テ能クシ得ヘキニアラス、醫師之ヲ能クセス、農夫及牛乳取扱人ノ能クスル所ニアラス、我カ市邑ノ管理團體、州郡ノ統治團體若クハ國家自カラモ尙ホ能ク此危險ヲ遠サクルコト能ハサルナリ、只タ此等ノ諸人諸團體カ悉ク皆ナ一致結合シテ最モ熱心ニ最モ智力ヲ盡シテ後初メテ之ヲ遠サクルコトヲ得ヘキノミ、果シテ之ヲ遠サケ得たらンニハ痛苦ヲ去ツテ健康ヲ保タシムルヲ得ヘク、死ヲ避ケテ生ニ就カシムルノ一方法タルヘク、而シテ古往今來人類ノ歴史中ノ一大事業ト云ハサルヘカラス

吾人ハ今マ此大事業ヲ成シ遂ケンカ爲メニ如何ナル活動ヲ爲スヘキカヲ決スルニ先ンシテ、第一ニ述ヘ置クヘキ必要ナル事柄アリ、其退治スヘキ危險ノ性質如何ヲ知ラシムルコト是レナリ、又タ其他危險ヲ退治スルノ方法手段ヲモ併セテ知ラシメ置カサルヘカラス、而シテ其危險ノ性質ヲ述ヘ且ツ其危險中ノ二三ヲ詳論スルニ就テ、不偏不黨極メテ公平ニ叙述セント欲ス、之ヲ要スルニ今マ予ノ意見ハ左ノ如クナルニ過キス、曰ク米國ノ公衆一般ノ前ニ冷靜沈着ノ態度ヲ以テ此危險ノ性質ヲ指示シ、尋イテ之ヲ退治スル方法手段ニ論及シ、而シテ出來得ヘクンハ潜伏セル勢力ヲ呼ヒ起シテ以テ之カ退治驅除ニ就テ合同一致セシメント欲スルカ如キ是レナリ、而シテ此危險ニ關スル事實ノ中ニハ人ヲシテ畏怖セシムル事柄アルヘク又、タ之ヲ詳細ニ説明スル中ニハ人ノ心ヲシテ疾マシムルコトアルヘシ、然レトモ其真相ヲ記述センハ極メテ困難ナリ、寫眞ヲ以スルニアラスンハ讀者ニ其真相ヲ知ラシムルコト甚ハタ困難ナルヘシ、然レトモ今予ハ出來得ル限り詳細ニ此危險ノ事ニ關シテ叙述セント欲ス、

吾人ノ所謂ル危險トハ何ソヤ、此國ニ於テ嬰兒ヲ養育スル牛乳壘中ニ含メル汚穢物及病芽是レナリ、牛乳

壘中ノ大多數ハ斯ル危險物ヲ含有セサルナシ、

汚穢物ト病芽トハ吾人カ飲用スル牛乳中ノ二大危險物タリ、汚穢物ノ牛乳中ニ混入スルハ一ハ之ヲ分泌スル牝牛ノ身體ヨリシ、一ハ牛乳取扱人ヨリ來リ、又タ病芽ハ此二者ヨリ發シテ吾人ノ嬰兒ヲ養育スル牛乳中ニ混入シテ其嬰兒ヲ不幸ニ陷井ラシムルモノナリ、牛乳ノ養育ヲ受ケタル嬰兒カ其胃腸内ニ違和ヲ生シ、爲メニ其死亡數ノ甚タシク増加スルハ、勿論其他ニ原因アルヘシト雖モ、彼ノ汚穢物ト病芽トニ基因スルコト許多ナリト云ハサルヘカラス、今ヲ距ル一百餘年前英國ニ於テ醫師ヲ業トシ小説ヲモ書ケルスモウレットト云ヘル人アリ、當時ニ於ル倫敦ノ牛乳ノ事ニ關シテ一書ヲ著ハシタリシカ、其書中ニ左記ノ如キ一節アリ、以テ其當時牛乳ノ有様如何ナリシヤヲ得テ想像スルニ足ルヘシ、

『坊間賣ル所ノ牛乳ハ實ニ不潔極マルモノニシテ殆ント口ニスヘカラサルモノ多シ、彼ノ「マツス」(食物ノ名)ノ如キハ青白ニシテ不潔ナルコト云フヘカラス、之ニ加フル牛乳ハ最モ惡質ニシテ之ヲ濃厚ナラシムルニ同シク最モ惡質ノ粉ヲ混入シ以テ惡シキ「クリーム」ノ如クナラシメタリ、而シテ牛乳ハ尙ホ此儘ニシテ止ムヘキモノニアラス、色褪メ且ツ凋萎シタル「キャツペー」ノ葉ヨリ製シタルモノヲ牛乳中ニ投シ、其上ヨリ熱湯ヲ灑キカケテ之ヲ掻キ廻ハシ、茲ニ初メテ一種ノ食物カ出來上ルナリ、斯ク出來上リタル食物ヲ桶ニ入レテ街路ヲ賣リ行クナリ、其桶ニハ元ヨリ蓋ナキモノナレハ、之ヲ携ヘ行ク中ニ如何ナル汚穢物ノ入り込ムヤモ知ルヘカラス、例之ヘハ人ノ戸口或ハ窓ヨリ打チ棄テル雜巾水モ散リ込ムヘク、通行人ノ唾液、鼻汁及煙草ノ吹殻杯モ飛ヒ込ムヘク、車馬ノ塵埃、子供等ノ惡戯ニ投ケ込ム汚

物、或ハ嬰兒ノ垂涎モ交リテ其量ヲ増スコトアルヘシ、嬰兒ノ餌食タル牛乳其名美ナリト雖モ眞實斯クノ如シ、嗚呼亦タ歎息スヘキコトナラスヤ、』

牛乳中ニ汚穢物ノ混入スル危險アルコトハ今日ニ始マリタルニアラス、往古ヨリ其事實ノアリタルコトハ右ニ掲ケタル記事ニ徴シテ亦タ疑フヘカラサルナリ、凡ソ時ノ古今ヲ問ハス國ノ東西ヲ論セス、牛乳ニ關スル記事ニシテ右ニ掲ケタルスモウレット氏ノ筆程痛切ニ叙述シタルモノハアラサルナリ、同氏ノ叙述シタル所ハ之ヲ其當時ノ實況ニ照シテ全ク公平ニシテ正當ナルヤ否ナ、或ハ針小棒大名其實ニ過クルモノニアラサルナキヤヲ、穿鑿推究スルノ必要アラサルナリ、只タ左ノ如ク思惟スレハ足ランノミ、曰クスモウレット氏ヲシテ斯クマテ痛切ニ其筆ヲ下サシメタルハ決シテ謂レナキニアラサルヘシ、即チ其當時ニアリテ不良牛乳ノ販賣セラレタルコト推シテ知ルヘキノミ、

第二節

スモウレット氏カ痛快ノ筆ヲ以テ論述シタル牛乳ノ不潔ナルコトハ、畢竟スルニ人爲ニ基ケルモノニ過キス、乳汁ヲ分泌スル牝牛ノ罪ニアラサルナリ、此理ハ注意シテ右ニ掲ケタルスモウレット氏ノ記事ヲ讀ミサレタル諸君ニ取リテ極メテ明瞭ナルヘシ、且ツ是レ牛乳問題ニ關シテ最重要ナルコト、言ハサルヘカラス、今マ茲ニ純良ナラサル牛乳アリトセンカ、其責ハ毎二人ニ歸セサルヘカラス、之ヲ分泌スル温順ナル動物ハ決シテ其責ヲ負フヘキモノニアラサルナリ、試ミニ想ヒ見ヨ、茲ニ一ノ牝牛アリ、何タル疾病ニモ罹リ居ラサル以上ハ、其乳汁ハ元ヨリ純良ナラスンハアラス、蓋シ本來其乳房ノ中ニ含メル乳汁ハ純粹

ニシテ美味アリ、不潔危險ナル物質其中ニアルヘキ筈ナケレハナリ、一千八百七十三年ノ古ニ溯ルモ尙ホ且ツ一ノ統計家ハ左ノ如キ事實アルコトヲ證明シタリ、曰ク健康ナル牝牛ノ乳泌腺ヨリ流出スルモノハ決シテ細菌ヲ有スルモノニアラス、好シ其分泌スル量ハ豊カナラストスルモ、善ク清潔ニ保チタランニハ決シテ酸味ヲ生スヘキモノニアラス、又タ醗酵性ヲ有スヘキモノニアラスト、

或ル人説ヲ爲シテ曰ク概シテ牛乳中ニハ細菌ヲ含マサルハナク、全ク細菌ヲ有セサル牛乳ハ極メテ稀レナリ、是レ實驗ニ照シテ疑フヘカラサルナリト、此説勿々看過スレハ一理アルカ如シト雖モ、仔細ニ之カ觀察ヲ下シタランニハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ、成程牛乳中ニ細菌ノ存在スルコトハ止ヲ得サル場合ナクンハアラス、試ミニ見ヨ牝牛ノ乳房、其毛、牛乳桶ノ割目及縁邊、其他空氣中杯皆ナ是レ細菌ノ潜伏所タラスンハアラス、故ニ牛乳ヲシテ自然ノ儘ニ純良ナラシメ、全ク細菌ノ痕跡ナカラシメンニハ、到底尋常一様ノ手段方法ノ能クシ得ヘキ所ニアラス、神秘ニシテ殆ント不可思議トモ謂ツヘキ方法ニ依リテ初メテ能クシ得ヘキノミ、然レトモ左ノ如キコトハ通常不可能ノ事ニアラサルナリ、曰ク少量ノ牛乳ヲ得ンコト欲スル場合ニ當リテ特別ノ方法ヲ用ヒタランニハ、普通ノ顯微鏡的觀察法ニテハ細菌ヲ見出スコト能ハサル牛乳ヲ得ヘキコト是レナリ、ドクトル、パーク氏ハ一ノ模範製乳所ニ於テ試験ノ結果此種ノ牛乳ヲ得タリ、中ニ就テ其結果ノ良好ナルモノハ每一立方「センチメートル」ニ就テ僅カニ百個ニ足ラサル細菌ヲ見タルノミ、又タドクトル、セルツァー氏ハ紐育州ニ於テ十二回ノ試験中、二三回ハ細菌ノ極メテ少ナキ牛乳ヲ得タリシナリ、其他一千九百六年ノ開催ニ係ル内國牛乳展覽會ニ於テ一ノ良乳アルヲ見出

シタリ、即チ普通ノ顯微鏡的觀察法ヲ以テスルモ、一ノ細菌タモ見出シ得サル牛乳ヲ得タルコト是レナリ、今マ茲ニ細菌ヲ含マサル牛乳アリ、之ヲ蓄フルノ方法宜シキヲ得タランニハ、随分久シク之ヲ保ツコトヲ得ヘキナリ、之ヲ蓄フルノ方法宜シキニ適フトハ第一其容器清潔ニシテ細菌ノ存在ヲ許サス、而シテ之ヲ蓄ヘ置クノ箇所最モ低温度ナランコトヲ要ス、例之ヘハ華氏四十度ノ如キ是レナリト、斯ルコトハ畢竟スルニ一ノ想像說ニ外ナラサルヘシ、事ノ實際ハ常ニ想像ノ如ク行ハルヘキモノニアラス、然レトモ一千九百年ノ開催ニ係ル巴里博覽會ニ於テハ我カ米國カ大ナル名譽ヲ得タリシナリ、即チ同博覽會食料品ノ出品中最モ人ノ耳目ヲ惹キシモノハ、米國製其所ノ出品物殊ニ牛乳及「クリーム」ナリシナリ、此等ノ二者ヲ見テハ歐洲各國ノ人々皆ナ驚歎セサルハナシ、蓋シ此牛乳ト「クリーム」ハ米國ナル紐育、ニウザーサー若クハイリノイスヨリ萬里ノ波濤ヲ踰ヘテ佛蘭西國ヘ運輸セラレタルニ拘ラス久シク貯藏セラレタル痕跡毫モ之レナク、恰カモ新タニ今マ搾リ取リタルモノニ異ナラス、今マ製出シタルモノニ異ナラス、新鮮純良ニシテ僅カニ一點ノ非難スヘキ所ナシ、歐羅巴人ハ何カ爲メニ然ルヤ其然ル所以ヲ知ラス、只タノ驚歎スルノミ、殊ニ佛國ノ農夫ハ默然トシテ語ナク單ニ呆レテ打チ見遣ルノミ、是レ其謂レナキニアラス、此等ノ農夫ノ産出スル牛乳ハ百哩以外ノ地ニ輸送スルコト能ハス、最モ精良ノモノト雖モ四十八時間以上貯ヘ置クコト能ハス、殊ニ盛夏炎熱ノ候ニ際シテハ其配達ヲ受ケテ後二十四時間ヲ支ヘ得ルコト極メテ稀レナレハナリ、又タ同博覽會主任ノ地位ニアルマジヨル、アルボルト氏ハ同會ノ牛乳審査委員ニ告ケテ左ノ如ク云ヘリ、曰ク斯クノ如キ牛乳ハ果シテ如何ナル方法ニテ得ラル、カ、吾人ハ之ヲ知ルコト能ハス、毫モ

調理シタルモノニアラス人爲ヲ加ヘタルモノニアラス、全ク自然ノ儘ナリ、冷蔵スルニアラスシテ斯ク驚クヘキ好結果ヲ得タルハ果シテ何カ爲メナルカ、吾人ハ之ヲ知ルコト能ハス、只タノ驚歎スルノ外ナキナリト、

今マ其レ牛乳カ比較的短時間ニ腐敗シ酸味ヲ帶フルニ至ルハ、畢竟スルニ其内ニアル細菌ノ作用ニ外ナラス、或ハ牛乳中ニ在ルマシキ有機物ノ存在スルニ歸セスンハアラス、是レ尋常普通ノ場合ニ於テ牛乳ノ腐敗スル原因ナリト知ルヘシ、尙ホ此外ニモ牛乳ノ腐敗スル原因ナクンハアラス、只タ利ノミヲ計リテ其他ヲ顧リミサル牛乳屋ハ、其酸味ノ發生ヲ豫防センカ爲メニ一種ノ物質ヲ混入シ、或ハ牛乳ノ色ヲ一層善ク見セシメンカ爲メ、或ハ其滋養分ヲ一層多ク見セシメンカ爲メニ、一種ノ物ヲ混入スルコトハ決シテ珍ラシカラサルナリ、是レ危険ナル化學作用ヲ起サシム原因タラスンハアラス、即チ牛乳ヲ腐敗シ易カラシムモノト云ハサルヘカラス、而シテ此等ノ牛乳ヲ顯微鏡ニ照シテ觀察シタランニハ如何、細菌ノ夥シク存在センハ亦タ疑フヘカラサルナリ、之ヲ復言スレハ此等ノ牛乳ハ不潔汚穢ニシテ人ノ餌食ト云ハンヨリ寧ロ下水ト云ハン方適當ナルヘシ、

第三節

人其生涯中ニ於テ一タヒ水ノ一滴ヲ取リテ之ヲ顯微鏡ニ照ラシテ仔細ニ觀察センカ、一種ノ感ニ打レサルモノハ殆ント稀レナルヘシ、其顯微鏡ヲ通シテ目ニ映シ來ルモノハ、肉眼ニテハ決シテ見得ヘカラサル諸種ノ微細ナル動物生ノ群ヲ成セルヲ見ルヘク、又タ微生物ヨリ尙ホ一層劣等ナル植物ノ如キヲモ見ルナラ

ン、即チ植物界ノ芝類ニ屬スル極メテ微小ナル植物機關ヲ有スルモノト見ユルモ、皆ナ是レ一種ノ細菌ニ外ナラス、此等ノ細菌ハ如何ニ微么微細ナリト雖セ、細菌學者ハ其形狀ノ異同ニ從ツテ、之ヲ分類セスンハアラス、而シテ其分類ハ尙ホ一層高等ナル生物ノ分類法ニ異ナラス、或ルモノハ小球狀ヲ成シ、他ノモノハ小キ槓杆狀ヲ成シ、小塞子板ノ形ヲ成セルモノアリ、今マ之ヲ一括シテ言ハハ細菌ヲ尙ホ一層強力ナル顯微鏡ニ照シテ觀察シタランニハ、各々形ヲ異ニセル數多ノ細菌アルコトヲ知ルヘシト云ヘル是レナリ、

細菌ハ單ニ其形ノ上ノミ差異アルニアラス、其性質ニ至リテモ亦タ是レ差異ナクンハアラス、細菌ハ吾人ノ餌食ノ上ニ如何ナル影響ヲ及ホスカ、吾人ノ體中ニ入りテ如何ナル動作ヲ爲スカハ未タ知ルヘカラスト雖モ、其細菌ノ病原トナルコトハ既ニ研究セラレタルナリ、抑モ病原菌ノコトハ其他ノ事ヨリ尙ホ一層善ク知ラレタルハ他ニアラス、近年ニ至リテ病芽病原ノ事ニ就テハ最モ廣ク最モ善ク研究調査ヲ遂ケラレタハナリ、此等ノ細菌ハ最モ惡症ナル疾病ヲ醸成スルモノナルカ故ニ、最モ詳細緻密ニ調査研究セラレタレハナリ、

今マ一例トシテ恐ルヘキ疾病即チ結核病一名肺病ノ事ニ就テ之ヲ言ハン、基督紀元前四百年頃ナルヒボクラテス時代ニアリテモ、肺病ヲ以テ諸病中ノ最モ危險ナルモノトナシタリ、インクラテスモ亦タ希臘ノ醫師ニシテ基督紀元前五百年頃ノ人ナルカ、此人肺病ヲ傳染病ノ一トシテ記述シタルコトアリシ、其後醫學及病理學ノ沿革史ニ徵スルモ、肺病カ種々ノ徑路ニ依リテ此人ヨリ彼ノ人ヘ傳染スルノ事實アルヲ知ルニ足

ルヘキナリ、斯クテ一千八百六十五年ニ於テ有名ナル佛國ノ醫師ヴクレメン氏ハ、實驗ノ結果トシテ左ノ如キ事實ヲ證明シタリ、曰ク凡ソ結核病ハ動物ニ接種スルコトヲ得ヘキモノナリ、但シ其之ヲ接種スルハ其動物ノ肺部ノミニ限レルニアラス、其身體中何レノ部分ニ於テスルモ、其結果ニ至リテハ全ク同一ナリト知ルヘシト、由リテ觀レハ結核病ナルモノハ人類ヨリ、獸類ヘ移シ得ヘク、恐ラクハ復タ獸類ヨリ人類ヘ感染セシムヘキハ疑フヘキニアラサルナリ、且ツ此病ハ特種ノ病芽即チ病原菌ヨリ醸成セラル、コト明瞭ナラスンハアラス、然レトモ此病原菌ノ性質如何ハ一千八百八十二年マテハ確定セラレサリシカ、此年ニ至リテ日耳曼國ノ大醫科博士コッホ博士カ結核菌ニ關スル大發明ヲ爲シ、爾來世界萬國無數ノ醫師カ此大發明ヲ確認スルニ至リタリ、

既ニ此結核菌ノ發明セラレタル今日ニ至リテハ其菌ノ性質如何等ヲ研究調査スルコト、ナレリ、即チ今ヤ世界萬國到ル所ノ醫師及細菌學士達熱心銳意以テ、此結核菌ニ關スル顯微鏡的研究ニ身ヲ委ネテ、實ニ醫學社會ヲ振動セシメ居レリ、而シテ一千八百九十年ニ至リテコペンハーゲンノガスタヴ、バング博士ハ左ノ如キコトヲ證論スルニ至リタリ、曰ク牛乳中ニハ此結核菌存在シ居レリ、故ニ斯クトモ知ラスシテ之ヲ飲用スルモノハ、皆ナ是レ人類ノ疾病中最モ恐ル結核病ノ病芽ヲ嚙下スルモノト云ハサルヘカラス、其他牛乳ノ養育ヲ受ル所ノ嬰兒ハ所謂結核菌ヲ以テ養ハル、モノト謂ツヘキナリト、斯クテ此バング博士ニ次テ尙ホ一步進ミタル說ヲ立テタルモノハ、日耳曼國ノドクトル、シムス、ウードヘッド及博士マクハデエーシノ兩氏はレナリ、此等ノ兩氏ハ牛乳中ニ結核菌ヲ有スルコトニ就テ、單ニバング博士ノ說ヲ確カメタル

ノミナラス、尙ホ進ンテ左ノ如キ事ヲ證論シタリ、曰クエジナルバルフノ屠畜場ニ送致シ來ル家畜ノ多數ハ、彼ノ乳牛ト均シク結核菌ヲ有スルモノナリ、故ニ知ラスシテ此等ノ家畜ノ肉ヲ食フモノハ結核菌ヲ食フニ異ナラス、又タスル家畜ノ乳汁ヲ飲ムモノモ均シク結核菌ヲ飲ムモノト謂ツヘキナリト、斯ル結核菌ノ事歴ニ就テ之ヲ考フレハ、病原菌ノ病理ニ關シテ如何ニ切實ニ如何ニ注意シテ研究サレシカヲ推知スルニ足ルヘシ、

然レトモ吾人ハ尙ホ進ンテ左ノ如キ事柄ニ關シテ詳論スルノ必要ナキモノト信ス、即チ窒扶斯、猩紅熱、丹毒、實布埜里亞及虎列拉ノ如キ諸病ノ病原菌ニ就テ詳論スルノ必要ナシト信スルコト是レナリ、今マ此時ニ當リテ吾人ハ左ノ事柄丈ケテ説明スレハ足ランノミ、曰ク學者カ細菌中爾々ノ種類ヲ取り來リテ病理學上之ヲ分類シタル所以如何ト、其内爾々ノ種類ハ決シテ惡影響ヲ及ホスモノニアラス、即チ無害ノモノニシテ病原トナルヘキモノニアラスト斷定シタル所以如何トヲ説明スレハ足ランノミ、中ニ就テ斯ク無害ト云ヘルハ畢竟スルニ病理學上ノ見地ヨリシテ無害ト云フニ過キス、即チ病原トナルヘキモノニアラスト云フニ過キサルナリ、無害ノ細菌ト雖モ他ノ方面ヨリ之ヲ見レハ、迷惑損害ヲ與フルコト一ニシテ足ラサルナリ、例之ヘハ彼ノ牛乳中ニ酸味ヲ生セシムル所以ノモノハ、病理學上ノ所謂無害細菌ノ作用ニ外ナラサルナリ、斯ク牛乳中ニ酸味ヲ生シタランニハ農夫若クハ牛乳商ニ損害ヲ蒙ラジムルコト容易ナラサルナリ、牛乳中ニ酸味ヲ生スルハ天氣模樣如何ニ依ルモノ、如シ、殊ニ雷雨暴風ノ際ハ其害最モ甚ハタシキモノナリ、蓋シ此等ノ害ハ實際牛乳中ニ顯微鏡的有機物ノ發生シタル場合ヨリ寧ロ甚ハタシキモノアリ

ト云フ、茲ニ又タ驚クヘキ事實アリ、吾人カ食用ニ供スル乾酪ヲ見ヨ、其外見害ナキモノ、如シト雖モ、其實幾干カ細菌作用ニ依リテ牛乳ヨリ製セラル、モノナリ、サレハ今マ市場ニ於テ賣買セラル、所ノ乾酪ハ、細菌培養ノ結果ニ外ナラスト云フモ敢テ不可ナカルヘシ、

而シテ茲ニ一ノ疑問起レリ、曰ク多數ノ細菌カ如何ニシテ牛乳中ニ混入スルヤト、吾人カ今マ此疑問ニ答ヘント欲スルニ就テハ、勢ヒ牛乳ヲ搾取スルノ有様ヨリ、之ヲ其飲用者ニ送致スルマテノ實況ヲ詳細ニ説明セシムルハアルヘカラス、吾人カ今マ親シク自カラ牛乳搾取所ニ入りテ之ヲ搾取スル有様ヨリ、其他ニ關係セル實況ヲ目撃スルト假定セヨ、果シテ如何ノ感想カ起ル、中々ニ趣味アルコト、謂ツヘシ、時ハ是レ春夏ノ候ニシテ午後二三時トモ覺シキ頃、農夫ジャクソンノ牝牛數多カ其乳ヲ搾取センカ爲メニ牧場ヨリ其小屋ヘト曳カレ行ク有様ヲ見ルニ、其中數頭ノ臀部ノ方面ハ恰カモ松皮ノ如ク鱗形ヲ爲シテ、硬ク厚キ汚物カ附着シ居リテ爲メニ體毛ヲ見分クルコト能ハサル程ナリ、其他ノ牛ハ左マテ甚ハタシカラサルモ、皆ナ是レ其體軀ノ不潔ナラサルハナシ、眼ヲ轉シテ牧場ノ有様如何ヲ見ルニ同シク不潔ニシテ糞尿ノ臭氣甚ハタシク、爲メニ鼻ヲ掩ハサルヘカラス、其中央部ニハ牛糞糞等堆クシテ山ヲ成シ、之ヲ家鷄來リテ搔キ亂スアリ、其他群蠅ノ蠢爾タル等得テ形容スヘカラス、又タ此群蠅ハ小屋内ニ立チ居ル牛ノ身邊ヲ圍繞シテ總攻撃ヲ爲ス、牛ハ其五月蠅ニ堪ヘスシテ絶エス其尾端ヲ振一振以テ之ヲ拂ハンコトヲ勤ム、嗚呼此等ノ顯象果シテ清潔ト云フヲ得ヘキカ、

而シテ今マ此農夫ノ召使ナルピルカ其兩手ニ桶ヲ携ヘナカラ出テ來ル、常ニ戶外ノ動作ヲ爲シテ日光ニ曝

サル、ヨリ其顔面自カラ銅色ヲ呈シ、其起舉動作遲鈍ニシテ其筋骨ノ逞マシキコト恰カモ牡牛ノ如ク、其外界ノ事ニ無頓着ニシテ世事ニ疎キコト尙ホ是レ牡牛ニ異ナラス、所謂ル暗中ヨリ曳キ出サレタル牛トハ此類ナランカ、开ハ兔ニ角ニ此召使ハ其所ニ出テ來ルト共ニ立チ止マリテ其桶ノ一方ニ熱湯ヲ注キテ之ヲ洗ヒ、之ヲ洗ヒ終ルト均シク今一ツノ桶ニ此湯ヲ注キ込ミテ同一ノ方法ニ從ツテ之ヲ洗ヒ去リ、而シテ其汚レタル湯ヲ其邊ニ打チ棄テ後、再ヒ其兩手ニ桶ヲ携ヘツ、去ツテ牧場ヲ下リ、一ノ井戸ノ所ニ至リテ立チ留マルナリ、此井戸ヨリ遠カラサル所ニ大ナル糞尿ノ貯溜所アリ、其不潔ナルコト想ヒ見ルヘキノミ、斯クテ其召使ハ其井戸ヨリ水ヲ汲ミ上ケテ以テ再ヒ其二個ノ桶ヲ洗ヒ去レリ、是レ其桶ヲ冷却セシムルノ意ニ出テタルモノナラン、而シテ彼レハ牛小屋ノ方ヘト歩ミ行ケリ、此際彼レニ向ツテ其桶ハ清潔ナリヤト問ハ、必ラス然リト答フルナルヘシ、先キニ熱湯ヲ以テ之ヲ洗ヒ次ニ冷水ヲ以テ之ヲ洗ヒタルヲ見レハ、清潔ナリト見做スモ敢テ不可ナカルヘシ、然レトモ其實際如何ヲ顧ミレハ懸念ナキ能ハス、抑モ此召使ナルモノハ固ヨリ無智蒙昧ニシテ大象ト細菌トノ區別アルヲ知ラサルモノナリ、其桶ノ眞ニ清潔ナルヤ否ナヤヲ知ルモノニアラス、其桶ノ隅々ニ至ルマテ總テ清潔ナルヤ否ナヤヲ知ルヘキモノニアラス、況ンヤ其桶ノ粗造ナルニ於テヤヤ、斯ル桶ニ盛レル牛乳中ニハ細菌ノ幾千萬含ミ居ルヤモ亦タ測ルヘカラサルナリ、以上掲ケ來レル事實ハ皆ナ是レ牛乳中ニ無數ノ細菌ノ混入スル原因ニアラスヤ、

ビルノ衣服ノ不潔汚穢ナルコトハ勿論云フヲ要セス、然レトモビルノ身體ハ非常ニ清潔ヲ尊フモノ、一人ト云ツヘキカ、試ミニ彼レカ彼ノ井戸ニ於テ桶ヲ洗フタル時ノ有様ヲ思ヒ看ヨ、其井戸ヨリ水ヲ汲ミ上ケ

ントスルノ際、先ツ第一ニ其手ヲ洗ヒ而シテ後水汲ニ取り掛リタルニアラスヤ、サレハ彼レハ清潔ヲ尊フモノト云ツテ可ナリ、單ニ此一點ノミヲ以テ考フレハ然カ云フヲ得ヘシト雖モ、復タ他ノ方面ヨリ觀察ヲ下セハ大ニ然ラサルモノナクンハアラス、彼レハ其洗ヒシ手ヲ如何ニセシヤト云フニ、其「ズボン」ノ兩側ニテ拭ヒ去レルナリ、彼レハ斯クスルカ常ナリト見ヘテ恰カモ手ヲ拭ヒ去レル部分カ特ニ汚レ居レルヲ見タリ、獨リ是レノミナラス手ノ甲ニテ鼻汁ヲ拭ヒ去ルコトハ珍ラシカラス、又タ其乳ヲ搾リ居ル間絶ヘス煙草ヲ嗜ミ居レリ、其他不潔ナルコト尙ホ少ナカラス、彼レカ如何ニモ得意顔ニテ乳ヲ搾リ初メル時其腰ヲ据ヘル所ノ腰掛臺ハ如何ニモ不潔汚穢ニシテ、無數ノ細菌ノ培養所トモ謂ツヘキナリ、彼レハ其搾リ初メルニ當リテ其指先ヲ濡ホスニ自分ノ唾液ヲ以テセリ、而シテ茲ニ奇ト謂ツヘキ一事ノアルアリ、ビルカ乳ヲ搾リ初メル時最初ノ一頭ニ限リテ豫シメ其乳房ノ邊ヲ洗ヒ去ルコト之レナリ、夫レヨリ第二、第三ト次第ノニ搾リ行クニ際シテハ、決シテ其事ナク其第一ニ取り掛ル牛ニ限リテ其乳房ノ邊ヲ洗ヒ清メルモノナリ、何カ爲メニ最初ノ一頭ニ限リテ然カスルヤ其所以ヲ知ラス、恐ラクハ是レ一ノ習慣ニ過キサレヘシ、其乳房ノ邊ヲ洗ヒ清メルハ前搾取以來其乳房ノ邊ニ無數ノ細菌ノ附着シ居ランコトヲ恐レテ然カスルニアラス、ビルハ決シテ斯ル事ニ注意スルモノニアラス、彼レハ細菌學者ニアラス、前ニモ云ヘルカ如ク無智蒙昧ナル一凡夫タルニ過キス、

牛乳ヲ搾取スルノ者ノ心得置カサルヘカラサルコト少ナカラス、然ルニビルハ決シテ此等ノ事ヲ知ラサルナリ、今マ其心得置クヘキ必要ナル事柄ヲ左ニ示サン、曰ク牝牛ノ全身ヲ善ク洗フヘキ事、乳頭乳房ノ邊

ヲ注意シテ洗フヘキ事、其尾モ亦タ然カスヘキ事、此等ノ部分ヲ清潔ニスルニ防腐液ヲ用フヘキ事、搾取者自身ノ手ヲ洗フヘキ事、其指爪ノ垢ヲ除キ去ルヘキ事、牛乳用ノ桶ハ特別製ト爲スヘキ事、尙ホ此桶ヲ最良ノモノタラシメント欲セハ蒸汽消毒ヲ爲スヘキ事、牝牛ハ其尾ヲ打チ振リテ其身邊ヲ圍繞スル群蠅ヲ拂ヒ去ラントスルモ、尙ホ且ツ其群蠅ハ乳汁中ニ細菌ヲ混入スル事、又タ牝牛ノ體毛ヨリ搾取者ノ衣服ヨリ落ツル所ノ塵埃汚穢物モ亦タ是レ乳汁中ニ入り込ム事、群蠅ハ堆積セル糞便ノ中ヨリ細菌ヲ帶ヒ來リテ、之ヲ牛乳中ニ投入センコトニ忙殺サル居ル事、牛小屋ハ乳汁ヲ搾リ取ルニ適セサル事、以上掲ケタル事柄ハ皆ナ是レビルノ會テ知ラサル所ナリ、ビルハ牛乳搾取業ニ従事スルコト三十箇年以上ノ久シキニ亙ルト雖モ、乳牛ヲ清潔ニ保ツコトノ必要ナル事、其他指爪ヲ清潔ニシ碳酸水若クハ其他ノ消毒液ヲ以テ其手ヲ洗フノ必要ナルコトヲ曾テ聞キシコトナカリキ、假リニ此等ノ事ノ必要ヲビルニ告クルモノアリトセンカ、彼レハ此等ノ忠告ヲ以テ發狂者ノ言ニアラスンハ、自分ヲ愚弄スルノ言ト爲サンノミ、

若シ牛乳ニ一疋ノ蠅カ飛ヒ込ムカ、或ハ牝牛カ其糞ノ一塊ヲ其中ニ垂レ込ムノ場合アラシカ、斯ル場合ニ於テ幸ニシテビルノ目ニ觸レタランニハ、彼レ直チニ其手ヲ乳汁中ニ浸シテ之ヲ摘ミ去ルヘシ、然レトモ斯ル事アルモ彼レノ目ニ觸レサル以上ハ、何事モナキ良乳トナルヘキナリ、而シテ農夫ジャクソン氏ハ之ヲ近コロ牛乳博覽會ニ於テ購入シタル「ニツケル」製ノ濾過器ニ掛ケテ精製シ、天晴レ誇ルヘキ良乳トシテ賣リ出スモノト知ルヘシ、若シ斯ル濾過器ノ發明以前ナリシナラハ如何、牛乳中ニ糞便毛類ノ一塊トナレルヲ見シナルヘシ、牛乳濾過器ハ實ニ驚クヘキ大發明ト言ハサルヘカラス、一旦此器ヲ通過シタル以上ハ

其乳汁中ニ一點ノ塵埃汚物ヲ留メス純清ナラシムレハナリ、

ビルハ元ヨリ細菌ノ何モノタルヲ知ラス又タ其細菌ノ増殖スル所以ヲ知ラス、故ニ彼レカ搾取業ニ就テ爲ス所行フ所ハ、皆ナ是レ細菌繁殖ニ利便ヲ與ヘサルハナシ、ビルカ乳ヲ搾リテ第一ノ桶ニ滿タシムルヤ、直チニ之ヲ其側ニ置キ、更ニ第二ノ桶ヲ取リテ之ニ乳ヲ搾リ込ムヲ常トス、但シ其側ニ置ケル第一ノ桶ニハ決シテ蓋ヲ爲サ、ルナリ、第二第三ニ至リテモ亦タ然リ、ビルハ曾テ人ヨリ左ノ如キコトヲ聞キタルコトアラサリシナリ、曰ク空氣中ニハ病原トナルヘキ細菌ノ如キモノアリ、又タ夜間發生スル菌類ニ均シキ微細ノ植物アリ、此等ノ植物ハ往々人類ニ恐ルヘキ大害ヲ與フル事、牝牛ヨリ搾取シタル乳汁ハ華氏百度ノ溫度ヲ受ケタランニハ、彼ノ細菌ヲ孵化セシムルニ最モ適當ナル事、斯ル溫度ニ於テ細菌ノ増殖スルコト多クシテ且ツ速カナルコト實ニ驚クヘク、例之ヘハ僅カニ六時間以内ニシテ一個ノ細菌ヨリ三千以上ニ増殖スルカ如キ是レナリ、然ルニ牛乳ノ溫度ヲ低フシタランニハ細菌ノ發育ヲ妨ケルニ足ルヘク、極メテ低クシタランニハ増殖ノ度合甚ハタ遅緩ナルヘク、或ハ全ク増殖セサルニ至ルヘキナリ、以上述ヘ來リタル事柄ノ僅カニ一ツタニビルニ告ケタルモノナシ、教ヘラレサルノビル之ヲ知ラサルモ亦タ宜ナラスヤ、ビルニシテ之ヲ知リタリトセンカ、最モ好シト信スル方法ニ從フヘク、其牛乳桶ノ如キモ塵埃汚物ヲ除キ去ルヘク、牛乳ヲ冷却セシムルニ水ナクンハ彼ノ井戸ヨリ冷水ヲ汲ミ上ケテ其用ニ供シタルナルヘシ、然レトモ如何センビルハ毫モ此等ノ事ヲ知ラサリシナリ、今マ其レ牛乳搾取ニ關シテビルノ如ク無智ナルモノ蓋シ世間ニ幾干ソヤ、是レ牛乳問題ニ關スル一大障礙ナラスヤ、

讀者諸君ノ内ニハ或ハ上來掲ケタル事柄ニ對シテ左ノ如キ意見ヲ抱カル、モノアルヤモ知ルヘカラス、曰ク凡ソ牛乳搾取業ノ行ハル、所ニ於テ彼レカ如キ無智ナルモノアリトモ思ハレス、畢竟スルニ針小棒大名其實ニ過クルモノニ外ナラス、實際ニ於テ斯ル事實アルヘキ謂ハレナシト、果シテ斯ル意見ヲ抱カル、讀者アリトセンカ、予ハ之ニ答ヘテ左ノ如ク云ハンノミ、曰ク予カ前段ニ於テ述ヘ來リタル事柄ハ世間稀レニアル所ノ例外ニ屬スヘキモノニアラス、又タ想像說ニモアラス、正ニ是レ實際ノ顯象ニ外ナラス、予ノ此言ニ對シテ尙ホ疑フモノアランカ、之ヲ疑フモノ自カラ進ンテ實驗セヨ、中々ニ趣味アル實驗ナルヘシ、先ツ上來予カ述ヘタル種々ノ事柄ヲ參考トシテ其胸臆中ニ存シ置キ、而シテ田舎間ニ入りテ牛乳事業ノ實際ニ行ハル、所ヲ目撃セラレヨ、或ハ予ノ言ノ當ラサル所モアルナルヘシ、然レトモ其實見セラレ、所ノ大半ハ予ノ言ノ溫和ニシテ控目ナルヲ證スルニ足ルナラン、之ヲ換言スレハ其目撃セラレ、所ノ實際ノ有様カ予ノ述ヘタル事柄ヨリ尙ホ一層甚ハタシキ所アルヲ知了セラレ、ナラン、且ツ我カ米國ニ於ル各都市邑ノ衛生局ト關係アル視察官ハ予ニ向ツテ證言セリ、予カ上來掲ケタル牛乳搾取業ニ關スル事柄ハ、通常世間ニアリフレタル事實ニシテ、決シテ例外ニ屬スヘキモノニアラスト、

茲ニ又タ予カ論據ヲ確カムルニ足ルヘキ好適例ノアルアリ、合衆國農務省ノ動物工業事務局ヨリ出版サレタル製乳所ニ關スル書冊是レナリ、今マ其一節ヲ拔翠シテ之ヲ示サン、

『當所ノ牧牛ノ群ハ何レモ内國産ニシテ總數四十頭ナリ、之ニ給與スル食物ハ穀類及醸造家ヨリ出ル渣滓

洋ノ如キモノ是レナリ、之ヲ入ル、小屋ノ如キハ甚ハタ粗造ニシテ且ツ不潔ナリ、其内ニ收容サル、牝牛モ亦タ汚穢ニシテ所狭キマテ群居セリ、而シテ其糞便ノ高ク堆積サル、コト牛小屋ノ周邊ナル窓ト均シ、毎日搾取セラル、乳量ハ二百四十「コールト」(前出)ニ及ヘリ、斯ク搾取セラレタル乳汁ハ四丁ハカリ隔タリタル屋内ニ運ハレ、五十度乃至六十度ノ温度ナル氷水槽ニテ之ヲ冷シテ後販賣スルモノナリ、又タ此家ヨリ程遠カラサル所ニ一ノ井戸アリ、牛ノ糞便ノ貯溜所ヨリ一百呎以内ニアリ、此井水カ牧牛場全部ノ用ニ供セラル、其不潔ナルコト得テ想像スヘシ、

右ニ掲ケタルカ如キ牧場ノ不潔ナルコトハ、特ニ米國ニノミ限ラレタルモノニアラス、其不潔ノ度合ニ於テ多少ノ差コソアレ、文明諸國到ル所ノ牧場ヲ通シテ此弊ナクンハアラサルナリ、ドクトル、レスレー、マツケンデー氏ハ此事ニ關シ最モ痛切ニ左ノ如ク論述シタリ、

『牛乳事業ヲ仔細ニ觀察シ來レハ、恰カモ是レ純粹清潔ナル物質中ニ、雜駁ナル細菌ノ測ラレサル分量ヲ接種スル如キ觀ナクンハアラス、到ル所ノ牛乳事業ノ實況ヲ通覽スルニ、其牛乳ノ元質ハ人ノ資ツテ以テ滋養トナルヘキ液體ナルモ、如何セン中途ニシテ病原トナルヘキ細菌、若クハ否ラサル細菌ヲ含有セル塵埃汚物ヲ受ケ納ル、コト、管ニ一再ニ止マラス其幾回ナルヤヲ知ルヘカラス、試ニニ想ヘ、乳牛ノ體軀決シテ洗ハレタルコトナク、其乳房ノ邊モ亦タ決シテ洗ハタルコトナク、牛小屋ノ内部ヲ言フヲ要セス、其周邊タニ清潔ニセラレタルコトナク、空氣ノ流通スヘキ窓ノ開放セラレタルコトナク、不潔ナル豚ノ群ハ僅カ數呎ノ間ニアリ、蜘蛛ハ張りテ古クナレルニヤ煤ヲ承ケテ低ク垂レ、搾取

人ノ手ハ偶然之ヲ洗フコトアルニ過キス、其頭髮ハ蓬々トシテ梳ツリタル様見ヘス、其口ヨリ唾ヲ吐キ出スコト珍ラシカラス、斯クノ如クニシテ果シテ如何ナル牛乳カ得ラルヘキ、之ヲ想像スルニ難カラサルナリ、予カ細菌ヲ接種スルニ異ナラスト云ヘルモ其以ナキニアラサルナリ、

「ブリッヂス、メジカル、ジョールナル」(英國醫學雜誌ノ義)社ニテハ曾テ牛乳調査員ナルモノヲ設ケテ、英國大市邑中ニ於ケル牛乳事業ノ實況ヲ視察セシメタリシカ、其視察シタル結果ノ報告書中或ル製乳所ニ關スル記事アリ左ノ如シ、

「此製乳所ノ事業ハ如何ニモ活潑ニ行ハレ居ルモノ、如クナルカ、其牝牛ノ背後ニ當リテ其體裁如何ニモ不潔ニ見ユル三個ノ少年隠レ居タリ、又タ予ハ其邊ヲ見廻スニ水桶、石鹼、手拭ノ如キモノ備ハリ居テ如何ニモ清潔ヲ尊フカ如クナルモ、牝牛ノ乳房ノ邊及搾取人ノ手ノ不潔ナルヲ如何セン、搾取人ナル彼ノ少年ノ衣服ハ皆ナ是レ汚穢ナラサルハナシ、牛小屋ノ地盤ハ糞尿積ンテ深サ數寸、寢糞ノ惡臭鼻ヲ衝カント欲ス、而シテ乳牛ノ臀部一面汚物ヲ以テ蔽ハル、桶ヨリ他ニ移サントスル牛乳ノ不潔ナルコト實ニ形容スルニ堪ヘス、砂、毛髮、糞便等混入シテ既ニ牛乳ノ本色ヲ失ヘリ、予ハ此時牛乳中ニアル一大糞塊ヲ指シツ、是レ見ヨ何物ソト覺ヘス一聲ヲ放チタリ、然ルニ傍ラニ立タル少年ハ如何ニモ平然タル面モチニテツブリト其片手ヲ牛乳中ニ押し入レテ牛糞ヲ取り出シツ、何テモナイ牛ノ糞ノミト答ヘタリ、」

英國地方政務局ハ一千九百四年ニ於テ愛爾蘭ノ牧場及製乳所ノ衛生取締ニ關スル一ノ告諭ヲ發シタリ、是レ他ナシ同地方ノ牛乳事業中右ニ掲ケタル弊害ト同一ナル弊害アリタレハナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ此等ノ牛乳製造者及其取扱人等ハ概シテ牛乳ノ性質ノ何物タルヤヲ知ラス、又タ不注意不適當ナル取扱ヲ爲シタランニハ、其結果トシテ實ニ恐ルヘキ危險ノアルコトヲ知ラサルナリ、ドクトル、ロウワン、オツド氏說ヲ爲シテ曰ク牛乳ノ性質ヲ知り其適當ナル取扱法ヲ知ランコトハ、公衆一般ノ安全ヲ圖ルニ就テ、最モ必要ナルモノト云ハサルヘカラス、

予カ地方ノ農業ヲ視察シタルノ度數ハ百ヲ以テ數フヘキ程ナリ、中ニ就テ右ニ述ヘタルカ如ク牛乳事業ニ關スル不衛生ノ事及不注意ナルコトヲ觀察シタルコト少ナカラサリシナリ、然ルニ尙ホ讀者諸君ノ中ニ牛乳事業ニ關スル其他ノ事實ヲ聞カント欲スル人アラシカ、予ハ斯ル讀者ニ對シテ我カ農務省ヨリ發セラレタル各種ノ告諭ヲ紹介センノミ、蓋シ此等ノ告諭ハ皆ナ是レ米國市邑ノ牛乳業ニ關スルモノニシテ、其告諭ノ文面ヨリ推測ヲ下セハ牛乳營業者ノ甚ハタシキ無智ナル事、諸設備不完全ナル事、不注意ノ甚ハタシキ事等ヲ證スルニ足ルヘキナリ、茲ニ又タ予ノ忘ルヘカラサル一例ノアルアリ、是レ予カ自ら親シク觀察シタル事實ニシテ、世人カ牛乳製出ニ關シテ衛生上如何ニ無智ナリシヤヲ證スルニ足ルヘキ好材料タラスンハアラス、請フ其事實ヲ左ニ述ヘント欲ス、曰ク予ニ一ノ友人アリ、田舎ニ地所ヲ求メテ田園生活ヲ爲セリ、紐育市ヲ距ルコト七十五哩以内ナリ、予一日此友人ノ許ヲ音信レタルニ、主人先ツ予ニ向ツテ語リテ曰ク近コロ牝牛ヲ買ヒ入レタルニ依リ、我カ嬰兒ニ純良ノ牛乳ヲ與フルコトヲ得テ大ニ喜ヒ居ル次第ナリ、既ニ牝牛三頭ヲ買ヒ入レ爲メニ牛小屋ヲモ新築シタリ、以テ誇ルニ足ルヘキニアラスヤト、此ニ於テ

予ハ此等ノ牛ヲ一見センコトヲ請ヒ其許シヲ得テ一見シタル後、此等ノ牛ニ結核病アリヤナシヤヲ見シカ爲メニ尙ホ未タ結核試験ヲ行ヒ居ラサルコトヲ知レリ、由リテ予ハ其結核試験ノ必要ナルコトヲ説イテ立チ去リシカ、其後此友人ハ予ノ忠告ヲ容レテ結核試験ヲ行ヒシニ、三頭ノ内二頭マテハ結核病ニ罹リ居ルコトヲ見出シタリ、又タ予ノ此友人カ新築シタリトテ自カラ誇リシ所ノ牛小屋ノ有様如何ト云フニ、乳牛ヲ棲息セシムルニ全ク不適當ナリト云ハサルヘカラス、其建物甚ハタ低クシテ空氣ノ流通宜シカラス、光線ノ射入モ亦タ充分ナラス、其食物ヲ與フル所ハ其小屋ノ一隅ニアリテ惡臭ヲ衝クヘシ、下水疏通ノ途甚ハタ不充分ナリ、即チ僅カニ木製ノ淺キ小溝アルニ過キス、其床ハ粗造ナル木製ニシテ殆ント洗フニ堪ヘス、汚物ハ常ニ其床板ニ吸收サレテ其不潔ナルコト云フヘカラス、又タ眼ヲ轉シテ搾乳ノ模様如何ヲ顧リミルニ、是レ亦タ其宜シキヲ得タモノト云フヲ得ス、搾取人ハ如何ニモ不潔汚穢ナル身形ニシテ、僅カニ二三分間前マテ腕車ヲ挽キ居タリシモノニ外ナラス、而シテ之ヲ搾リ初メントスル前ニ決シテ其手ヲ洗ハス、又タ牛ノ乳房ノ邊ヲ洗ハス、即チ汚レタル指先ニテ汚レタル乳房ニ觸ル、モノト云ハサルヘカラス、右ノ如キ事實ヲ綜合シテ之ヲ考フルニ、尙ホ且ツ良乳ヲ得ラルヘキカ、智者ヲ俟チテ後ニ知ラサルナリ、然ルニ予ノ友人ハ都會ヲ去ツテ田舎ニ引キ移リ、牛小屋ヲ新設シ、莫大ノ金ヲ投シテ牝牛ヲ購入シ、其嬰兒ノ爲メニ純良ナル牛乳ヲ得テ、市邑ノ嬰兒ノ如ク危険ニ陥ルノ恐レナシトテ、得意顔ニ誇ル所アリ、然ルニ其實際ハ前述スルカ如シ、嗚呼亦タ笑止ナラスヤ、

斯クテ其後前ニ述ヘタル予ノ友人ハ初メテ其牛小屋ノ諸設備不完全ナル所アリ、且ツ牝牛ノ保護取扱ヲ委任スル雇人ノ不潔ナル等ヨリ、其結果ニ良カラサルコトアルヲ知リテ、之ヲ改革矯正センコトヲ計レリ、先ツ其手始メトシテ牛小屋ヲ改造シタリ、即チ最良ノ模範製乳所ノ牛小屋ニ倣フテ衛生上缺點ナキ様改造シタリシナリ、然レトモ牛乳ヲ取り扱ハシムル雇人ニ至リテハ大ニ躊躇スル所ナクンハアラス、彼レ予ニ向ツテ斯ク云ヘリ、曰ク牛小屋ノ改造ハ我レ之ヲ成スヲ憚カラス、然レトモジヨ一ニ至リテハ然カスルト能ハスト、蓋シジヨ一トハ雇人ノ名ナリ、ジヨ一ハ其界限數哩ノ間最良ノ牛乳搾取人トシテ最良ノ乳牛搾取人トシテ誰レ知ラヌモノモナキ程ノ評判者ナリ、故ニ今マ之ヲ解雇シタランニハ近傍ノ農家ハ如何ニ高キ給料ニテモ、互ニ競争シテ之ヲ雇ヒ入レンコトヲ歡迎スルモノナリ、予ノ友人カジヨ一ハ如何トモスルコト能ハスト云ヘルハ蓋シ之レカ爲メナランノミ、此ニ於テカ適當ノ牛乳搾取人ヲ得ルノ難キコト推知スヘキノミ、良乳ヲ得ンカ爲メニハ如何ナル用意カ必要ナルヘキカ、又タ其用意ノ必要ナルハ果シテ何ノ爲メナルカラ理解シ得ル搾取人世間幾人カアル、斯ル搾取人ヲ得ンコトハ極メテ困難ナリト云ハサルヘカラス、斯ク云ヘハ大學ノ學位ヲモ得タルモノナラテハ牛乳搾取人ニハナレヌカトノ疑問モ起ルヘキナリ、農夫カ仕拂ヒ得ヘキ給料ヲ以テ智識アル適當ノ搾取人ヲ得ンコトハ實ニ困難事ト云ツヘキナリ、是レ牛乳問題ノ前途ニ横ハル一大難關ト云フモ敢テ不可ナカルヘシ、

第五節

吾人ハ茲ニ再ヒ前述シタル事實ニ立チ歸リテ聊カ述ル所アラント欲ス、彼ノ農夫ジャクソンノ牧場ニ於テ働キ居タルピルノ事ハ、讀者諸君ノ腦裏ニ尙ホ記憶シ居ラル、ナラント信ス、又手ジャクソンノ製乳所ヲ距

ルコト二哩ノ所ニ一ノ小停車場アリ、イリノ停車場ト云フ、此停車場ノ「プラットホーム」ニハジャクソ
ンヨリ送り出シタル牛乳罐數多積ミ重ネアリテ、牛乳積ノ列車ヲ待チ居ルモノ、如シ、此間其牛乳ヲ冷却
セシムル装置アルヲ見ス、斯クテ「牛乳特別車」ノ記號アル列車カ來ルト均シク此等ノ牛乳罐ヲ無二無三ニ
汽車内ニ積ミ込ムナリ、但シ此汽車内ニテ冷蔵庫ノ備附アリテ之ニ夫々牛乳罐ヲ詰メ込ム次第ナレトモ、
其冷蔵庫中ノ氷ハ甚ハタ少量ナリシナリ、斯クテ此等ノ牛乳ハ都市ニ向ツテ運搬セラレ、ナリ、然ルニ此
間牛乳中ニ細菌ノ繁殖スルコト如何ナルカハ得テ想像スヘキノミ、

予ハ前段ニ於テ讀者諸君ノ知ラル、如ク人種自滅ノ説ヲ掲ケシカ、今マ牛乳中ニ發生スル所ノ細菌中ニハ
細菌自滅ノ事全ク行ハレサルモノト見ヘタリ、曾ニ自滅ノ行ハレサルノミナラス、其繁殖力ノ甚ハタシキ
コト實ニ形容スルコト能ハサル程ナリ、彼ノマルチウス氏ハ人口増殖ノ夥シキヲ説キタレトモ、細菌増殖
ノ甚ハタシキコトハトテモ人口増殖杯ト比較スヘキモノニアラサルナリ、今ママルチウス氏ノ説ニ從ヘハ
人類ヨリ其他ノ動物ニ至ルマテ、他ヨリ如何ナル妨碍モ加ヘラレトセンカ、其繁殖ノ甚ハタシキコト得
テ想像スヘカラサルナリト云フ、然レトモ人類及其他ノ動物カ如何ニ繁殖スト雖モ、際限ナク繁殖スヘキ
モノニアラス、概ネ測知シ得ラルヘキ制限ノアルモノナリ、今マ細菌ノ繁殖スルニ至リテハ之ニ比シテ大
ニ異ナル所ナクンハアルヘカラス、試ミニ見ヨ、人類及其他ノ動物カ五十年間ニ増殖スル數ハ、牛乳中
ニ於ル僅カニ一個ノ細菌ヨリ僅カニ數時間ニ増殖スル數ニ及ハサルコト遠シト謂ツヘキナリ、今マ細菌ノ
發達ニ際シテ何等ノ妨碍モ之レナシトセンカ、僅カニ一個ノ細菌カ二十四時間ニ増殖シテ一千七百萬ノ大

數ニ上ルヘキナリ、今マ牛乳ノ温度甚ハタ高シトセンカ、細菌ノ繁殖夥シキコト數學上ヨリ計算スルコト
能ハサルヘシ、今マ十四五滴ノ牛乳中ニ含有スル細菌如何ト云フニ、數百萬ニ達スルハ往々珍ラシカラサ
ルナリ、

此ニ由リテ之ヲ觀レハ彼ノイリノ停車場ヨリ積ミ出サレタル牛乳カ紐育市ニ達シタル場合ニハ、其牛乳中
ノ細菌カ如何ニ増殖セルカヲ推知スルニ足ルヘキナリ、斯クテ其牛乳カ紐育市ニ達スルト均シク之ヲ取り
テ之ヲ試験シタランニハ、其結果果シテ如何ソヤ、其牛乳ノ每立方「センチメートル」即チ通常ノ茶匙ニ搔
ヒ取リテ其匙ノ四分ノ一ヲ滿セル程ノ牛乳中ニ、少ナクモ五百萬ノ細菌ヲ含メルコトヲ見出スナラン、今
マ牝牛ヨリ乳汁ヲ搾リ取りタリトセンカ、第一搾取其事カ牛乳ヲシテ何等カ汚染ヲ受ケシムル基ヒタラス
ンハアラス、以後牛乳ノ人手ヲ經ル度毎ニ其汚染益々加ハラサルヲ得ス、試ミニ想ヘ、乳汁ノ尙ホ牝牛ノ
乳房ノ中ニ含メル間ハ無垢純良ナルモノニアラスヤ、然ルニ之ヲシテ不潔危険ナル混和物タラシムルハ、
畢竟スルニ人類ノ不注意ナルト無智ナルトニ歸セスンハアラス、然レトモ紐育市ニ達シタルノミニテハ、
牛乳ノ徑路中尙ホ未タ最終點ニ達シタリト云フヲ得ス、牛乳ヲ以テ養ハルヘキ幼兒ノ許ヘ達シタル時、之
ヲ名ケテ其最終點ト謂ツヘキナリ、此最終點ニ達セサル前汚染ヲ免カレサル途ヲ經過セサルヲ得ス、即チ
借家人ノ多ク居住セル方面ノ小賣商人ノ手ニ渡リ、夫レヨリ嬰兒ノアル家ニ入り込ミ不潔ニシテ惡臭アル
箇所ニ取り置カル、モノトス、斯クノ如キ有様ニテ其牛乳中ニハ更ニ幾百萬ノ新細菌ノ増加セルヲ見ルヘ
キナリ、斯ク新細菌ノ非常ニ増加シタルハ一ハ更ニ外部ヨリ入り込ミ來レルト一ハ牛乳中ノ細菌ノ繁殖シ

タルニ歸セスンハアラス、

アーレン街ニ一ノ小雜貨商店アリ、ゴールドステーショント云ヘル婦人ノ所有ナルカ、此商店ニハ石炭モアレハ五錢ツ、ノ價ナル調理シタル食物アリ、針モアレハ小供用ノ靴モアリ、其他種々雜多ノモノ一々數フルニ違マアラス、中ニ就テ吾人ノ注意ヲ惹ケルハ牛乳ノ小賣ヲ爲セルコト是レナリ、日々一定ノ時間ニ牛乳ノ配達ヲ受ルコト能ハサル下層貧民ノ便利ノ爲メニ、一「コールト」二錢ツ、ニテ賣リ與フルモノナリ、而シテ店主ハ時ニ客人ニ向ツテ此牛乳ハ僅カニ二錢ニ過キス、御買ヒナサレテハ如何ヤト勸メ居レリ、此牛乳ハ店ノ一隅ナル大ナル罐内ニ容レアルモノナリ、其側ニハ石炭箱モアレハ漬物桶モアリテ如何ニモ不潔ニ見受ケラル、時トシテ店主カ忙ハシキ場合ニハ其牛乳罐ノ蓋ヲ取りタル儘數時間打テ棄テ置カル、コトアリ、又タ其牛乳ヲ拯ヒ上クル所ノ杓ハ通常罐ノ側ニ懸ケアリシカ、時ニ或ハゴールドステーション嬢ノ子供ノ一人カ之ヲ他ニ携ヘ行キテ弄ヒタルモノト見ヘ、牛乳ノ買手來レル場合家内ヲ限ナク探シ廻ルコト珍ラシカラス、斯ル店ノ牛乳中ニハ幾百萬ノ細菌カ入り込ムヤモ測リ知ルヘカラス、然レトモゴールドステーション嬢ハ更ニ此等ノ事ヲ知ラサルナリ、彼レハ牛乳中若クハ其他ノケ所ニ細菌ノ存在セルコトヲ曾テ聞キシコトナカリシナリ、ジョント云ヘル婦人此店ニテ牛乳ヲ買ヒ求ムルコトアリ、此際買方モ賣方モ共ニ是レ其牛乳中ニ無數ノ細菌ノ混入シ居ルコトヲ知ラサルナリ、即チ牛乳毎十五滴中ニ一億三千三百萬以上ノ細菌ノ存在セルコトヲ知ラサルナリ、此等ノ細菌數ハ之ヲ同量ノ下水中ニ含有セル細菌數ニ比スルモ尙ホ數倍多シト云ツヘキナリ、

斯クテジョン婦人ハ其買ヒ得タル牛乳ヲ携ヘテ街路ニ出ツ、街路ノ空氣中ニハ細菌ノ充滿セルモノナルニ、其牛乳ノ容器ニハ蓋ヲセスシテ携ヘ行ケルニ依リ、其牛乳中ニヨリ多クノ細菌ノ混入スルハ疑フヘキニアラサルナリ、斯クテジョン婦人ハ一步ハ一步ヨリ益々多數ノ細菌ヲ其牛乳中ニ混入セシメツ、終ニ我家ニ立チ歸リシカ、此婦人ハ元來注意深キモノト見ヘ、其牛乳ヲ一ノ氷箱ノ内ニ入レテ冷却セシムルノ方法ヲ取レリ、然レトモ其氷量甚ハ少ナクシテ其箱内ノ溫度ヲシテ其周邊ノ臺所ノ溫度ヨリ低下セシムルニ足ラサルナリ、憫レムヘシ此婦人ハ驗温器ヲ有セス、好シ之ヲ有スルトスルモ其用法ヲ知ラサルヲ如何セン、故ニ斯ル婦人ニ向ツテ好シ氷箱中ノ溫度華氏ノ殆ント七十五度ナランカ、是レ細菌ノ繁殖ニ最モ善ク適シタルモノナリト告ケタランモ、此婦人ハ其意ヲ解スルコト能ハス、從ツテ毫モ益スル所ナカルヘシ、斯クテ嬰兒ノ泣キ叫フ聲ノ聞ヘテ後間モナク其嬰兒ハ牛乳壞ヨリ牛乳ヲ飲ミ居タリ、此牛乳ハ前ニ述ヘタル如キ細菌ノ充滿セルモノナリ、嗚呼亦タ恐ルヘキコトナラスヤ、ジョン婦人ハ既ニ二人ノ嬰兒ヲ失ヒ、尙ホ一ノ嬰兒ハ其體質病弱ナルモノ、如シ、此等ノ原因ハ果シテ何レニアルカ、讀者諸君之ヲ知ルニ難カラサルヘシ、

第六節

右ニ述ヘタル事實ハ皆ナ是レ恐怖スヘク又タ痛心スヘキ事ニアラスヤ、然レトモ嬰兒ノ食料トシテ飲用セラル、牛乳中ノ最モ惡シキモノト云フヲ得ス、米國ノ家庭ニシテ嬰兒ノ食料トシテ牛乳ヲ用フルモノ千萬ヲ以テ數フヘキナリ、而シテ此等ノ牛乳中ニハ前ニ述ヘタル事實ヨリ尙ホ一層惡シキモノアリ、即チ是レ牛乳中ニ病原因ヲ含有スルコト尙ホ一層甚シキモノアリト云フニ外ナラス、予ハ前段ニ於テ農夫ジャクソ

ンノ牛乳業事ニ關シテ述ル所アリシカ、今マ復タジャクソノ牛乳事業ニ立チ返リテ聊カ述ル所アラントス、今マ其レ牝牛ノ外見ノミニ依リテ其體質ノ健不健ヲ速斷スヘキモノニアラサルナリ、牝牛中ノ或ル者ノ乳頭及乳泌管ニ結核病アリトセンカ、其乳汁中ニ多數ノ結核菌ヲ含有センハ亦タ避クヘカラサル顯象ナラスヤ、又タ牝牛カ窒扶私菌ヲ以テ汚染セラレタル水中ヲ徒涉スルカ或ハ破ノビルガ水ヲ以テ牛乳桶ヲ洗ヒ清メルノ場合其水中ニ結核菌アリ、其結核菌カ桶中ニ殘留シテ乳汁中ニ混入シタランカ、斯ル場合ニ於テ結核菌ノ増殖センハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、又タビルノ一小女カ前夜實布埜里亞若クハ猩紅熱ニ罹リテ臥辱内ニ轉輾叫號セシコトアリ、其側ニ臥シ居タルビルノ衣服或ハ其體軀ニ其病原菌カ附着シタル場合ニハ果シテ如何ノ影響カアルヘキ、知ラス識ラスノ間ニ其病原菌カビルノ取り扱ヘル牛乳中ニ混入シテ終ニ遠隔ナル市府ニ其病毒ヲ傳播セシムルコトナシトモ保スヘカラサルナリ、

異論者曰ク右ノ如キハ全ク杞憂ニ過キサルヘシ、實際ニ於テ斯ル事アルヘキノ謂レナシト、予之ニ答ヘテ言ハン、予ノ言フ所全ク架空ノ想像說ニアラサルナリ、予ト雖モ斯ル事アランヲ欲スルモノニアラス、然レトモ事實ハ事實トシテ記載セサルヘカラス、面白カラストテ之ヲ打チ消スヘキモノニアラス、若シ予カ前ニ述ヘタルカ如ク結核病、窒扶私、猩紅熱、實布埜里亞等ノ病毒カ牛乳ノ媒介ニ依リテ他ニ傳播スルコト極メテ稀レナリトセンカ、好シ之レアリトスルモ極メテ稀レナルカ故ニ、世人其害毒ヲ知ラサル程ナリトセンカ、果シテ實際然ランニハ予ハ歡ンテ斯ル忌ハシキ寒心スヘキ病毒傳播ノ記事ヲ廢スヘキナリ、然レトモ如何セン實際ノ有様然ラサル所アルヲ、故ニ予ハ今マ牛乳中ニ含有セル病原菌ノ危險ナルコトハ、

決シテ輕々ニ看過スヘキモノニアラス、是レ實證ニ照シテ復タ疑フヘキ所アラス、今マ此等ノ實證ニ對シテ深キ注意ヲ拂ハンハ差シ當リ重要ナリト云フヘキナリ、

牛乳カ病毒傳播ノ媒介トナルコトニ就テ尙ホ論述スヘキ事アリ、然レトモ此事ヲ論述スルニ先ンシテ讀者諸君ニ誠告セント欲スルコトアリ、既ニ前述シタルカ如ク牛乳中ニ無數ノ細菌ヲ含有スルコトニ就テ、讀者諸君ノ中ニ不必要ナル恐慌ヲ來スモノアランモ測ルヘカラス、讀者諸君ノ爲メニ此不必要ナル恐慌ヲ豫防セント欲スルコト是レナリ、通常一般ノ讀者ニ於テハ細菌ノ一語ヲ聞カル、ト均シク直チニ疾病ト云フ觀念繼發スヘシ、斯ル觀念ハ前述シタル統計表ヲ誤視スルノ基ヒトナルヘキモノナリ、純良ナラス病毒ニ感染シタル牛乳ノ危險ノ度合ヲ尙ホ一層甚ハタシク思ハシムルモノナリ、請フ是レヨリ其觀念ノ誤謬ナル所以ヲ述ヘント欲ス、

今マ其レ牛乳中ニ含有セル細菌ハ皆ナ是レ危險ナリト云フヲ得サルナリ、實際危險ナルハ僅カニ其中ノ一小部分ニ過キササルナリ、否ラズシハ僅カニ「コールド」ノ牛乳モ尙ホ善ク一國人民ヲ勦絶スルニ足ルヘキナリ、今マ吾人ノ市府ニ於テ嬰兒ノ食料トシテ販賣セラル、所ノ牛乳中ニハ、最モ惡シモ下水中ニ含有セル細菌ヨリ尙ホ一層多數ノ細菌ヲ含有セリト云ハンカ、此意義ハ決シテ左ノ如ク解釋セラルヘキモノニアラス、曰ク下水ハ之ヲ牛乳ニ比スルニ一層優レルモノナリ、即チ嬰兒ニ取リテ危險ノ度合一層少ナキモノナリ、之ヲ復言スレハ牛乳ノ害ハ下水ヨリ一層甚ハタシキモノナリト、斯ル解釋ハ全然虛偽ニシテ誤謬ナリト云ハサルヘカラス、下水中ニ含有セル細菌ハ牛乳ヨリモ一層少ナキカ故ニ、從ツテ其害モ一層少ナカ

ルヘシト断定スルハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラス、決シテ眞理ニ適シタルモノニアラス、蓋シ此等ノ二者ノ中ニ含有セル細菌ノ種類異ナル所アレハナリ、勿論右ノ如キ牛乳ハ下水ト均シク不潔汚穢ナリト雖モ、其危険ナルコト必ラスシモ同一ナルモノニアラス、

今マ其レ牛乳中ニハ吾人カ乾酪及牛酪ヲ製造スルニ必要ナル細菌ヲ有シ居ルニモ拘ラス、牛乳ヲ飲料トシテ用フル場合ニ於テ、此等ノ細菌カ却ツテ害トナルハ果シテ何故ナルカトノ疑問起ラスンハアラス、又タ左ノ如キコトモ確カナル事實ト謂フヘキナリ、曰ク牛乳中ニ含有セル細菌數多ナルモ成人ニ取リテハ全ク其害之レナキニ、之ヲ嬰兒幼童ニ給シタランニハ、有毒トナリテ其腸ヲ害シ下痢症ヲ惹キ起スコトハ珍ラシカラサルナリ、既ニ此事實アルヨリ牛乳ノ一立方「センチメートル」毎ニ最多數ノ細菌幾干ナルヤヲ確定セシカ爲メニ種々ノ計畫ヲ爲スニ至レリ、而シテ其最多數ノ定數ヲ踏ヘタランニハ危険アリ又死アリト知ルヘシ、故ニ細菌ノ數此定數ニ踰ヘタル牛乳ハ決シテ嬰兒ニ與フヘカラス、此事ニ就テペーリング博士ハ説ヲ爲シテ曰ク牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ一千個以上ノ細菌ヲ含有スルモノハ、幼童嬰兒ノ餌食ニ適セサルモノナリト、然レトモ多數ノ立證家ハ左ノ如キ説ニ對シテハ毫モ異論ナク一致合同セスンハアラス、曰クペーリング博士ノ説ハ純良ナル牛乳ノ標準トシテ理想上嘉ミスヘキモノナリト雖モ、實際ニ適セサルモノト謂ツヘキナリ、將來數年間ヲ通シテ大袈裟ニ細菌ノ極メテ少ナキ牛乳ヲ多量ニ得ンコトハ到底望ムヘカラサルナリ、之ヲ換言スレハペーリング博士ノ所謂ル幼童嬰兒ニ適當ナル牛乳ヲ得ンコトハ極メテ困難ナリト謂ツヘキナリ、然レトモ細菌ヲ含有スルコト一層少ナキ牛乳ノ得ラレタルケ所モ亦少ナカ

ラス、中ニ就テ紐育ノローチエスターノ如キハ最モ其著シキモノナリ、既ニ前段ニモ述ヘタル如ク巴里博覽會へ出品セラレタル牛乳ノ如キハ、ペーリング博士ノ所謂ル標準點以內ノモノナリシナリ、此標準點以內ノ牛乳時ニ或ハ實驗上得ラレサルニアラス、予ハ躬カラ確乎トシテ左ノ如キ説ヲ抱ケルモノナリ、曰ク牛乳事業ノ設備計畫全ク學理上ニ基キテ其宜シキヲ得タランニハ、此標準以內ノ牛乳ヲ得ンコトハ亦タ疑フヘカラサルナリ、然レトモ廣ク一般ニ斯ル牛乳ヲ得セシメンコトハ、決シテ容易ノ業ニアラサルヘシ、試ミニ今日行ハレ居ル所ノ牛乳事業ノ實況如何ヲ見ヨ、此業ニ従事スルモノ、大多數ハ衛生學ノ初步ノ何モノタルタニ知ラサルモノナリ、斯ル有様ニテハ彼ノ標準以內ノ牛乳ヲ得ンコトハ容易ニ望ミ得ヘカラサルナリ、

茲ニ保險牛乳ノ必要ナルコトヲ論スルモノアリ、蓋シ保險牛乳トハ爾々ノ牛乳ハ幼童嬰兒ノ食料トシテ決シテ害ナキコトヲ保證スルモノ是レナリ、ドクトル、チャピン、ドクトル、コイトノ兩氏ハ保險牛乳ヲ主張スル論者中ノ代表者トモ謂ツヘキモノナルカ、此等ノ論者中ノ主張スル所ニ據レハ牛乳一立方「センチメートル」毎ニ一萬乃至三萬ノ細菌ヲ有スルモノハ、嬰兒ノ餌食トシテ差シ支ヘナシト云ヘリ、此標準點ハ彼ノペーリング博士ノ標準點ニ踰ユルコト甚ハタ遠シト雖モ、此等ノ標準點ニシテ果シテ何タル害ナシトセシカ、是レ世界ノ牛乳事業ニ一大變動ヲ來スモノト云ハサルヘカラス、而シテ試ミニ此等ノ標準ヲ取ツテ以テ米國ニ行ハル、所ノ標準トヲ比較シ見ヨ、米國ノ市邑悉ク皆ナ然リト云フニアラサレトモ、其市邑中ノ僅カニ數者ハ牛乳ノ標準ヲ定ムルニ單ニ細菌ノ數ノミヲ以テセス、脂肪成分ヲモ算入スルコト、セリ、

是レ其標準ヲ定ムルノ方法ハ一步進ミタルモノト云フヘキナリ、斯ル米國ノ標準ト前ニ越ヘタル標準トヲ比較シ、次ニ之ヲ復タ世界ノ最モ大ナル市邑ニ行ハル、牛乳ノ標準點ト比較シ見ヨ、斯ル對照比較ハ趣味アリ且ツ價值ナクンハアラス、

ボストン府ハ牛乳改良ノ先驅者ナリトテ自カラ大ニ誇リ居レリ、即チ牛乳ニ關スル細菌的標準點ヲ定メ紐育カ此例ニ倣ハサリシトテ痛ク之ヲ非難セリ、紐育ハ牛乳ニ就テ細菌的試驗ヲ爲サス、尙ホ牛乳中ニ水ヲ混和スルノ舊弊ヲ脱セス、然レトモ汚物ヲ混和シ病原菌ヲ混和スルカ如キ不當ナキコトヲセス、脂肪分極メテ少ナキ牛乳ヲ賣ルモ、膿汁及汚物ヲ混和シタルモノヲ賣ラス、斯クノ如キハ紐育カ他ニ對シテ恥辱トスル所ニアラスヤト云フモノアランカ、予ハ之ニ對シテ同意シテ然リト云ハンノミ、然レトモボストンカ自カラ誇ル所ノ純良ナル牛乳ノ標準點ハ果シテ何ノ邊ニカアル、之ヲ紐育ノ恥辱トスル所ニ比較シテ遜色ナキカ、尙ホ一層甚ハタシキ恥辱ニハアラサルカ、予ハ今マ其事實ヲ掲ケテ其判定ヲ讀者諸君ニ乞ハント欲ス、蓋シボストンノ牛乳ノ標準點ハ表面甚ハタ清潔ナルカ如シト雖モ、其裏面ニ至リテハ不潔汚穢ニシテ危險ナリト云ハサルヘカラス、即チボストンニ於テハ牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ五十萬以上ノ細菌アラサレハ以テ危險ト爲サルコト是レナリ、是レ取リモ直サス標準點ト謂ツヘキモノナリ、之ヲ換言スレハ左ノ如クナランノミ、曰クボストンニ於テ清潔純良ナリト云ヘル牛乳中ニ含有セル細菌ハ、ベリリング博士ノ所謂ル嬰兒ノ餌食ト爲スニ足ルヘキ標準點ニ比スレハ五百倍ノ多キニ上リ、又タ保險牛乳論者ノ標準點ニ比スルモ尙ホ且ツ十五倍ノ多キニ上レリト云フヘキナリ、

ケムブリッヂ及ブラックトン、共ニマッサチウセツト州ノ市邑ナルカ、其牛乳ハボストンノ標準點ヲ取レリ、即チ牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ五十萬ノ細菌ヲ有スルモノヲ以テ其標準點トナセルコト是レナリ、然レトモミルウォーキーハ右ノ半數即チ二十五萬ノ細菌ヲ有スルモノヲ以テ其標準點トナセリ、此ニ於テカ予ハ此等ノ標準ヲ辯護センカ爲メニ生スル所ノ議論如何ヲ善ク知レリ、其辯護說ニ曰ク斯ル標準點ヲ設クシヨリ満足スヘキ好結果ヲ得タリシナリ、最モ顯著ナル結果ヲ見サルモ少ナクモ牛乳事業中ニ幾分か改良スル所ナクンハアラサルナリト、此等ノ辯護說ニ對シテ充分重キヲ篤ト熟考シタルニ、終リ左記ノ如キ結論ニ達シタリ、曰ク牛乳ニ關シテ細菌的標準點ヲ定メシハ、純良ナランヨリ寧ロ不潔ヲ示シ、安全ナランヨリ寧ロ危險ヲ生スルカ如キ害アリテ、更ニ好結果アリシコトナシ、今マ茲ニ一ノ市邑アリ、甚ハタシキ細菌的標準ヲ用ヒタリトセンカ、其害殊ニ甚ハタシト云ハサルヘカラス、是レ他ナシ良民カ此標準ヲ信シテ其純良ニシテ安全ナルヲ疑ハスト雖モ、其實際ニ當リテ害アルヲ免カレサレハナリ、且ツ此際ボストン及其他ノ箇所ノ如キ標準點ハ却ツテ之レナキヲ予ハ望マンノミ、予ノ今マ云フ所ハ決シテ荒唐無稽ノ言ニアラス、實際ニ照ラシテ最モ明カナル事實ナリ、曰クボストン人ハ之ヲ紐育人ニ比スレハ概シテ純良ナル牛乳ヲ得ンコト一層困難ナリト謂ツヘキナリ、是レ他ナシ、ボストン人ハ牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ五十萬ノ細菌ヲ含有スルモノヲ標準點トナシテ、毫モ疑フ所ナク安全心謳歌スルノ惡弊ニ陥リタレハナリ、

英國ニハ「英國國民衛生協會」ナルモノアリ、其會員ノ多數ハ大英國中ニテ重モ立チタル醫師ヨリ成レルモ

ノナリ、而シテ此衛生協會ハ一千九百六年十二月倫敦ナル大學校内ニ於テ會議ヲ開設シタリ、當時其會長席ニ就キテ會議整理ノ任ニ當リシハフレデリック、トレヴェス氏ナリシカ、其會議ニ於テ左ノ如キコトカ報告サレタリ、世界ノ重モナル市邑中ノ數者ニ於テ行ハル、牛乳供給ノ實況調査ノ結果ニ係ル報告是レナリ、今マ其報告書中ノ重モナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ、曰ク倫敦ノ牛乳ノ最良ナル牛乳、即チ大市場ニテ購入セラルヘキ牛乳中ノ最良ナルモノニ就テ之ヲ言ハンニ、此等ノ牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ平均三百萬ノ細菌ヲ含有シタリ、ミウニッチノ農家ニ於テ新タニ搾リタル儘ノ牛乳ヲ試驗シタルニ一立方「センチメートル」ニ就テ平均二十萬ノ細菌ヲ含有セルニ過キサリシモ、此牛乳ニシテ小賣商人ノ手ニ渡リタル場合ニハ、其細菌増殖シテ六百萬ノ多キニ達シタリ。アムステルダムニ於ル新タニ搾リ得タル牛乳ヲ試驗シタルニ、同シク二百五十萬ノ細菌ナリシモノ、其後十時間ヲ經テ小賣商人ノ手ニ達シタル場合ニハ尙ホ増加シテ一萬トナリタリ。オッソーノ農家ニ於テ新タニ搾リタル儘ノ牛乳ハ、一立方「センチメートル」ニ就テ一萬乃至二萬ノ細菌ニ過キサリシモ、此牛乳ヲ商人ノ手ヨリ購入スル場合ニハ、其細菌繁殖シテ四百萬ノ多キニ達シタリ。紐育市ノアーレン街ナル某雜貨商店ヨリ十三日間引續キテ毎日若干ツ、ノ牛乳ヲ購入シテ之ヲ試驗シタルニ、其結果ハ實ニ驚異スルノ外ナキナリ、即チ一立方「センチメートル」ニ就テ平均一億三千二百二十三萬三千ノ細菌ヲ見出シタルコト是レナリ。斯ク無數ノ細菌ヲ有スル牛乳ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルノ食料ト爲セリ、牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ一十ノ細菌ヲ含有スルヲ以テ安全ニ嬰兒ノ食料ト爲スニ足ルヘキ標準點ト爲シタルハ、立證家中ノ一人ノ說ニアラスヤ、然ルニ一億以上

ノ細菌ヲ含有セル牛乳ヲ嬰兒ノ食料ト爲スニ至リテハ、其レ之ヲ何トカ云ハン、

第七節

極メテ少數ノ細菌ヲ含有セル牛乳ニシテ、非常ニ多數ノ細菌ヲ含有セル牛乳ヨリ尙ホ一層甚ハタシキ危險ナル事アルハ、事實ノ證明スル所ニシテ復タ疑フヘカラサルナリ、幾百萬ノ細菌アルモ其内ニ僅カニ一個ノ病原菌タモ有セサルコトアリ、之ニ反シテ僅々タル細菌中ニモ病原トナルヘキ危險ノモノナクンハアラス、然レトモ牛乳ニ僅カニ一個ノ細菌アルノミニシテ、其一個ノ細菌カ結核菌ノ如ク生命ニ關スル程ノ危險物タランコトハ、實際ニアリ得ヘカラサルコトナリ、之ニ反シテ幾百萬ト限リナキ細菌中ニ僅カニ一個ノ有害ナル細菌アランコトモ亦タ是レ實際ニアリ得ヘカラサルナリ、此等ノ事柄ハ如何ニ考フルモ實際ニアリ得ヘキモノニアラス、又實驗上曾テ斯ルコトアル事ナカリキ、

最モ惡質ナル病原菌ノ多數カ人ノ消化部内ニ入り込ムモ、何タル害ヲモ與ヘサルコトハ珍ラシカラサルナリ、是レ恰カモ吾人カ甚ハタ惡シキ病毒ニ感染サレタル空氣ヲ呼吸スルノ際、時トシテハ細菌ノ幾百萬ヲ吸收スルモ、更ニ何タル害モ受ケサルカ如シ、今マ其レ消化部ニ何等カノ障害アリ、元氣稍ヤ衰ヘ、腸内ニ多少ノ違和ヲ生シ、其他身體何トナク衰弱シタル等ノコトアランカ、此等ハ皆ナ是レ病毒ニ感染シ易キ動機ト云フヘキモノナリ、吾人ノ體軀中ニハ病毒感染ノ危險ヲ防禦スヘキ機關自カラ備ハリ居レリト雖モ、出來得ヘクンハ人カヲ以テ此危險ヲ避クルノ方法ヲ講センコトヲ要ス、开ハ兔ニ角牛乳中ニハ細菌ノ數出來得ヘキ丈ケ僅少ナラシムルコト最モ緊要ナリト云ハサルヘカラス、是レ他ナシ細菌多數ナレハ、從ツテ

病原菌ニ感染シ易ケレハナリ、

九二二

往右ノヘブ、ウ人ハ今日行ハル、カ如キ細菌學ノ何モノタルヲ知ラサリシト雖モ、不良ナル牛乳ノ危険ナルコトハ尙ホ善ク之ヲ知り居タリシナリ、當時猶太ノ法律ヲ以テ定メタル牛乳ノ保存法及用法ヲ觀レハ、牛乳衛生ニ關スル智識ノ大ニ發達シタルヲ推知スルニ足ルヘキナリ、其智識ノ發達シタル度合ハ、今日ノ人民概シテ及ハサル所ナラン、猶太ノ一般ノ法律ニテハ凡ソ生動物ヨリ生スル或ル物ハ之ヲ食スルコトヲ禁シタリシカ、牛乳飲用ノ事ハ例外トシテ之ヲ許可シタリ、是レ牛乳ノ食料ト爲スニ足ルヘキヲ認識シタルニ歸セスンハアラス、又猶太人ハ法律ヲ以テ一見以テ痛苦ニ罹レルヲ知ルニ足ルヘキ牝牛ヨリ得タル乳汁ハ之ヲ飲用スルコト嚴禁シタリ、數千年前ノ往時ニアリテ尙ホ且ツ斯ル良法アリ、以テ其用意ノ周到ナリシヲ想像スルニ足ルヘシ、尙ホ其他牛乳ニ關シテ用意ノ周到ナリシヲ證スル足ルヘキ事實アリ、曰ク猶太人ニアラサルモノヨリ買ヒ受ケタル牛乳ハ之ヲ飲用スルコトヲ嚴禁シタリ、猶太人ノ飲用スヘキ牛乳ハ猶太人自カラ搾取シタルモノカ、或ハ猶太人ノ監督ノ下ニ搾取シタルモノニ限りタリ、牛乳ハ他ヨリ不潔汚染ヲ受ケ易キ七食品ノ一タリ、其他容器ニ蓋ヲセシテ一夜ヲ經過セシメタルモノハ、之ヲ飲用スルコトヲ許サ、ル飲料三種アリ、牛乳ハ其三種ノ一タリ、蓋シ其飲用ヲ許サ、ルハ夜間蛇其毒ヲ飲料ニ注キ込ムコトアレハナリトソ、牛乳飲用ニ關スル猶太人ノ法律習慣ハ今日牛乳ニ關スル學說上ノ要求スル所ト全ク一致符合スルモノト云フヘキナリ、吾人ハ此等ノ事ニ關シテ猶太人ノ智恵ト經驗ニ負フ所多シト云ツヘキナリ、

第五章

牛乳中ニ含有セル疾病ノ事

第一節

人類ヲ襲攻撃スル所ノ疾病一ニシテ足ラス、而シテ牛乳カ往々此等ノ疾病ヲ傳播蔓延セシムルノ媒介トナルコトハ、病理學上既ニ疑フヘカラサル事實ナリ、幼童嬰兒ノ消化部ニ違和ヲ生シ從ツテ下痢症ニ罹リ之カ爲メニ年々斃ル、モノ實ニ驚クヘキ大數ニ上レリ、是レ他ニ原因アルヘシト雖モ、不良牛乳之カ原因トナルコト多キニ居ラスンハアラス、加之特種ノ疾病ノ獸類ヨリ人類ニ傳播シ、又タ人ヨリ人ニ蔓延スルコト獸類ノ乳汁之カ媒介トナルコト居多ナリトス、猩紅熱、實布埜里亞、麻疹、窒扶斯等ノ蔓延ハ直接ニ牛乳ニ歸因シ、且ツ今日ハ結核病モ亦タ同一ノ原因ニテ傳播セラル、モノナリト一般ニ信セラル、ニ至レリ、

ロベルト、エム、ハートレー氏ハ『紐育貧民情態改良協會』創設者ノ一人ニシテ、今ヲ距ル六十五年前ニ於テ一書ヲ著ハシ名ケテ『牝牛及製乳所』ト云フ、此書ハ主トシテ病毒ニ感染セラレタル不良牛乳ト、非常ニ多數ナル幼兒死亡比例トノ關係トヲ叙述シタルモノナリキ、斯クテ此書ハ其後長年月ニ亘リタル不良牛乳征討軍ノ戰爭中軍人ノ六韜三略トシテ重ンセラレタリシカ、一千八百六十四年ニ至リテ其戰爭頂點ニ達シ、終ニ州ノ法律ヲ以テ牛乳取締規則ナルモノヲ制定スルニ至リタリ、是レ牛乳問題ニ關シテ公衆一般ノ心ヲ聳動シタル第一着手ト云ツヘキモノナリ、彼ノハートレー氏ハ借家住居ヲ爲セル下層人民ノ嬰兒ノ死亡比

九二三

例驚クヘキ多數ナルコトヲ知リテ、何トカシテ之ヲ救済スルノ方法ナキヤト頻リニ腐心シタリシ、斯クテ同氏ハ州内ニ於ル幼児ノ死亡比例數ト牝牛ノ牧養法トノ關係ヲ研究調査スル所アリシカ、其結果トシテ牝牛ノ棲息スル所ノ小屋ハ其設備甚ハタ不完全ニシテ、衛生ニ適セス、且ツ蒸溜所ヨリ出ル渣滓ヲ其飼料ニ充テラル、コトヲ見出シタリ、此ニ於テカ氏ハ以爲ラク斯ル小屋ニ棲息シスル飼料ヲ給セラレタル牝牛ヨリ果シテ如何ノ乳汁カ得ラルヘキカ得テ想像スヘキノミ、氏ハ又タ曾テ或ル箇所ニ於テ一ノ牛小屋ヲ見タリ、其小屋ハ低ク平タキ建物ニシテ左マテ廣大ナラサルニ乳牛五百頭ヲ收容セリ、其牛ノ互ニ密接スルノ甚ハタシキコト想ヒ見ルヘク、且ツ其食料ハ蒸溜罐ヨリ取り出サレタルモノニシテ、熱氣尙ホ未タ消散セサリシモノナリ、斯ル牝牛ヨリ果シテ如何ノ乳汁カ得ラルヘキ云ハスシテ知ルヘキノミ、蒸溜者ハ其製乳所ニ於テ製出シタル乳汁ヲ以テ其家族ノ生命ヲ危フスルノ愚ヲ學ハサルナリ、然レトモ借家住居ニ於ケル二萬五千ノ嬰兒ハ斯ル牛乳ノ養育ヲ受ケ居レルナリ、

斯クテハートレー氏ハ此等ノ事ニ關シテ研究調査ニ取り掛レリ、此時嬰兒ノ死亡比例ハ恐ルヘキ程高カリシナリ、縱令ヘ外國ノ市邑ニ於ル嬰兒ノ死亡比例ハ減少セリト雖モ、此國ノ嬰兒ノ死亡比例ハ若干年間ニ増加シ居レルナリ、而シテ嬰兒死亡比例ノ増加セル期間ハ、蒸溜所ノ渣滓ヲ以テ牝牛ヲ飼養スルノ度合増加スル割合ト併行一致スルモノナルヤ如何、是レ氏ノ研究調査スル所ノ要點タリ、ハートレー氏ハ眞個ノ學理研究の精神ヲ以テ蒸溜所ノ渣滓ヲ以テ飼養サレタル牝牛ノ乳汁ヲ分析セシニ、其渣滓ハ食料ト爲スニ足ルヘキ價値ヲ有セサルコトヲ見出シタリ、斯クテ氏ハ二十三年ノ久シキ間不良牛乳征討軍ノ戰闘ヲ續ケシカ、終ニ一千八百六十四年ニ至リテ勝利ヲ得タリシナリ、斯ク氏カ大勝利ヲ得タリシヨリ四十年以上ヲ經過シタル今日ト雖モ、尙ホ且ツ吾人ハ牛乳問題ノ研究ニ從事シ居レリ、然ルニ其結果尙ホ未タ好カラサルナリ、故ニ吾人ハ此牛乳問題ニ關シテハートレー氏ノ如キ勇氣、智慮、耐忍及熱心ヲ有スルモノ多ランコトヲ切望シテ止マサルナリ、

第二節

人類ニ災害ヲ與フル所ノ諸疾病中最モ危險ナルモノハ結核病一名「大白ベスト」是レナリ、今マ世界ヲ通シテ毎年此病ノ爲メニ斃ル、モノ百九萬五千人ノ多キニ達セリ、即チ毎一日ニ就キ三千人每一分ニ就キ二人ノ割合ニテ死亡セルモノ是レナリ、或ル保險會社ノ支配人フレリック、エル、ホッフマン氏ノ調査ニ據レハ、北米合衆國ニ於テ年々此病ノ爲メニ死スルモノ十五萬人ノ多キニ及ヘリ、而シテ此等ノ死亡者ノ年齢ヲ平均スレハ三十五歳ニ當レリ、又此等ノ各死亡者ノ年齢ヲ三十二歳ト見積リテ、年々年齢ノ損亡ヲ積算スレハ四百八十年ノ損亡トナルヘシ、單ニ合衆國ノミニシテ此結核病ノ爲メニ斃レタル者ノ生産力ヲ金圓ニ見積リテ、年々ノ損亡高ヲ積算スレハ二億四千萬弗ヲ下ラサルヘシ、毎年實布埜里亞、格魯布、百日咳、猩紅熱、麻疹、窒扶斯熱ニテ死亡シタルモノ、總計ト老幼ヲ問ハス結核病ニ斃レタル數ト互ニ匹敵スヘキナリ、其莫大ナルコト推知スヘキノミ、此ニ於テカ結核病ハ社會ノ大問題タラスンハアラス、近年ニ至リ此大問題ニ對シテ注意ヲ拂フコト益々深ク且ツ密ニナリ行ケルハ、亦タ喜フヘキ現象ト云フヘキナリ、今ヨリ僅カ數年前マテハ此大問題ヲ忽カセニシテ顧リミス、即チ結核病ノ暴威ヲ防遏センカ爲メ

ニ社會的行動ヲ取リタルコトアラサリシカ、輒近ニ至リテハ然ラス各文明國ハ結核病研究ヲ專務トセル機關ヲ設備シ、之ニ關スル報告書ヲ廣布シ、適當ナル警戒ヲ加ヘテ之ヲ避クル所以ノ途ヲ人民ニ訓諭シ、結核病ニ罹リタルモノ、治療法、之カ救療的設備ノ維持法等ヲ夫々講究セサルハナシ、又タ我米國及歐羅巴諸國ハ共ニ是レ結核菌傳播ノ徑路如何等ニ關シテ格段ナル注意ヲ拂ヒタリ、中ニ就テ此病毒蔓延ノ媒介中ノ或ルモノ、即チ所嫌ハス濫リニ唾棄スルコトハ各國トモニ法律ヲ以テ之ヲ禁止スルニ至リタリ、結核病ハ其病原菌呼吸作用ニテ胃中ニ入り來ルカ、或ハ接種法ニ依リテ發生スルモノナリトハ、古來久シク唱道サレタル說ナリシ、然レトモ牛乳カスル病毒ノ蔓延ノ媒介トナルコトハ、僅カニ近コロ人ノ注意ヲ惹クニ至リタルノミ、今マ茲ニ結核病ニ罹レル牝牛アリ、其牝牛ヨリ得タル乳汁ヲ飲ミタルカ爲メ、老少ヲ問ハス其結核菌ニ感染シタルモノ多キハ、近代ノ病理學上最モ善ク證明セラレタル事實中ノ一タリ、然レトモ之カ爲メニ如何ニ多クノ幼兒カ犠牲トナレルカハ、僅カニ目今認識セラレタルニ過キササルノミ、保守主義ノ立證家ヤコビー氏ノ說ニ曰ク、結核病ニ罹レル牝牛ヨリ得タル乳汁ヲ以テ養ハレタル幼兒ノ結核病ニ罹リ易キハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリト、ペーリング博士ノ說ハ是レヨリ尙ホ一步進ミタルモノナリ、曰ク幼兒ノ食料タル牛乳ハ傳染病感染ノ重モナル原因ナリト、

保守主義論者ノ說ニ曰クマルバードノ有名ナル教師ペーリング博士ノ說ハ餘リニ極端ニ馳スルモノト云ハサルヘカラスト保守主義論者ノ說ハ其當ヲ得タルモノト謂フヘキナリ、然レトモ時弊ヲ救治セント欲スル氣象ノ勝チタルペーリング博士ノ如キニ至リテハ斯ル奇矯ノ說ヲ立ツルハ珍ラシカラスト謂ハサルヘカラ

ス、嬰兒養育ノ食料タル牛乳ハ結核病ノ重モナル原因ナリト明言スルハ、ペーリング博士ノ誤解ナルコト亦タ疑フヘガラサルナリ、然レトモ世界ノ重モナル病理學者ノ大半ハ、左ノ如キ說ニ對シテハ一致同意シテ更ニ異論ナキ所ナリ、曰ク牛乳ハ疾病傳染ノ原因中ノ一ナリ、尙ホ主要ノ一原因トシテ人ノ當ニ注意ヲ要スヘキ所ナリト、又タ曾テ英國皇立結核病調査委員會ナルモノカ組織セラレタリ、此委員會設立ノ主意ハ「結核病ニ罹レル動物ヨリ出テタル食料ハ人類ノ健康上ニ如何ナル影響ヲ及ホスカ」ヲ調査スルニアリ、而シテ其會員ハ最モ有名ナル醫師及生理學者ト最モ拔ンテタル獸醫學者ノ一人トヨリ組織セラレタルモノナリ、斯クテ此委員會中ノ數多ノ老練家カ實驗ニ實驗ヲ重ネタリシカ、一千八百九十五年ニ至リテ其實驗ノ成績ヲ報告スルニ至リタリ、其成績ハ概シテ同一ニ出テサルハナカリシ、曰ク人類ヲ襲撃スル所ノ結核病ノ善ク知ラレ得ヘキ部分ハ其食物ヨリ來リ、其食物ヨリ來レル結核病ノ最多數ハ結核菌ヲ含有セル牛乳ヨリ來レルモノナリ、

尙ホ此外ニ英國皇立委員會ナルモノ、設立セラレタルアリ、此委員會ノ設立セラレタル主意ハ「結核病ニ罹レル動物ノ肉及乳汁ヲ食料トシテ用ヒタル場合ニ於ル人類ノ危險如何」ヲ研究調査スルニアリシカ、其研究調査ノ結果ヲ一千八百九十八年ニ至リテ報告スルコト、ナレリ、而シテ其結果ハ前ニ掲ケタル委員會ノ結果ト同一ナリシナリ、又タ一千九百一年ノ設立ニ係ル皇立委員會ノ主意ハ、人類ノ結核病ト動物ノ結核病トノ關係如何ヲ研究調査スルアリシカ、其結果トシテ左ノ如キ成績ヲ得タリ、曰ク牛ノ結核病ハ人類ニ傳染シ得ヘキ事、人類ヲ襲フ所ノ結核病ト牛及其他ノ動物ヲ惱ス所ノ結核病トノ間ニ著シキ差アラサル

コト是レナリ、

ドクトル、ナコビー氏ハ結核病ニ罹レル動物ヨリ得タル乳汁ハ、病毒傳播ノ媒介タルヘキ事ヲ主張シ、其實例トシテ巴里ノドクトル、オリヴハー氏ノ記述シタル事實ヲ引用シタリ、曰ク巴里ノ寄宿學校ノ女生徒十三名結核病ニ罹リテ内六名ハ死亡シタリ、其發病ノ原因ニ就テ調査ヲ遂ケタリシニ、乳房ノ邊痛ク結核病ニ侵サレタル牝牛ノ乳汁ヲ飲ミタルニ基ツケルコトヲ見出シタリ、ヤコビー氏ハ尙ホ其他ノ實例トシテ獸醫解剖學ノ大家ジョン氏ノ記述シタル事實ヲ引用シタリ、曰ク生レテ二歳六ヶ月ノ一幼女結核病ニ罹リテ死亡シタリ、其發病ノ原因如何ヲ取り調ヘタリシニ、其父ハ一農夫ニシテ曾テ外貌殊ニ雄大ナル牝牛ヲ擇ンテ其乳汁ヲ搾取シ以テ其幼女ヲ養ヒタリシカ、後其牝牛ノ結核病ニ罹リ居ルコトヲ見出シタリ、然レトモ事既ニ晚シ、此時幼兒最早ヤ身マカリ居タリ、

第三節

前段ニ於テ述ヘタル實證ハ其數甚タ多シ、尙ホ必要アランニハ斯ル實證ハ際限ナキマテ多ク列記スルコトヲ得ヘキナリ、然レトモ尙ホ反對論ヲ唱フル人少ナカラサルナリ、而シテ此等ノ反對論者ハ決シテ無能力者ニアラス、此人々ノ所説ハ世ニ出ル毎ニ衆人ニ尊重セラレサルハナカリシ程ナリ、其反對論ニ曰ク結核病ニ侵サレタル動物ヨリ得タル肉若クハ乳汁カ自カラ媒介トナリテ他ニ其病毒ヲ傳染セシムヘキモノニアラス、抑モ家畜ニ起ル所ノ疾病ト人類ニ生スル所ノ疾病トハ全ク同一ノモノニアラス、其間大ナル差ナクシハアラス、故ニ牝牛ニ感染スル所ノ結核菌ハ以テ人類ニ感染スルコトナク、之ヲ反對ヨリ云フモ亦タ然

リ結核菌ノ發明ニ就テハ世界カコッホ博士ニ永ク負フ所ナクシハアラス、コッホ博士ハ斯道立證家ノ泰斗ト云フヘキナリ、右ノ所説ハ此コッホ博士ノ熱心ニ保護スル所トナレリ、斯ク名聲高大ナルコッホ博士ノ保護アルヨリ此説一時流行セシモ、全ク一時ニ留マリテ數多ノ攻究實驗ヨリ終ニ全ク世人ノ信用ヲ隕スニ至レリ、

一千八百九十六年ヨリ以前ハ左ノ如キ說事實トシテ普ネク一般ニ承認セラレタリシナリ、曰ク疾病ハ人類ヨリ下等動物ニ傳染シ、復タ下等動物ヨリ人類ニ傳染スルモノナリト、既ニ數世紀前ニアリテ聖書ニ基ツケル賢明ナル傳教師ハ、人類ト獸類トハ其疾苦ニ於テ互ニ密接ノ關係ヲ有スルコトヲ説イテ云ヘリ、曰ク人ノ子ノ上ニ落ち來ル疾苦ハ均シク獸類ノ上ニモ落ち來ルモノナリ、即チ兩者ヲシテ同一ノ苦難ヲ受ケシムルモノナリ、彼レ死スレハ此レ亦タ死ス、一呼一吸人獸之ヲ共ニセサルハナシ、此等ノ點ニ於テハ人取テ獸類ヨリ超越シタル所アラサルナリト、又タ佛國ノ醫師ウレミン氏ハ一千八百六十五年ニ於テ人類ヨリ取り得タル結核菌ヲ各種ノ動物ニ接種シテ其結果如何ヲ試ミタリシカ、其結果トシテ學理上往古彼ノ傳教師カ宣傳シタリシコトヲ再ヒ反響セシムルニ至レリ、曰ク『人類ハ家畜ト共ニ結核病ヲ永遠ニ遺傳スルノ特質ヲ有ス、實ニ悲シムヘキコトニアラスヤ、』

一千八百九十六年ニ於テ華盛頓府ニ於ル動物工業事務局ノ吏員ドクトル、セオバルド、スミス氏ハ一ノ說ヲ立テ、世人ノ注意ヲ惹起シタリ、曰ク人類ノ結核菌ト牛ノ結核菌トハ決シテ同一ノモノニアラス、各各特殊ノ性質ヲ有スルモノニシテ其間ノ差異ハ容易ク識別シ得ヘキモノナリト、此發明說ハ大ニ歐羅巴及

米國ノ人氣ヲ惹キ起シ、從ツテ之ニ關スル研究調査ヲ爲スニ至リタリ、而シテ之カ研究調査ニ從事シタルモノニシテ此等ノ二者ノ間ニ差異アルコトヲ認メサルモノハ殆ント之レナカリシナリ、今マ其研究調査ノ概略ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク有形上二者ノ間ニ差異アルコトヲ示サンカ、人類ノ結核菌ハ細ク長クシテ牛ノ結核菌ハ太ク短キモノナリ、且ツ後者ハ前者ヨリ試験室ニ於テ一層容易ク着色セラル、モノナリ、然シトモ此二者ノ間ニ於ル重モナル差異ハ有形上ニアラスシテ、病理的ナリト知ルヘシ、而シテ或ル動物例之ヘハギユチニ一産ノ豚及普通ノ豚ハ此二結核菌共ニ均シク感染シ易キモノト思ハル、ナリ、然レトモ猿ノ如キ動物ニ至リテハ殆ント常ニ人類ノ結核菌ヨリ牛ノ結核菌ニ感染シ易キモノナリ、茲ニ一ノ動物アリ牛ノ結核菌ニ侵サル、ヨリ一層人類ノ結核菌ニ感染シ易シト云ヘル實例ハ曾テ之レナキナリ、此ニ於テカ牛ノ結核菌ハ之ヲ人類ノ結核菌ニ比スレハ、其有毒ナルコト一層甚ハタシキモノナリトノ結論ニ到着シタルナリ、是レ當ニ米國ノ研究家中最モ錚々タルモノ、意見ノミナラス、英國皇立委員會ノ意見モ亦タ然リ、蓋シ此英國皇立委員會ト云ヘルハ此問題ヲ研究調査スルノ目的ヲ以テ組織セラレタルモノニシテ、之カ會長タルモノハケムフリッヂ大學ノ教授生理學博士ミケール、ホスター氏ナリシ、

右ニ述ヘタルカ如クドクトル、ゼオバルド、スミッス氏ノ發明ニ係ル學說ハ、既ニ結核菌ニ關スル研究調査ノ動機トナリタルカ、尙ホ其他多方面ニ向ツテ重要ニシテ且ツ遠大ナル研究調査ノ導火線トナレリ、中ニ就テコッホ博士ニ與ヘタル感化力程價値アルモノハ曾テ其他ニアラサルヘキナリ、即チコッホ氏ハスミッス氏ノ學說ヲ繼承シテ更ニ結核菌各種ノ比較研究ニ從事シタリシカ、一千九百一年ニ開催セラレタル英國結核會議ニ臨ミテ醫學界ニ一大聳動ヲ與ヘタル一學說ヲ吐キ出シタリ、其學說ノ大要ニ曰ク人類ノ結核病ト動物ノ結核病トハ決シテ同一ノモノニアラス、全ク其性質ヲ異ニセル疾病ト云ハサルヘカラス、人類ノ結核病ハ之ヲ家畜ニ移スコト能ハス、復タ家畜ノ結核病モ之ヲ人類ニ移スコトヲ得サルナリ、即チ人カ結核病ニ罹レル動物ノ肉ヲ食フモ斯ル動物ノ乳汁ヲ飲ムモ、之カ爲メニ決シテ結核病ニ罹ルモノニアラスト、議論風發醫海ニ大波瀾ヲ生セシメタルモノ是レナリ、此英國結核會議ノ閉鎖後幾干モナク此結核問題研究ノ爲メ皇立委員會ナルモノ組織セラル、ニ至リタリ、是レ畢竟スルニ記憶スヘキコッホ氏ノ大演說ノ影響タルニ外ナラス、

第四節

右ニ述ヘタルコッホ博士ノ說ハ一時醫界ヲ聳動セシト雖モ、此學說ノ出テサル以前ニ於テ試験ノ結果反對ノ事實ヲ示シタルモノ之レナリシナリ、即チ各種ノ動物ニ接種法ヲ行フタル結果コッホ博士ノ說ト反對ノ事實ヲ舉ケタルモノ是レナリ、一千八百六十八年ニ於テチャヅェオウ氏ハジュラ山地方（此地方ニ於テハ曾テ家畜ノ結核病ニ罹リタルモノナシ）ヨリ家畜ヲ取り來リテ、人類ヨリ得タル結核菌ヲ之ニ接種シタリシニ、幾干モナクシテ其家畜ハ皆ナ結核病ニ罹リタリ、尋イテ一千八百七十九年ニ於テボーリンガー氏モ亦タ同一ノ試験ヲ爲シ、尙ホ其後ニ於テモ同一ノ試験ヲ爲シタルモノ少ナカラザリシナリ、今マ一括シテ之ヲ約言センカ、病理學上數回ノ試験ヲ通シテ人類ノ結核病ヲ家畜ニ移シ得ヘキ事ニ就テ、恐ラクハヨリ以上ノ實證ヲ得ルコトナカルヘキナリ、コッホ博士ノ驚クヘキ學說世ニ公ニサレシ以來、斯ル接種法ヲ動

物ニ施行シタルノ例少ナカラサリシナリ、人類ノ結核菌ヲ含有スル食物ヲ牝牛及其他ノ動物ニ與ヘテ其結果如何ヲ見シニ皆ナ結核病ニ罹ラサルハナカリシ、此外ベンシルヅハニア衛生局附ノ有名ナル細菌學者ドクトル、マヂアック、ビー、ラヴェネル氏、ドクトル、ゼルマン、スミス、ウードヘッド氏、英國ノマク

フ、ヒアン博士、日耳曼帝國衛生局ノ委員會等ハ皆ナ是レコッホ博士ノ所謂ル不可能ナルコトヲ成シ遂ケタリ、即チ結核病ハ人類ヨリ動物ヘ移シ得ヘク、復タ動物ヨリ人類ヘ移シ得ヘキコトヲ實驗シタリシナリ、斯ル實例尙ホ必要ナランニハ此外幾干ニテモ掲ケ得ヘキナリ、

管ニ右ニ掲ケタル人々カ實驗上人類ノ結核病ヲ家畜ニ移シ得ルコトヲ確カメタルノミナラス、偶然ノ事ヨリシテ同一ノ結果アルコトヲ確知シタルコト數々ナリシナリ、予カ朋友ニドクトル、エッス、エー、ノツブト云ヘルモノアリ、專ラ結核病退治ニ其身ヲ委ネタルモノニシテ、結核病傳染ノコトニ關シテハ有力ナル立證家中ノ先進者ノ一人ナルカ、慈善的主義ヲ以テ創設サレタル肺病患者療養所ノ事ニ就テ曾テ予告ケテ云ヘルコトアリ、曰ク此療養所ニテハ患者ノ咳痰ノ事ニ就テハ左マテ嚴重ノ規定ヲ設ケス、只タ屋內ニ於テ濫リニ咳痰スルコトヲ禁シタルノミ、故ニ患者カ日々療養所外ニ出テ、散歩スルノ際近邊ノ牧場ヲ横切リ行クノ途中何レノ箇所ニテモ遠慮會釋ナク勝手次第ニ咳痰スルヲ常トセリ、又手此牧場ノ所有者ナル農夫某ハ或ル時五頭ノ健全ナル牝牛ヲ他ヨリ買ヒ求メタリシカ、是レヨリ先キ此等ノ牝牛ハ皆ナ是レ結核菌培養ノ試驗用ニ供セラレタルモノナリキ、後幾干モナク此等ノ牝牛ヲ再ヒ前同様ノ試驗ニ供スルコト、ナリシカ、不幸ニモ五頭共ニ結核病ニ感染シタリ、此ニ於テカ其農夫ハ殘ラス之ヲ屠殺シ牛小屋ニ清潔法

ヲ施コシテ消毒シ、且ツ彼ノ療養所ノ患者ヲシテ其所有ナル牧場ヲ散歩セシムルコトヲ差シ止メタリシカ、其結果トシテ其後結核病再ヒ發セサリシナリト、ドクトル、トーマス、ダーリントン氏ハ右ト全ク同一ナル實驗談ヲ話セシコトアリ、ダーリントン氏ハ紐育市ノ衛生委員ニシテ巡回醫員トナリ諸所ヲ巡回セルカ中ニ就テ此巡回先ニ一ノ病院アリ、此病院ハ肺病患者ヲ收容スル所ナルカ、此等ノ患者ハ其病院ノ近傍ナル牧場ニ於テ鐵環投ノ遊戯ヲ爲スコトヲ許サレタリ、此時ニ當リテ此等ノ患者ハ略痰用トシテ唾壺ヲ用ユルコトヲ知ラス、何レノ箇所ニテモ濫リニ咳痰スルヲ常トセリ、而シテ其結果如何ト云フニ此牧場ノ牝牛十頭ノ内九頭マテ結核病ニ罹リタリ、家禽ニ就テ云フモ亦タ同一ノ現象アルモノナリ、即チ家禽カ肺病患者ノ食ヒ餘シノモノヲ食フテ結核病ニ感染シ、又タ健全ナル人カ結核病ニ感染シタル家禽ノ肉ヲ食ヒタルカ爲メ結核病ニ侵サル、コト是レナリ、

今マ假リニ家畜及其他ノ動物カ人類ヨリ斯ル疾病ヲ受ルコト之レアリトセンカ、人類モ亦タ動物ヨリ斯ル疾病ヲ受ルコトナクンハアルヘカラス、是レ天地自然ノ大法ニアラスヤ、然レトモ動物ハ病理的試驗用ニ供セラルヘキモ、人類ハ同様ノ試驗ニ供スルコト能ハサルナリ、然レトモ人類カ偶然ノ事ニテ牛ノ結核菌ヲ接種セラレタランニハ、其結果トシテ危險ニ陥非リタルノ例ハ少ナカラサリシナリ、ラヴェネル氏ハ斯ル實例四回アリシヲ親シク目撃シタルコトヲ證言セリ、中ニ就テ二回ハ氏ノ試驗室ノ業務ニ從事シタル助手ナリシト云フ、同氏ハ又タトローゼ氏ノ記述シタル一例ヲ引證シタリ、即チトローゼ氏ハ牛ノ結核菌ノ人類ニ移サレ得ヘキコトハ疑フヘカラサル事實タルコトヲ實見シタル人ニシテ此事實ハコッホ博士ノ許ヘ通報

シタリト云フ、尙ホ其事實ヲ細言スレハ左ノ如シ、曰ク或ル所ニ年尙ホ若キ屠牛者アリ、其體質壯健ニシテ其血統中ニ結核病ノ遺傳スヘキ痕跡曾テ之レナカリシナリ、然ルニ結核病ニ斃レタル牛ノ死體ヲ取り扱フノ際、此病ニ感染シタルコト是レナリ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ人類カ牛ヨリ接種セラレテ結核病ニ罹ルコトハ、充分ニ根據アル事實ト云ツヘキナリ、

此ニ至リテ吾人ハ左ノ如キ事實ノアリ得ヘキ事ヲ論究セント欲ス、曰ク結核病ニ罹レル動物ノ肉ヲ食ヒ若クハ其乳汁ヲ飲ミタルモノハ結核病ニ罹リ得ヘキモノナリ、又タ茲ニ健全ナル牝牛アリ、人類ヨリ出テタル結核病的物質ヲ含有セル食物ヲ取りタランニハ、其牝牛ノ結核病ニ感染センハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、又タ牛ヨリ出テタル結核病的物質ヲ人類カ取ツテ以テ食料ト爲シタランニハ、均シク是レ結核病ニ感染スヘシト推定スルハ當ニ然ルヘキナリ、但シ之ニ對シテ充分ナル反證擧リタル場合ハ此限ニアラス、斯クノ如キ事ハ好シ積極的實證之レナシトスルモ、實ニ正當ナル推定ト謂ツヘキナリ、況ンヤ積極的實證アルニ於テヲヤ、蓋シセネヅハノ有名ナル醫師ゴッセ氏ニ關スル事實ノ如キハ、最モ好適例ト謂ツヘキナリ、同氏ノ一小女某ハ其所有ニ屬スル耕地ニ於テ牧養セル牝牛ノ乳汁ヲ以テ養ハレタリシカ、終ニ結核病ニ感染シテ死亡シタリ、此ニ於テ氏ハ恩愛ノ情忍ヒ難キ所アルニモ拘ラス、稀有ノ勇氣ヲ呼ヒ起シツ、我子ノ死體ヲ解剖シテ其死因カ何ノ邊ニアリシカヲ探究シタリシカ、其結果トシテ左ノ如キ事實ヲ見出シタリ、曰ク此小女ノ平生食料トナセシ所ノ牛乳ハ乳房ノ邊結核病ニ侵サレタル牝牛ヨリ得タルモノニシテ、是レ其死因ニ外ナラサルコトヲ見出シタリ、又タドクトル、ゼオーデ、エム、コーパー氏ハ牛ノ結核病カ

其乳汁ヲ媒シテ人類ニ傳播シタル實例八十六ヲ表ニシテ示シタルモノアリ、尙ホ前章ニ於テ記述シタル實例トヲ併セ得テ考ヘタランニハ、左ノ如キ事ハ自カラ判然タルヘシ、曰ク牛ノ結核菌カ幼兒ノ胃腸内ニ入りテ活動スルカ爲メ、幼兒ノ斃ル、ニ至レルハ復タ疑フヘカラサル事實トナレリ、

右ニ掲ケタル事實及ヒ同性質ヲ有スル其他ノ事實ハ醫師ノ善ク知ル所ナリト雖モ、平人ニ至リテハ尙ホ善ク知ラサルモノ多キニ居レリ、今マ予カ所論ノ目的トスル所ハ結核病ニ關スル事實ヲ醫師ニ知ラシメント欲スルニアラス、專ラ平人ニ知ラシメント欲スルニアリ、故ニ行文或ハ冗長ニ亘リテ人ヲシテ空シク欠伸セシムルノ恐レナキ能ハス、是レ平人ニ解シ易カラシムルヲ欲セハ勢ヒ然カセサルヲ得ス、然レトモ今ハ以上述ヘ來リタル事實ヨリ必ラス起ルヘキ推定ニ最モ重キヲ置キテ、僅カニ附記スル所アレハ足ランノミ、曰ク牛乳中ニ結核菌ノ存在スルコトハ珍ラシカラサル事實ナリ、又タ牛乳ヲ飲用スル所ノ幼兒ノ消化部局ニ結核菌ヲ見出スコトモ珍ラシカラサルナリ、此ニ由リテ之ヲ觀レハ食料トシテ牛乳ヲ飲用スルコト、肺病ノ蔓延トハ直接ノ關係アルコト知ルヘキノミ、

第五節

右ノ結論ニ據リテ之ヲ考フレハ危險ノ甚ハタシキコト亦タ明ラカナラスヤ、然ルニ予ノ考フル所ヲ以テスレハ、家畜中ニ結核病ノ流行スルコトノ觀念ヲ抱ケルモノ世間幾干カアル、區域ノ甚ハタ狹キ専門家ノ範圍ノ外、斯ル觀念ヲ持テルモノ極メテ少ナカルヘキナリ、統計家中ノ或ル者ハ此結核病ヲ以テ最モ恐ルヘクシテ容易ナラサルコト、セリ、然レトモ予ハ今マ之ニ關シテ統計家ノ爲スカ如キ詳細緻密ナル研究ヲ爲

スノ必要ナキモノト思惟ス、只タ予カ所論ノ目的ヲ達センカ爲メニ、單純ナル表ヲ掲クレハ足ランノミ、ニウ、ザーセイ州ニ於テハ最近十ケ年間此結核病ノ事ニ關シテ特別ノ注意ヲ拂ヒタリ、即チ牛ニ就テノ結核検査ヲ到ル所ニ施行シタルコト是レナリ、但シ牛ノ健康状態カ検査ヲ不必要ト認メラル、場合ハ此限ニアラス、斯クテ「ニウ、ザーセイ結核病調査委員會」ヨリ發セラレタル統計書中ニ左ノ如キ事實アリ、曰ク検査サレタル牛ノ百分ノ十六ハ結核病ニ罹リ居ルコトヲ見出シタリ、今マ左ニ掲クル所ノ表ハ之ヲ證スルニ足ルヘキナリ、而シテ此表ハ毫モ註釋ヲ要セス一目瞭然タルモノナリ、

第五表

年	次	試験シタル牛ノ頭數	罹病牛ノ頭數	價金トシテ支拂フタル金額
一八九五年		七五〇	一四〇	四、二二七・四六
一八九六年		一、二一九	一五九	四、一四九・七四
一八九七年		八六五	一三四	三、二九九・九九
一八九八年		一、四三三	三四五	五、〇九三・二〇
一八九九年		一、四一五	二二二	五、三六三・二五
一九〇〇年		二、三三三	三三九	七、三八五・八七
一九〇一年		二、五一二	三四二	七、二六〇・七五
一九〇二年		二、五〇〇	三七〇	八、一三三・六二

一九〇三年	二、四五〇	四七三	一、四三三・三五
一九〇四年	二、〇九九	三九四	八、六六三・二五
一九〇五年	二、七三三	四六七	一〇、五一八・〇〇
總計	二〇、三〇九	三、二九五	七五、五二五・四八

牛ノ結核病流行ニ關スル統計表ハ皆ナ是レ同一ノモノニアラス、各國各州觀察ノ方法、検査ヲ實行スル手段ノ精粗、氣候及其他ノ原因ニ依リテ、其間著シキ差異ナクンハアラス、且ツ結核検査ナルモノハ毎ニ善ク實行セラル、モノニアラス、ドアン博士ハ米南部ノ諸市邑ニハ此結核検査ノ實行甚ハタ不完全ナルヲ見タリ、例之ヘハノルフホルクノ如キハ検査サレタル牝牛中結核病ニ罹リタルモノ百分ノ一ニモ足ラサル報告ナリ、其比例數斯クノ如ク低キコトハ殆ント信スヘカラサルナリ、殊ニノルフホルクノ牝牛ノ大半ハマールランドヨリ輸入サレタルモノナリ、マールランドノ牝牛ハ結核検査上罹病頭數ノ比例數甚ハタ高キナリ、然ルニノルフホルクノ同比例數彼レカ如ク甚ハタ低キハ實ニ怪マサルヲ得ス、是レ結核検査ノ不行届ニ非ラスシテ何ソヤ、ピアートン及ラヴェネルノ兩氏ハ左ノ如キ説ヲ立テタリ、曰クペンシルヅニアニ於テハ牝牛全數ノ百分ノ三八結核病ニ罹レルモノナリ、今日ペンシルヅニアニ於テ農事ニ使用セラル、動物ニシテ結核病ニ罹リ爲メニ損害ヲ蒙ルコトノ甚ハタシキ、其他ノ傳染病ノ比ニアラサルナリト、此等ノ兩氏ハ最モ注意深キ觀察家ナルモ實際ニ於ケル牛ノ結核病ハ兩氏ノ述ヘラル、所ヨリモ尙ホ一層甚ハタシト云フモ決シテ不可ナキナリ、

サキソニーニ於テハ牝牛ノ總數ノ百分ノ三十八結核病ニ罹リ居レリ、バンブ博士曰クコペンハーゲンニ於テハ牛ノ結核病ニ侵サル、モノ甚ハタ多シ、同地方ハ牛乳業ノ専ラ行ハル、所ナルカ故ニ其影響スル所決シテ容易ナラサルナリ、又タ今マヨリ數年前ノ事ナルカ丁抹ニ於テ結核病ニ罹レル牛ノ比例數ハ殆ント百分ノ十七ナリシナリ、之ヲ前ニ掲ケタルニウザーセーノ比例數ニ比シテ僅カニ多キヲ加ヘタルノミ、然レトモ和蘭政府カ熱心ニ之カ鎮壓策ヲ取リタルカ爲メ、其結果トシテ其比例數甚ハタ減少シタリシナリ、日耳曼國ノレイブシックニ於テハ一千八百九十五年ニ於テ一歳以上ノ牝牛ヲ屠殺シタルコト二萬二千九百十八頭ニ上レリ、内七千六百十九頭即チ百分ノ三十二ハ結核病ニ罹リ居タリシナリ、

右ニ掲ケタル數字ハ決シテ完全無缺ナルモノト云フヲ得ス、然レトモ牛ノ結核病タルヤ決シテ忽諸ニ附スヘキモノニアラス、須ラク深キ注意ヲ拂ハサルヘカラサルコトハ明ラカナルコト、ナレリ、乳牛中ニ結核病ノ流行スルハ種々ノ原因アルヘシト雖モ、其重モナル原因ハ牛ノ大半其棲息スル所ノ牛舎ノ構造ニアリト謂ツヘキナリ、結核病ハ實際一ノ屋内病トモ稱スヘキモノナリ、今マ其レ乳牛ノ棲息スル屋舎ノ有様如何ト云フニ、最モ不衛生的ニシテ結核病ノ傳播ニハ極メテ好都合ノモノタラスンハアラス、而シテ此乳牛ヲ取り扱フモノ、不注意ニシテ且ツ無智ナルヨリ、知ラス識ラスノ間結核病ヲ携ヘ來リテ之ヲ牛ニ移シ、牛ハ復タ人類ノ中ニ傳播セシムルコト、ナレリ、即チ是レ兩者互ニ病毒ヲ授受スルモノニ外ナラサルナリ、試ミニ見ヨザーセー及フエンランドニ於テ常ニ野外ニ牧養セラル、牝牛ニシテ結核病ニ罹ルモノアルヤ否ナヲ、此兩所ニ於ケル牝牛ハ殆ント皆ナ此病ヨリ免疫セラル、ニアラスヤ、是レ生來結核病ニ罹ラサル特

質ヲ有シテ然ルニアラス、全ク野外ニ牧養セラル、結果ニ外ナラス、此等ノ牛ヲ携ヘ去リテ彼ノ結核病ノ流行スル地域内ニ來リ不衛生ナル牛舎内ニ繋カンカ、他ノ牝牛ト均シク結核病ニ罹ルハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、オッヴッー、ウエンデル、ホルマー氏ノ詩ニ曰ク、

光線空氣皆天授。

況又茫洋水接天。

何事人間徒蟄伏。

携來生命向黃泉。

犢牛カ結核菌ヲ含有セル乳汁ヲ以テ養ハレタル場合ニハ、結核病ニ感染スルノ例蓋シ少ナカラス、乳牛中結核病ニ罹ルモノアルハ畢竟スルニ斯ル牝牛ノ成育ヲ遂ケタルモノニ外ナラスト云ヘル説アリ、是レ實際アリ得ヘキ事實ト謂ツヘキナリ、彼ノ一千八百九十五年ノ創設ニ係ル皇立委員會ハ兎ニ角右ノ如キ結論ヲ爲シテ、凡ソ犢牛ニ給與スヘキ乳汁ハ豫シメ沸煮センコトヲ要スト勸諭シタリ、終ニ「ニウヨーク、タイムス」(新聞ノ名)ノ記者モ亦タ左ノ如キコトヲ其紙上ニ掲ケタリ、曰ク凡ソ乳牛中ニ結核病ヲ發生セシムル一ノ重モナル動力ハ未熟ナル幼牛ヲ乳育スルコト是レナリト、而シテ牝牛ノ生レ來レル當初ノ内其母牛ヲシテ之ヲ乳育セシムルハ普通一般ノコトナリ、蓋シ其ノ乳育ノ期限ハ平均二年乃至二年半ニシテ滿三年マテ之ヲ許シ置クコトハアラサルナリ、牛ヲ飼育スルモノ、牛乳業ヲ營ムモノ及獸醫ノ異論ナク一致シタル説ニ曰ク、乳牛中ニ結核病ノ傳播スルハ幾分カ犢牛ノ乳育ニ歸セスンハアラス、

或ル人説ヲ爲シテ曰ク、肺結核ニ罹レル牝牛ノ乳汁ヲ飲マンカ、之ニ感染スルノ危険大ナラスンハアラスト、是レ信スヘキノ説ニアラス、今マ其レ用心深キ普通ノ考慮アル人ハ、何等カノ結核病ニ侵サルヘキ動物ノ乳汁ハ勉メテ之ヲ避ケント欲スルモノナリ、然レトモ斯ル動物ノ乳房及乳汁腺カ疾病ノ爲メニ侵サレ居ルニアラスンハ、其危険ノ度合ハ左マテ甚大ナルモノニアラサルナリ、肺結核ニ罹リテ惱メル牝牛ヨリ得タル乳汁ヲ以テ他ノ健全ナル動物ヲ養ハシメテ、其果シテ危険ナルヤ否ナヲ試験シタルコト單ニ一再ニ止マラスシテ數次ナリシカ、予ノ知り得タル限りニ於テハ僅カニ其試験ノ一タモ、其危険ノ大ナルコトヲ示シタルモノハアラサリシナリ、然レトモ反對ノ實例全ク之レナキニアラス、茲ニ單ニ肺結核ノミニ罹リテ其乳房ノ邊ハ何等ノ疾病ニモ侵サレサル牝牛アリ、斯ル牝牛ヨリ得タル乳汁ヲ以テ他ノ健全ナル動物ヲ養ヒタリシニ、其結果トシテ之ニ感染シタリト報告セルモノ之レアリ、然レトモ是レ僅カニ一二ノ例ニ過キサルノミ、

然レトモ乳房ノ邊結核病ニ侵サレタル牝牛ヨリ得タル乳汁ハ實際甚ハタシキ危険ナルモノナリ、是レマチン及其他ノ研究者ノ實驗ニ徴シテ明ラカナル事實ナリ、英國ニ於テハ結核病ニ罹レル動物ヨリ得タル餌食ハ人類ノ健康上ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキカヲ研究調査スル目的ヲ以テ組織セラレタル皇立委員會ナルモノアリ、ドクトル、マーチン氏ハ此委員會ヘ左ノ如キ事ヲ報告シタリ、曰ク乳房ノ邊結核病ニ侵サレタル牝牛ノ乳汁ハ其害毒非常ナリト云フノ外ナキナリト、斯クテドクトル、ウードヘッド氏ハ此説ノ確實

ナルコトヲ證言シ且ツ曰ク、斯ル牛乳ヨリ製造シタル牛酪モ亦タ是レ同様ニ有害危険ナルモノナリ、世ニハ牛乳トシテ飲用スルニ不適當ナルモノヲ材料トシテ牛酪ヲ製造スルモノ往々ニシテ之レアリ、是レ謂レナキノ甚ハタシキモノナリ、乳房ノ邊結核病ニ侵サレタル牝牛ヨリ得タル乳汁ノ有毒ナルハ云フマテモナク、之ヲ材料トシテ製造シタル牛酪及乾酪モ均シク是レ有毒ナルコトハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、常ニ保守慎重ノ態度ヲ執レル『英國醫學雜誌』ノ記事中ニ一種奇矯ナル表題ヲ掲ケタルモノアリ、『膿汁ヲ飲料トス』ノ表題是レナリ、人或ハ云ハン表題既ニ斯クノ如シ、其内容ノ厭忌スヘキコト推シテ知ルヘキノミ、單ニ斯ル表題ノミヲ見テ其内容如何ヲ讀マサランカ、餘リニ無法ナル表題ニシテ徒ラニ世人ヲ驚カスモノナリト思惟セラル、人多カルヘシ、然レトモ斯ル表題ヲ掲ケタルコト全ク謂レナキニアラス、是レ他ナシ實際斯ル事實アリタレハナリ、英國ノウォーキングニ於テ一種ノ手重キ病氣流行セリ、即チ咽喉部ニ一種ノ疾患發生シ、往々頸部ニ膿腫ヲ繼發スルモノ是レナリ、因ツテ衛生醫官ハ其流行病ノ原因果シテ何レニアルカヲ研究調査セシニ、其結果トシテ牛乳ニ基因セルコトヲ見出シタリ、蓋シ其牛乳ハ乳房ノ邊ニ一種ノ腫物ヲ生シテ瘻衝ヲ起シタル牛ヨリ搾取シタルモノ是レナリ、而シテ是等ノ牛ヨリ乳汁ヲ搾取スルノ際、其腫物ヨリ流出スル所ノ膿汁カ其乳汁中ニ混和スルコト少ナカラサリシナリ、彼ノ一種ノ咽喉病ヲ發シ從ツテ頸邊ニ膿腫ヲ繼發スル疾病ノ流行スルハ、斯ル牛乳ヲ飲用シタルノ結果ニ外ナラサルナリ、是レ英國醫學雜誌ニ『膿汁ヲ飲料トス』ト云ヘル表題ノ記事ヲ掲ケタル所以ナリ、斯ル表題ハ決シテ面白キモノニアラス、人ヲ喜ハシムヘキモノニアラス、却ツテ嫌忌ノ念ヲ懷カシムルモノナリ、然レトモ是レ畢竟ス

ルニ疑フヘカラサル事實ニ外ナラサルナリ、

何レノ場所ト雖モ結核病ニ罹レル牝牛ノ所在地ニハ、斯ル疾病流行セサルヲ得ス、其疾病ノ輕重ニ至リテハ多少ノ差アルヘシト雖モ、兎ニ角斯ル疾病起ラサルヲ得ス、今マ米國ノ市邑二十ヶ所ノ多キ牛乳ヨリ生スル惡結果ノ實例ヲ取り來ルニ左マテ難キコトニアラサルナリ、所謂ル其惡結果トハ英國ノウオーキングニ於テ發生シタル流行病ト同様ナルモノ是レナリ、然レトモ今マ一々之ヲ記載スルヲ要セス、僅カニ其一例ヲ舉レハ足ランノミ、即チ膿汁ヲ飲料トシテ用フルコト是レナリ、殊ニ幼兒ノ食料ニ供セラル、ニ至リテハ沙汰ノ限リニアラスヤ、

パッフハローノ衛生局ニ於テハ毎月牛乳ニ就テ細菌學的試験ヲ行フコト三百回ノ多キニ達セリ、而シテ一千九百六年十月十九日地方ヨリ來レル牛乳ヲ取りテ細菌學的試験ヲ行ヒシニ、丹毒連鎖球菌ト膿汁ノ存在セルコトヲ見出シタリ、因テ予ハ直チニ其翌日其牛乳ヲ送り越セシ地方へ人ヲ派遣シテ實地ヲ調査セシメタルニ、彼レハ乳牛中ノ一頭ノ乳房ノ邊ニ一種ノ腫物生シ居リ、且ツ其乳汁中ニ膿汁ノ混和シ居タルコトヲ見出シタル旨復命シタリ、越ヘテ十一月十三日同シク細菌學的試験ヲ行ヒシニ、前同様丹毒連鎖球菌ト膿汁ノ含有セルコトヲ見出シタリ、因テ予ハ平生予ノ最モ善ク信頼セル某ヲ視察者トシテ其牛乳搾取地へ出張セシメテ實地ヲ取り調ヘシメタルニ左ノ如キ報告ヲ齎ラシ復レリ、曰ク一ノ牝牛ノ乳房ヲ取りテ之ヲ搾リ見シニ、其質殆ント透明ニシテ恰カモ水ニ異ナラザリシ、尙ホ其他ノ牛乳ヲ取ツテ之ヲ味ヒ之ヲ視タル所ニテハ毫モ間然スル所ナク、全ク良質ノモノト見受ケラレタリ、此乳汁ヲ分泌シタル牝牛ノ乳房ノ邊

ハ全ク健康ニシテ或ル疾患ナク潰瘍ノ如キモノモ決シテ之ナカリシナリ、尙ホ此牝牛ハ善ク肥滿シ居タリシナリ、然レトモ念ノ爲メ試験ニ供セントテ携ヘ歸リシト云フ、斯クテ此牛乳ヲ試験セシニ其中ニ膿汁及丹毒連鎖球菌ヲ多量ニ含有セルコトヲ見出シタリ、顧フニ是レヨリ先キパッフハロー市ニ於テ牛乳ニ就テ曾テ細菌的試験ヲ行フタルコトナカリシヨリ、牛乳中ニ斯ル有害物ヲ含有セルコトハ知ルニ由ナク、此市ニ始メテ牛乳ノ輸入シ來リシヨリ以來吾人ハ斯ル不良ナル牛乳ヲ飲用シ來リタルモノナリ、牛乳ニシテ結核病ニ罹リ居ランカ、殊ニ其乳泌腺カ結核病ニ侵サレ居ランカ、斯ル牝牛ノ乳汁ヲ飲ミタランモノハ結核病ニ感染シ易キコト知ルヘキノミ、嗚呼亦タ危カラスヤ、

一千九百六年十一月紐育ノ醫科大學ニ於テ開催サレタル牛乳會議ニ於テ、パッフハロー市ノ衛生委員グリーン氏カ一場ノ演說ヲ爲シタリシカ、其演說ノ主意タルヤ溫和切實ニシテ善ク時弊ニ當レルヲ以テ、直チニ廣ク喧傳セラル、ニ至リシハ殆ント信スヘカラサル程ナリシ、今マ其要領ヲ摘記スレハ左ノ如シ、曰ク今ヨリ遠カラサル以前ノ事ナルカニウザーセーニーノ富豪家アリ、ホルステーン種ノ優等ナル牝牛數頭ヲ所有シテ自カラ誇リ居タルカ、中ニ就テ格段ニ肥大ニシテ且ツ其外貌立派ナル一頭アリ、之ヲ擇ヒ採リテ其乳汁ヲ特ニ其幼女ノ餌食ト定メタリ、然ルニ此等ノ牝牛ニ就テ結核試験ヲ行ヒシニ、其結果トシテ數頭ノ牝牛皆ナ是レ結核病ニ感染シ居ルコトヲ見出シタリ、其持主ナル富豪家ハ事案外ニ出テタルヲ以テ當初ハ之ヲ信セサル程ニテ、殊ニ其幼女養育ノ爲メニ擇ヒ置ケル一頭ノ愛牛マテヲ屠殺シテ其死體解剖ノ事ニ至リテハ、容易ニ承諾セス之ヲ承諾セシメンニハ甚ハタシキ困難ヲ感シタル程ナリキ、斯クテ此等ノ牝牛

ヲ解剖シタルノ結果管ニ結核病ニ罹リ居タルノ證據明カナルノミナラス、尙ホ其他乳房ノ邊ヨリ多量ノ膿汁ヲ得タリシナリ、斯ル事實ハ牛乳ニ就テ危險ナル實例多キカ中ノ僅カニ一例ニ過キサルノミト、右ニ掲ケタル事實ハ牛乳ノ害毒トナル數多ノ實證中最モ重要ナリト思惟スルモノ、概要ナリト知ルヘシ、之ニ由リテ讀者ハ自カラ左ノ如キコトヲ了解セラル、ナラント信ス、曰ク結核病ヲ蔓延セシムル重モナル動機一ニシテ足ラスト雖モ、牛乳モ亦タ是レ其重モナル動機ノ一ナリト云フニ至リテハ數多ノ研究家毫モ異論ナク皆ナ是レ一致同意セスンハアラスト云ヘルコト是レナリ、今マ醫學的及其他學術的委員會及會議カ團體トシテ此牛乳有害説ニ對シテ一致贊同ノ意ヲ表シタルモノ甚ハタ多キナリ、今マ一々之ヲ掲ケンハ冗長ニ亘ルノ恐レアレハ、僅カニ其數者ノミヲ左ニ掲ケント欲ス、曰ク一千八百九十五年ノ創設ニ係ル皇立委員會、此會ハ結核病ニ罹レル動物ヨリ得タル食料ノ影響如何ヲ研究調査スルモノナリ。一千八百九十八年ノ創設ニ係ル皇立委員會、此會ハ結核病ニ罹レル動物ノ肉及乳牛ヲ食用ト爲シタランニハ、人類ニ如何ナル危險ヲ及ホスカヲ研究調査スルモノナリ。一千九百六年ノ創設ニ係ル皇立委員會、此會ハ人類ノ結核病ト動物ノ結核病トノ關係如何ヲ研究調査スルモノナリ。一千九百七年巴里ニ開催サレタル萬國醫學會議。一千九百七年ブラッセルスニ開催サレタル萬國牛乳會議是レナリ、

第七節

病牛ノ乳汁ヨリ結核病ノ蔓延スルコト右ノ如ク甚ハタシキモノナリ、然レトモ吾人ハ常ニ念頭ニ存シテ得テ忘ルヘカラサルモノアリ、曰ク充分ニ健全ナル牝牛ノ乳汁ト雖モ、人類ノ細菌ニ觸レテ感染シタル

場合ニハ疾病蔓延ノ媒介トナルコトアリ、決シテ油斷スヘキモノニアラス、試ミニ見ヨ牝牛ノ飼育等ヲ司トレルモノ、乳ヲ搾ルモノ、其他牛乳ヲ取り扱ヘル種々ノ人ヨリ其牛乳ニ病毒ヲ移シ、終ニ恐ルヘキ病原菌ヲ蔓延セシムルコトアルハ珍ラシカラサルナリ、是レ乳牛ハ健全ナルモ決シテ油斷シ得ヘカラサル事柄ニアラスヤ、サレハ良質安全ノ乳牛ヲ得ント欲セハ、當ニ牛乳ノ疾病ヲ豫防スルノ必要アルノミナラス、之ヲ飼育シ、搾取シ、取扱フ上ニ於テモ亦タ充分ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス、

病毒ニ感染シタル牛乳カ自カラ媒介トナリテ其病毒ヲ他ニ傳播スルハ獨リ結核病ノミニ限ラレタルニアラス、實布埜里亞流行ノ如キモ亦タ是レ斯ル牛乳ノ媒介ニ基クコト少ナカラサルナリ、英國ノ或ル立證家ノ説ニ曰ク實布埜里亞ナルモノハ家畜ヨリ直接ニ人類ニ傳播スヘキモノカ、將タ牛乳搾取ノ際人類ヨリ最初其乳牛ニ病毒ヲ傳播シタルモノナルカ、是レ研究スヘキ爭點ナリト、今マ吾人ハ此爭點ニ關シテ彼レ是レ論究スルノ必要ナク、數多ノ立證家カ左ノ一事ニ就テハ皆ナ是レ異論ナク一致スル所ナリ、曰ク實布埜里亞ニ感染シタル牛乳カ自カラ媒介トナリテ此疾病ヲ廣ク蔓延セシムル事實ヲ認メタルコト是レナリ、斯ル事實ヲ始メテ積極的ニ見顯ハシタルハ實ニ一千八百七十八年ナリシナリ、即チ同年英國ノセント、ジョン、ウトドト云ヘル所ニ最モ激烈ナル實布埜里亞發生セシカ、其原因牛乳ナリシコト復タ疑フヘカラサリシナリ、而シテ同所ニ於テ此病ニ罹リタル者二百五十餘名ニ及ヒ内三十八名ハ死亡シタリ、其後實布埜里亞數々發生シタルノ際其原因ヲ探究セシニ概シテ牛乳ニ基ツケルコトヲ見出シタリ、牛ニシテ實布埜里亞ニ罹ルコトハ前ニモ述ヘタルカ如ク尙ホ疑問中ニ屬シテ定説アラスト雖モ、實布埜里亞ニ感染シタル牛乳カ自カラ媒

介トナリテ、其病原菌ヲ蔓延セシムルハ復タ疑フヘカラサル事實ナリ、而シテ左ノ如キ事實ハ復タ争フヘカラサルモノナリ、曰ク牝牛ニ在リテハ如何ニモ輕微ナル疾病ナリト難モ、其乳汁ヲ飲ミタル者ニ至リテハ咽喉病ノ最モ激烈ナルモノニ罹ルハ珍ラシカラサルナリ、既ニ前述シタル英國ウエーキングニ於ル場合ノ如キ是レナリ、

窒扶斯流行ノ際最モ惡症ナルモノ、原因ヲ探究スルニ、此病毒ニ感染シタル牛乳ニ基因スルコトヲ見出スコト少ナカラサルナリ、今マ子カ此等ノ事實ヲ記載スルノ折柄夕刊新聞到來セルカ、其紙上ニ一ノ隣村ニ於テ窒扶斯ノ發生シタルコトヲ記載シ、且ツ其地方ノ衛生吏員ノ意見ニテ牛乳罐ハ全ク之ヲ清潔ニ保タシメ、又タ苟クモ窒扶斯菌ヲ含有セル水ハ牛乳用ニ關シテ一切之ヲ用ヒシメサル方法ヲ取ルコト、シタル旨ヲ記載セリ、然ルニ斯ク衛生的施設ノ初步端緒トモ謂ツヘキ方法ヲ取ラシムルコト、ナリシヨリ、却ツテ疾病(輕重アリ)ヲ發生セシムルノ動機トナレルハ洵ニ悲シムヘキコトニアラスヤ、然ルニ茲ニ疑問ヲ起スモノアリ、曰ク市邑都府ノ公廳ヲシテ牛乳罐ヲ全ク清潔ナラシメ、窒扶斯菌ヲ含有セル水ハ牛乳用ニ關シテ一切之ヲ用ヒシメサル方法ヲ取ラシムルコトカ、何カ故ニ窒扶斯發生ノ動機トナルカト、

牝牛ハ好シ窒扶斯ニ罹リ居ラサルモ其乳汁中ニ窒扶斯菌ノ含有スルコトアリ、是レ搾取後外部ヨリ乳汁中ニ入り込ミ來リタルニ外ナラサルナリ、乳汁中ニテ窒扶斯菌ノ繁殖スルノ迅速ナルコト實ニ驚クノ外ナキナリ、而シテ如何ニシテ其乳汁中ニ窒扶斯菌ノ入り込ムヤト云フニ概ネ左ノ如シ、曰ク牛乳ヲ稀薄ナラシムル爲メニ混和スル水及牛乳ヲ盛ルヘキ器物ヲ洗フニ用フル水ニ窒扶斯菌ノ感染シ居ル事。窒扶斯ニ侵サレ

居ル人ノ體軀ヨリ入り込ム事。牛乳ヲ取り扱フモノニシテ窒扶斯ニ罹リ居ルモ左マテ重カラサルヨリ自カラ之ヲ知ラスシテ平生ノ如ク牛乳ヲ取り扱フ事。斯ル取扱人ニシテ窒扶斯患者ニ接觸シタルカ爲メ其體軀若クハ其衣服ニ病原菌ノ附着シタル儘其業ニ從事スルコト等ハ皆ナ是レ牛乳ヲシテ窒扶斯ノ病毒ニ感染セシムルノ媒介タラスンハアラス、窒扶斯菌ニ感染シタル牛乳カ自カラ媒介トナリテ此病ヲ蔓延セシメタル實例アリ、一千九百七年ノ二月中ペンシルヴァニアノアーレンタウンニ於テ窒扶斯ノ發生シタル場合ノ如キハ蓋シ其一例ナリ、而シテ其發病ノ端緒如何ヲ探究セシニ最初牛乳商ノ屋内ニ窒扶斯發生シタルモ、之ヲ隱蔽シテ他ニ知ラシメス、其結果トシテ其牛乳ノ配達先二十五軒ニ蔓延セシメタルコトヲ見出シタリ、是レ牛乳カ窒扶斯蔓延ノ媒介トナリシモノニアラスヤ、

一千九百七年一月ノ末ツ方志加古市ニ於テ猩紅熱及實布埤里亞發生セシカ、其病勢ノ猖獗ナリシコト中古「ベスト」ノ暴威ヲ逞フシタルニ異ナラス、僅カ一ヶ月間ニシテ斯ル傳染病ニ罹リシモノ一萬人以上ヲ算セラル、内實布埤里亞患者數百名、猩紅熱患者四千名以上ニ達シ、内死亡者三百名以上ニ及ヒタリ、而シテ其發病ノ原因ハ此等ノ病毒ニ感染シタル牛乳ニ歸セスンハアラス、其牛乳ハ何レノ方面ヨリ來リシヤト云フニ、ウヰスコニン地方ナルバッセット、ステーション及ゼノア、ジャンリシヨンノ二ヶ所ヨリ來リシモノナリ、當時此等ノ地方ハ實布埤里亞及猩紅熱ノ流行地タリシナリ、中ニ就テバッセット、ステーションハ牛乳營業ノ盛ンニ行ハル、所ニシテ、數ヶ月來猩紅熱ノ流行シ居ルニモ拘ラス、何等ノ警戒スル所ナクシテ其牛乳ヲ平生ノ如ク船積ニシテ、イヴハシヨトン及志加古地方へ送り出セシカ、其結果ハ實ニ恐ルヘキモ

ノト云ハサルヘカラス、又タゼノア、ジャンクシヨンヨリモ同シク牛乳ヲ船積トシテ、志加古ヘ輸出セシカ、此地方ノ人口總數ハ約七百名ナルニ猩紅熱ニ罹リシモノ三十二名アリシナリ、今マ此等ノ二ヶ所ヨリ牛乳ノ媒介ニ依リテ傳染病ヲ志加古地方ニ齎ラシ來リテ其勢ヒ猖獗ヲ極メタリ、志加古ノ傳染病ト相關聯シテ左ノ如キ事實ハ注意スルニ價ヒスヘキモノト云ハサルヘカラス、曰ク世界ニ於テ最大ナル牛乳會社中ノ一會社ノ饅詰工場ニ於テ働キ居ル一ノ労働者アリ、其猩紅熱ニ罹リ居ルコトハ、其發疹セル模様ニテ明カナルニモ拘ラス其労働ニ從事シ居ルヲ見タリ、又タ會社ノ牛乳ハ二ヶ所ノ農業地ヨリ來レルモノニシテ、其二ヶ所ハ共ニ猩紅熱流行シ居タリシナリ、抑モ此一大會社ナルモノハ今ヨリ凡ソ半世紀餘以前メ創業ニ係レルカ、當時其創業者ハ其製乳上専ラ清潔ヲ主トシ、其他注意極メテ深シトノ好評ヲ世ニ博シテヨリ、其營業大成功ヲ告ケ從ツテ世間ノ信用益々深クナリ行キ、此會社ノ牛乳トサヘ云ヘハ、一モ二モナク安全ナモノト見做スニ至レリ、然ルニ茲ニ晴天ノ霹靂トモ云ツヘキコトコソ起リタレ、時ハ維レ一千九百七年四月二日ノ事ナリキ、即チ此會社ニ取リテハ一大警報トモ謂ツヘキ志加古ノ傳染病發生後僅カニ二ヶ月ヲ經過シタルノミナリキ、今マ其出來事ノ次第ヲ舉レハ左ノ如シ、曰ク此大會社ノ出張店ヨリ例ノ如ク予カ家ニ牛乳ヲ配達シ來レリ、然ルニ其牛乳中ニハ微小ナル生物ノ混和シ居ルヲ見ルヘシ、而シテ其多分ハ稷粒大ノモノニシテ其形モ亦タ善ク相似タルモノ、如シ、此牛乳ヲ配達シ來ルヤ予ノ妻ハ嬰兒ニ飲マシメンカ爲メ先ツ消毒法ヲ行ヒ饅ヲ靜カニ搖リ動カシテ適當ニ混和セシメントセシニ、圖ラサリキ其中ニ生物ノ混和シ居ラントハ、

予等ハ饅ノ口ヲ開カスシテ直ニ其出張店ノ者ヲ呼ビ寄セテ此牛乳ヲ示シテ其不都合ヲ責メシカ、店員ハ最初頻リニ言ヒ分ケシテ曰ヘリ、是レ畢竟スルニ饅ノ内面ニ附着シタル鐵滓ニ過キス、決シテ怪シムヘキモノニアラスト、此ニ於テ予ハ其店員ノ眼前ニ於テ其饅ノ口ヲ取り探針ヲ其中ニ指シ入レテ其生物ノ一ヲ取り出シツ、斯クテモ尙ホ言分アリヤト詰リタリ、後間モナク右出張店ヨリ電話ニテ左ノ如ク申シ來レリ、曰ク當店ニ於テ充分他ノ牛乳ヲ取り調ヘ候ヘトモ、御宅ノ如キモノ一ツモ之レナク、思フニ御宅ヘ差シ上ケタル分ハ何人カ徒ラニ不潔ナル饅ニ牛乳ヲ盛リタルモノト察セララル云々ト、然レトモ予ハ斯ル不潔有毒ナル牛乳ヲ我嬰兒ニ飲マシムルノ愚ヲ學ハサルナリ、

幼兒ノ下痢症ニ罹ルモノ、大半ハ不良牛乳ニ基ツカسنハアラス、是レ既ニ前章ニ於テ叙述シタル所ナレハ今マ茲ニ喋々スルヲ要セス、而シテ今マ予カ此論述ヲ收結スルニ臨ンテ附記セント欲スル事柄ハ僅カニ左記ノ如クナルニ過キササルノミ、曰ク廣ク傳染病ノ蔓延スル場合ト個人々々トノ傳染病ニ感染スル場合トヲ問ハス適ニ其病原ヲ牛乳ニ歸スルノ實例ハ決シテ少ナカラサルナリ、然レトモ斯ク知り得ラレタル實例ハ全體ノ上ヨリ打算スレハ一小部分ナリト云ハサルヘカラス、即チ不良ニシテ病毒ニ感染シタル牛乳カ原因トナリテ幾多ノ疾病ヲ醸成シタルヤ測リ知ルヘカラス、中ニ就テ知ラレタルモノハ一小部分ニ過キササルナリ、吾人カ果シテ一々其真相ヲ知り勇ヲ鼓シテ敢テ言ハンカ、無數ノ嬰兒ノ石碑ノ前面ニ『不良牛乳ノ爲メニ死シタルモノ、墓』ト銘刻センノミト云ハント欲ス、又タ有毒ナル菓子ヲ食シタルカ爲メ危險ナル疾病ニ罹ルモノ數フルニ遑マアラスト云フ、然レトモ其實有毒ナル牛乳ニ基ツカسنハアラス、他ナシ牛

乳ヲ混和シタル菓子居多ナレハナリ、且ツドクトル、エフ、ラウソン、ドッド氏ノ説ニ曰ク抑モ牛乳ノ害毒タル單ニ死者アルノミニ止マラス、尙ホ生存者ニモ波及セサルヲ得ス、即チ其害毒ヲ受ルノ甚ハタシキモノハ幼孩ニシテ斃レ、稍ヤ輕キモノハ生存ヘテ成人トナルヘキナリ、然レトモ其男性タルト女性タルトヲ問ハス、僅カニ成人トナリタルマテニシテ其身體甚ハタ虛弱ナルカ故ニ物ノ用ニ立タス、トテモ生存競争場裏ニ立テテ勇戰奮闘スル能ハサルナリ、嗚呼亦タ悲シカラスヤ、

第六章

牛乳問題ニ關スル簡單ナル定説

第一節

吾人ハ前數章ニ於テ甚ハタシク紛糾錯雜シテ理解スルニ困難ナル牛乳問題ニ關シテ數多ノ説ニ接シタリシナリ、尙ホ之ヲ詳言センカ、牛乳問題ノ人生ニ關係ヲ及ホスコト決シテ單純無造作ノモノニアラス、四方八面縱橫無盡ニ錯雜紛糾シテ之ヲ解決センハ決シテ容易ノ業ニアラサルハ亦明ラカナリト謂ツヘキナリ、故ニ予ハ今マ此問題解決ノ事ヲ論述スルニ先ンシテ、之カ救護策ヲ講究スルニ先ンシテ、此牛乳問題ニ關スル最モ重要ナル事柄ヲ取り來リテ、極メテ簡短ニ説明センハ實ニ適當ナリト云ハサルヘカラス、果シテ斯ク爲シタランニハ今マ吾人ノ前ニ横ハレル牛乳問題ノ弊害ヲ除却スルノ方策モ自カラ判明スヘキナリ、而シテ予カ此際最モ必要ナリト思惟スルハ『世間多數ノ人ヲシテ心ヲ一ニシ以テ一方面ニ向ハシムルコト』是レナリ、

今マ吾人カ牛乳供給ノ事ニ關シテ論述セント欲スルハ、概シテ牛乳ノ公衆衛生ニ及ホス影響如何ニ係ルモノ是レナリ、中ニ就テ最モ格段ニ注意シテ論述セント欲スル事柄アリ、牛乳カ嬰兒ノ健康及生命ニ影響スルノ容易ナラサルコト是レナリ、蓋シ其嬰兒ノ餌食カ全ク牛乳ニ依レルト其餌食ノ大半カ牛乳ニ依レルトヲ問ハス、兎ニ角牛乳ヲ飲用スル嬰兒ノ健康及生命ニ如何ナル影響ヲ及ホスカヲ格段ニ注意シテ論述セント欲ス、而シテ今マ此等ノ事ニ關スル最モ重要ナル疑問アリ、曰ク吾人カ飲用スル所ノ牛乳ハ清潔ナルカ將タ否ラサルカ、吾人カ飲用スル所ノ一杯ノ牛乳ハ吾人ハ體內ニ入りテ全ク滋養分ノミトナルヘキカ、將タ有害ナル病原菌ヲ有シ居リテ體中ニ入りテ後寄生スヘキ適當ノ箇所ヲ擇ヒテ繁殖セサルカ、吾人ノ飲メル牛乳ハ純清ニシテ活氣ヲ生セシムヘキモノ、ミナルカ、將タ下水ノ如ク汚穢極マルモノナルカ等是レ皆ナ最モ重要ナル疑問ト云ハサルヘカラス、試ミニ見ヨ我カ市邑ノ間ニ一ノ疾病發生シ從ツテ死亡者續出スルノ場合ノミニ限リテ、即チ窒布斯其他牛乳ニ基因スル疾病發シテ其猖獗ヲ逞フスル場合ノミニ限リテ、俄カニ其病ノ恐ルヘキヲ知リテ騒キ立ルニ珍ラシカラサルナリ、何ソ其レ思ハサルノ甚ハタシキヤ、傳染病來リ襲ヘリ、而シテ幾干モナク退キ去レリ、然レトモ其退キ去ルヤ眞ニ是レ退キ去リタルニアラス、其實傳染病ト云ヘル敵ハ何レノ所ニカ埋伏シ居リテ、更ニ攻メ來ラントテ常ニ準備ニ怠リナキモノナリ、然ルニ吾人ハ全ク之ヲ知ラスシテ眞ニ退去セリト思ハサルハナシ、是レ油斷怠慢ニ外ナラサルナリ、斯ル油斷怠慢ノ虛ニ乘シテ恐ルヘキ傳染病ハ音モナク聲モナク極メテ靜カニシテ且ツ速カニ襲ヒ來レルナリ、『吾人カ安寧自由ノ身トナラント欲セハ不斷終始警戒注意ヲ怠ルヘカラス』トノ金言ハ人生ノ競争場裏ニ立

ツヘキモノ、常ニ服膺スヘキ所ナルカ、傳染病豫防上ニモ亦タ適用スヘキモノナリ、然ルニ吾人ハ全ク之ヲ忘レテ更ニ知ラサルモノ、如シ、今マ一例ヲ擧ケテ之ヲ示サンカ、今日ヨリ溯ホリテ一ケ年ニハ足ラサル程ノ以前ノ事ナルカ、志加古ニ傳染病發生シテ其勢ヒ猖獗ヲ極メ、殆ント其全市ノ各戸ヲ襲ヒ來ルノ有様ナルニ際シテ、予ハ其市民ノ一人ニ對シテ云ヘリ、斯ル傳染病ノ發生シタル畢竟スルニハ牛乳ノ供給ニ就テ其筋ノ不注意ナルニ歸セスンハアラスト、然ルニ其人馬耳東風更ニ意ニ留メサリシ、而シテ其後僅カニ二三ヶ月ヲ經テ予ハ再ヒ其人ニ出逢ヒタレハ、前同様牛乳ノ良否視察ノ忽ツセニスヘカラサルコトヲ説ケリ、然レトモ其人ハ矢張り毫モ其意ニ介セサルモノ、如シ、雷ニ介意セサルノミナラス、却ツテ憤怒ヲ發シテ抗言セシ程ニテ如何ニモ冷淡無頓着ナリシカ、其有様現在ノ衛生局杯ヲ飽クマテ信任シテ更ニ他ヲ顧ミサルモノ、如シ、衛生上ニ關シテ油斷怠慢ナルコトハ概ネ此類ナリ、

茲ニ極メテ惡症ナル傳染病アリ、成年者ニ對シテハ左マテノ害ヲ及ホサ、リシモ、嬰兒ノ内ニハカ爲メニ死亡スルモノ夥シキ多數ニ上レルハ珍ラシカラサルナリ、彼ノ「ベスト」ノ如キモ亦タ是レ嬰兒ヲ斃スコト最モ多キニ居レリ、凡ソ數種ノ傳染病中嬰兒ニ取リテ「ベスト」程恐ロシキモノハアラサルナリ、此外幼兒ノ疾病中傳染スヘキモノアルハ亦タ疑フヘカラサルナリ、近キ頃幼兒ノ麻痺症ニ罹リテ死スルモノ甚ハタ多ク街路ニテ幼兒ノ葬式ニ出逢フコト珍ラシカラス、又タ新聞紙上ニテ幼兒死亡數ノ多キ統計表ハ常見ル所ナリ、短期間流行スル傳染病ハ左マテノ害ナシト雖モ、常ニ流行シテ年々夥シク嬰兒ヲ取り去ル疾病ニ至リテハ實ニ寒心ニ堪ヘサルナリ、

今マ其レ左マテ恐ル、ニ足ラサル疾病ノ發生スルヲ見テ、周章狼狽シテ騒キ立テルモ、最モ恐ルヘキ疾病ニ就テ左マテノ注意ヲ拂ハサルモノアリ、嗚呼是レ沙汰ノ限リニアラスヤ、今マ假リニ我カ諸ロノ市邑中ノ一ニ於テ或ル非常ノ疾病發生シタルカ爲メ、僅カ一週間ニシテ十名ノ嬰兒カ死亡シタリトセンカ、例之ヘハ平生牛乳ヲ以テ養育セラレ居ル幼兒中ニ、癩ニ罹リテ死亡セルモノ一週間ニ十名アリタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ一般ノ恐慌狼狽ヲ來サンハ亦タ疑フヘカラサルナリ、然ルニ同一ノ市邑ニ於テ下痢症ニ罹リテ一百名ノ嬰兒カ死亡シタランニハ、毫モ怪シムモノナク、普通ノ出來事トシテ看過スルヲ常トセリ、好シ其死シタル一百名ノ嬰兒ハ彼ノ十名ノ嬰兒カ癩ノ爲メニ斃レタル場合ト均シク、其死因ノ牛乳ニアルコトハ亦タ疑フヘカラスト雖モ、毫モ怪シムモノナク等閑ニ棄テ置クハ珍ラシカラサル事實ナリ、此等ノ事ニ就テナザン、ストラス氏ハ説ヲナシテ曰ク、我國ノ海港中ノ一ニ於テ虎列拉カ發生シテ之ニ侵サレタルモノ僅カニ數人アリトセンカ、一般ノ人民驚愕スルコト一方ナラス、之ヲ防遏センカ爲メニハ如何ニ莫大ナル費用ヲモ惜マサルヲ常トス、然ルニ我國ノ或ル市邑ニ於テ毎年幼兒ノ或ル病ノ爲メニ死亡スル數ハ虎列拉ニ罹リテ死亡スル數ヨリ却ツテ多キモ、普通ノ事ト見做シテ毫モ怪シマサルナリ、尙ホ之ヲ細言セシカ、抑モ亞細亞虎列拉ノ始メテ侵入セシヨリ殆ント七十五年間ヲ通シテ、之カ爲メニ死亡シタルモノ、全數ニ比シテ幼兒ノ年々或ル病ノ爲メニ死亡スル數ノ一層多キモ更ニ怪シマサルナリ、且ツ其幼兒ノ罹レル病ハ豫防シ得ラルヘキモノナルモ之ヲ豫防スルコトヲ知ラス、又タ其死亡數ノ虎列拉病ヨリ甚タシキモ、等閑ニ附シテ顧リミサルハ實ニ沙汰ノ限リト云ハサルヘカラスト、

ト試ミニ見ヨ我國ノ文物ハ總テノ方面ニ於テ進步發達シ以テ他ニ對シテ自カラ誇リトスル所ニアラスヤ、然ルニ出生セル嬰兒全體ノ三分ノ一ハ五歲未滿ニシテ死亡セルハ亦タ明カナル事實ナリ、今マ生後五歲未滿ニシテ死亡スルモノ嬰兒全體ノ三分ノ一ニ當レル事ヲ一ノ想像說ヲ以テ説キ明サンカ、今マ茲ニ人アリ何レノ日ニカ此國ニ於ル幼兒ヲ一人モ殘サス悉ク皆ナ一ヶ所ニ集メ得タリトセヨ、而シテ此内ヨリ五歲未滿ニシテ死亡スヘキモノヲ擇ヒ取ランニ、先ツ其内ヨリ第一ト第二トヲ拔キ取リテ之ヲ別種ノモノトナシ且ツ曰ク、御身達ハ幸ヒニシテ生存シ得ヘシ、或ハ我カ文明ヲ傷害スル總テノ危險ニ遭遇スルコトモアラシカ、出來得ヘクンハ自カラ守リテ長壽ヲ保テヨト、而シテ第三ノ幼兒ヲ取リ來リテ一々其額ニ死ノ記號ヲ附セリ、斯クノ如クシテ幼兒ノ全數ハ全ク區分セラレタルナリ、即チ其全數ノ三分ノ一ハ死ト定メラレタルモノニシテ、此一群中ニ在ルモノハ皆ナ是レ其額ニ死ノ記號ヲ印セラレサルハナシ、凡ソ此國ニアルハモノ男女ヲ問ハス此記號ヲ見テ誰レカ痛心セサランヤ、人トシテ誰レカ其心ヲ動カサ、ランヤ、右ハ只タ一種ノ想像說ニ過キサルカ如クナレトモ、斯ル事柄ハ每年事實ノ上ニ現ハレ來レルヲ如何セン、僅カニ其現ハレ來レル趣ヲ異ニセルノミ、試ミニ見ヨ嬰兒全體ノ三分ノ一ハ五歲未滿ニシテ空シク水泡ト消ヘ行ケルナリ、然ルニ一國人民ハ殆ント之ヲ知ラサルモノ、如シ、一國人民ハ何カ故ニ斯ル事實ヲ知ラスシテ經過スルヤ、是レ以テナキニアラス、無辜ノ嬰兒ヲ屠殺スルノ日定メラレス、又タ五歲未滿ニシテ死スヘキ嬰兒ヲ殘ラス一ヶ所ニ集合セシムルコトナク、斯ル嬰兒ハ國中到ル所ニ散在セリ、即チ個々別々ナル千百萬ノ家庭ニアリテ或ハ遊ヒ或ハ寢籠ノ中ニ臥シ、他ノ健全嬰兒ト區別スル爲メ其額ニ死ノ記號ヲ印セラ

レサリシナリ、勿論死ノ記號ヲ其額ニ印セラレタルモノ、ミ一ヶ所ニ別居セシムルコトアラサルナリ、然レトモ嬰兒全體ノ三分ノ一ハ五歲未滿ニシテ斃ル、ハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、前ノ想像說ト其趣ヲ異ニスル所アルヲ以テ其真相ヲ知ラサルノミ、各人民タルモノ斯ル由々シキコトヲ忽カセニシテ顧リミサルハ罪アリ且ツ恥辱ナラスヤ、右ニ述ヘタルカ如ク嬰兒全體ノ三分ノ一カ五歲未滿ニシテ死スルハ固ヨリ憂フヘク悲シムヘキコトナレトモ尙ホ是レノミニテハ全ク事ノ真相ヲ盡シ得タルモノト云フヲ得ス、即チ世界ノ大市邑ト稱セラル、所ニテ於テ生後五歲未滿ニシテ斃ル、モノ、嬰兒全體ノ三分ノ一ヲ踰ヘテ二分ノ一ニ達スルモノアリ、其内生後一歲未滿ニシテ死スルモノ少ナカラス、尙ホ其他生後五歲未滿ニシテ死スルモノ、其全數ノ二分一以上ニ達スル箇所モ亦少ナカラサルナリ、抑モ人ノ此世ニ生レ來ルノ初メハ百分ノ九十マテハ皆ナ是レ健全ニシテ其身體發育ノ模様良好ナラサルハナシ、此等ノ點ニ於テハ富貴ナルモノ、子トテ貧賤ナルモノ、子トテ其間毫モ差別アルコトナシ、但シ梅毒及亞留格保爾中毒ノ如キ遺傳病ハ貴賤上下ヲ通シテ一樣ニ其害毒ヲ子孫ニ及ホスヘキモノナリ、此等ノ遺傳ト云ヒ其他人其生ル、ノ初メハ健全ニシテ且ツ其發育ノ良好ナルニモ拘ラス、其父母等ノ不注意無頓着ナルヨリ、生後五歲未滿ニシテ斃ル、コトノ其全數ノ三分ノ一乃至二分ノ一若クハ其以上ニ達スルコトアルハ嗚呼亦タ歎息スヘキコトナラスヤ、

第二節

予ハ是レヨリ先キ既ニ左記ノ如キ事柄ハ叙述シタリシナリ、曰ク合衆國ニ於ル幼兒死亡ノ比例數ノ百分ノ三十八(最モ少ナク見積リタルモノ)適當ニ豫防シタランニハ助けラレ得ヘキモノナリ、尙ホ之ヲ詳言スレ

ハ生後五歳未満ニシテ死亡シタルモノ毎百人ノ内三十人ハ(最少ナク見積リタルモノ)適當ニ手當ヲ爲シ
 タラシニハ助ケラレ得ヘキモノナリ、畢竟スルニ我々國民タルモノハ、年々九萬五千人ノ幼兒ヲ空シク死
 亡セシメタルニ外ナラス、今マ予カ斯克死亡セシメタリト云フハ其故ナキニアラス、予ハ衷心ヨリ然カ思
 ハスンハアラス、毎年九萬五千人ノ幼兒ノ死亡スルハ然カセシメタル社會ノ罪ニ歸セスンハアラス、
 右ノ如キ多數ノ幼兒ヲシテ空シク死ナシムルハ實ニ吾人ヲシテ戰慄セシムルノ外ナキナリ、然レトモ是レ
 全ク事實ナルヲ如何セン、然カモ其九萬五千人ト云フハ最少計ニ見積リタルモノナリ、今マ醫師ニシテ
 嬰兒死亡數ノ事ニ就テ最モ注意ヲ密ニシテ調査シタルモノ蓋シ少ナカラズ、而シテ此等ノ醫師ハ皆ナ是レ
 一致同意シテ左ノ如キ事實ヲ證明セスンハアラス、曰ク幼兒死亡比例ノ百分ノ五十八助ケラレ得ヘカリシ
 モノヲ、社會ノ不注意ヨリ空シク犠牲ニ供セラレタルニ外ナラス、今マ其レ幼兒死亡比例ノ百分ノ五十カ
 空シク犠牲ニ供セラレタリトセンカ、其數十五萬八千人以上ニ上ルヘキナリ、斯ル計算ハ決シテ架空ノ說
 ヨリ出テタルモノニアラス、確實ナルモノト云ツヘキナリ、幼兒ヲ埋葬シタル墳墓ハ以テ其虚ナラサルヲ
 證スルニ足ルヘキナリ、是レ我カ社會ノ恥辱タリ罪惡タルニアラスシテ何ンヤ、加之ナラス佛蘭西國ノ立證
 家ハ左ノ如キ計算ハ事實ナリト明言セリ、曰ク佛蘭西國ニ於ル幼兒死亡全數ノ四分ノ三ハ、適當ニ豫防シタラン
 ニハ助ケ得ラルヘキモノナリ、即チ五ヶ年間ニ佛蘭西國カ助ケ得ラルヘキモノヲ無智ト不注意ノ爲メニ空シク
 水泡ト均シク消失セシメタルハ二十二萬人ノ多キニ達セリ、年々四萬五千人ノ幼兒ヲ空シク死亡セシムル
 ノ割合ニ當レルナリ、今マ吾人カ佛蘭西國ニ於テハ斯ル大多數ノ幼兒カ僅カ五ヶ年間ニ不注意ト無智トノ

爲メニ殺害セラル、コトアルヲ知リタリトセンカ、斯クテモ尙ホ且ツ吾人ハ佛蘭西國民ヲ呼ンテ文明ノ民
 ト云フヲ得ヘキカ、又タ吾人カ假リニ一箇年間ニ刀劍及斧ヲ以テ九萬五千人(百分ノ三十ノ計算)若クハ十
 五萬八千人(百分ノ五十ノ計算)ノ嬰兒ヲ殺戮スルトセンカ、斯クテモ尙ホ且ツ吾人ハ文明ノ民ト稱セラレ
 得ヘキカ、今マ其レ助ケ得ラルヘキ嬰兒ヲ無智ト不注意トニ依リテ空シク黄泉ノ客タラシムルト、武器ヲ
 以テ之ヲ殺戮スルトハ其趣異ナレリト雖モ、其生命ヲ失ハシムル一點ニ至リテハ全ク同一ナリト云ハサル
 ヘカラス、其間毫モ差異アルナシ、今マ人造餌食ノ有毒ナルモノ、即チ不潔ニシテ病原菌ヲ含有セル牛乳
 ヲ嬰兒ニ與ヘテ以テ之ヲ死ニ至ラシムルト、刀劍ノ如キ武器ヲ以テ之ヲ殺戮スルトハ其趣異ナル所アリト
 雖モ、其生命ヲ奪フノ一點ニ至リテハ均シク是レ罪惡ナリト云ハサルヘカラス、

五歳未満ノ幼兒ニシテ死亡スルモノ、内百分ノ三十乃至五十八助ケ得ラルヘキモノヲ社會ノ無智及不注意
 ナルヨリ空シク死ニ至ラシムルモノナリトハ、予カ既ニ前段ニ於テ述ヘタル所ナリ、今マ予ハ其助ケ得ラ
 ルヘキ所以ニ就テ論述スル所アラント欲ス、曰ク幼兒死亡數ノ百分ノ三十乃至五十八畢竟スルニ不良牛乳
 ニ基カスンハアラス、牛乳ノ良否ヲ確カメスシテ幼兒ニ供給スルハ社會ノ無智不注意ニ歸セサルヘカラス、
 若シ此等ノ幼兒ニ供給スル牛乳ニシテ純良ナリシトセンカ、斯ル幼兒ハ其生命ヲ全フシ得タルニ疑ヒナカ
 ルヘキナリ、尙ホ之ヲ詳言スレハ左ノ如クナランノミ、曰ク幼兒死亡比例ノ非常ニ多數ナルハ、其原因一
 ニシテ足ラスト雖モ、牛乳ノ不良ニシテ且ツ病毒ヲ含ミ居ルコトカ、其重モナル原因ノ一タランコトハ亦
 タ疑フヘカラサル事實ナリ、而シテ露國ニ於テハ一歳未満ノ幼兒每一千人ニ就テ死亡比例二百七十二人ニ

達シ、埃太利ニ於テハ同シク二百二十七人、ニウヂー、ランドニ於テハ同シク八十二人ナリシナリ、此等ノ死亡者ノ内母乳ニテ養育セラレタルモノト牛乳ニテ養育セラレタルモノトノ割合如何ト云フニ、牛乳ニテ育テラレタルモノ最モ多キニ居レリ、蓋シ此等ノ牛乳ハ不潔ニシテ病毒ヲ含ミ居レルカ故ニ、多クハ下痢症ヲ惹キシテ遂ニ死ニ至ラシムルモノナリ、或ハ病毒ニ感染シ居ル牝牛ヨリ得タル乳汁ノ爲メ、若クハ一種ノ傳染病ニ罹リ居ルモノ、取扱ヲ受ケタル牛乳ノ爲メ、其他ノ疾病ニ罹リテ遂ニ死ニ至ラシムルモノナリ、斯ク幼児死亡數ノ多大ナルニ加ヘテ出生比例數ノ一般ニ減少シタルアリ、實ニ歎息スヘキ顯象ナラスヤ、

今マ假リニ世間ノ嬰兒カ悉ク皆ナ母乳ヲ以テ養育セラル、コト、ナリタリトセンカ、幼児死亡數ノ著シク減少セラレコトハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、抑モ幼児ノ死亡比例ト其餌食トノ間ニ如何ナル關係カアルヤニ就テ研究調査ノ結果毎ニ左ノ如キ事實カ證明セラレタリ、曰ク母乳ヲ以テ養育セラレタル幼児ノ死亡比例ハ甚ハタ少ナクシテ、母乳ノ代用トシテ牛乳或ハ其他ノ餌食ヲ以テ養育セラレタル幼児ノ死亡比例ハ甚ハタ多キコト是レナリ、斯クノ如キ研究調査ハ數多ノ市邑ニ於テ行ハレタリシナリ、殊ニ下痢症ニ罹リテ死亡シタル幼児ニ就テ研究調査ヲ遂ケタルモノ最モ多キニ居レリ、而シテ其結果ハ毎ニ同一ナラスンハアラス、曰ク幼児ノ餌食トシテ最モ安全ナルモノハ母乳是レナリ、母乳ハ最モ善ク幼児ニ適當シタルモノニシテ、母乳ニテ育テラレタル幼児ノ死亡比例ハ甚ハタ少ナキモノナリ、試ミニ見ヨ或ル一大市邑ニ於テ工業上ニ一ノ變動起リタルカ爲メ、從來人ノ母タルモノニシテ工業ニ從事シ居タリシモノ俄カニ其職

業ニ離ル、コト、ナレリ、此ニ於テカ其母タルモノハ其家庭ニアリテ幼児ヲ乳育スルコト、ナレリ、而シテ其結果トシテ幼児ノ死亡比例甚ハタシク減少シタリシナリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ證明センカ、一千八百七十一年ニ於テ佛國ノ首府巴里カ普軍ノ爲メニ重圍ノ中ニ陥井レラレタル際、人ノ母タルモノカ工業ニ

從事スルコト能ハサルヨリ、家庭ニアリテ其子ヲ乳育シタル結果、幼児ノ死亡比例著シク減少シタリ、即チ從來ノ死亡比例ニ比シテ百分ノ四十ヲ減少シタリシナリ、又タ一千八百五十三年ニ於テ英國ノブレストンナル綿工場ニ一大罷工同盟起リタル際、及合衆國ノ内亂ノ影響トシテランカシアーニ綿ノ大拂底ヲ來シタルノ際共ニ是レ女子ノ職業一時休止シタルカ爲メ、母タルモノカ家庭ニ居テ其子ヲ乳育シタルノ結果幼児ノ死亡比例著シク減少シタリシナリ、此外女子ノ多數カ工業ニ從事スル箇所ニ於テ罷工同盟ノ起リタル場合ニハ、其影響トシテ多少幼児死亡比例ノ減少セサルコトナシ、又タ私設慈善團體若クハ公費ヲ以テ母乳養育法ヲ獎勵スルノ方法設ケラレタル箇所ニ於テハ、其結果何レモ良好ナラサルハナシ、右ニ掲ケタル事實ニ據リテ之ヲ考フレハ母乳ヲ以テ幼児ヲ養育シタランニハ、幼児ノ死亡比例ヲ著シク減少セシメンハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、然ルニ今マ女子教育ノ方針カ自カラ其子ヲ乳育スルコトヲ嫌忌セシムルノ傾キアリトセンカ、斯ル教育ノ方法ハ根本的ニ不完全ナリト云ハサルヘカラス、好シ此不完全ヲ補フノ途幾カ之レアリトスルモ、決シテ恕シ得ヘキモノニアラサルナリ、又タ他ノ方面ヨリ之カ觀察ヲ下サンカ、社會ノ有様カ女子ヲシテ其子ヲ乳育セシムルコトヲ妨害スルノ觀ナキ能ハス、即チ目今ノ社會ニテハ女子ヲ要スルノ職業一ニシテ足ラサルナリ、此ニ於テカ女子ニシテ子ヲ産ムモ自カラ之ヲ

乳育スルコトヲ爲サス、何等カノ職業ニ從事シテ賃錢ヲ得ント欲セサルモノナシ、是レ目今社會ノ有様ノ不完全ナルニ歸セスンハアラス、女子ヲシテ此ニ至ラシムルハ取リモ直サス社會ノ罪ナリト云ハサルヘカラス、然レトモ文明ノ度充分ニ發達進歩シテ適當ニ人命ヲ貴重スルコトヲ知了シタリトセンカ、國家全體ノ上ヨリ打算シ來リテ女子ノ職業上ヨリ得ル所ノ賃銀ハ實ニ些々タルモノニシテ之カ爲メニ幼兒死亡比例ノ増加スルコトノ由々シキ一大事タルコトヲ知ルヘキナリ、斯クノ如ク觀察シタランニハ今日女子ヲ各種ノ職業ニ就カシメテ以テ、幼兒死亡比例ヲ高カラシムル顯象ヲ目シテ何トカ言ハン、其殘忍ナルコト遠キ昔時ノ野蠻時代ヲ回想セシメスンハアラス、

尙ホ其他左記ノ如キ顯象ハ亦タ蔽フヘカラサル事實ト謂ツヘキナリ、曰ク富貴ニシテ社會ノ上流ニ位スル母タルモノニシテ其子ヲ乳育セサルモノアリ、此等ノ女子ハ畢竟スルニ其幼兒ノ生命ヲ失フヲモ願ミスシテ愉樂ヲ買ハント欲スルモノナリ、眼ヲ轉シテ他ノ一方ヲ願リミレハ、貧賤ニシテ社會ノ下層ニ沈淪セル母タルモノニシテ、其子ヲ乳育スルコト能ハサルモノアリ、此等ノ女子ハ畢竟スルニ低廉ナル賃銀ヲ得ンカ爲メニ何等カノ工業ニ從事シテ其子ヲ乳育シ得サルモノナリ、蓋シ此等ノ女子ノ得ル所ノ賃銀ハ低廉ナリト云フト雖モ、社會全體ノ上ヨリ打算シテ幼兒死亡比例ノ増加スル點ヨリ觀察ヲ下セハ、其賃銀ハ莫大ナルモノト謂ツテ妨ケナカルヘキナリ、之ヲ概言スレハ甲ハ自家ノ愉樂ヲ貪ランカ爲メニ其子ヲ乳育セス、乙ハ何等カノ工業ニ就テ賃銀ヲ得ンカ爲メニ其子ヲ乳育スルコト能ハサルモノ是ナリ、此等ノ甲乙二者ノ外乳泌官能全ク萎縮シタルカ爲メ其所生兒ヲ乳育スルコト能ハサルモノアリ、此種ノ婦人ハ生理上人ノ『母

タル資格』ナキモノト云フモ決シテ妨ケナカルヘキナリ、此等ノ三者ハ各々其趣ヲ異ニスト雖モ、其子ヲ乳育セサルノ一點ニ至リテ全ク一ナリト云ハサルヘカラス、此ニ於テカ人造ノ餌食ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルコト益々多キヲ加ヘ、從ツテ母乳ニ代用スヘキ適當ノ餌食ヲ得ント欲スルコト益々緊要トナレリ、

第三節

世ノ母タルモノ何等カノ故アリテ其所生ノ嬰兒ヲ乳育シ得サルモノ蓋シ少ナカラス、斯ル母ハ其嬰兒ノ爲メ勢ヒ相當ノ餌食ヲ求メサルヘカラス、今マ此等ノ嬰兒ニ供給スル爲メ特許ヲ得タル餌食ニシテ販賣セラ、モノ市場ニ溢ルハカリナリ、而シテ此等ノ餌食ハ皆ナ是レ効用ノ著シキヲ述ヘ立テ、人ノ母タルモノノ心ヲ惹カントセサルモノナシ、然レトモ此等ノ餌食中ニハ不良ナルモノ尠ナカラス、斯ク不良ナル餌食ニ對シテ最モ痛切ニ辯難攻撃スルモノ少ナカラス、中ニ就テ博士ロッチ氏ハ此事ニ就テ右ノ如ク云ヘリ、曰ク不良ナル餌食ノ市場ニ販賣セラル、責ハ其製造家ニアラスシテ寧ロ醫師ニアリト謂ツヘキナリ、其製造家タルモノハ畢竟スルニ資本家ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ製造スルニ過キサルナリ、然ルニ醫師ハ予ノ見ル處ヲ以テスレハ何心ナク此等ノ餌食ノ廣告上ニ就テ他ノ業務ヲ助クルモノト謂ツヘキナリ、即チ醫學士タル自家ノ聲名ヲ賭シテ以テ他ノ業務ヲ助クルモノト謂ツヘキナリ、又タ仰々シク嬰兒ノ餌食ハ只此一品ナリト廣告セルモ、事實其廣告ノ如クナルモノニアラス、「コンデンミルク」ノ最良ナルモノハ可ナルヘキモ、是レトモ劣等ナルモノハ均シク是レ有害ナラスンハアス、此ニ於テカ予ハ米國婦人タルモノニ對シテ切ニ望ム所ナクンハアラス、曰ク嬰兒ノ餌食ニ關シテ醫師ノ名ヲ付シテ廣告スルモノ、及各新聞各雜誌ニ廣

告セル嬰兒ノ餌食ヲ一切購買セサルコトヲ同盟セラレンコト是レナリ、

九五二

嬰兒ヲ養育スルニ就テ母乳ニ代ルヘキ最良ノ餌食ヲ山羊若クハ牝牛ノ乳汁是レナリ、但シ此等ノ動物ヨリ搾取シタル儘ノモノニアラス、人乳ニ最モ善ク類似セシムヘク變造シタルモノナリ、而シテ此等ノ二動物ノ内山羊ノ乳汁カ種々ノ點ニ於テ牛乳ニ優ル所アリ、然レトモ種々ノ理由アリテ山羊ノ乳汁ハ廣ク一般ニ用ヒラレサルナリ、米國其他諸外國ニ於テ嬰兒ノ餌食トシテ實際廣ク用ヒラル、ハ牛乳ニ限レルコト、ナレリ、山羊ノ乳汁ハ好シ牛乳ニ優レル所アリト雖モ、近キ將來ニ於テ牛乳ノ代用トナリテ米國嬰兒ノ餌食トシテ一般ニ用ヒラル、ニ至ラントハ到底望ミ得ヘカラサルナリ、然レトモ予カ今マ主トシテ論述セント欲スル問題ハ遠キ將來ニ關スル乳汁供給ノコトニアラス、差シ當リ目今廣ク用ヒラレ居ル所ノ牛乳ノ最良ナルモノヲ得ンニハ如何シテ可ナルヤヲ解決セント欲スルコト是レナリ、即チ牛乳ヲ以テ人乳ノ代用ト爲サンニハ不利ナル所不都合ナル所ナクンハアラス、先ツ此不利不都合ヲ除却スルノ方法ヲ講セサルヘカラス、之ヲ講セント欲セハ必ラス學術ニ依ラサルヘカラス、

抑モ學術ナルモノハ、牛乳ノ不利ナル所ヲ見顯シテ以テ之ヲ除却スルノ方法手段ヲ取ルモノナリ、嬰兒ノ胃ノ作用ニテ人造餌食ヲ消化スル有様如何ヲ研究シ得ルモノハ學術ノ力ニ外ナラス、母乳ニ代ルヘキ牛乳ニ關スル難問題ヲ解決シ得ルハ學術ノ光輝ニ依ラスンハアラス、從前ニ在リテハ神變不思議トモ稱セラルヘキ方法手段ニ依リテ以テ、牛乳ノ一滴宛ノ中ニ存在シ居ル秘密ヲ探究シ得ルハ學術ノ力ニ歸セスンハアラス、今マ其レ普通ノ平人ノ目ヨリ牛乳ノ一滴ヲ見タランニハ、只タ牛乳一滴ノミニ止マリテ其他何物ヲ

152

モ見ルコト能ハサルヘシ、然レトモ學者ノ目ヨリ之ヲ見レハ大ニ然ラサルモノアリ、牛乳ノ一滴ハ恰カモ一小世界トモ見ラルヘキモノニシテ、其内ニハ無數ノ生物モ活動シ居リテ其有様恰カモ宇宙間ニ於ル顯象ノ如ク、實ニ驚異スヘキモノナリト學者ノ目ニハ映シ來レルナリ、又タ吾人カ常ニ呼吸スル所ノ空氣中ニモ幾百萬ノ生動物ノ存在スルコトヲ學者ハ見定メタルナリ、器械ノ力ヲ借ラサル人類ノ肉眼ニテハ斯ル生動物ヲ見ルコト能ハサルノミ、此外學者ハ尙ホ左ノ如キ事柄ヲモ知了スルモノナリ、曰ク人ノ肉眼ニテハ見得ヘカラサル極メテ微細ナル生動物ノ多數ハ人ノ餌食中ニ入り込ミ、又タ其内ノ或ルモノハ、到ル所ニ疾病ト死亡トヲ惹起スル所ノ模様如何ヲ見極ムルモノナリ、今マ又タ肉眼ヲ以テ如何ニモ立派ニ如何ニモ人ヲ悦ハシムヘク見ユル所ノ牛乳一滴ヲ取りテ之ヲ分析シ、顯微鏡ニ照シテ見タリトセンカ、其一滴ヲ極メテ微細ニ小分シタルモノ、内ニ異様ノ生動物充滿シ居リテ、其内ノ善キモノト惡シキモノト戰闘ヲ爲シ居ル有様ハ、此大宇宙間ニ於ル幾多ノ動物カ互ニ戰闘スル状態ニ異ナラサルヲ見ルナルヘシ、

茲ニ一ノ嬰兒死亡シタリトセンカ、學者ハ其死體ヲ検査シテ以テ之ヲ死ニ至ラシメタル疾病痛苦ノ素因ヲ知ルモノナリ、蓋シ斯ク其死因ヲ認識シ得ルハ數多ノ經驗觀察ヲ重ネタル結果ニ外ナラサルナリ、即チ斯ル經驗觀察ノ結果トシテ知ラレタル死因ナルモノハ、異竟スルニ顯微鏡ニ照ラスニアラスンハ得テ見ルヘカラサル無數ノ有機體ノ存在スルニ歸セスンハアラス、而シテ斯ル有機體ハ牛乳ノ一滴中ニ存在スルモノト全く同一ナラスンハアラス、尙ホ其他牛乳ヲ分泌スル所ノ牝牛ノ體中ニモ同一ナル疾病痛苦ノ素因アルコトヲ知り得タルモノナリ、且ツ胃腸病流行ノ結果トシテ嬰兒ノ死亡スルモノ甚ハタ多カリシモ、其病原

九五三

如何ハ曾テ知ラレサリシカ、學者カ此等ノ各嬰兒ノ消化部局ヲ仔細ニ検査シテ初メテ茲ニ其病原ヲ知ルコトヲ得タリ、即チ此等ノ消化部局ニ顯微鏡的有機體ノ多數存在スルコトヲ見出シタリ、此等ノ有機體ハ取リモ直サス種々ノ細菌ニシテ、牛小屋ノ汚穢物中ニ存在スル細菌ト毫モ異ナル所ナキナリ、而シテ此牛小屋ハ乳牛ノ常ニ棲息スル所ニシテ、此牛ヨリ分泌スル所ノ乳汁ハ嬰兒ノ餌食トナルモノ是レナリ、故ニ此等ノ乳中ニ細菌ノ含有スルコトモ亦タ止ヲ得サル次第ナリト云ツヘキナリ、バルチモアードクトル、ブーカー氏ハ嬰兒ノ難病ニ罹リテ死亡セシモノ、腸内ニ三十三種ノ細菌ノ存在セルコトヲ見出シタリ、斯ル嬰兒ノ母ハ此難病ヲ稱シテ『夏季病』ト云ヒ、醫師ハ之ヲ呼ンテ『幼兒虎列拉』ト名ケタリ、右ハ數多ノ嬰兒病中ノ僅カニ一例ニ過キササルナリ、斯ク嬰兒ノ多ク斃ル、ハ畢竟スルニ下痢症ニ外ナラサルナリ、大ナル市邑中ニテ死亡スル嬰兒ノ半數ハ其死因牛乳中ニ存在スル汚穢物ニ歸セスンハアラス、

盛夏炎熱ノ候ニ際シテ我カ市邑中ニ於テ借家住居ヲ爲セル人ノ母タルモノカ自カラ其暑熱ニ耐ノ難キノ折カラ、其所生ノ嬰兒カ恰カモ焦土ノ花卉ノ如ク凋萎瘦削見ルニ忍ヒサルノ有様ヲ見テ、是レ全ク炎熱ノ然ラシムル所ナリト思惟スルハ、自然ノ情ニシテ亦タ止ヲ得サルノ次第ト謂ツヘシ、然レトモ其實決シテ然ルヘキモノニアラス、即チ嬰兒ヲシテ夏季ノ下痢症ニ罹ラシメ、之カ爲メニ死亡スルモノ少カラサル所以ノモノハ、單ニ炎熱ノミト云フヲ得ス、炎熱モ其動機中ノ一ニハ相違ナキモ、其重モナル原因トモ得テ云フヘカラサルナリ、是レ事實ニ照ラシテ容易ク證明スルコトヲ得ヘキナリ、即チ一千九百年五月一日ヨリ同年十一月一日マテ一千九百年五月一日ヨリ同年十一月一日マテノ期間ニアリテ、紐育州中（大紐育市

ノ外部ニ於テ劇烈ナル下痢症ニ罹リテ死亡シタル嬰兒ノ數ヲ對照比較シテ見ヨ、一千九百年ノ夏季ノ炎熱ハ非常激烈ナルモノニシテ一千九百年ノ比ニアラス、然ルニ同一ノ期間同一ノ地方ニ於テ嬰兒ノ死亡シタル數如何ト云フニ、夏季炎熱激烈ナリシ年ノ死亡數ハ其炎熱左マテニナキ年ノ死亡數ニ比スレハ、半ハ以上ニ上ラサル程ナリキ、之ニ反シ大紐育市及其郊外地ニ在テハ同一ノ疾病ノ爲メニ死亡シタル嬰兒ノ數殆ント前年ノ倍數ニ達シタルナリ、

第六表

五月一日ヨリ十一月一日マテノ期間ニ於テ下痢症ニ罹リテ死亡シタル者ノ數

紐育市外ノ地方	一九〇〇年	一九〇一年
紐育市及其郊外地	三三〇二人	一八九八人
	三八六七人	六一一五人

右ノ表ニ據リテ觀レハ炎熱ナルモノカ幼兒ノ中ニ流行スル夏季下痢症ノ惟一ノ原因タラサルコト實ニ明カナリト謂ツヘシ、ドクトル、チャビン氏ノ說ニ曰ク一千九百一年大紐育市ニ於テ其夏季下痢症ニ罹リテ幼兒ノ死亡スル數非常ニ増加シタルハ其原因果シテ何ノ邊ニアリヤト云フニ、市中到ル所皆ナ是レ塵埃及汚穢物ノ非常ニ充滿シタルニ基カスンハアラス、而シテ此等ノ塵埃汚穢物ニハ各種ノ病毒ノ伏在シ居ルコトハ固ヨリ云フヲ要セサルナリ、斯ク塵埃汚穢物ノ量非常ニ増加シタルハ、全市到ル所ニ水管、瓦斯管、傳信線等ヲ埋没センカ爲メニ縱横無盡ニ街路ヲ開鑿シ、下水ノ如キハ常ニ曝露サレタル儘打チ棄テアル等ノ顯

象ニ基カスンハアラスト、蓋シ此説明ハ其當ヲ得タルモノニシテ亦タ争フヘカラサル事實タリ、其他左ノ如キ事モ尙ホ是レ均シク得テ争フヘカラサル事實ナリ、曰ク下痢症ニ罹ルモノ、母乳ヲ以テ養育サレタル嬰兒ヨリ牛乳ヲ以テ養育サレタル嬰兒ノ方ニ一層多キハ争フヘカラサル事實ナリ、斯ル下痢症ノ一層多キ原因ハ其飲用スル牛乳カ病原菌ニ感染セラレタルニアリト云ハサルヘカラス、嬰兒ノ餌食トシテ不良牛乳ノ不適當ナルコトハ、學說經驗共ニ是レ確認スル所ナリ、

結核病、窒扶斯熱、猩紅熱、實布埤里亞、麻疹、咽喉病其他特種ノ數多ノ疾病カ牛乳ノ飲用ニ伴フテ傳播スルコトハ學術上ノ實驗研究ニ據リテ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、何カ故ニ此等ノ疾病カ牛乳ノ媒介ニ依リテ傳播スルヤト云フニ、其牛乳ノ性質ノ不良ナルニ基ツカスンハアラス、即チ其乳汁ヲ分泌シタル牝牛カ此等ノ疾病中ノ何レニカ罹リ居タルカ、或ハ搾取後ノ牛乳ガ需用者ノ手ニ入ルマテノ中ニ、此等ノ病毒ノ何レニカ感染シタルニ歸セスンハアラス、蓋シ牛乳ノ病毒ニ感染スル機會ハ一ニシテ足ラサルナリ、牝牛ノ乳房カラ結核菌ノ發スルアリ、乳牛ハ好シ健康ナルモ他ノ病牛ノ分泌シタル乳汁ノ一滴中ニ於ル細菌カ突然侵シ來ルコトアリ、或ハ牛乳ヲ取り扱ヘル者ノ衣服ヨリ病原菌ノ入り込ムコトアリ、或ハ病毒ヲ含有スル水ヨリ感染スルカ如キ是レナリ、牛乳カ病毒ニ感染セラル、コト何レノ方面ヨリスルモ、其危険ナル一點ニ至リテハ全ク同一ナリト云ハサルヘカラス、是レニ由リテ此レヲ觀レハ結核病、窒扶斯、猩紅熱、實布埤里亞及其他ノ疾病カ病毒ニ感染セラレタル牛乳ノ媒介ニ依リテ傳播セラル、ハ最モ明カナル事實ト謂ツヘキナリ、且ツ病原菌ニ感染サレタル牛乳ハ餌食トシテ獨リ幼兒ニ不適當ナルノミナラス、成年ノモ

ノニ取りテモ亦タ不適當ナラスンハアラス、是レ學術ト實驗トニ照シテ明カナル事實ナリ、不良牛乳ノ人身ニ取りテ危険ナルコトヲ見顯ハサンニハ、往々甚ハタシキ費用ヲ要スト雖モ、是レ固ヨリ學者ノ權能ニシテ平人ノ及フ所ニアラサルナリ、且ツ平人ハ斯ル危険ヲ避ルノ途ヲ知ラスト雖モ、學者ハ之ヲ豫防スルノ方法ヲ知ルモノナリ、故ニ平人タルモノハ此等ノ事ハ學者ニ一任シテ常ニ其指導ノ下ニ立タサルヘカラス、

第四節

人ノ母乳ノ代用タル牛乳ノ不利益ナルコト及危険ナルコトニ就テ、取り敢ヘス其概略ヲ述ヘタルコトナルカ、尙ホ其他忽諸ニ付スヘカラサル重要事件ニシテ吾人カ會テ筆ニセサルコトノアルアリ、請フ此事ニ就テ聊カ左ニ論述スル所アラントス、吾人ハ既ニ前段ニ於テ、人類ノ幼兒ト犢牛トノ間ニハ自カラ生理上差異アルヲ以テ、牛乳ヲ幼兒ノ飲料ト爲サンニハ一ノ困難アル事、牛乳ノ病毒ニ感染シ易キ所ヨリ生スル危険ナル事、牛乳ヲ製出シ及之ヲ分配スル者ノ側ニ於テ衛生學ノ初歩タニ知ラサルカ故ニ生スル所ノ危険ヲモ叙述シタリシナリ、尙ホ其他牛乳中ニハ數多ノ病原菌存在シ居リテ之ヲ人類ニ傳播スルノ危険ナル事、偶然病毒ニ感染シタル牛乳ヨリ其病毒ヲ人類及其他ノ動物ニ傳播スル事實等ヲ述ヘタリシナリ、今マ予ハ此等ノ危険ノ外牛乳中ニ他物ヲ混和スルコト及防腐劑ヲ用フルコトニ就テ聊カ論スル所ナクンハアルヘカラス、是レ所謂ル忽諸ニ付スヘカラサル重要事件ナルモノナリ、

牛乳中ニ白堊ヲ混和スト云ヘル昔話アリ、好シ此事アリシトスルモ極メテ稀レナリシモノナラン、世間普通ニ牛乳中ニ混和セラル、モノハ水ナリ、通常國法ヲ以テ牛乳中ニ斯ル混和物ヲ以テスルコトヲ嚴禁スル

國々少ナカラスト雖モ、其國法ハ常ニ善ク實行セラル、モノニアラサルナリ、博士ドアン氏ハ若干ノ市邑ニ就テ牛乳ノ製出及分配ノ實況如何ヲ視察シタルノ結果、其營業上不正ノ行ハル、コト珍ラシカラサルコトヲ見出シタリ、當時一般ノ道徳ノ制裁甚ハタ薄弱ニシテ斯ル詐僞ノ行爲アルモ左マテ咎ムルモノモ之レナキモノ、如シ、中ニ就テ最モ甚ハタシキハ自カラ其詐僞ナル事實ヲ公言シテ憚カラサルモノサヘアリ、曾テ一ノ牛乳營業者アリ一日同國民ノ一團體(此團體中ニハ其牛乳ノ得意先モ若干名アリシナリ)ニ向ツテ左ノ如キコトヲ話シ出シタリ、曰ク予ハ予等ノ同業者ト均シク牛乳中ニ水ヲ混和シテ賣リ捌ケルナリ、其水ヲ混和スルノ割合ハ牛乳毎四「ガロン」(一「ガロン」ハ凡ソ我カ二升五合ニ當ル)ニ就テ水一「ガロン」ニ當レルナリト、斯ク其不正ヲ公言シテ憚カラサルトハ嗚呼亦タ沙汰ノ限リナラスヤ、

右ノ如ク牛乳中ニ他物ヲ混和スルノ非ナルコトハ重モニ何ノ邊ニアリヤト云フニ、若干量ノ牛乳ヲ飲用スルモ其レ丈ケノ滋養分ヲ得ルコト能ハサル是レナリ、且ツ水ヲ混和スル場合ニ就テ之ヲ云ハンカ、其水ノ純清ナラサルコトハ殆ント常ナリ、純清ナラサル水ノ危険ナルコトハ今更云フヲ要セサルナリ、博士ドアン氏曾テ云ヘルコトアリ、曰ク牛乳營業者ニシテ其牛乳中ニ水ヲ混和スル程ノ不正ナルモノナランニハ、之ニ混入スル水ノ良否ヲ選擇スル杯ノ注意ハ固ヨリ之レナシト云ツテ妨ケナカルヘシト、至言ト謂ツヘシ、牛乳業ヲ營ムモノニシテ其牛乳中ニ多少ノ水ヲ混入セサルモノハ殆ント之レナシト云ツテ可ナリ、紐育及オハイヲノ如キハ牛乳取締法最モ嚴重ニシテ、苟クモ此取締法ニ違犯スルモノハ誰レ彼レノ容赦ナク最モ峻嚴ニ處罰スト雖モ、尙ホ且ツ牛乳中ニ他物ヲ混入スルノ弊ハ決シテ少ナカラサルナリ、況ンヤ其他ヲヤ、

牛乳中ニ水杯ヲ混入スルト防腐劑ヲ用フルトハ其性質全ク異ナレリト雖モ、防腐劑モ亦タ是レ一種ノ混和物ト見テ可ナリ、今マ其レ牛乳製造家若クハ牛乳賣捌人カ之ニ水ヲ混和シ或ハ一旦掬ヒ取りタル渣滓ヲ混和シテ販賣シタリトセンカ、是レ得意先ニ對シテ竊盜罪ヲ犯シタルモノト云ツヘキナリ、最モ憎ムヘキ性質ノ竊盜ニ外ナラス、然レトモ牛乳製造家若クハ牛乳賣捌人カ牛乳中ニ防腐劑ヲ投シタル場合ニハ通常不正ノ意志アリテ然カセシモノニアラサルヤ明ラカナリ、即チ人ヲ欺カント欲スルノ意ニ出テタルモノニアラサルナリ、畢竟スルニ化合物ヲ用ヒテ牛乳ヲシテ酸味ヲ生セサラシメント欲スルニ過キス、概シテ之ヲ云ヘハ久シク其味ヲ變セサル牛乳ヲ得意先ニ配達センカ爲メナリ、費用ノ多キ水ヲ用ヒサラシカ爲メナリ、酸味ヲ帶ヒ來リテ賣ルコト能ハサル場合ニ於ル損失ヲ豫防センカ爲メナリ、斯クテ此牛乳製造家等ハ新聞雜誌等ノ廣告ニ基キ或ハ他ヨリ勸メラレテ、防腐劑ヲ買ヒ入ル、ナリ、蓋シ此等ノ防腐劑概シテ化合物ニシテ「アイスリン」、「フリーヂン」、「プレサージュエリン」杯云ヘル美名ヲ付セラル、ト雖モ、消化機關ニ傷害ヲ與フルモノナリ、殊ニ幼兒ノ消化機關ヲ傷害スルコト一層甚ハタシト云ハサルヘカラス、牛乳營業者ハ概シテ「アイスリン」、「フリーヂン」等ノ防腐劑タルコトヲ知ルト雖モ、其内ニ甚ハタ危険ナル性質ヲ含ミ居ルニトヲ知ラサルナリ「プレサージュエリン」ノ或ル種類ハ礫酸ヲ含有シ、同シク他ノ種類ハ「サルチル」酸、硫酸「ソジウム」、「フォルマルヒド」ヲ含有スルカ如キ是レナリ、此外牛乳ノ酸味ヲ帶ヒ來ルハ細菌ノ作用ニ基クコトヲ知ラス、尙ホ此等ノ細菌ハ不衛生ノ有様アリシ結果トシテ、此牛乳中ニ入り込ミシコトヲ知ラス、此等ノ牛乳營業者ト雖モ衛生局ヨリ發シタル牛乳製造取締法ヲ聞カサルニアラス、

即チ牛小屋ヲ清潔ニシ、牛乳ヲ盛ルヘキ器物ヲ新規ニシ、搾取人等ニ純白ノ仕事着ヲ服サシメ、牛乳ノ乳房ノ邊ヨリ尾ニ至ルマテ善ク洗滌センコトヲ要スト云ヘルコトヲ聞カサルニアラス、然レトモ此等ノ事柄ハ畢竟スルニ若キ醫師ノ幻想ヨリ出テタルモノトシテ、之ヲ蔑視シテ信用セサルヲ如何セン、又タ牛乳ヲ飲用スル側ニ於テモ近來ニ至ルマテ斯ル事ヲ知ラスシテ永年ノ間飲用シ來リシナリ、既ニ斯ル有様ナレハ良乳ノ得ラレサルモ亦タ怪シムニ足ラサルナリ、

佛蘭西國ニ於テハ「サルチル」酸ヲ食物ニ混入スルコト廣ク一般ニ行ハル、コトナリ、從ツテ公衆衛生上ニ影響ヲ及ハスニ至レリ、此ニ於テカ同國政府ハ「サルチル」酸ヲ用フルノ利害如何ヲ調査セシムヘキ委員會ヲ任命シタリシカ、該委員會ハ調査ノ結果ヲ報告シテ左ノ如ク云ヘリ、曰ク「サルチル」酸若クハ其化合物ハ好シ少量ト雖モ、之ヲ食物(固體及液體共)ニ混入スレハ必ラス害アルモノナリ、故ニ決シテ混入スヘキモノニアラスト、然ルニ牛乳營業者ハ此等ノ事柄ヲ知ラサルナリ、又タ合衆國ノ或ル雜誌ハ左ノ如ク云ヘリ、曰ク諸種ノ食物ヲ長ク保存センカ爲メニ「サルチル」酸ヲ用フルモノ世間ニ多シト雖モ、之レ有害ナルカ故ニ決シテ用フヘキモノニアラスト、然ルニ牛乳營業者ハ此等ノ事柄ヲ知ラサルナリ、又タ「フェルマルドヒード」ハ牛乳中ノ酪素ノ消化作用ヲ害シ、從ツテ幼兒ニ取リテ容易ナラサル腸病ヲ惹起スルモノナリ、然ルニ牛乳營業者ハ此等ノ事柄ヲ知ラサルナリ、牛乳營業者ハ概シテ右ニ掲ケタル事柄ヲ知ラサルナリ、好シ之ヲ知リタリトスルモ利益問題ノ觀念強キカ故ニ其害如何ヲ顧リミルノ餘地ナキナリ、牛乳ニシテ酸味ヲ生セサル以上ハ純良ナルモノトシテ其他ニ及フノ思慮ナキナリ、牛乳ヲ改良スルニ要スル資金ナクテ數

育ナク智識ナキモノナリ、只タ利己主義一點張リニテ堅ク舊様ヲ墨守シツ、全力ヲ盡シテ新規改良法ニ反對セリ、牛乳營業者ノ有様斯クノ如シ、其製出スル所ノ牛乳得テ知ルヘキノミ、

右ノ如キ有様ナルカ故ニ牛乳製造取締法アルニモ拘ラス、牛乳營業者カ有害ナル防腐劑ヲ用フルハ毫モ怪シムニ足ラサルナリ、然ルニ斯ル不都合ノ所爲ノ見顯ハサル、コトハ稀レニシテ法網ヲ脱ル、モノ多キニ居リ、時トシテハ牛乳製造家自カラ牛乳中ニ「アイスリン」ヲ投スルコトアリ、又タ牛乳卸商カ事實如何ヲ知ラスシテ「プレサージュリン」ヲ投入スルコトアリ、然ルニ同シク小賣商ハ自家ノ利益ヲ慮カリテ、尙ホ其上ニ「フリーヂン」ヲ加入スルコト珍ラシカラサルナリ、而シテ牛乳中ニ斯ルモノヲ混入シタル結果如何ト云フニ、斯ル牛乳ヲ飲用シタル幼兒ノ疾病ニ罹レルモノ少ナカラサルコト是レナリ、是レ決シテ架空ノ說ニアラス、農務局ノ報告中ニアリテ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、事既ニ斯クノ如キ有様ナルカ故ニ斯ル防腐劑ヲ用フルコトハ、法律ヲ以テ禁止スルノ州少ナカラサルナリ、昔ニ州法ヲ以テ禁止スルノミナラス、合衆國大政府ノ法律ヲ以テ之ヲ禁止スルニ至リタリ、一千九百六年六月三十一日ノ發布ニ係ル國民一般ノ食物及藥物取締條例ナルモノ即チ是レナリ、而シテ此等ノ法律ノ結果如何ハ是レヨリ後段ニ於テ述ルコトアルヘシ、兎ニ角之ニ關スル各州ノ法律ハ之ヲ實行セシメンカ爲メニ如何ニ力ヲ盡スト雖モ、危險ナル防腐劑ヲ全ク禁止スルニ足ラサルヲ如何セン、

以上掲ケタルコトヲ約言スレハ概シテ米國ノ市邑中一般ニ供給セラル、所ノ牛乳ハ不良ニシテ危險ナリト云フニアリ、注意深キ讀者ナランニハ左ノ如キコトハ自カラ知了セラル、ナラン、曰ク牛乳ノ斯クノ如ク

危険ナルコトハ皆ナ是レ深ク隱匿セラレタルモノニシテ、之ヲ知ルコト決シテ容易ナラサルナリ、今マ一例ヲ舉ケテ之ヲ云ハンカ、好シ牛乳中ニ窒扶斯菌ノ極メテ危険ナルヲ含ムト雖モ、結核菌ヲ有スト雖モ、其他ノ病原菌ヲ保ツト雖モ、或ハ有毒ナル化合物ヲ混和サル、ト雖モ、其外形ヲ見テ以テ判スルコト能ハス、其味如何ニ依リテ之ヲ確カムルコト能ハサルナリ、斯ルコトハ注意深キ讀者ノ善ク推定セラル、所ナラン、サラハ如何シテ其危険ナルヲ見出シ得ヘキヤ、牛乳罐其他ノ牛乳器中ニ潜伏スル所ノ危険ヲ見顯スハ獨リ科學ノ力アルノミ、尋常普通ノ人ニテハ之ヲ見顯スコト殆ント不可能ノ事ナリ、且ツ化學上及細菌學上ニテ牛乳ヲ試験センコトハ甚ハタ困難ナル事業ニシテ獨リ時日ヲ要スルノミナラス、之カ爲メニ要スル所ノ費用モ決シテ少ナカラサルナリ、故ニ平人ノ力ノ善クシ得ヘキ所ニアラス、科學者ヲ俟タスンハアルヘカラス、牛乳ノ危険ナルコトハ科學的調査ノ結果トシテ表ニ依リテ之ヲ確カムルコトヲ得ヘキナリ、而シテ平人ハ却ツテ左ノ如キ歎聲ヲ發スルニ至レリ、

科學 何 爲 棄 吾 去、

沈 淪 空 泣 失 望 淵、

第七章

救濟ノ學說及實驗ノ事

第一節

文明ノ度最モ善ク進歩發達シタル社會ニアリテハ、公衆一般ヲ利スヘキ給水事業カ國家ノ監督ノ下ニ行ハ

レサルハナシ、吾人ハ今公衆一般ヲ利スヘキ給水事業ヲ論述スルニ際シテ、給水事業進化ノ度ヲ三大期ニ區別シテ論述セント欲ス、蓋シ是レ讀者諸君ヲシテ給水事業ヲ理會スルニ便ナラシメンカ爲メナリ、即チ其三大期トハ左ノ如シ、(一)ヲ非給水事業ノ時代ト云フ、個人ノ私有ニ屬スル泉水及井水ニシテ一家族若クハ數家族ノ團體ヲ爲セルモノ、用ニ供セラル、モノ是レナリ、(二)ヲ給水事業ノ第一期ト云フ、私立會社ニ屬シテ官廳ト妥協一致シテ行動シ、使用者ヨリ若干ノ代價ヲ領收シテ中央部ヨリ水ヲ供給スルモノ是レナリ、(三)ヲ給水事業ノ第二期ト云フ、給水事業ヲシテ私立會社ニ屬セシメス、國家事業トシテ經營スルモノ即チ是レナリ、

今マ給水事業ヲ大仕掛ニ計畫セシムルニ至リタル重モナル動機ノ一トモ謂ツヘキモノハ如何ト云フニ、左記ノ如キ事實ナリト云ハサルヘカラス、曰ク汚穢不潔ナル井水カ重大ナル疾病ヲ發生スルノ原因タルコトハ珍ラシカラサル事實ナリ、是レ棄テ置クヘカラサル顯象ニシテサテコソ給水事業ヲ起サ、ルヘカラサルコト、ハナリタルナレ、試ミニ見ヨ一個人ノ私有ニ屬スル舊式ノ井戸ニテハ、清良ニシテ安全ナル水ノ供給セラレンコトハ、實際ニ於テ不可能ノ事ト云ハサルヘカラス、清良安全ナル水ノ供給セラレンコトヲ望マハ、勢ヒ給水ノ事ニ就テ嚴重ナル取締法ナクンハアルヘカラス、取締法ナルモノハ一個人ノ能クシ得ヘキモノニアラス、必ラスヤ公共團體ノ手ニ委任セサルヘカラス、此ニ於テカ給水事業ハ市邑ノ所屬トナリ其監督支配ヲ受ルコト、ナリタリ、既ニシテ給水事業カ市ノ所屬トナリシ以來、給水ノ方法取締等ノ事ニ關シテ往々非難攻撃スルモノ之レアリト雖モ、全體ノ上ヨリ之カ觀察ヲ下サハ大ニ利スル所アリト云ハサ

ルヘカラス、從來汚穢不潔ナル井水ノ爲メニ傳染病ノ發生スル危險少ナカラサリシカ、給水事業カ市ノ所屬トナリシ爲メ此危險ノ度合大ニ減少シタルハ亦タ争フヘカラサル事實ナリ、是レ吾人ニ取リテ利益ナラサルカ、

尙ホ左ニ記載スルカ如キコトモ亦タ是レ争フヘカラサル事實ナリ、曰ク他ハ暫ラク擱キ我國ノ給水事業ノ有様ヲ見ルニ、一個人ノ私有ニ屬スルモノハ往々ニシテ由々シキ危險之ニ伴フハスンハアラス、給水事業ノ私有ニ屬スル場合ニ於テハ社會ノ健康ヲ害スル所ノ危險之ニ伴フハ亦タ免カルヘカラサル顯象ナリ、試ミニ見ヨ、給水事業カ若干期間市ノ所屬トナリ居タル場合ニ發生スル窒扶斯ハ、同シク一私人ノ所屬ニ歸シタル場合ヨリ一層少ナキニアラスヤ、尙ホ其外給水事業ノ市有トナレル場合ニ於テ窒扶斯患者ノ死亡比例甚ハタ高カラシカ、之カ救濟法ヲ實施スルコト、一個人ノ私有ニ屬スル場合ヨリ一層容易ナルモノナリ、是レ他ナシ給水事業ノ私有ニ屬スル場合ニ於テハ自己ヲ利セント欲スルノ念專ラニシテ他ノ利害ヲ顧ミルノ邊マナケレハナリ、イサカ地方ニ於テ曾テ窒扶斯ノ發生シタル場合ノ如キハ、蓋シ好適例ト謂フヘキナリ、同地方ノ給水事業ハ市民ノ組織ニ係ル私立會社ノ所有ニ屬スルモノナリ、若シ此私立會社ヲ組織セル市民ニシテ此會社ニ關係セサリシモノトセンカ、給水事業ノ改良進歩ニ就テ大ニ其力ヲ盡スヘク、又タ現在ノ弊害ニ關シテハ非難攻撃シテ之ヲ矯正センコトニ勸メサルハナカルヘシ、然ルニ會社員タルノ故ヲ以テ會社ノ利益ヲ慮ハカルノ念強クシテ、公衆一般ノ利害如何ヲ顧リミルノ邊マアラサルナリ、米國ノ一大醫ノ言ニ曰ク窒扶斯ニ罹リテ死亡スルモノアル毎ニ、殺人犯トシテ絞罪ニ處セラル、モノ一人アリトセン

カ、而シテ斯ル苛法カイサカニ於テ適用セラレタランニハ市民ノ多クハ死刑ニ處セラルヘク、從ツテ彼ノ給水會社ハ殆ント空虚トナルニ相違ナカルヘシト、以テ私有ニ屬スル給水事業ノ不結果ナルコト推知スヘキナリ、

英國ノドクトル、ラウソン、ドッド氏ノ說ニ曰ク我カ給水事業ノ大本源ヲ市ノ所屬ニ歸セシメタルハ、傳染病ノ影響ニシテ奇警ノ文筆ニハ依ラサリシナリト、蓋シ此說タルヤ當ニ英國ノミナラス、米國ニモ亦タ適用スヘキモノナリ、而シテ今牛乳供給ト公衆衛生トノ關係如何ト云フニ、恰カモ是レ給水事業ト公衆衛生トノ關係ニ異ナラサルナリ、サレハ給水事業ヲ市ノ經營トスルノ必要アランニハ、牛乳供給事業モ亦タ是レ市ノ經營トナスンハアルヘカラス、今マ牛乳ニ就テ之ヲ云ハンカ、病毒ニ感染シタル牛乳若クハ不潔ナル牛乳ヲ飲用スルノ危險ナルコト(專ラ幼兒ノ飲用ニ就テ云フ)ハ、汚穢不潔ナル水ヲ飲用スル場合ヨリ尙ホ一層甚ハタシキモノト云ツヘキナリ、是レ他ナシ牛乳ハ概シテ嬰兒ノ餌食タレハナリ、且ツ水ハ世人ノ善ク知ル如ク決シテ結核菌ヲ傳播セサルモノナリ、然ルニ牛乳ノ結核菌ヲ含有スルコトハ決シテ珍ラシカラス、尋常普通ノ事タルハ吾人ノ善ク知ル所ナラスヤ、サレハ牛乳供給ノ事ニ就テハ一層深ク注意スル所ナクンハアルヘカラス、

事物ノ有様右ノ如クナルヨリ我カ大小市邑ニ供給スル牛乳ノ全部ヲシテ、市ノ經營ニ歸セシメント欲スル熱心ナル改革家多ク輩出スルニ至レリ、今マ一例ヲ舉ケテ之ヲ示サンカ、志加古ニ傳染病發生シタルノ時ニ際シテ志加古社會主義者ナル一ノ團體組織セラレタリ、抑モ此團體ノ主張スル所ハ牛乳供給事業ヲシテ

市ノ經營ニ屬セシメントスルニアリ、而シテ此團體ノ主義ヲ賛成スル人モ亦タ少ナカラサリシナリ、又タ英國ニハ倫敵保守協會ナルモノアリ、此協會ノ主義トスル所ハ米國ニ流行スル説トハ全ク反對ニシテ保守主義ヲ專ラトセルモノ是レナリ、其主義トスル所ハ概テ左ノ如シ、

「今マ吾人カ清良ナル牛乳ヲ得ント欲センカ必ラスヤ牛乳製造所ヲ地方ノ農業地ニ設置シ、其賣捌店ヲ此市内ニ置カンコトヲ要ス、我カ大市邑中ノ多クハ給水事業ノ爲メ既ニ莫大ノ金錢ヲ費シタリ、何ソ牛乳供給ノ爲メニ金錢ヲ費ヤサ、ルノ理アラシヤ、蓋シ給水事業ヲ市ノ經營ト爲スヘキ理由ハ、以テ牛乳供給事業ニモ適用セサルヘカラス、即チ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲スノ必要ナルコトハ、給水事業ヨリ尙ホ一層必要ナリト云ハサルヘカラス、而シテ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲サンニハ其順序トシテ先ツ地方ニ於ル農業地ニ市ノ牛乳製造所ヲ設置シ、製乳事業ニ熟練セル者ヲシテ之ヲ管理セシメ、尙ホ其上ニ市ノ警官及獸醫ヲシテ之ヲ監督視察セシメンコトヲ要ス、且ツ其レ吾人ニ牛乳ヲ供給スヘキ牝牛ハ充分健康ナルモノヲ選擇シテ、適當ナル飼育法ノ下ニ置カサルヘカラス、而シテ此等ノ事柄カ果シテ能ク實行サル、ヤ否ナヲ視察センコトヲ要ス、既ニ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲サンカ、其經營ハ左マテ複雑セルモノニアラス、他ト比較シテ寧ロ單純無造作ノモノナリ、市ハ固ヨリ營利ヲ目的トセサルカ故ニ、「ガロン」ノ牛乳ニ汚穢ナル水ヲ混和シテ「ガロン」ト爲スノ必要ヲ見サルナリ、且ツ製乳ニ就テ複雑シタル價高キ器械ヲ用フルノ必要ナキナリ、又タ斯ル營業ニテハ損亡ノ生スルコトナク、其力ヲ一ヶ所ニ集中スルカ故ニ其事業上ニ要スル經費モ自カラ減少スヘキナリ、此ニ於テ吾人ハ價一層廉價ニシテ一層

良質ノ牛乳ヲ得ヘキナリ、又タ之ニ従事スル勞働者ノ賃銀モ相當ニ得ラルヘキナリ、」

第二節

右ニ述ヘタル事柄ハ純粹ナル學説トシテハ何人モ異論ナカルヘキナリ、此等ノ説ノ大半ハ彼ノ保守協會ノ意見ナリト謂ツヘキナリ、其叙述セラレタル所如何ニモ美ナリト雖モ、畢竟スルニ是レ記者カ詞ヲ飾リ文ヲ舞シテ以テ其非ナル所ヲ蔽フタルニ過キサルヘシ、其實際ハ決シテ然ラサリシナルヘシ、今マ假リニ此保守協會カ果シテ牛乳事業ヲ然カク單純無造作ナリト信シ居ルトセンカ、是レ甚ハタシキ誤解ニシテ其誤解ハ何時シカ氷解スルノ時來ルヘキナリ、抑モ牛乳事業ナルモノハ決シテ單純無造作ノモノニアラス、科學ヲ應用シテ製乳業ヲ經營セント欲セハ勢ヒ紛糾錯雜スル所ナクンハアルヘカラス、是レ最モ注意ヲ密ニシテ牛乳事業ヲ視察シタル者、及製乳業ノ實驗ニ富メルモノカ精良ナル牛乳ヲ製出セントテ苦心焦慮スル有様ヲ目撃シタルモノ、共ニ異論ナキ所ナリ、蓋シ牛乳ヲ夫々配達分與スルコトハ之ヲ製乳ノ事ニ比スレハ一層容易ナル所アリト謂ツヘキナリ、而シテ牛乳分配事業ハ彼ノ給水事業ト均シク市ノ管轄ニ屬セシムルヲ當然ナリト謂ツヘキナリ、其市ノ管轄ニ屬セシムヘキ理由ハ二者共ニ全ク同一ナリト謂ハサルヘカラス、之ニ就テノ輿論ノ向フ所ハ兎ニ角予一個ノ意見ヲ以テスルモ然リト明言セサルヲ得ス、米國ノ大市邑ヲヲシテ早く牛乳ノ製出及分配ヲ監督セシムル様爲サンコトヲ希望ノ至リニ堪ヘス、今マ決シテ躊躇逡巡スヘキ時ニアラサルナリ、

牛乳事業ヲシテ實際市ノ經營ニ屬セシメント欲セハ、先ツ第一ニ其事業ヲシテ一大變化ヲ受ケシメサルヘ

カラス、即チ此事業ニ關スル一ノ中心點ト謂フヘキ箇所ヲ設ケサルヘカラサルコト是レナリ、今マ其レ或ル物ヲ差出シ之ヲ分配スルノ機關稍ヤ備ハルノ場合ニ際シテ、資本家カ自カラ其事業ノ所有權ヲ有シ之ヲ管理スルコト、ナリ、其事業多少緒ニ就キタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ之ニ引キ續キテ若干ノ資本家カ合同シテ此事業ニ取リ掛リ之ヲ管理シテ益々其發展ヲ計ルモノナリ、是レ則チ經濟界ノ進歩發達スル原則ニ外ナラサルナリ、或ハ之ニ就テ一ニ除外例ナキニアラスト雖モ、大勢ハ必ラス此徑路ニ從ツテ進行セサルヘカラス、牛乳事業モ亦タ是レ此原則ニ依ラサルヘカラス、然ルニ今マ經濟上ヨリ之カ觀察ヲ下サシニ牛乳事業ナルモノハ總テ諸ロノ事業中進歩發達ノ最モ幼稚ナルモノト云ハサルヘカラス、即チ科學ヲ應用スル點ニ於テ他ノモノニ比シテ最モ後レタルモノト云ハサルヘカラス、試ミニ見ヨ他ノ諸ロノ事業ハ概シテ中心點ナルモノアリテ益々進歩發達ノ徵候ヲ現スモ、此牛乳事業ナルモノニ至リテハ未タ曾テ中心點ナルモノアラサルナリ、未タ善ク組織セラレサル一小事業タルニ過キス、多數ノ小資本家カ個々別々ニ營業セルモノニ外ナラス、而シテ其營業者ノ多數ハ普通ノ賃錢ヲ得テ働ケル勞働者ト何ソ擇ハン、且ツ牛乳業ニ最モ熟練ナル者ヲ使用センハ、好結果ヲ得ンニ最モ必要ナルコトヲ知ルト雖モ、實際スルモノヲ使用シ居ラサルナリ、又タ牛乳業ニ器械力ヲ應用センコトハ尙ホ試驗中ニ屬スルト云ヘル有様ナリ、以上述ヘタルコトヲ概括シテ云ハンカ、牛乳事業ハ尙ホ今日幼稚タルヲ免カレス、商工業中發達シタルモノト云フヲ得ス、數多ノ資本家カ合同シテ之ヲ管理スルマテニ至ラスト言ハンノミ、

トセリ、即チ個人々々カ牝牛ヲ飼養シテ自家所用ノ牛乳ヲ搾取スルモノ是レナリ、斯ク個人々々カ隨意ニ牛乳ヲ製出スル場合ニ於テハ、其製乳ニ關スル有様牛乳營業者ノ製乳ノ有様ヨリ一層不良ナリト云ハサルヘカラス、但シ個人カ自家用ノ牛乳ヲ製出スル場合ニハ、他物ヲ之ニ混和シテ其素質ヲ一層粗惡ナラシムルノ憂ヒナク、又タ危險ナル防腐劑ヲ投入スルノ恐レナキハ固ヨリ言フヲ要セサルナリ、然レトモ其他ノ點ニ至リテハ牛乳營業者ニ及ハスト云ハサルヘカラス、即チ牛小屋ノ非常ニ不潔ナルコト、牝牛ノ飼育上不注意ナルコトノ如キ是レナリ、是等ノ事柄ハ個人トシテ牛乳ヲ製出スルニ伴フ所ノ弊害ニシテ、結核病發生ノ原因タラスンハアラス、又タ其他製乳ニ關スル諸設備往々最モ不完全ニシテ牛乳ニ關スル衛生ノ何物タルヲ知ラス、從ツテ牛乳ノ病毒ニ感染センコトハ殆ント避クヘカラスト云ハンノミ、尙ホ其他個人ノ製乳ニ關シテハ實際視察取締ノ行キ届キ得ヘキモノニアラス、即チ牛乳ノ素質如何、脂肪分ノ多寡、膿汁其他不潔物等ノ混入ニ關シテ視察取締ノ實行シ得ラルヘキモノニアラス、個人私營ニ屬スル牛乳ノ危險ナルコト得テ想像スヘキノミ、今マ其レ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ニ屬セシメント最モ熱心ニ主張スル人ニテモ、個人製乳事業ヲ滅絶スルノ必要アリトマテハ論及セサルナリ、是ヲ以テ牛乳事業ヲ市ノ經營ニ屬セシメントスル計畫アルモ、他方ニ於テ牛乳ヲ危險ナラシムルノ途ハ尙ホ開放セシムルモノト云ハサルヘカラス、斯クノ如キ次第ナルカ故ニ一個人ノ私製ニ係ル牛乳供給ノ途ヲ杜絶スルニアラスンハ、牛乳改良策ヨリ充分ノ好結果ヲ得ルコト能ハサルハ今更言フヲ要セサルナリ、

右ニ述ヘタルコトハ主トシテ牛乳製出ニ關スルモノナリ、請フ是ヨリ牛乳分配ノ事ニ論及セント欲ス、吾

人カ今マ牛乳分配ノ事ニ關シテ視察スル所アリトセンカ、此分配ノ事タルヤ從來幾干カ機關備ハリテ中央集點ノ趣アルコトヲ見出サスンハアラス、今マ其レ牛乳業ヲ營ムモノニシテ其農業地ニ於テ產出シタル牛乳ヲ小賣リスルモノハ殆ント之レナク、大概ハ大賣捌人ニ卸賣ニスルヲ常トス、而シテ大賣捌人ハ再ヒ之ヲ小賣商人ノ手ニ賣リ渡スモノナリ、但シ人口ノ餘リニ多カラサル箇所ニ於テ或ハ例外ナキニアラサルナリ、斯クテ牛乳ヲ分配スル所ノ大ナル會社組織セラレ、其仕組ノ廣大ナルコト殆ント國家的事業ノ如クニシテ、或ハ之カ爲メニ製造者及消費者共ニ之カ壓制ヲ受クルニ至レルアリ、彼ノ牛乳依託販賣所ノ如キモ是レナリ、此等ノ依託販賣所ノ多分ハ牛乳製造者ヨリ之ヲ受ケテ自カラ大賣捌商トナリ又タ小賣商トナルモノナリ、現ニ紐育市ニ於テ牛乳商ノ營マル、者ノ中斯ル仕組ニ屬スルモノ、百分ノ八十乃至九十ト算セラル、而シテ尙ホ此上中心點ニ吸收セラル、ノ傾向アルハ亦タ疑フヘカラサル事實ナリ、牛乳分配業ノ中心點ニ吸收セラル、ノ有様ハ、牛乳製造業ヨリ尙ホ一層盛ンナリト謂ツヘキナリ、然レトモ今マ衛生上ノ見地ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ、牛乳分配業ヲ市ノ經營ニ爲シタリトテ不良ニシテ病原菌ヲ含メル牛乳ヲ分配シタランニハ、之カ爲メニ毫モ益スル所ナカルヘキナリ、

第三節

一般ノ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲スノ必要ナルコトハ、恰カモ是レ大學ノ必要ナルト一般今マ更ラ云フヲ要セサルナリ、其必要ナルコトハ上來既ニ述ヘタル所ナリ、然レトモ其之ヲ市營トナサント欲セハ、何ハ又手置キ先ツ第一着手ニ牛乳製造元ヲ一箇所ニ集メサルヘカラス、即チ牛乳製造ニ關スル中央集點ナカ

ルヘカラス、既ニ斯ル中央集點ナルモノ生シタランニハ、小規模ニシテ不充分ナル牛乳製造家及牛乳商ハ從ツテ絶滅スルニ至ルヘキナリ、此ニ於テカ牛乳供給事業ヲシテ市ノ經營タラシムルコトヲ得ヘナキリ、既ニ右ノ如キ有様トナリタル以上ハ牛乳供給事業ハ皆ナ是レ市ノ管轄支配ヲ受ケサルヘカラス、殆ント到ル所ノ各市邑ニ於テ牛乳供給ノ或ル部分カ直チニ市ノ經營ニ屬スルハ亦タ疑フヘカラサルナリ、是レ他ナシ牛乳ヲ消費スルモノハ市其モノナルカ故ニ、市自カラ之ヲ供給スルニ至ルハ情勢ノ然ラシムル所ト謂ツヘキナリ、試ミニ見ヨ市立團體ニシテ病院、養育院及保養所等ニシテ若干量ノ牛乳ノ供給セラル、コトハ世人ノ善ク知ル所ナラスヤ、是レ取リモ直サス牛乳供給ノ市營ニ屬スルモノナリ、牛乳供給ノ事ニ就テ相互ノ間ニ契約ノ行ハル、ハ、牛乳營業者ト公衛トノ間ニアルモノナリ、而シテ實際斯ル契約中ニハ牛乳成分ノ或ル定度ヲ明記スルモノナリ、或ハ其定度ヲ農務局ノ慣用スル所ニ從ツテ明記スルコト往々ニシテ之レアリ、或ハ牛乳中ニ含有セル細菌ノ量ヲ契約中ニ明記スルコトアリ、即チ牛乳一立方「センチメートル」ニ就テ十萬乃至五十萬ノ細菌ヲ含有スルヲ以テ最高數ト爲シ、是レヨリ以上ノ細菌ヲ含有スルモノヲ不適當ナリトスル契約ノ如キ是レナリ、牛乳營業者ト消費者トノ間ニ斯ル契約成リ立テテ後牛乳供給セラル、コト、ナレハ、其間決シテ危険ナカルヘキナリ、斯クノ如クシテ牛乳供給ヲ市ノ事業ト爲シタランニハ大ニ利スル所アルヘキナリ、

試ミニ見ヨ今マ市立ニ係ル各種ノ團體ニ供給セラレ居ル牛乳ハ、其性質精良ナルヤ否ナ最モ疑ハシト云ハサルヘカラス、畢竟スルニ是レ營利ヲ目的トセルヨリ他ヲ顧リミルノ逸マナキニ歸セスンハアラス、今マ

此牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲シ市自カラ牧場ヲ有シテ充分健全ナル牝牛ヲ飼育シ、科學ノ原則ヲ應用シテ精良ナル牛乳ヲ製出センハ、各市邑ノ急務必要ト云ハサルヘカラス、其他好シ市立ナラサルモ病院、産婦收容所、幼稚園等ノ公共團體及其他ノ慈善團體ヘ市ノ經營ニ係ル精良ナル牛乳ヲ供給スルハ最も重要ナルコト、云ハサルヘカラス、然ルニ何カ故ニ之ヲ市營トナサ、ルカ、予ハ其然ル所以ヲ知ラサルナリ、右ハ單ニ學說上ニ然リト云フニアラス、又タ米國ノ讀者中ニハ耳新ラシク感セラレ、人モ多ク之レアルヘシ、然レトモ歐羅巴ノ市邑中ニハ全ク之ヲ實行シタルモノ少ナカラサルナリ、今マ實例ヲ擧ケテ之ヲ示サシカ、英國ノノッチンハム市ノ如キハ牛乳供給事業ヲ市ノ經營トナシ、現ニ市有ニ屬スル牧場ニ飼育セル乳牛一百頭アリ、以テ市立ニ係ル病院及養育院等ヘ牛乳ヲ供給スルコトヲ得ヘキナリ、加之其製出セル牛乳及牛酪ヲ他ニ販賣シテ之カ爲メニ得ル所ノ代價ハ年々一萬二千五百弗ノ金額ニ上レリト云フ、又タリーヅング市ハビルミンハム市ト均シク下水の耕地ト相關聯シテ牧場ヲ有シテ牛乳ヲ製出セリ、而シテ一千九百三年ヨリ一千九百四年ニ跨カリテ六萬「ガロン」餘ノ牛乳ヲ販賣シタリ、其代價ハ九千四百七十弗餘ナリシトツ、今マ予ノ見ル所ヲ以テスレハ英國ニ於ル此等ノ市邑カ牛乳供給事業ヲ市ノ經營トナシタルハ、其目的全ク正當ニ出テタルモノト思ハル、此等ノ市邑ハ總テノ牛乳業ヲ擧ケテ全ク市ノ經營ト爲サント欲シタルモノニアラス、畢竟スルニ市ノ必要ニ應スル牛乳ヲ製出セント欲スルニ過キス、而シテ其餘レルモノヲ販賣シタルマテナリ、今マスル實驗ノ結果如何ト云フニ左ノ如クナリシ、曰ク市立ニ係ル病院其他之ト類ヲ同フセル團體ニ精良安全ナル牛乳ヲ供給スルコトヲ得ルノミナラス、之ト併セテ一私人トシテ牛乳業ヲ

營ムモノニ好模範ヲ示シタルモノナリ、即チ科學ヲ應用シテ製出シタル精良純精ナル牛乳ノ標準ヲ示シタルモノ是レナリ、

公立團體ト牛乳製造家及牛乳商トノ間ニ如何ニ精密ナル契約カ成リ立ツトスルモ、牛乳取締法カ如何ニ嚴重ニ實行セラル、トスルモ、此等ノ事ヲ以テ尙ホ足レリトスヘキモノニアラス、試ミニ見ヨ米國及歐羅巴ニ於テモ共ニ是レスル契約スル取締法ノ充分好結果ヲ奏シタルモノハ未タ曾テアラサルナリ、現行ノ牛乳取締法ニテハ到底不良牛乳ノ製出ヲ防遏スルコト能ハサルナリ、但シ不必要ニモ莫大ノ費用ヲ投シテ願リミサル場合アランニハ此限ニアラス、然ルニ牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲サンカ、之ニ由リテ益スル所ニ重ナリトノ事ヲ記憶セサルヘカラス、即チ其一ハ病院等ノ如キ公共團體ニシテ、食料トシテ牛乳ヲ用フル箇所ヘ純精ニシテ安全ナル牛乳ヲ供給シ得ル事、他ノ一ハ私營ニ屬スル牛乳業者ニ一ノ標準ヲ示シテ競争心ヲ惹起セシムルコト是レナリ、牛乳供給事業ニシテ愈ヨ市ノ經營ニ屬シタリトセンカ、牛乳中ニ含有スル細菌極メテ減少スルニ至ルヘク、殆ント其實在スルコトヲ認メサルニ至ラン、如何ナル點ヨリ之カ觀察ヲ下スモ牛乳事業ヲ市ノ經營ト爲スノ利アルコトヲ知ルヘキノミ、

第四節

米國ニ於テ人口二萬五千以上ヲ有スル所ノ各市邑ニ在リテハ、牛乳供給事業ヲ市ノ經營ト爲サンコトヲ要ス、殊ニ幼兒ノ食料タル牛乳ハ然カセンコトヲ最モ急ナリト謂フヘシ、是レ歐米諸國ノ實驗ニ徴シテ利益アルコト亦タ疑フヘカラサルナリ、牛乳供給事業カ市ノ經營トナリタランニハ幼兒死亡比例ノ減少スルコ

トハ亦タ疑フヘカラサル事實ナルヘシ、今マ其レ幼兒死亡比例ノ甚ハタ高キ其責市ニアリト云ハサルヘカス、尙ホ之ヲ換言スレハ市政ノ權能ヲ有スルモノハ年々幼兒數千人ヲ殺スノ罪アルモノナリ、好シ自カラ殺人犯ノ地位ニ立タサルモ、之ヲ幫助シタルモノト謂ツヘキナリ、然レトモ牛乳供給事業ニシテ市ノ經營トナリタランニハ、斯ル犯罪者ノ地位ニ立ツコトナカルヘキナリ、

幼兒飲用ノ牛乳ヲ製造スル箇所ハ此國及歐羅巴ニ於テ既ニ實驗セラレタリシナリ、故ニ此牛乳供給事業ヲ市ノ職責中ノ一トシテ經營センニハ、爾々ノ立派ナル學說アリト云フヲ要セサルナリ、學說丈ケハ如何ニ立派ナルモ或ハ實行シ難キコト之レアリ、然レトモ此牛乳問題ハ既ニ實驗セラレタルモノナレハ今更之カ學說ヲ擧ルノ必要ナキナリ、即チ此牛乳供給事業ヲ市ノ經營トナシテ實効ヲ奏セシコトハ之ヲ事實ニ徵シテ既ニ明カナル所ナリ、試ミニ見ヨ紐育市ニ於テハナタン、ストラス氏カ自カラ主宰トナリテ、市ノ經營事業トシテ幼兒飲用牛乳製造所ナルモノヲ設立シ以テ幼兒ノ生命ヲ助ケタルコト幾干ナルヲ知ラス、是レ氏カ爲シタル報告ニ依リテ以テ證スルニ足ルヘキナリ、又紐育州中ローチエスター市ニ於テドクトル、ゴラー氏ノ指揮監督ノ下ニ同一ノ事業ヲ企テタリシニ、是レ亦タ好結果ヲ奏シタリシナリ、其他斯ル類例ハ蓋シ少ナカラサルナリ、人口二萬五千若クハヨリ以上ヲ有スル市邑ニアリテ、市ノ經營トシテ幼兒飲用ノ牛乳製造所ヲ設立シタル場合ニ於テ失敗シタルコト曾テアラサルナリ、既ニ斯ル實驗アル以上ハ其利益アルコト亦タ疑フヘキニアラサルナリ、

事實既ニ右ノ如キ次第ナルカ故ニ幼兒飲用ノ牛乳製造所ヲ市ノ經營トシテ設立スルコトニ就テ、今更ニ詳

説スルノ必要ナカルヘキナリ、然レトモ斯ル牛乳製造所ノ事ニ就テ最モ完全ニ最モ精密ニ論述シタルモノ蓋シ少ナカラス、中ニ就テドクトル、マックレー氏ノ如キハ其論述方ニ就テ最モ有名ナルモノナリ、今マ簡短ニ其要點ヲ述ヘンカ、讀者諸君ハ必ラス斯ル牛乳製造所ニ數種アルコトヲ知リ、又タ牛乳取扱上ニ關スル原則ヲモ覺ルコトヲ得ヘキナリ、而シテ斯ル牛乳製造所ノ組織ハ一ニシテ足ラスト雖モ、之ヲ大別シテ三種ト爲スヲ得ヘキナリ、請フ是レヨリ此三種ニ就テ簡短ニ述ル所アラントス、

(一) 幼兒保育獎勵所、先ツ第一ニ幼兒飲用ノ乳汁ノ供給所トモ謂ツヘキモノ、創メテ設立セラレタルハ一千八百九十年ナリシ、即チ博士ハーゴット氏カ同年ナンシーニ於テ慈善的産婦病院ヲ設立シタルコト是レナリ、而シテ此病院設立ノ要旨ハ概ネ左ノ如シ、曰ク極メテ貧困ナル婦人ニシテ子ヲ産メル時、之ヲ保護シテ出來得ヘキ丈ケ善ク其所生ノ子ヲ養育セシメントコトヲ獎勵スルノ意ニ出テタルモノナリ、尙ホ詳言セシカ、生計極メテ困難ナル婦人ニシテ妊娠シタル場合、之ヲ此病院ニ收容シテ充分ノ保護ヲ與ヘ、既ニ分娩シテ退院シタリトセンカ、其出産ヨリ滿一ヶ月ノ後婦人ヲシテ其所生ノ子ヲ携ヘテ來院セシム、是レ畢竟スルニ醫師ヲシテ生後其嬰兒ノ發達如何ヲ診斷セシメントスルニ外ナラス、而シテ其發達ノ模様良好ナラシニハ其賞トシテ若干ノ金圓ヲ與フルコト、セリ、貧困ノ婦人ヲシテ其所生ノ兒ノ養育方ヲ好カラシメントスル獎勵法是レナリ、乃チ一千八百九十年ヨリ一千九百年ニ至レル十箇年間ニ此事業ノ爲メ費シタル金圓ハ二萬五千三百八十二「フランク」ノ高ニ上リ、收容シタル婦人ノ數ハ二千五十二人ナリシ、以テ此事業ノ成績如何ヲト知スルニ足ルヘキナリ、

ハーゴット氏カナンシーニ於テ幼児保育獎勵所ヲ創設シタル後二年即チ一千八百九十二年ニ於テ、佛國巴里ナル慈善病院擔任ノ醫學博士ブジン氏ハハーゴット氏ノ計畫ニ模倣シテ、一ノ幼児保育獎勵所ヲ設立シタリ、蓋シブジン氏ノ計畫ハ前者ニ比スレハ一層注意ヲ密ニシテ之ニ關スル諸事ヲ料理シタルモノト謂ツヘキナリ、而シテ此計畫ハ實ニ好結果ヲ奏シタリ、氏ハ此好結果ニ勵マサレテ一千八百九十五年ニ於テ彼ノ産婦病院ト聯絡シテ尙ホ今一ツノ病院ヲ設立シ、又タ一千八百九十八年ニ於テ同種ノ病院ヲ建造シタリ、斯クテ歐羅巴ニ於テ幼児保育獎勵所ノ設立セラレタルコト甚ハタ多カリシナリ、蓋シ此等ノ幼児保育獎勵所ハ通常公共心ニ富メル産科醫及慈善協會等ニ依リテ維持セラル、モノト知ルヘシ、而シテ此等ノ幼児保育獎勵所ノ取扱等ニ至リテハ多少ノ差異アルヘシト雖モ、其大體ノ組織ニ至リテハ同一ナラスンハアラス、中ニ就テブジン博士ノ設立ニ係ル幼児保育獎勵所ハ産婦病院ニ附屬セルモノニシテ、之カ保護ヲ受ル幼児ハ此病院内ニ生レタルモノニ限ラル、コト、セリ、抑モ此産婦病院ニ入院スル婦人ハ皆ナ是レ施療ニシテ毫モ入院料ヲ要セサルナリ、然レトモ其入院セサル前ニ於テ左記ノ如キ規定ニ服從スヘキコトヲ誓ハサルヘカラス、曰ク分娩退院後滿二年間ハ少ナクモ毎週一回必ラス其所生ノ幼児ヲ携ヘテ來院シ、其幼児ノ成育發達如何ニ就テ検査ヲ受ケサルヘカラサルコト是レナリ、又タ入院シタル婦人ニシテ分娩シタル場合ニハ、其婦人カ果シテ善ク其所生ノ嬰兒ヲ乳育シ得ヘキ體質ヲ備ヘ居ルヤ否ナヲ充分ニ検査シ、其他醫師ノ注意訓誡ヲ善ク守リ得ヘキ體質ナルヤ否ナヲ検査スルヲ常トス、兎ニ角斯ル病院設立ノ大主眼トスル所生母ヲシテ其嬰兒ヲ乳育セシメントスルニアルヲ以テ、斯ル検査ヲ爲スハ至當ノ事ト謂ツヘシ、

此種ノ病院ノ情況ニ就テ今少シク詳細ニ之ヲ述ヘンカ、産婦分娩後尙ホ病院ニアルノ間ハ其嬰兒ノ重量、身長等ヲ計リ其他體質ノ強弱發育ノ模様等仔細ニ之ヲ検査シテ、一々之ヲ帳簿ニ記載シ置クモノトス、又タ産婦退院後ト雖モ毎週一回其幼児ヲ携ヘテ來院シ検査ヲ受ケンコトヲ要ス、而シテ醫師ハ其検査ノ都度々々其結果ヲ帳簿ニ記載シ置クカ故ニ、何時ニテモ其發達ノ度合如何ヲ見ルニ足ルヘキナリ、而シテ此等ノ事業ノ好結果ヲ得タルコトハ左ノ如キ事實ニ依リテト知スルコトヲ得ヘキナリ、曰ク牛乳ノ養育ヲ受ル幼児ノ數比較的甚ハタ少ナキナリ、是レ畢竟スルニ世ノ母タルモノニシテ生理上自カラ其子ヲ乳育スルコト能ハサルモノ甚ハタ減少シタルノ結果ニ外ナラサルナリ、斯クノ如キ顯象ハ決シテ一ノ想像ヨリ出テタルモノニアラス、統計表ノ證明スル事實タラスンハアラス、今マドクトル、メーグリアー氏ノ説ク所ヲ舉ゲテ之ヲ證サン、曰ク一千八百九十八年ヨリ一千九百二年ニ至ル五ケ年間ニ於テ産婦收容所ノ恩惠ニ浴シタル幼児五百二十七名アリ、内母乳ノ養育ヲ受ケタルモノ四百四十八名ニシテ、牛乳ノ養育ヲ受ケタルモノハ僅カニ七十九名ニ過キサリシナリト、然レトモ吾人ハ念頭ニ置キテ忘ルヘカラサルモノ、アルアリ、右ニ掲ケタル統計表ナルモノヲ考フルニ、産婦收容所ニ收容セラル、婦人ハ極メテ貧困ナルモノニシテ、スル收容所ニ收容セラル、ハ畢竟スルニ慈善的救助ヲ受ルモノニ外ナラス、而シテ斯ル貧困者ノ中ニハ婦人トシテ我子ヲ乳育スル官能ノ不充分ナルモノ概シテ最モ少ナキモノナリ、故ニ此一事ヲ以テ社會全般ヲ推測シ得ヘキモノニアラスト知ルヘシ、又タ彼ノ幼児保育獎勵所ニ於テ母乳ヲ以テ養育シ得ヘカラサル幼児ハ、止ムヲ得ス牛乳ヲ以テ之ヲ養育セサルヘカラス、但シ牛乳ヲ以テ幼児ヲ養育スル場合ニ於テハ、恰カ

モ一回ノ餌食丈ケヲ一饅宛ニ詰メタルモノニシテ、之レヨリ以上ヲ與フヘカラス、而シテ其一回分丈ケノ餌食ノ量如何ト云フニ、幼兒ノ年齢、重量及健康ノ度合如何ニ從ツテ多少ノ差異ナクンハアルヘカラス、蓋シ此食量如何ヲ定ムルハ検査醫ノ權能ニアルモノト知ルヘシ、又タ時トシテハ彼ノナンシーニ於ルハゴット氏ノ實驗ニ倣フテ母乳養育ノ事ヲ獎勵センカ爲メニ食餌若クハ金圓ヲ惠與スルコトアリ、此外ブジ博士ノ計畫シタル幼兒保育獎勵所ハ其組織同主義ノアラユル他ノ團體ニモ適用シ得ヘキモノナリ、然レトモ茲ニ除外例ナキニアラス、即チ幼兒保育獎勵所ノ名アルモ産婦病院ニ附屬セサルモノニシテ、如何ナル箇所ニ於テ生レタル嬰兒ト雖モ皆ナ之ヲ收容スルモノニ至リテハ、所謂ル除外例ニ屬セスンハアラス、右ニ記載シタル事柄ヨリ之ヲ考フレハ彼ノ幼兒保育獎勵所ナルモノハ、牛乳製造所ト見做スヘキモノニアラス、但シ偶然二者ヲ併セ兼ネタル場合ハ此限ニアラス、抑モ幼兒保育獎勵所設立ノ第一ノ目的トスル所ハ母乳養育ヲ獎勵シテ出來得ヘキ丈ケ牛乳養育ヲ排斥セント欲スルニアリシナリ、而シテ此等ノ事業ノ自然ノ結果トシテ幼兒死亡比例ノ減少ヲ來シタルナリ、蓋シ此死亡比例ノ減少シタルハ此等ノ收容所ノ保護ヲ受ケタル幼兒ナルカ故ニ其數ニ自カラ限リアルモノト知ルヘシ、今マ其レ幼兒カ右ニ述ヘタルカ如キ幼兒保育獎勵所ノ充分ナル保護ヲ受ケタランニハ、其好結果ヲ奏スルハ亦タ疑フヘキニアラサルナリ、尙ホ之ヲ細言センカ、人ノ生後當初ノ二箇年間ハ生涯中ノ最モ大切ナル時期ナリ、是レ生理學上決シテ疑ヲ容ルヘカラサルモノナリ、然リ而シテ彼ノ幼兒保育獎勵所ニ於テ嬰兒ノ養育方ニ注意スルコト最モ深ク之ヲ保護スルコト最モ厚ク、生後當初ノ二箇年間怠ラス毎週最モ精密ニ其發育如何ヲ検査シテ、適當ノ注意ヲ

與ヘタリトセンカ、其成育發達ノ良好ナルハ得テ想像スヘキノミ、而シテ斯ク成育發達ノ良好ナルハ畢竟スルニ貧困者ノ幼兒ニ外ナラス、此成育發達ノ點ヨリ見レハ貧困者ノ幼兒却ツテ上流富豪家ノ幼兒ニ優レルモノニシテ上流富豪家ヨリ羨ミ妬マルヘキモノナリ、

然レトモ右ノ如キ保護ヲ受ケタルモノハ窮民ニ外ナラサルナリ、蓋シ幼兒保育獎勵所ナルモノハ實驗上ヨリ之ヲ視レハ、固ヨリ嘉ミスヘク喜フヘキ團體ニ相違ナキナリ、然レトモ牛乳問題ヲ解決スルニ足ラサルヤ明カナリ、即チ之チカ爲メニ幼兒ニ供給スヘキ安全純良ナル牛乳ノ得ラルヘキモノニアラサルナリ、勿論幼兒保育獎勵所設立ノ旨趣ハ下層貧民ノ幼兒ノ有様ヲ改良セシメントスル善意ニ出テタルモノニシテ、其行動ノ善良ナルハ今更云フヲ要セサルナリ、然レトモ今マ米國ニ於テ必要トスル所ノモノハ、斯ル幼兒保育獎勵所ヲ設立セントスルニアラサルナリ、我カ米國人ノ要求スル所ハ單ニ母乳ヲ以テ嬰兒ヲ養育スルコトヲ獎勵スルノミニ止マラス、幼兒ノ餌食トスルニ足ルヘキ安全純良ナル牛乳ヲ製造スル箇所ヲ設立シ、以テ貴賤上下ノ別ナク何人ト雖モ、購ヒ得ラル、コト、ナサント欲スル是レナリ、

(二) 牛乳供給所、抑モ此牛乳供給所ト云ヘルハ其名ノ示スカ如ク需要者ニ對シテ牛乳ヲ供給スル所タリ、牛乳製造所ノ嚙矢濫觴是レナリ、且ツ此牛乳供給所ハ彼ノ幼兒保育獎勵所ト均シク出來得ヘキ丈ケ母乳ヲ以テ幼兒ヲ養育スルコトヲ獎勵シ之ニ加フルニ矢張り幼兒ノ乳育期間ヲ通シテ其發達成育ノ有様ヲ監督視察スルノ任ニ當ルモノナリ、然レトモ此牛乳供給所ノ本來ノ目的トスル所ハ、人爲的餌食ヲ以テ養育セサルヘカラサル幼兒ノ爲メニ乳汁ヲ供給スルニアリ、去ルカラニ母乳ヲ以テ養育セラレ得ヘキ幼兒ヲ此供給

所ニ收容スルコトハ甚ハタ稀レナリシト知ルヘシ、而シテ此牛乳供給所ノ創メテ設置セラレタルハ、實ニ是レ一千八百九十二年ノ事ナリキ、即チ佛蘭西國ノドクトル、ヅハリオット氏ノ創業ニ係ルモノニシテ、巴里ノベルグ#ール施療院ト共同聯絡シタルモノ是レナリ、尙ホ一層正確ニ之ヲ言ヘハ是レヨリ近キ以前ニ於テ、ブジン氏カ慈善病院内ニ設立シタル彼ノ幼兒保育獎勵所ノ分身若クハ變體ニ過キサルノミ、而シテ一千八百九十四年ニ至リテドクトル、レオン、ジウホール氏ハフヘカムブニ於テ右ト同様ナル牛乳供給所ヲ設立シタリ、是レ他ノ慈善團體ト共同一致セスシテ全ク一個獨立ノ經營ニ係ル牛乳供給所ノ開祖ト謂ツヘキナリ、蓋シ牛乳供給所ノ名ヲ始メテ命シタルハドクトル、ジウホール氏ニシテ、今マ佛蘭西全國ヲ通シテ概ネ此名ヲ用フルコト、ナレリ、

今日佛蘭西國ノ大小ノ市邑ニ於テ牛乳供給所ノ設立セラレ居ルコト百箇所以上ニ及ヘリ、白耳義ニ於テハ到ル所ニ之ヲ視ルコト珍ラシカラズ、西班牙ニ於テモ亦タ此供給所ノ盛ンニ行ハレ居ルヲ見ルヘキナリ、其他種々ノ名目ヲ附セセラル、ト雖モ、セント、ペートルス、ボルフ、オデッサ、其外ノ露國ノ市邑ルーマニヤ、ブルガリア、伊太利、日耳曼、瑞西、丁抹、和蘭、諾威、瑞典、葡萄牙、英吉利等ノ歐洲諸國、及加奈太、合衆國、亞爾然丁、モロッコ等ニモ此供給所ノ設ケ之レナキハナシ、然レトモ此等ノ中ニハ或ハ小規模ニシテ實際幼兒ノ死亡比例ニ影響ヲ及ホサ、ルモノ之レアリト知ヘシ、今マ此牛乳供給所ニ關スル統計ヲ掲ケテ以テ其影響如何ヲ示スコト甚ハタ困難ナリト謂ツヘシ、是レ他ナシ統計ノ材料ヲ得ルコト難ケレハナリ、然レトモ此牛乳供給所ノ設備其宜シキヲ得タル場合ニハ、幼兒死亡比例ノ若干ヲ減少スルハ亦タ

疑フヘカラサル事實ナリ、

佛蘭西國ノ牛乳供給所カ他國ノ模範トナリタルコトハ、事實ニシテ亦タ疑フヘキノ餘地ナキナリ、蓋シ佛蘭西國ノ牛乳供給所ハ通常慈善的組織ヨリ成レルモノニシテ、其維持費ハ有志家ノ寄附金ヲ以テシ、其事務ノ如キモ亦タ是レ有志家ヨリ成レル委員會ノ取り扱フ所トナレリ、然レトモ之ニ對シテ市ヨリ補助金ヲ給與セラル、コト往々ニシテ之レアリ、或ハナンテス及エルビーフニアル供給所ノ如キハ全然私設ヲ離レテ市ノ經營ニ屬シタリ、今マ此牛乳供給所ノ保護ヲ受ル所ノ幼兒ヲ分チテ三種トス、左ノ如シ、(一)貧困者ニシテ牛乳代ヲ拂ヒ得サル者ノ幼兒ニハ無代價ニテ之ヲ給與スル事、(二)幼兒ノ兩親貧者ナルモ幾分ノ餘裕アルモノハ通常半價ヲ以テ給與スル事、(三)幼兒ノ親タル者牛乳代ヲ拂フニ足ルヘキ資力ヲ有シテ通常ノ牛乳商ヨリ一層良質ナルコトヲ知りテ買入レント欲スル者ニハ、相當ノ代價ヲ拂ヒ込マシムル事是レナリ、此牛乳供給所ノ恩澤ヲ蒙ルコト管ニ貧民ノミニ止マラス、富有家モ亦タ是レ往々ニシテ餘澤ヲ受ルモノナリ、而シテ以上三種ノモノカ此恩澤ニ浴スルノ割合如何ト云フニ、地方々々ノ情況ニ從ツテ其間差異ナクンハアラス、斯ク貧困者ニハ施與シ資力アルモノニハ相當ノ代價ニテ給與スル佛國ノ仕組ハ、我カ米國ニ於テモ亦タストウラス製乳所ニ行ハレ居レリ、共ニ好結果アルハ今更ニ云フヲ要セス、

彼ノフヘカムブニ於ル牛乳供給所ハ世界各國到ル所ニ設ケラレタル凡百ノ製乳所ノ模範トナレルモノナルカ、同所ノ牛乳ハ決シテ搾取シタル儘ノモノニアラス、人工ヲ加ヘテ變造シ且ツ殺菌法ヲ施コシタルモノナリ、而シテ其變造法如何ト云フニ概ネ左ノ如シ、曰ク水ヲ混和スルコト牛乳ニ、水一ノ割合ニシテ、尙

ホ之ニ遠心力製ノ「クリーム」十五「グラム」、乳糖三十五「グラム」ヲ加ヘ、又タ牛乳中ニ水ヲ混和シタルモノ每一「リットル」(凡ソ我カ五合五勺餘ニ當ル)ニ就テ鹽一「グラム」ヲ混和スルモノ是レナリ、而シテ斯ク混和シタルモノヲ壘詰トナシ、百二度ノ温度ニテ四十分間煮沸シテ殺菌法ヲ行モノトス、然レトモ佛國ノ牛乳供給所中ノ或ルモノ(巴里及ハーヴル地方ノ牛乳供給所モ此中ニ包含セラル、モノト知ルヘシ)ハ殺菌法ヲ施コスト雖モ、之ヲ變造スルコトヲ爲サ、ルナリ、今マ概括シテ之ヲ云ハシニ佛蘭西國ハ既ニ前篇ニ於テ述ヘタル如ク、牛乳ノ變造ニハ反對スルモノト謂ツヘキナリ、

我カ米國及其他ノ國ニ於ル牛乳製造所ニシテ其設立ノ主意幼兒ノ餌食ヲ供給スルニ在リテ、博愛慈善ノ精神ヨリ出テタリトセンカ、此種ノ製乳所ハ概シテ佛國ノ牛乳供給所ノ種類ニ屬スルモノト謂ツヘキナリ、今マナザン、ストラス氏カ紐育市ニ於テ設立シタル牛乳製造所ハ取リモ直サス此種ニ屬スルモノナリ、此外ヒラデルフヒア、シカゴ、ヨンカース及其他ノ市邑モ、亦タ是レ此種ノ牛乳製造所ヲ設立シタルモノナリ、而シテ此等ノ牛乳製造所ヨリ製出シタル牛乳ハ、概シテストラス氏ノ創設ニ係ル牛乳製造所ノ指導スル所ニ從ツテ消毒法ヲ行ヒ且ツ變造シタルモノナリ、今マ佛蘭西國及白耳義國ニ於ル彼ノ牛乳供給所ノ行動如何ヲ見ルニ、或ハ齒牙ニ懸ケル程ノモノ之レナシト雖モ、概シテ之ヲ言ハ、其牛乳ノ分配法ノ如キニ至リテハ、合衆國ニ行ハル、モノヨリ一層優レリト謂ハザルヘカラス、今マ予ノ觀察スル所ヲ以テスレハ、我カ米國ニ於ル慈善的牛乳供給所ノ分配法ハ如何ニモ不注意ナリト云ハサルヘカラス、是レヨリ尙ホ一層不注意ノ甚ハタシキモノヲ見出サンハ殆ント不可能ト云ツテ可ナリ、此ニ於テカ予ハ斯ル慈善事業ノ効果

アルヤ否ナヲ疑ハスンハアラス、

其他此等ノ慈善事業ノ數者ニ至リテハ其牛乳ヲ分配スルニ就テ充分ナル監督ノ行キ届キ居ラサルハ、是レ全ク疑フヘカラサル事實ナリ、予ハヨンカースニ於テ實際左ノ如キ事ヲ目撃シタルコトアリ、曰ク藥物店ニ於テ他物ヲ混和シタル變造牛乳ヲ買手ノアルカ儘ニ何人ニテモ販賣スルヲ目撃シタルコト是レナリ、即チ幼兒ノ年齢等ニハ全ク無頓着ニテ買手ノアルカ儘ニ何カナシニ賣リ渡スモノ是レナリ、而シテ此等ノ變造牛乳ヲ買ヒニ來ルモノハ七八歳未滿ノ幼兒ナルコト珍ラシカラサルナリ、去ルカラニ生後一箇年ヲ經タル幼兒ニ飲用セシムヘキ牛乳ヲ買ヒ來リテ生後三箇月ヲ經タル嬰兒ニ飲マシムルコトアリ、或ハ之ト全ク反對ニシテ生後僅カニ三箇月ヲ經タル嬰兒ニ飲マシムヘキ牛乳ヲ生後一箇年ヲ經タル幼兒ニ飲マシムルコトアリ、是レ買手ノアルカ儘ニ販賣スルノ惡弊ノ然ラシムル所ニ外ナラサルナリ、其他嬰兒ノ發達如何等ニ就テ醫師ノ監督スル所アラス、又タ母タルモノニ注意訓諭ヲ與フルコトナキハ勿論ナリト知ルヘシ、斯クノ如キコトハ世間ニ珍ラシカラサル事實ニシテ、決シテ例外ニ屬スヘキモノニアラサルナリ、彼ノストラスニ於ル牛乳供給所ニスラ牛乳分配法ニ就テ充分ナル監督行ハレ居ラス、又タ幼兒ノ發達成育ニ就テ適當ナル醫學的視察調査ヲ遂クルノ方法立チ居ラサルナリ、是レストラス氏ノ證言スル所タリ、且ツ私立ニ係ル牛乳製造所及慈善協會等ノ規模一層小ナルモノニ至リテハ、右ノ如キ弊害尙ホ一層甚ハタシカラサルヲ得ス、概シテ之ヲ言ヘハ我米國ノ牛乳業ハ佛國ヨリ劣レリト謂ハサルヘカラス、豈ニ痛マシカラスヤ、

(三) 市營幼兒飲用牛乳供給所、佛蘭西及白耳義ノ市邑ニ於テハ共ニ是レ所謂市營ニ係ル牛乳供給所ナル

モノアリ、然レトモ此兩者ノ間多小ノ差異ナクンハアラス、即チ其一ハ純然トシテ全ク市營ニ屬スルモノ是レナリ、他ノ一ハ私設ニ係ル牛乳供給所ニシテ公衛ヨリ若干ノ補助金ヲ受クルモノ是レナリ、而シテ二者共ニ市役所ノ管轄支配ヲ受ケサルヘカラス、又タ篤志ノ有志家ヨリ成レル委員會ナルモノアリテ、牛乳ノ分配、幼兒ノアル家庭ノ訪問等ニ關シテ補助ヲ與フルコト往々ニシテ之アリ、試ミニ見ヨ私設ニ係ル牛乳供給所ハ往々資金ノ充分ナラサルヨリ、其業務ノ進行上沮碍セラル、コト往々ニシテ之レナリ、然レトモ市營トナリタル以上ハ斯ル不便決シテ生セサルナリ、故ニ業務ノ進行上私設ニ比スレハ其結果一層好カ
ルヘキナリ、

第五節

英國ニ於テハ幼兒飲用ノ牛乳供給所ヲシテ市邑ニ屬セシメタル市邑蓋シ少ナカラサルナリ、抑モ此牛乳供給所ノ始メテ市邑トナリタルハ一千六百九十九年ノ夏期ニシテ、ランカシアノセント、ヘレンス市是ナリ、當時此牛乳供給所ノ指導者トナリテ適當ナル行動ヲ取りタルハ衛生醫官ドクトル、エフ、ドリウ、ハリスニシテ其設計ハ幾分カ彼ノ佛蘭西ナル牛乳供給所ニ模倣シタルモノナリ、予ハ其當時グラモルガンシヤイアーニ居ヲトシ居タリシカ、此實例ニ倣フテ同一ノ牛乳供給所ヲ設立シテ之カ效果ヲ奏シタルコト一ニシテ足ラス、是レ予カ實見シタル所ニシテ今マ尙ホ記憶ニ存シ居レリ、所謂ル其好結果トハ他ニアラス、斯ル牛乳供給所ノ新設セラレタルヨリ幼兒ノ死亡比例著シク減退シタルコト是レナリ、予ハ其好結果アルコトヲ熱心ニ唱道シ以テ其設備ノ忽カセニスヘカラサルコトヲ論述シタルコトハ想ヒ起シテ尙ホ且ツ新タ

ナルヲ覺ユル程ナリ、爾來市政實行ノ一部分トシテ特ニ幼兒飲用ノ牛乳供給所ヲ設立セントスル新思想ハ速カニ進歩發達シタリシナリ、此種類ノ牛乳供給所カセント、ヘレンス市ニ於テ二ケ年間實驗ノ結果トシテ、此設備ハ決シテ蔑視嘲笑スヘキモノニアラス、最モ重スヘク貴フヘキコト判然シタリシナリ、此ニ於テカリヴハール、アストン、アングー、リーネ及ダンキンフェールドノ諸市カ此種ノ牛乳供給所ヲ設立シタリ、實ニ是レ一千九百一年ナリ、而シテ其翌年ニハバットルシーニ之ヲ設立シ、一千九百三年ニハレース及ブラッドフォールドカ此例ニ倣ヒ、越エテ一千九百四年ニ至リテハバルンレー、グラスゴー及ダンジーカ之ヲ創設シタリ、是レ大不列顛國ニ於ケル市營ニ係ル幼兒飲用牛乳供給所ノ完全ナルモノニアラス、然レトモ此等ノ市邑ハ皆ナ是レ著名ナルモノニシテ、此牛乳供給所ノ必要ヲ認識スルノ觀念大ニ發達シタルヲ證スルニ足ルヘシ、

英國ニ於テ設立セラレタル此種ノ牛乳供給所ノ大半ハ皆ナ是レ其牛乳ヲ變造セサルハナシ、英國人ハ之ヲ稱シテ變造適人作用ト云フ、尙ホ之ヲ詳言スレハ牛乳ヲシテ人ノ飲用ニ適セシメンカ爲メニ、之ニ他物ヲ混和シテ消毒法ヲ行ヒ、實費ヨリ幾分カ廉價ニシテ之ヲ賣リ捌クモノトス、而シテ其缺損金ハ固ヨリ市ノ負擔タラスンハアラス、斯クテ市カ此牛乳供給所ヲ管理支配スルノ有様如何ト云フニ概ネ左ノ如シ、曰ク此牛乳供給所取締ノ任ニ當ルモノハ市ノ衛生醫官カ、若クハ之ヲ取り締ラシメンカ爲メニ特ニ任命サレタル委員會ナルモノ是レナリ、今マ其取締法ノ重モナルモノヲ掲ケンニ、先ツ牛乳製造ノ農夫ト特約ヲ結ンテ爾々ノ性質ヲ有スル牛乳若干量ツ、日々供給セシムルコト、但シ其量ニ至リテハ時ニ或ハ増減アルモノ

トス、又タ牛乳製造ニ關スル注意書ヲ農夫ニ交付スルコト、乳牛ニ就テハ結核試験ヲ行フコト、牛小屋及製乳所ニ就テハ極メテ嚴重ナル監督ヲ爲スコト、乳牛ノ乳房及尾等ハ充分ニ洗滌セシムルコト、之ニ要スル器物ハ總テ熱氣消毒ヲ行フコト、乳牛ニ一定ノ食物ヲ與フルコト、牛乳ノ買手ニ就テハ規則ヲ以テ制限スル所ナシト雖モ、飲用セシムヘキ幼児ノ年齡體質等ニ從ツテ多少ノ差異アルヘケレハ、醫師ノ指揮ヲ受ル幼児ノ大半ハ之ヲ飲用スルノ當初ニ於テ疾病ニ罹ルモノナリ、是レ他ナシ其幼児ノ年齡體質如何ヲ顧リミスシテ何カナシニ牛乳ヲ與ヘタルニ歸セスンハアラス、世間到處所滔々皆ナ斯クノ如シ、牛乳ノ幼児死亡比例ニ大關係アルハ蓋シ之カ爲メナルノミ、彼ノ巴里ナル牛乳供給所ノ好成績アルハ畢竟スルニ幼児年齡體質等ニ適當セル牛乳ヲ與フルニ基カスンハアラス、巴里ニ於テ通常ノ食物若クハ牛乳ニテ善ク發達セサル幼児アル時ハ、其母タル者カ其幼児ヲ右ノ牛乳供給所ニ携ヘ來リテ好結果ヲ得タル例ハ蓋シ少ナカラサルナリ、又タ紐育市ニ於テハ右ノ如キ母親ハ其幼児ヲストラス牛乳供給所ニ携ヘ行キ、リヴハーブール若クハバツラルシーニ於テハ其幼児ヲ市營牛乳供給所ニ携ヘ行キテ好成績ヲ得タルハ亦タ疑フヘカラサルナリ、

英國ニ於ル牛乳供給所ノ大半ハ登記制ノ下ニ置カレタル有様アリ、而シテ此供給所ノ牛乳ヲ飲用スル幼児ノ家庭ハ、時々女性ノ訪問者カ音信シ來リテ其幼児ノ成育發達ノ模様如何ヲ視察スルヲ常トス、但シ此女性訪問者ト云ヘルハ時ニ或ハ給料ヲ與ヘラル、コトアルモ、多クハ是レ篤志家ノ慈善行爲ニ出ルモノナリ、又タ此等ノ牛乳供給所ノ主任トナレルモノハ婦人ニシテ、多クハ熟練セル媒母ノ手ニ歸スルモノナリ、而シテ、其重モナル職責トスル所ハ世ノ母タルモノニ對シテ、其幼児ノ養育法等ニ關シテ注意ヲ與フルコト、例之ヘハ事實ニ於テ出來得ヘクンハ母乳ヲ以テ其子ヲ養育センコトヲ勸誘スルカ如キコト是レナリ、其他此供給所ノ牛乳ヲ飲用スル幼児ノ成育發達スル模様ヲ一々帳簿ニ記載シ置キテ、他日參考ニ供スルカ如キモ、亦タ是レ其職責中ノ一タラスンハアラス、然レトモ幼児ノ成育發達ノ模様ヲ充分ニ知ラント欲セハ、之ニ就テ醫學的調査ヲ遂クルノ僅カニ一法アルノミ、否ラスンハ彼ノ佛國ノ牛乳供給所ト同一ナル調査ヲ遂クルコト能ハサルナリ、サレハトテ幼児ノ發育如何ヲ見シカ爲メニ、必ラスシモ其幼児ヲ牛乳供給所ヘ携ヘ來ラサルヘカラストスルノ理由ハ萬々之レナカルヘキナリ、何レノ箇所ニ於テ之ヲ調査スルモ決シテ妨ケナキナリ、蓋シ既ニ牛乳供給所ノ設置アル以上ハ之ト相關聯シテ醫學的監督ナカルヘカラス、目下斯ル願望ヲ懷ケルモノ益々多キヲ加ヘ來レリ、而シテ醫學的監督ヲ爲スノ仕組ハ幾干カ佛國ナル彼ノ牛乳供給所ノ仕組ニ倣ハント欲スルモノ、如シ、尙ホ此牛乳問題ニ關シテバツラルシーノドクトル、マツリレーリー氏ノ如キ一層進歩シタル説ヲ抱ケル指導者ニ至リテハ左記ノ如キ説ヲ主張シ居レリ、曰ク牛乳事業ノ一切ヲ擧ケテ醫學的監督支配ノ下ニ屬セシメサルヘカラス、即チ乳牛ノ體軀ヨリ幼児飲用ノ糧ニ至ルマテ各取扱ノ全般ヲ通シテ醫學的監督支配ニ屬セシムルコト最モ緊要ナリト云ハサルヘカラスト、バツラルシー及其他ノ場所ニ於ル牛乳供給所ニテハ、人ノ母タルモノ、「カード」ヲ渡シ置キテ其「カード」ノ面ニ其幼児ノ體量ノ増減等ヲ記入セシメ、且ツ少ナクトモ一週間ニ一回其幼児ヲ此等ノ牛乳供給所ニ携リ來リテ其體量等ヲ検査セシメンコトヲ要ス、然レトモ英國ニ於テハ人ノ母タルモノカスル検査ヲ受クル

コトヲ嫌疑スルノ風アリテ、其幼児ヲ牛乳供給所へ携へ來ルモノ極メテ少ナキハ歎カハシキコトナラサヤ、然レトモ此弊風ヲ除去センハ左マテ困難ノコトニアラサルヘシ、斯ル婦人ノ家庭ニ就テ牛乳供給所ニ於テ幼児ノ體量等ヲ検査スルハ必要ニシテ有益ナルコトヲ懇々説キ聞カシタランニハ、之ヲ嫌疑スルノ弊風自カラ剪除セラレヘキナリ、其他實際スル體量検査ヲ爲シタル上更ニ注意ヲ加ヘタル結果ノ甚ハタ良好ナル事實ヲ示シタランニハ、恐クハ之ニ動かサレサルノ婦人ハナカルヘシ、

抑モ市營ニ係ル牛乳供給所ハ其目的トスル所、最モ純良ナル牛乳ヲ最モ廉價ヲ以テ需用者ニ供給セント欲スルニアリ、決シテ營利主義ニ出テタルモノニアラサルナリ、故ニ收支相償ハサルハ今更言フヲ要セザルナリ、此種ノ牛乳供給所カ一個人ノ私營トシテ成リ立タサルハ毫モ怪シムニ足ラサルナリ、而シテ市營牛乳供給所ノ目的トスル所既ニ右ニ述ヘタルカ如クナルカ故ニ、其費用ノ嵩ミ來ルモ亦タ止ムヲ得サルノ次第ト謂ツヘシ、今マ其費用ノ重モナルモノニ二三ヲ舉ケンカ、牛乳ヲ壘詰ニスルコト、壘ヲ清潔ニ保ツコト、此牛乳壘ト云ヘルハ幼児一回分ノ餌食ヲ一壘ニ詰メタルモノト知ルヘシ、又タ得意先數家ニ跨カリタル一日分ノ牛乳量ヲ容ル、ニ足ルヘキ張金製ノ籠ヲ造ルコト、尙ホ之ニ加フルニ此等ノ器物ノ破壊ヨリ生スル所ノ損害高モ甚タシキモノト謂ツヘキナリ、勿論其出費額ハ其事業ノ規模ノ大小如何ニ從ツテ其間甚タシキ差異ナクンハアルヘカラス、彼ノ家庭訪問者ニ仕拂フ給料ノ如キ、救助ヲ與フル幼児ニ要スル費用ノ如キ皆ナ是レ牛乳供給所ノ重モナル費用ノ中ニ算入スヘキモノナリ、今マ其損害ニ甚ハタシキ差異アルコトヲ事實ニ就テ示サンカ、レースニ於ル牛乳供給所ニ於テハ一週間毎ニ一弗餘ニ過キササルモリゾ「ハーブール」ノ牛乳供給所ニ於テハ一ケ年間ノ損害高一萬弗以上ニ上レリ、リゾ「ハーブール」ノ損害高ハ斯クノ如ク莫大ナルカ故ニ論評スルノ價値アルモノナリ、然レトモ左ノ如キ事柄ハ必ラス讀者諸君ノ念頭ニ置カサルヘカラス、曰ク此牛乳供給所ノ一年間ノ費用ノ中ニハ諸ロノ器械購入費、建物ノ模様替、通常資本金ニ對スル負擔額等ヲモ包含シ居ルモノト知ルヘシ、且ツリゾ「ハーブール」ニ於テ牛乳供給所ハ英國ニ於テ該種類中ノ最大ナルモノナリ、恐ラクハ世界中此種ノ最大ナルモノナラン、去ルカラニ其損害高モ自カラ甚ハタシカラサルヲ得ス、是レ理勢ノ然ラシムル所ナリ、試ミニ見ヨセント、ヘレンスニ於ル牛乳供給所ニ於テハ一千九百年ヨリ一千九百四年ニ至ル四ケ年ニ於ケル缺損金ヲ平均スレハ一ケ年ニ就テ殆ント八百七十五弗トナレリ、而シテ此期間ニ於ル受救幼児ノ數ヲ帳簿上ニ徴シテ見ルニ平均一ケ年ニ就テ殆ント二百四十人ニ當レリ、然ルニリゾ「ハーブール」ノ牛乳供給所ニ於ル有様如何ト云フニ、同所ヨリ牛乳ノ供給ヲ受ケタル幼児ノ數ヲ帳簿上ニ徴シテ見ルニ二ケ年半ニシテ六千二百九十五人ノ多數ニ上レリ、又タ斯ル會計問題ト相關聯シテ左ノ如キ事實ヲ觀察スルハ一種ノ趣味アリト謂ツヘキナリ、曰ク或ル市邑即チ有名ナルブラッド「ホルド」及「アストン」、アンダーリー「ネ」ノ牛乳供給所ニ於テハ「ピント」凡ソ我カ三合餘ニ當ル）入ノ牛乳壘ヲ稍ヤ年長シタル幼児ノ飲用トシテ賣リ捌ケリ、此牛乳ハ變造セサルモノニシテ彼ノ缺損金ヲ幾分カ減少シ得ルノ利アルモノナリ、其他「ブラッド」ニ於テハ市營病院へ卸賣ニテ販賣シ、尙ホ此牛乳供給所ニ於テハ「クリーム」及雞卵ヲ公衆ニ賣リ捌ケルナリ、是レ皆ナ彼ノ缺損金ヲ減少スルノ利アルモノナリ、而シテ本章ノ初メニ於テ叙述シタル市營事業ニ就テ著シキ進歩ト謂ツヘキナリ、

ルノ牛乳供給所ニ於テハ一ケ年間ノ損害高一萬弗以上ニ上レリ、リゾ「ハーブール」ノ損害高ハ斯クノ如ク莫大ナルカ故ニ論評スルノ價値アルモノナリ、然レトモ左ノ如キ事柄ハ必ラス讀者諸君ノ念頭ニ置カサルヘカラス、曰ク此牛乳供給所ノ一年間ノ費用ノ中ニハ諸ロノ器械購入費、建物ノ模様替、通常資本金ニ對スル負擔額等ヲモ包含シ居ルモノト知ルヘシ、且ツリゾ「ハーブール」ニ於テ牛乳供給所ハ英國ニ於テ該種類中ノ最大ナルモノナリ、恐ラクハ世界中此種ノ最大ナルモノナラン、去ルカラニ其損害高モ自カラ甚ハタシカラサルヲ得ス、是レ理勢ノ然ラシムル所ナリ、試ミニ見ヨセント、ヘレンスニ於ル牛乳供給所ニ於テハ一千九百年ヨリ一千九百四年ニ至ル四ケ年ニ於ケル缺損金ヲ平均スレハ一ケ年ニ就テ殆ント八百七十五弗トナレリ、而シテ此期間ニ於ル受救幼児ノ數ヲ帳簿上ニ徴シテ見ルニ平均一ケ年ニ就テ殆ント二百四十人ニ當レリ、然ルニリゾ「ハーブール」ノ牛乳供給所ニ於ル有様如何ト云フニ、同所ヨリ牛乳ノ供給ヲ受ケタル幼児ノ數ヲ帳簿上ニ徴シテ見ルニ二ケ年半ニシテ六千二百九十五人ノ多數ニ上レリ、又タ斯ル會計問題ト相關聯シテ左ノ如キ事實ヲ觀察スルハ一種ノ趣味アリト謂ツヘキナリ、曰ク或ル市邑即チ有名ナルブラッド「ホルド」及「アストン」、アンダーリー「ネ」ノ牛乳供給所ニ於テハ「ピント」凡ソ我カ三合餘ニ當ル）入ノ牛乳壘ヲ稍ヤ年長シタル幼児ノ飲用トシテ賣リ捌ケリ、此牛乳ハ變造セサルモノニシテ彼ノ缺損金ヲ幾分カ減少シ得ルノ利アルモノナリ、其他「ブラッド」ニ於テハ市營病院へ卸賣ニテ販賣シ、尙ホ此牛乳供給所ニ於テハ「クリーム」及雞卵ヲ公衆ニ賣リ捌ケルナリ、是レ皆ナ彼ノ缺損金ヲ減少スルノ利アルモノナリ、而シテ本章ノ初メニ於テ叙述シタル市營事業ニ就テ著シキ進歩ト謂ツヘキナリ、

吾人ハ是レヨリ一層重要ナル牛乳供給所ニ於テ行ハル、製造法ヲ簡短ニ對照比較セント欲ス、即チ慈善主義ヨリ成リ立ツモノト市營ニ係ルモノトヲ對照比較セント欲スルモノ是レナリ、但シ其製出シタル牛乳ハ他物ヲ混和シテ消毒法ヲ施コスカ防腐法ヲ行フタルモノト知ルヘシ、
 彼ノ佛國ノ牛乳供給所ニ於テハ既ニ屢々述ヘタルカ如ク牛乳ヲ變造スルコトハ極メテ稀レナリ、即チ概シテ搾取シタル儘ノ生牛乳ヲ飲用セシムルコト行ハル、モノナリ、生後幾干ナラサル嬰兒ニスラ生牛乳ヲ與フルヲ憚カラサルナリ、中ニ就テ巴里及ハーヅルニ於テハ消毒法ヲ行ヒ、ビユーヅハキス及ボルシユアーマーニ於テハ防腐法ヲ施コスコト、知ルヘシ、然レトモフヘカムブニ於テハ變造法行ハレ居レリ其變造ノ方法ハ左ノ如シ、

水 一分
 牛乳 二分
 尙ホ之ニ加フルニ

遠心性「クリーム」 十五「グラウ」
 乳 糖 三十五「グラム」
 鹽 一「グラム」

(此割合ハ每一「リートル」凡ソ我五合餘ニ當ルニ就テナリ)

右ノ混和物ヲ百二度ノ温度ニテ四十分間熱セシメテ後初メテ茲ニ造成セラレ、モノトス、
 紐育市ナルストラス牛乳供給所ニ於テハ重モニ左記ノ如キ變造法ニ從ツテ製造シ居レリ、而シテ總テノ混和物ハ華氏百六十七度ノ温度ニテ二十分間熱氣消毒法ヲ行フモノトス、但シ左ニ記載スル第一號式ハドクトル、ロウランド、デー、フリーマン氏ノ創始ニ係リ、第二號式ハドクトル、エー、ジャコビー氏ノ指導ニ係ルモノナリ、

第一號式

乳 糖 十二「オンス」
 石 灰 水 半「ピント」(一「ピント」ハ我三合餘ニ當ル)
 濾 過 水 一「ガロン」
 牛 乳 一「ガロン」

第二號式

牛 乳 一「ガロン」
 生 水 一「ガロン」
 白 砂 糖 八「オンス」
 鹽 半「オンス」

英國ニ於ル市營牛乳供給所ニ於テハ其變造法前者トハ大ニ異ナル所アリ、今マ左ニ掲クル所ノ表ヲ見ヨ、